

平成 **19** 年度

こどもの城 事業年報



財団法人 児童育成協会

平成 **19** 年度

**こどもの城
事業年報**

Contents

目次

こどもの城
事業年報
平成19年度

事業の概要

平成19年度の活動	7
1 はしめに	7
2 一般事業活動	7
3 その他の活動	9
4 国庫補助による事業活動	10
5 開館時間・入館料（ことも活動エリア）	11

平成19年度活動一覧表	15
1 来館児・者数	15
2 クループ活動実施状況	16
3 講座・クラブなど	17
4 視察・見学実績	19
1年の歩み	20

各部の事業

体育事業部

平成19年度の活動	25
1 はしめに	25
2 スポーツ遊びプログラム	26
3 まとめ	27
平成19年度活動一覧表	28
1 一般利用	28
2 講座・クラブなど	31
3 その他	36

プレイ事業部

平成19年度の活動	37
1 はしめに	37
2 遊びと学びの体験プログラム ～〈発見・体験〉ハンスオン広場～	39
3 まとめ	39
平成19年度活動一覧表	40
1 一般利用	40
2 講座・クラブなど	46
3 その他	47

造形事業部

平成19年度の活動	49
1 はしめに	49
2 造形活動のテーマについて	50
3 まとめ	51
平成19年度活動一覧表	52
1 一般利用	52
2 講座・クラブなど	54
3 その他	57
平成19年度プログラム一覧表	58
1 親子コーナーのプログラム	58
2 クリエイティブコーナーのプログラム	59

音楽事業部

平成19年度の活動	61
1 はしめに	61
2 音楽口ヒ어의活動から	62
3 まとめ	64
平成19年度活動一覧表	65
1 一般利用	65
2 講座・クラブなど	69
3 その他	72

AV (オーディオ・ビジュアル) 事業部

平成19年度の活動	73
1 はしめに	73
2 館内テレビ放送を使ったニュースキャスター体験	73
3 その他の活動	75
4 まとめ	76
平成19年度活動一覧表	77
1 一般利用	77
2 講座・クラブなど	79
3 その他	79

保育研究開発部

平成19年度の活動	81
1 はしめに	81
2 3つの保育事業	81
3 まとめ	86
平成19年度活動一覧表	87
1 一般利用	87
2 講座・クラブなど	88
3 その他	90

小児保健部

平成19年度の活動	91
1 はしめに	91
2 診療・相談活動	92
3 子育て支援講習会 「最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康 012歳児～」	93
4 まとめ	95
平成19年度活動一覧表	96
1 一般利用	96
2 講座・クラブなど	96
3 その他	98

企画研修部

平成19年度の活動	99
1 はしめに	99
2 事業全体のとりまとめ	99
3 ホランティアの活動と養成	101
4 講座・クラブ	103
5 まとめ	104
平成19年度活動一覧表	105
1 一般利用	105
2 ホランティアの活動	108
3 講座・クラブなど	112
平成19年度「グループ活動」プログラム一覧表	114

劇場事業本部

平成19年度の活動	115
1 はしめに	115
2 主な自主・提携公演	115
3 まとめ	123
平成19年度公演演目一覧表	124
1 青山劇場	124
2 青山円形劇場	125
3 その他	127

広報部

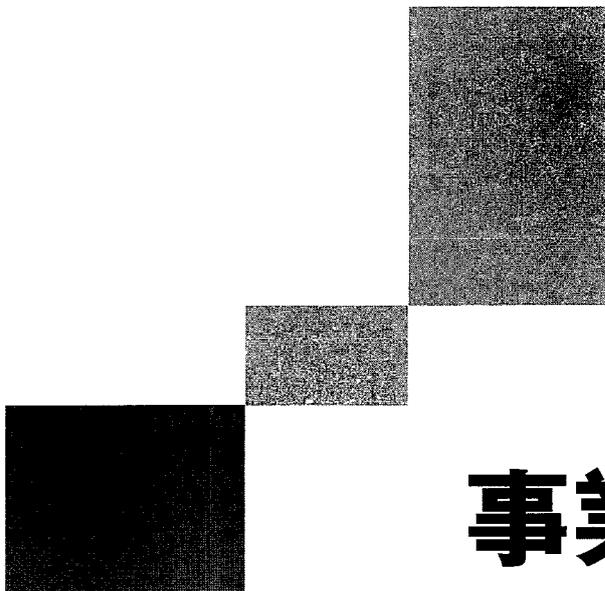
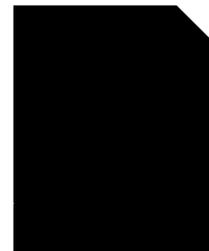
平成19年度の活動	129
1 はしめに	129
2 ホームページについて	129
3 まとめ	130
平成19年度活動一覧表	131

こどもの城から全国へ

こどもの城から全国へ

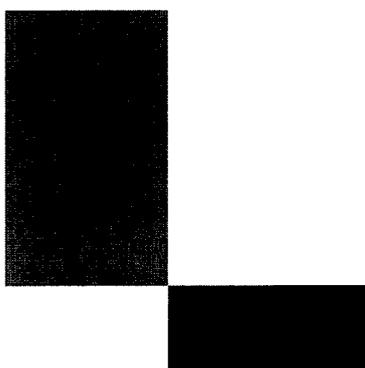
平成19年度の活動	135
1 はしめに	135
2 事業の概要	135
3 まとめ	137

平成19年度活動一覧表	138
1 講座・クラブなど	138
2 〈動くこどもの城〉	139
3 助成金による事業	142



1

事業の概要



事業の概要



平成19年度の活動

1. はじめに

本年度の利用者総推計は894,540人で、90万人を割り込んでしまった。研修室やホテルの改修による影響も少なからずあるが、〔こどもの城〕の有料来館児・者の大幅な減少は大いに反省しなければならない。

年間を通じると、前半の5、7月に極端な減少があり、後半に回復傾向が見られたものの、全体としては大幅な減少となった。特に大人の有料来館者の減少が響いた。このため、早い時期から来館児・者の増加対策を検討した。

まず、週5日制に伴い、平常期間の土曜日にかんしてはこれまでもいろいろな取り組みを行ってきたが、日曜日に対しても各事業部が積極的に検討することとした。長年にわたって同じプログラムを実施しているものにかんしては、新しいものを取り入れるなど抜本的な改善策を講じた。同時に、企画研修部が中心となり年4回(基本的には四季ごと)の大きなイベントを企画、実施した。これらは、事前の年度計画にはないもので、予算等で苦労したところもあったが、各事業部が協力し、全館事業として実施し、年度後半の来館児・者の増加につながった。

乳幼児と親の居場所作りは〔こどもの城〕でも積極的に行ってきたが、本年度は〈動くこどもの城〉に新しいプログラム「ぼかぼか広場」を加えて、全国に対して広報活動や派遣を精力的に進めた。先駆的な事業として、以前から〔こどもの城〕で行っている「赤ちゃんサロン」に、音楽などの短いプログラムを加えたもので、問い合わせや派遣の依頼も多く、改めて〔こどもの城〕に対す

る子育て支援、子どもの健全育成の拠点としての期待の大きさを感じた。

2. 一般事業活動

(ア) 来館児・者数

本年度の有料来館児・者は226,633人、劇場入場者381,795人、保育、小児保健、講座・クラブ関係の利用者および研修・会議室や宿泊施設関係の利用者を加えた総推計は894,540人で、前年度比16,131人の減となった。

有料来館児・者は前年度比8,254人の減となった。年間をとおしてみると、年度前半の大人の減少が目立ち、後半は回復傾向が見られた。しかし、全体としては大幅減であった。

(イ) 一般来館児・者のための活動

【平常期間】

〈平日〉

○3歳未満の子どもを連れた母親の来館が多いため、気軽に参加できるプログラムの提供と、穏やかで居心地の良い雰囲気作りを心がけた。

○ベビーカーによる来館者が多く、アトリウムで積極的に預かることや活動エリアでの混雑の緩和をはかった。

〈土曜日〉

○バスケットボールやバドミントンのようなスポーツ活動を中心とした「ビッグサタデー」を体育室で実施した。

○糸電話、100問ラリーなどの知的な遊びや車いす体験

などをテーマに取り上げた「サタデー・ラボラトリー」をプレイホールを中心に実施した。

〈日曜日〉

○来館児・者の増加をはかるために、定型化したプログラムの見直しと、家族を対象とした新企画を積極的に実施した。

○Bスタジオ、音楽ロビーを使った小さなコンサートなどを講座と連携を取りながら開催した。

○各事業部協力による大きなイベントを年4回実施した。「とりかえっこ」「秋まつり」「ドルッチャワークス」「小学生プログラムスペシャル」。

○新しい鬼ごっこを取り入れた鬼ごっこ大会を実施した。

〈ハッピーマンデー〉

○「サッカーフェスティバル2007」（10月6～8日）
Jリーグ・FC東京の協力で、練習や大会形式のイベントを実施した。

○「ファミリープレイタイム」

親子で遊び道具を作り、小さな遊びに挑戦するプログラムを提供した。“親子で探検オシロでビンゴ”（9月23・24日）。

【特別期間】

○夏休みなどの特別期間は、キャッチコピーをつけ、全館の催しが相互に関連性を持ち、来館児・者に統一的なイメージが伝わるよう工夫した。

このゆび とーまれ！

（児童福祉週間＝ゴールデンウィーク）

あつまれあそび あつまれげんき（夏休み）

ぽっかぽっかのあそび（冬休み）

であいっばい ともだちっばい（春休み）

○児童福祉週間（ゴールデンウィーク）、夏休みなどの特別期間には、エレベーターホール、ロビー、廊下などの共用部分に、鯉のぼりや、すいかをデザインした装飾を施し、それぞれの季節感を強調した。

【外部団体、企業との共催事業】

〔こどもの城〕の活動趣旨に賛同する外部団体、企業の協力を得て以下の事業展開を行った。（順不同）

○「モータースポーツにチャレンジ」……(株)本田技術研究所二輪開発センター

○「造形スタジオ（日常活動）」……アート・バイ・ゼロックス、中川ケミカル(株)、山田ダンボール(株)、リンテックス(株)

○「マタニティ・コンサート」……タカタ(株)、和光堂(株)、大島椿(株)、ユニ・チャーム(株)、ビーンスターク・スノー(株)、クラランス(株)

○「赤ちゃん大集合」……和光堂(株)、大島椿(株)、クラランス(株)、持田ヘルスケア(株)、ピジョン(株)、(株)ベベリース、花王(株)、ユースキン(株)、ビーンスターク・スノー(株)、クラランス(株)、(株)赤ちゃんとママ社、(株)江崎グリコ、アイクレオ(株)、(株)ケイジェイシー、(社)日本保育協会、(社)全国ベビーシッター協会、(財)児童健全育成推進財団

○「小児保健セミナー」……ユニ・チャーム(株)、ビーンスターク・スノー(株)

○小児保健部（リーフレット作成）……大塚製薬(株)

○「ニッサンゆかいな絵本と童話展」……日産自動車(株)

○「第14回キンダーフィルムフェスティバル」……キンダーフィルムフェスティバル実行委員会

○「シャーロットのおくりもの」DVD試写会……パラマウントホームエンターテイメント(株)

○「かぞくのひづけ」……CSKホールディングズ(株)

○「きこりんと木のおもちゃ工場」……住友林業(株)

（ウ）講座・クラブ

継続的、体系的に〔こどもの城〕を利用してもらうため、講座・クラブ活動を実施した。これからも、受講生や保護者との信頼関係を保ちつつ、受講者の需要にマッチした運営をしていきたい。実施種類、コース数、参加

【来館児・者数（対前年度比較）】

(人)

来館児・者区分	平成18年度実績②	平成19年度実績①	差し引き増減①-②
有料来館者（大人）	118,768	112,099	▲6,669
有料来館児（子ども）	95,267	92,701	▲2,566
有料来館児・者（団体）	20,852	21,833	981
小計（有料来館児・者）	234,887	226,633	▲8,254
3歳未満児推計	59,465	56,117	▲3,348
招待者・児	42,901	41,456	▲1,445
劇場入場者	370,929	381,795	10,866
講座・クラブ受講生	75,200	74,511	▲689
その他	127,289	114,028	▲13,261
合計	910,671	894,540	▲16,131

人数は以下のとおり。

- 講座……33種、51コース、受講者数 1,355人
(前年度 32種、51コース、受講者数 1,396人)
- クラブ……6種、6コース、受講者数 873人
(前年度 6種、6コース、受講者数 913人)
- 講習会……7種、19コース、受講者数 480人
(前年度 7種、19コース、受講生 494人)
- 短期集中講習会……16種、121コース、
受講者数 1,692人
(前年度…16種、121コース、受講者数 1,853人)
- 専門指導者向け講習会……10種、20コース、
受講者数 893人
(前年度…11種、19コース、受講者数 755人)

(エ) グループ活動

〔こどもの城〕開館前、平日の午前中を利用して、保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、各事業部において特別プログラムを提供する「グループ活動」は、一般来館児・者の受け入れ、講座・クラブの実施と並び〔こどもの城〕の事業のなかで重要な位置を占めている。

ハンディキャップを持った子どものグループや、インターナショナルスクールの子ども、自主保育グループなどさまざまな団体からの申し入れがあり、利用件数は安定している。

本年度は 169 グループ、3,332 人(前年度 163 グループ、3,400 人)を受け入れた。

(オ) 保育研究開発部・小児保健部

〈保育研究開発部〉

- 保育事業の 3 つの柱である「保育クラブ」「幼児グループ」および「親子教室」を継続して実施した。
- 保育関係者のための研修プログラム(「家庭支援の理論と実践」、ニュースレターの発行、「保育セミナー」の開催など)を実施した。

○一般来館児・者を対象として特別期間に行った「親子工房」や、平常期間の土曜日に親子がゆったりと一緒に遊べる「よちよちクラブ」などにも積極的に取り組んだ。

〈小児保健部〉

- 小児保健クリニックでは診療・相談を実施し、その件数は 2,506 件(前年度 2,666 件)であった。
- 体育事業部と連携した講座、「健康スポーツ教室」および「マタニティ・スイミング」を継続して実施した。
- 小児保健関係者のための研修プログラム(「小児保健セミナー」ほか)を実施した。
- 「赤ちゃんサロン」は年間 18 回で 3,285 人(前年度

18 回 3,845 人) でやや減少した。

○妊娠中の女性とその家族を対象とした「マタニティ・コンサート」(7 月 8 日)を青山円形劇場で実施した。

(カ) 劇場事業

自主公演としては、青山劇場で 2 公演、青山円形劇場で 11 公演、提携公演として青山劇場で 3 公演、青山円形劇場で 12 公演を実施した。このうち、こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「タントさんのふしぎなレストラン」は、社会保障審議会児童福祉文化賞推薦作品に選ばれた。

また、「青山太鼓見聞録」「TOKYO DANCE TODAY」「ローザンヌ・ガラ 2007」「KOUSKY V 沢則行 meets 中西俊博」は芸術文化振興基金、「日韓ダンスコンタクト」は文化庁国際芸術交流支援事業の助成対象作品に選ばれた。

劇場の貸与については青山劇場が 21 件、青山円形劇場が 24 件で、国費による工事期間等を除いた稼働状況は表のとおりであった。

また、劇場公演のほかに、若手舞台芸術家の育成を図るためのセミナー「APAS = Aoyama Performing Arts Seminar」を 11 件、実施した。

〔青山劇場・青山円形劇場の稼働状況〕

	使用可能日数(日)	使用日数(日)	稼働率(%)	前年度稼働率(%)
青山劇場	342	315	92.1	90.8
青山円形劇場	362	317	87.6	83.3
計	704	632	89.8	86.8

(キ) 利用者サービス事業

〔こどもの城〕を利用する人などの便宜をはかるため、宿泊施設、売店、各種自動販売機および駐車場の管理、運営を行った。

研修室については児童厚生員等を対象とした宿泊研修や保育・小児保健関係のセミナーの開催場所として利用するほか、他の福祉関係団体が主催する研修会やセミナーの会場としても活用された。

3. その他の活動

(ア) 広報

〔こどもの城〕の事業・活動内容をより理解、認識していただくとともに、利用者の増加をはかることを目的として、各種の広報活動を行った。

活動の主な柱としては、

- ①「こどもの城ニュース」の発行(年 11 回発行)
- ②各種広報資料(パンフレット、チラシなど)の作成・配布

③月刊誌「こども未来」などを通じて〔こどもの城〕の活動内容の紹介

④新聞・テレビ・雑誌・インターネットなどを通じての広報

⑤広報企画の推進

——などであり、新聞、テレビなどの取材は、外国からのものを含めて年間187件（前年度189件）であった。

（イ）こどもの城友の会

〔こどもの城〕のサポーターともいえる「こどもの城友の会」の会員増加をめざして、キャンペーンや映画試写会（『この道は母へと続く』『ザ・シン普森ズ movie』『101ぴきワンちゃん』）への招待、「友の会お供え餅づくり」「にこにこ畑タペストリー」などのイベントを実施した。

新規会員は249件であったが、本年度末現在の会員数は965家族（前年度末1,125家族）とやや減少している。

（ウ）国際交流

例年行っている、京浜地区の外国人学校の合同造形展「アートスケープ2008」にギャラリーを提供したほか、夏休み短期講座のなかでアフリカやインドネシア、ベトナムの民族楽器を紹介し、演奏等をするなど、気軽に自然な国際交流をめざした。

グループ活動におけるインターナショナル・スクールの利用件数は57件（前年度50件）で日本の児童文化の紹介と社会体験の機会となっている。

（エ）実習生・研修生の受け入れ

大学などからの要請に応じて、〔こどもの城〕の各事業部をフィールドとし、その活動内容を研修対象とする実習生・研修生を受け入れているが、本年度は実習生22人、研修生・研究生4人（前年度：実習生21人、研修生・研究生10人）を受け入れた。

中・高校生の職場体験としての依頼が学校から多く寄せられるようになり、各事業部と調整しながら受け入れた。本年度は中学生9件25人、高校生4件59人（前年度：中学生10件30人、高校生2件59人）だった。

（オ）講師派遣

〔こどもの城〕で行う指導者向け講習会やセミナー、〈動くこどもの城〉の派遣事業以外にも、児童館を中心とした全国の児童健全育成の現場からの要請を受けて、講師派遣という形で各地に出向き、〔こどもの城〕のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。

地域の子育て支援センターや学童クラブなど子育て支援、次世代育成に関わる派遣依頼も増加の傾向にある。本年度の派遣実績は168件（前年度154件）であった。

4. 国庫補助による事業活動

（ア）啓発活動

児童の健全育成に関する冊子を配布し、事業実例の紹介と理念の普及に努めた。

○購入部数 30,000部

○配布先 都道府県・政令指定都市・市町村主管課

（イ）児童館巡回支援活動等事業〈動くこどもの城〉

全国の児童厚生施設に対し、〔こどもの城〕で開発、蓄積した活動プログラムを巡回、提供し、地域における健全育成活動を支援するとともに、児童厚生員等に対する実技指導を行い、併せて今後の活動の充実に向け、プログラムの準備、開発に努めた。

本年度は特に、乳幼児と親を対象としたプログラムの充実をはかり、多くの派遣依頼にこたえた。

「ぼかぼか広場」「すくすくスキンシップ」など“乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラム”が22か所、「身近な道具でスポーツあそび」「アニメワークショップ」など“幼児や学童を対象とした遊びのプログラム”が11か所、「造形ワークショップ展」「おりがみ作品巡回展」など“展示とワークショップ”が14か所で、合計47か所（前年度37か所）。地域的には、北海道ほか24都道府県にのぼっている。

（ウ）中央児童厚生施設事業

〔こどもの城〕の事業に理解と協力が得られるボランティアの養成、児童の健全育成活動に参加するボランティアの拡充などをはかるための事業を実施した。

本年度末までのボランティア講習修了者数は、2,523人。うち〔こどもの城〕のボランティアとして登録されているのは322人（前年度360人）、本年度中に〔こどもの城〕の事業活動に参加したのは延べ7,300人（前年度7,600人）であった。

また、〔こどもの城〕での施設ボランティアの育成以外にも、ボランティア交流事業（愛媛県、岩手県）、ボランティアのグレードアップのための研修（福井県、埼玉県ほか8か所）など地域における活動への支援も実施した。

5. 開館時間・入館料 (こども活動エリア)

(ア) 平常期間

〔こどもの城〕の「こども活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平日	12時30分～17時30分
土・日曜日・祝日	10時00分～17時30分
月曜日	休館(祝日・振替休日にあたるときは開館。翌火曜日が休館)

(イ) 特別期間

学校の季節休み(夏休み、冬休み、春休み)、児童福祉週間(ゴールデンウィーク)、11月1日の〔こどもの城〕の開館記念日をはさむ1週間を特別期間とし、多数の来館児・者が楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。

なお、5月5日「こどもの日」と、11月3日「文化の日」は「こども」の入館料を無料とした。

■児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間■

4月28日～5月6日(5月1日は休館)

■夏休み特別期間■

7月21日～9月2日(毎日開館)

■こどもの城ファミリーウイーク(開館記念)特別期間■

10月27日～11月4日(10月29日は休館)

■冬休み特別期間■

12月22日～平成20年1月7日
(12月28日～1月2日は休館)

■春休み特別期間■

3月25日～4月6日(毎日開館)

(ウ) 入館料

【入館料】

一般	こども(18歳未満)	400円
	(保護者が同伴した3歳未満児は無料)	
	大人(18歳以上)	500円
回数券	こども(6枚つづり)	2,000円
	大人(6枚つづり)	2,500円
団体(20人以上)	こども	320円
	大人	400円

【優待パス】

平日ゆうゆうパス(1年間有効)	大人	3,000円
わくわくパス(夏休み期間限定)	大人	1,800円
ドキドキパス(夏休み期間限定)	こども	1,500円
小・中学生土曜日パス(1年間有効)	小・中学生	2,500円

〔こどもの城〕の概要

		オフィス	13 F 12 F 11 F		
		パソコンルーム	10 F		
		研修室	9 F 8 F		
		ホテル	7 F 6 F		
5 F	屋上遊園 プレイポート	小児保健クリニック 保育室	5 F	ふしぎが丘	
4 F	ビデオライブラリー	音楽ロビー A・Bスタジオ	4 F		
3 F	造形スタジオ 青山円形劇場	プレイホール コンピュータプレイルーム	3 F		
2 F	ギャラリー	屋外 通路	ファミリーラウンジ	2 F	青山劇場
1 F	アトリウム		エントランスホール レストラン	1 F	
B 1	プール観覧室	フリーホール	B 1		
B 2	体育室／プール／健康開発室		B 2		
		駐車場	B 3 B 4		

建 築 概 要

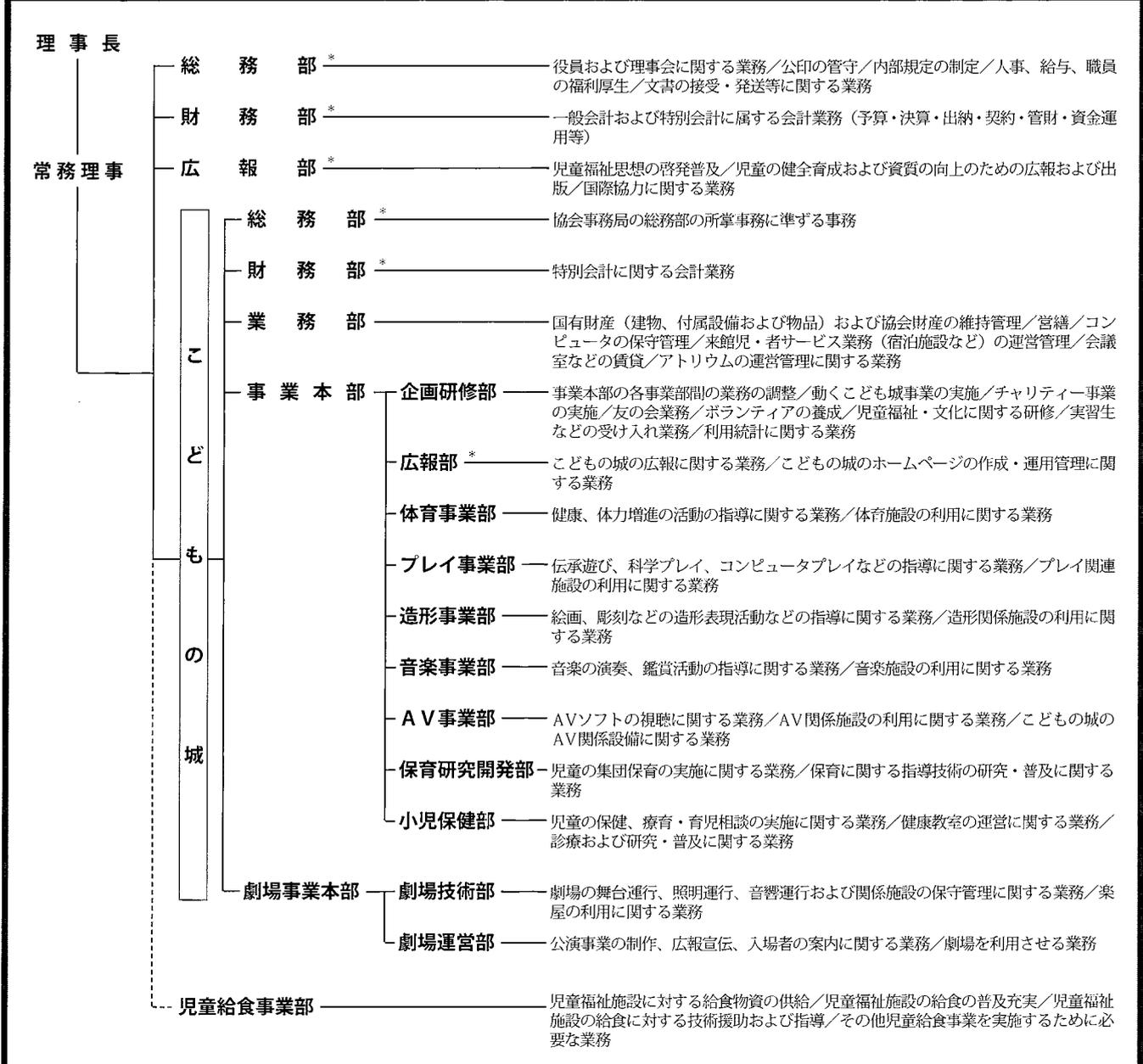
所在地……………東京都渋谷区神宮前 5-53-1
 建築主……………厚生労働省（当時：厚生省）
 敷地面積……………9,923 平方メートル
 建築面積……………6,001 平方メートル
 延床面積……………41,699 平方メートル
 建ぺい率……………60.48%
 容積率……………345.38%
 階数……………地下4階・地上13階・塔屋1階

最高高さ……………GL + 57.6メートル
 基礎下端……………GL - 28.5メートル
 主要構造……………高層部 鉄骨造り
 低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造り
 地 下 鉄筋コンクリート造り
 着工……………昭和56年11月
 完成……………昭和60年9月（11月1日開館）

※〔こどもの城〕は1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して、厚生省（当時）が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設。運営は、厚生労働省の委託を受けて（財）児童育成協会が当たっている。

【こどもの城】組織機構図 (平成 20 年 3 月 31 日現在)

【注】*印は(財)児童育成協会本部と【こどもの城】の役職を兼ねる



部	職員数			部	職員数			部	職員数			部	職員数		
	一般	嘱託	計		一般	嘱託	計		一般	嘱託	計		一般	嘱託	計
総務	5	0	5	事業本部	3	0	3	音楽事業	5	0	5	劇場技術	5	0	5
財務	5	0	5	企画研修	8	0	8	AV事業	4	0	4	劇場運営	7	0	7
広報	3	0	3	体育事業	7	0	7	保育研究開発	6	0	6	劇場事業本部	1	0	1
業務	17	0	17	プレイ事業	8	0	8	小児保健	5	0	5				
				造形事業	4	0	4					合計	93	0	93

(財) 児童育成協会役員 (平成 20 年 3 月 31 日現在)

役職	氏名	役職	氏名
理事長	吉武 民樹	理事	品川 正治 (財) 国際開発センター会長
常務理事	林 重夫	理事	篠原 徹 日本商工会議所常務理事
理事	今泉 昭雄 (社福) 全国心身障害児福祉財団理事長	理事	山口 規容子 総合母子保健センター愛育病院名誉院長
理事	大野 出穂		
理事	小山 敬次郎 千葉商科大学理事	監事	秋山 昭八 弁護士
理事	廣瀬 友久	監事	藤間 秋男 公認会計士

【こどもの城】の付帯事業 (平成20年3月31日現在)					
業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間	備考
宿泊施設	こどもの城 ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員 64	無休(12月28日～1月2日を除く)	洋室24室(シングル3、Aツイン10、 Bツイン11) 和室3室(4人用1、5人用1、10人用 1) ※1泊7,455円～
貸し室	研修室	8・9階	研修室 10 ※一部通しで使用 できる。利用人員 350人ぐらいまで	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=9:00～21:00	研修および会議など ※1単位時間13,335円～
	ギャラリー	1階アトリウム		無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=10:00～17:30	各種展示会など ※1日31,500円
物品販売	売店	1階アトリウム	1か所	営業日時=「こども活動エリア」の 開館日の12:30～17:30	がん具、文具、スポーツ用品、講座指 定水着、催事関係用品、印刷出版物、 衣料、雑貨など
	自動販売機	館内各所	飲・食販売 35か所 テレホンカード 1か所	無休	ドリンク類、牛乳類、カップ麺類など
公衆電話		館内各所	7か所 8台	無休	
駐車場		屋内(地下2階～ 地下4階)、屋外(1 階)	約126台 (業務車両分含む)	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=8:00～22:00	普通車両は地下駐車場、バスなど大 型車両は屋外(1階)に駐車 ※普通車両 30分 300円 マイクロ車 1時間 840円 大型車 1時間 1,260円
飲食関係	レストラン 「アンファン」	1階	客席数 140	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=7:30～19:00	ファミリーレストラン、すし、弁当 仕出し、パーティー、宿泊施設利用 者の食事など
	劇場内 「スナック」	青山劇場内地下お よび2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間=開演前・幕間	喫茶、軽食

平成19年度活動一覽表

1. 来館児・者数

	一般来館児・者		総数	劇場			その他	計	
	有	料		青山劇場	青山円形劇場	小計			
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
4月	大人	8,896	30,292	24,682	6,761	31,443	9,828	71,563	
	子ども	8,632							
	団体	346							推計
	受講生など	12,418							(34,746)
5月	大人	7,780	24,678	25,057	8,222	33,279	9,588	67,545	
	子ども	4,925							
	団体	1,397							推計
	受講生など	10,576							(28,572)
6月	大人	6,762	22,137	29,671	4,990	34,661	10,343	67,141	
	子ども	4,906							
	団体	962							推計
	受講生など	9,507							(25,522)
7月	大人	9,933	29,797	22,502	5,515	28,017	11,755	69,569	
	子ども	8,517							
	団体	2,711							推計
	受講生など	8,636							(34,770)
8月	大人	20,907	57,102	23,525	6,568	30,093	9,348	96,543	
	子ども	21,801							
	団体	4,919							推計
	受講生など	9,475							(67,563)
9月	大人	10,090	27,057	24,013	9,438	33,451	9,135	69,643	
	子ども	7,534							
	団体	878							推計
	受講生など	8,555							(32,110)
10月	大人	7,541	23,252	28,437	6,106	34,543	9,637	67,432	
	子ども	5,345							
	団体	869							推計
	受講生など	9,497							(27,028)
11月	大人	7,420	22,982	21,978	5,540	27,518	9,818	60,318	
	子ども	4,884							
	団体	1,252							推計
	受講生など	9,426							(26,696)
12月	大人	6,142	18,182	28,285	9,280	37,565	10,030	65,777	
	子ども	4,804							
	団体	860							推計
	受講生など	6,376							(21,259)
平成20年 1月	大人	8,762	27,594	29,569	6,029	35,598	7,658	70,850	
	子ども	6,554							
	団体	4,076							推計
	受講生など	8,202							(31,980)
2月	大人	7,863	24,776	25,455	6,371	31,826	5,556	62,158	
	子ども	5,420							
	団体	1,592							推計
	受講生など	9,901							(28,712)
3月	大人	10,003	34,751	16,517	7,284	23,801	11,332	69,884	
	子ども	9,379							
	団体	1,971							推計
	受講生など	13,398							(39,759)
計	大人	112,099	342,600	299,691	82,104	381,795	114,028	838,423	
	子ども	92,701							
	団体	21,833							推計
	受講生など	115,967							(398,717)

注) 「一般来館児・者」の“推計”は、3歳未満児の推定来館児数を含めたもの。

「受講生など」は、招待と講座・クラブ受講生を合算したもの。

「その他」は、宿泊施設・研修室等の利用者。

2. グループ活動実施状況

		保 育 所	幼 稚 園	小 学 校	中 ・ 高 校	養 護 学 校	ろ う あ 学 校	盲 学 校	小 学 校 特 殊 学 級	中 学 校 特 殊 学 級	障 害 児 施 設	自 主 保 育 グ ル ー プ	計	
件数		43	62	24	2	23	0	1	13	0	0	1	(件) 169	
月 別 内 訳	4月		2	2									4	
	5月		5	2		3							10	
	6月	5	13	4		3			2				27	
	7月	4				2							6	
	8月												0	
	9月	3	1	1		2							7	
	10月		1	3	1	7			3				15	
	11月	7	13	3									23	
	12月	5	2	1	1	1						1	11	
	平成20年1月	4	13											17
	2月	9	8	4		3		1	7					32
	3月	6	4	4		2			1					17
地域 内訳	東京都	区	42	57	24	1	11		1	11		1	148	
		市					6			2			8	
	他府県	1	5		1	6							13	
参加 児童 数 別 内 訳	10人未満					7			6				13	
	10～19	27	33	14	1	9		1	5			1	91	
	20～29	16	18	10		6			2				52	
	30～39		2		1	1							4	
	40～49		4										4	
	50～59		2										2	
	60～79		3										3	
	80～99												0	
	100～149												0	
	150人以上												0	
参加 児童 数	延べ人数	824	1,505	439	47	335		10	154			18	3,332	
	1件当たり人数	19.2	24.3	18.3	23.5	14.6		10.0	11.8			18.0	19.7	
引 率 者 数	142	234	53	2	268		4	96				3	802	
付 添 者 数	4	71	7		16		13						111	
活 動 部 門	体 育	11	13	8	1	1			5				39	
	ブ レ イ	22	17			5			4				48	
	造 形	4	23	8	1	2			1				39	
	音 楽	3	22	4		15		1	2			1	48	
	A V	3	3	4	1				1				12	
	プ レ イ 自 由	42	56	24		8		1	7			1	139	
	A V 自 由		2										2	
	そ の 他 自 由 利 用													0

注)「活動部門」は、1つの団体が複数の部門を利用することがあるので、重複して計上してある。

3. 講座・クラブなど

〈講座〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	親子水泳	幼児・親	1 年 2 コース	60 (組)
	幼児水泳	幼児	" 5 "	270 (人)
	幼児体育	"	" 3 "	120
	小学生水泳	小学生	" 5 "	300
	小中学生水泳	小・中学生	" 2 "	80
	小学生体育	小学生	" 2 "	60
	シニア・スイミング	小・中・高校生	" 1 "	30
	シニア・スイミング・フレッシュ	小・中学生	" 1 "	30
	ジュニア新体操	小学生の女子	" 1 "	35
	シニア新体操	小・中学生の女子	" 1 "	35
	手足の不自由な子の水泳	小・中学生	" 1 "	15
	プ レ イ	キッズクラブ	小学生	" 1 "
ユースクラブ		小・中学生	" 1 "	40
造 形	こどもクリエイティブクラブ～クレイワーク	"	" 1 "	16
	" ~ゆかいな造形	"	" 2 "	32
	" ~親子でアート	幼児・親	" 1 "	10 (組)
	" ~絵本の世界へ	小・中学生	" 1 "	16 (人)
	" ~ハンズワーク	小・中・高校生	" 1 "	16
	大人のための造形表現教室	一般	" 1 "	30
音 楽	みんなで楽しいリトミック	幼児・親	" 3 "	60 (組)
	リズム・ムービング	幼児	" 1 "	20 (人)
	リズム・ムービング&パーカッション	小学生	" 1 "	15
	おんがく大好きミュージック・パーク	ダウン症の幼児・親	" 1 "	10 (組)
	合唱講座	小学生	" 1 "	30 (人)
	児童合唱団	合唱講座修了者	" 2 "	90
	ガムラン講座	小・中・高校生	" 1 "	15
	三味線	"	" 2 "	24
	混声合唱	高校生以上	" 1 "	15
	和太鼓グループ	小・中・高校生	" 1 "	12
	パーカッション・アンサンブル	"	" 1 "	15
	レッツ・プレイ・サンバ初級	小学生	" 1 "	10
	レッツ・プレイ・サンバ	小・中・高校生	" 1 "	10
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	太りすぎの小学生	" 1 "	20
計	33 種		51 コース	1,571

〈クラブ〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通 年 1 コース	—
	レディース・コース	一般女性	" 1 "	150 (人)
小児保健	マタニティ・スイミング	妊婦	" 1 "	420
保 育	幼児グループ	幼児	1 年 1 "	22
	保育クラブ	"	" 1 "	450
企画研修	L. I. T. (高校生ボランティア)	高校生	" 1 "	30
計	6 種		6 コース	—

〈講習会（1か月以上のもの）〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	幼児・母親体育 I・II・III (1・2歳)	幼児・母親	3か月 3コース	90(組)
	幼児・母親体育 I・II・III (2・3歳)	〃	〃 3 〃	90
	母と子のすくすくランド I・II・III	5か月～・母親	〃 3 〃	90
	ぱちぱちファミリースイム I・II・III	幼児・保護者	〃 3 〃	90
音 楽	おんがく星みつけた I・II・III	幼児・親	3か月 3 〃	90
保 育	親子教室	幼児・親	〃 3 〃	48
企画研修	じょいんクラブ	小・中学生	6か月 1 〃	20(人)
計	7種		19コース	518

〈短期講習会（1か月未満のもの）〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	夏休み子ども集中水泳講習会 (A・C)	小・中学生	5日間 2コース	100(人)
	〃 (B・D)	幼児	〃 2 〃	80
	夏休み体操教室 ガンバ	小学生	〃 1 〃	30
	春休み子ども集中水泳講習会 A	小・中学生	〃 1 〃	50
	〃 B	幼児	〃 1 〃	40
	成人水泳集中講習会	一般	7日間 12 〃	240
プ レ イ	夏休みロボットプログラミング入門	小学生	4日間 1 〃	15
造 形	夏休み造形教室	小・中・高校生	1日 31 〃	456
音 楽	手作り楽器のワークショップ	小・中・高校生(親子)	1日 14 〃	359
	大人のための手作り楽器のワークショップ	一般	〃 1 〃	30
	感じる心を育てる講座	〃	〃 1 〃	80
A V	夏休み映像・科学ワークショップ	小・中・高校生	〃 38 〃	456
小児保健	夏休み子ども1日ドック	小・中学生	1日 1 〃	10
	季節の離乳食	乳児・親	〃 9 〃	90
	親子のほっとタイム	〃	〃 6 〃	60
劇 場	和太鼓カレッジ(ワークショップ)	小学生～一般	1日 10 〃	370
	オブジェクトシアターワークショップ	一般	2日間 1 〃	20
計	17種		132コース	2,486

〈専門指導者向け講習会等〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
保 育	保育セミナー	保育関係者	1コース	80(人)
	家庭支援の理論と実践～子育て家庭を支援するために～	〃	3 〃	150
小児保健	小児保健セミナー	保育者・保健師など	1 〃	100
	子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際」	〃	2 〃	100
	次世代育成支援講習会	養護教諭・保健師など	1 〃	50
企画研修	おりがみにつよくなる講習会	児童厚生員など	2 〃	100
	作って演じる人形劇	〃	2 〃	60
	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会	〃	3 〃	150
	ボランティア講習会	18歳以上	3 〃	80
	ボランティア・グレードアップ講習会	ボランティア登録者	2 〃	60
計	10種		20コース	930

4. 視察・見学実績

年 度	都道府県・市区町村 の本庁その他の行政 部局、公共団体		児童館、保育所、幼 稚園、学校、施設、 サークルなどの団体		海外からの 視察・見学		そ の 他		計		
昭和 60 年度	(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279	
61 年度	(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671	
62 年度	(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700	
63 年度	(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875	
平成元年度	(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753	
2 年度	(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265	
3 年度	(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127)	1,473	
4 年度	(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155)	1,780	
5 年度	(69)	698	(75)	1,182	(14)	119	(9)	41	(167)	2,040	
6 年度	(96)	782	(73)	1,251	(13)	144	(13)	116	(195)	2,293	
7 年度	(136)	956	(101)	1,542	(19)	273	(16)	94	(272)	2,865	
8 年度	(63)	402	(188)	1,691	(19)	139	(8)	48	(278)	2,280	
9 年度	(89)	723	(134)	1,335	(14)	229	(24)	43	(261)	2,330	
10 年度	(63)	474	(150)	1,470	(26)	204	(24)	145	(263)	2,293	
11 年度	(83)	863	(171)	975	(18)	177	(17)	68	(289)	2,083	
12 年度	(85)	616	(154)	596	(14)	128	(27)	37	(280)	1,377	
13 年度	(29)	254	(216)	1,029	(15)	109	(26)	68	(286)	1,460	
14 年度	(13)	40	(189)	1,212	(16)	211	(8)	38	(226)	1,501	
15 年度	(8)	14	(152)	965	(19)	149	(8)	14	(187)	1,142	
16 年度	(5)	53	(156)	1,084	(14)	135	(6)	13	(182)	1,285	
17 年度	(5)	41	(198)	924	(15)	300	(13)	35	(231)	1,300	
18 年度	(3)	31	(184)	1,267	(15)	229	(2)	7	(204)	1,534	
平成 19 年 度	4 月	(0)	0	(5)	12	(1)	2	(0)	0	(6)	14
	5 月	(0)	0	(8)	15	(2)	12	(0)	0	(10)	27
	6 月	(0)	0	(16)	118	(0)	0	(0)	0	(16)	118
	7 月	(0)	0	(16)	102	(1)	8	(0)	0	(17)	110
	8 月	(0)	0	(26)	141	(2)	42	(0)	0	(28)	183
	9 月	(0)	0	(10)	67	(1)	16	(2)	3	(13)	86
	10 月	(0)	0	(13)	109	(4)	68	(2)	4	(19)	181
	11 月	(0)	0	(18)	98	(1)	9	(0)	0	(19)	107
	12 月	(0)	0	(18)	48	(1)	12	(0)	0	(19)	60
	H20 1 月	(0)	0	(8)	57	(1)	9	(1)	3	(10)	69
	2 月	(0)	0	(24)	107	(2)	7	(0)	0	(26)	114
	3 月	(1)	2	(13)	29	(3)	7	(1)	11	(18)	49
	合 計	(1)	2	(175)	903	(19)	192	(6)	21	(201)	1,118
累 計	(1,445)	10,970	(3,007)	29,262	(428)	4,265	(362)	3,200	(5,242)	47,697	

注) () 内は、団体数。

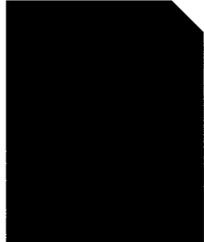
「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

1年の歩み

月	日	事	項
4.2	・3	ソーマ/キャバレーデカダンス (青山円形劇場)	
4.28	～5.6	児童福祉週間(ゴールデンウイーク) 特別期間「このゆび とーまれっ!」 たぬきゴールデン大作戦～どーんとサクセスストーリー~/キャッスルススポーツゲームズ 2007 GOAL! GOAL! GO ~~~ ～AI!/パソコン メカメカロボット研究所/こども歳時記「端午の節句」/ゴールデンウイーク 人形劇フェア/あそびのお もち箱/ワウワウ! アフリカ/こどもの城ジュニアプレス—ほか	
4.28	～30、5.3～6	～パパ・ママいっしょのスペースだよ～バブバベビータウン (赤ちゃん♥チョコッと相談/拡大版 よちよちクラブ— ほか) (研修室)	
5.6		こどもフェスティバル～おんがくがスキ! ファイナルコンサート (青山円形劇場)	
6.13	～17	青山円形劇場&玉川大学芸術学部提携公演「パフォーミング・アーツ・フェア in 青山」(青山円形劇場)	
6.7	・8	平成19年度第1回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「遊びの専門技術 手遊び・パネルシアター・紙芝居～心にとど けお話をたまたまて箱～」(研修室)	
6.23		第9回こどもの城子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康 0.1.2 歳児」(研修室) ※第10回は、平成20年2月15・16日(2日間)に開催(研修室)	
6.23	・24	とり+かえっこ in こどもの城 (ギャラリー)	
6.26	～7.8	こども歳時記「七夕」(造形スタジオ) /天までとどけねがいごと (7月4～8日、プレイホール)	
6.30		家庭支援の理論と実際～子育て家庭を支援するためには～「複雑な社会の中での親とのコミュニケーション」(研修室) ※第2回「心身の病気を抱える親との関わり～疑いも含めてから」は10月27日、 第3回「虐待を疑った時の親へのサポートの仕方」は平成20年1月26日に開催(研修室)	
7.8		第22回こどもの城マタニティコンサート「母なるものへの贈物～音の花束コンサート」(青山円形劇場)	
7.16		楽しい夏休みをすこすために「It's ライフセービング!」(プール)	
7.21	～9.2	夏休み特別期間「あつまれ あそび あつまれ げんき」 こどもスポーツアカデミー～楽しくスポーツを学ぶ～/造形発見展「アートと造形2」/あそびモリモリ キラりん☆広場/ 世界をあそべ! わんぱくツアー/びっくりビデオ広場/不思議な映像実験室 絵が動いてみえるおもちゃの展示とワークシ ョップ/つくって遊ぼう親子工房～くらげくらげくら～げ/パソコンであそぼう「ペーパープレーンファクトリー」「恐竜復 元コンピュータ」/サタデー・ラボラトリーまつり「夏の陣」/からだであそ Body /スプラッシュフェスタ 2007 /きこり んと木のおもちゃ工場—ほか	
7.21	～9.2	第24回渋谷スタンプラリー (こどもの城、NHK スタジオパーク、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館)	
7.21	～8.31	夏休みこども集中水泳講習会、ガンバ2007、夏休み造形教室(6コース)、親子で作ろう! 手作り楽器のワークショップ(8 コース)、映像・科学ワークショップ(5コース)、パソコン教室スペシャル～ロボットプログラミング入門、こども1日ド ック—さまざまな夏休み短期コースを開講	
7.27	～29	月猫えほん音楽会 2007 (青山円形劇場)	
7.27	～8.27	あそび day キャンプ～2007年夏(きみの五感にチャレンジ/テレビニュースとニュースペーパーにチャレンジ/Dance [E]プロジェクト/みんなで作ろうスプラッシュらんど/ Come on! キッズスポーツキャンプ/キャッスルアドベンチ ャー 2007 ぼくらの国を復活させよう—6コース)	
8.4	・5	第21回こどもの城保育セミナー「子どもの育ち・社会の育ち PART III」(研修室)	
8.7	～12	第15回キンダー・フィルム・フェスティバル (青山円形劇場)	
8.17	・18	高円宮憲仁親王殿下メモリアル「ローザンヌ・ガラ 2007～ローザンヌ国際バレエコンクール受賞者による～」(青山劇場)	

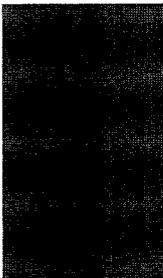
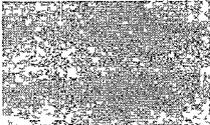
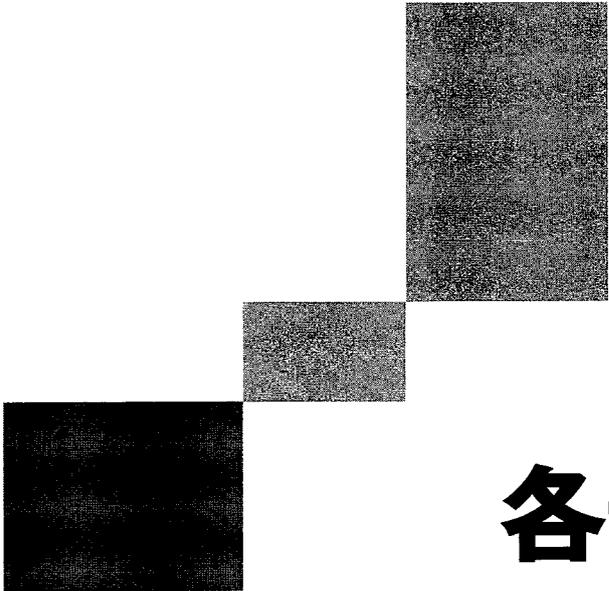
月 日	事 項
8.19・9.9	ワークショップ「つくって演じる人形劇」(人形制作・操演)
8.24～26	TAIKO JAPAN 2007 ※第6回東京国際和太鼓コンテスト(25・26日/青山劇場)、青山太鼓見聞録～ウチハヤス、打ち囃す～(24日/青山劇場)、青山太鼓見聞録外伝～太鼓に生きる、小口大八のすべて～(25日/青山円形劇場)、和太鼓カレッジ・ワークショップ(24～26日/青山円形劇場、体育室、ピロティほか)
8.26	L.I.T. (Leader In Training) の高校生による「キャッスルアドベンチャー 2007」(フリーホールほか)。作成したタウンマップ「しゅっぶ」を配布。
9.1	第40回バンパー大会(プレイホール)
9.12～16	Aoyama First Act#8 イキウメ「散歩する侵略者」(青山円形劇場)
9.22・23	秋まつり～みんなで縁日をたのしもう！(ふしぎが丘)
10.6～8	サッカーフェスティバル2007(体育室)
10.17～19	平成19年度第2回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「遊びの専門技術～児童館から発信！外遊びの魅力～」(研修室)
10.27～11.4	開館記念ファミリーウイーク特別期間 親子のふれあい体操/第14回親子体験ワークショップ/親子工房「紙から生まれた！カーミン」/わくわくパペットランド/ドルッチャワークス—ほか
10.27～11.18	全国児童館おりがみ作品展(ギャラリー)
10.28	おりがみにつよくなる講習会(研修室) ※11月11日も開催。
10.31	赤ちゃん大集合(赤ちゃんサロンスペシャル/みんなであそぼうにこここパーク/ごろごろ ハイハイ/うたってパブリック—ほか)
11.18	ドキドキッズ・オン・ステージ「レッツ・プレイ・サンバ」(Bスタジオ)
11.20・22・24	日韓ダンスコンタクト Vol.9(青山円形劇場)
11.23～25	オシロタウンへようこそ！(家をたてよう！+お買い物しよう)(プレイホール)
11.25	ボランティアが企画・運営している定例プログラム「こどもの城アドベンチャー」(月1・2回、土曜日)と「つくってあそぼう」(月1・2回、日曜日)がコラボレーション。
11.30～12.26	青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン～(青山円形劇場)
12.22～H20.1.7	冬休み特別期間「みんなあつまれ！ぼっかほかのあそび」 こども歳時記「クリスマス」「お正月」/パソコンでデザイン「ミニ・クリスマスツリーを作ろう」「パソコン紙相撲」/わいわいスタジオ「クリスマススペシャル」/モータースポーツにチャレンジ/身近な道具でスポーツあそび/新春あそびのお年玉 コマがクルクル福も来る！回してクルクルみんな来る！/新春おんがく祭！お正月だよ！ウリパメス！/新春もちつき大会—ほか
H20.1.2～7	第20回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「タントさんのふしぎなレストラン2～野菜の国でゆびきりげんまん～」(青山円形劇場)
1.19・20	中西俊博 Leapingbow 2008「Cool Groovin」(青山円形劇場)
1.23～25	平成19年度第3回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「遊びの専門技術 遊びを広げるコミュニケーション～子どもの主体性を育む遊びの援助法～」(研修室)
1.29～2.3	デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration と煩惱のゴブレット(青山円形劇場)
2.6～17	青山円形カウンシル#1～RISE！～「ウラヌス」(青山円形劇場)
2.17	ドキドキッズ・オン・ステージ「三味線三昧」(Bスタジオ)

月	日	事	項
2.19	～ 3.2	こども歳時記「桃の節句」(造形スタジオ) / みんなでひなまつり (3月1・2日、プレイホール) / うたってハッピー～ひなまつり (3月1・2日、音楽ロビー) / おひなめぐり DE あわせびな (3月1・2日、造形スタジオ+プレイホール)	
2.20	～ 23	TOKYO DANCE TODAY#1「UFO」コンドルズ春の東京完全限定公演 8 (青山円形劇場)	
2.21		平成20年度第1期「こどもの城の講座・クラブ」受講生受け付け開始	
2.26	・ 27	TOKYO DANCE TODAY#2「美加理×種子田郷」(青山円形劇場)	
2.29		こどもの城次世代育成支援講習会 (研修室)	
2.28	～ 3.9	インターナショナルスクールの合同美術展「アートスケープ展 2008」(ギャラリー)	
2.29	～ 3.2	KOUSKY V～沢則行 meets 中西俊博 (青山円形劇場) ※「NORISAWA メソッド」のワークショップを3月8・9日開催 (Bリハーサル室)	
3.2		ドキドキッズ・オン・ステージ「あつまれ! タイコのなかまたち」(Bスタジオ)	
3.9		ドキドキッズ・オン・ステージ「太鼓満載!!」(Bスタジオ)	
3.15	・ 16	こどもの城児童合唱団コンサート「ずっと友だち」(青山円形劇場)	
3.19	～ 23	Aoyama First Act#9 黒色綺譚カナリア派「葦ノ籠～アキノカゴ～」(青山円形劇場)	
3.20		新体操発表会「翔～Show」(体育室)	
3.20		第41回バンパー大会 (プレイホール)	
3.20		ドキドキッズ・オン・ステージ「リズムムービング」(Bスタジオ)	
3.23		ユースクラブ企画「ジオラマラビリンス～YOU 住んじやいなよ!」(プレイホール)	
3.25	～ 4.5	春休み特別期間「であいっばい ともだちっばい」 スポーツあそびルーム「TOBIRA」/ やってみよう! つくってみよう! 「からくりであそぼう!」/ パソコン フレンドシップカード/ キャスルロボダシ研究所～みんなで世紀の大発見～/ こども探偵団～☆(ホシ)をさがせ! / 春はキラキラダンスぞんす! —ほか	
3.25	～ 4.6	ニッサンゆかいな絵本と童話展～えほん畑はにこにこ畑～ (ギャラリー)	
3.28	～ 30	ROLLY Glory Rolly 2008 (青山円形劇場)	



2

各部の事業



体育 事業部



平成 19 年度の活動

1. はじめに

講座・クラブの運営と一般来館児・者向けの活動に大きく分けられる。平日は講座・クラブを中心に、そして土・日曜日、祝日および学校の季節休みなどの特別期間は一般来館児・者向けに、体育室でスポーツ遊びのプログラムとプールの開放を行っている。

〔こどもの城〕を利用する子どもたちにいかに運動を体験させ、体を動かす楽しさを伝えるかが、体育部門の使命と考えている。楽しみながら体力向上をはかる場である。

25 m×5 コースの温水プール、小さめのバスケットボールコート1面分の体育室と健康開発室がある。子どもたちの遊びが、かなり変わってきていると言われているが、体育室で見る子どもたちの表情は、今もかわらずに輝いている。

(ア) 一般利用

講座・講習会などが中心となっている体育事業部の活動のなかで、一般来館児・者向けのプログラムは、土・日曜日と祝日、学校の季節休みなどの特別期間に行っている。

日曜日（および、その前日の土曜日の午後）は、活動一覧表に記載しているように、週ごとに種目を決めて活動している。フライングディスクを使ったゲーム、いろいろなボールの使い方をするドッジボール、家族で楽しめる卓球、独自ルールで行うウォールサッカー（室内）などである。祝日は、今、運動量の多さが見直されてきた鬼ごっこを行っている。

平日は講座・講習会などに使用しているプールも、土曜日（13時30分～16時）、日曜日・祝日（10時30分～17時）は、一般来館児・者向けに開放している。寒い冬も利用できるが、気候が暖かくなるにつれて、利用者も増えてくる。さらに、夏休み特別期間には、屋上遊園に“ちびっこプール”を開設して、その運営を担当。乳幼児が安心して楽しめるため、人気を集めている。

健康開発室は、体力測定を有料で行っている。年齢・性別に応じて全国平均値と比較し、簡単なコメントをつけて健康・体力作りに役立てられるようにしている。子どもから大人まで測定できるので、家族で互いにどのくらいの体力があるのか比べあう姿が見られる。大人にとっては、体力維持のよい指標となっている。

(イ) 講座・クラブなど

親子、幼児、小・中学生（「シニアスイミング」は高校生も可）を対象に、水泳・体育の講座を開講している。ほとんどの講座は週1回であるが、「ジュニア新体操」



開館記念 親子のふれあい体操「親子でサッカー」

「シニア新体操」は週2回、「シニアスイミング」は週3回ある講座枠のなかから選択して受講できるようにしている。特に「シニアスイミング」は、週3回通う受講生が増え、練習時間が多くなり力をつけてきた。対外試合にも参加し、よい成績をおさめている。

成人向けコースとして、「レディースコース(スイミング/リズム&ストレッチ)」があり、平日の午前中に開講している。初心者から上級者まで、幅広く楽しめるように配慮している。

年度の後半には、水泳講座受講生の「水泳記録会」、新体操講座受講生による「新体操発表会」を行い、活動の成果を保護者に見てもらおう機会としている。

2. スポーツ遊びプログラム

(ア) キャッスルスportsゲームズ 2007

特別期間(児童福祉週間=ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み、春休み)の体育室の活動は、年間でテーマを決めてプログラム作りをしている。平成17年度から「キャッスルスportsゲーム」を大きな柱として行ってきた。いろいろなスポーツ(メジャーなスポーツからあまり知られていないスポーツまで)を来館児・者に体験してもらおうプログラムである。

“スポーツ”というと競技になり、幼児には難しい内容になることから、幼児にもわかりやすいように遊びを取り入れたルールにアレンジして行った。また、子どもだけではなく親子でも楽しめるように内容を工夫し、スポーツを身近に感じてもらうように配慮した。

児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間には、「GOAL GOAL GO ~~~AL」というタイトルで“ゴール”にからむスポーツ(サッカー、ハンドボール、ユニホックなど)を取り上げた。また、午前中の体育室では「みんなであそぼう この指と一まれっ!」を行った。体育室に集まった子どもたちがいろいろ相談して、こ

の時間に遊ぶ“あそび”を決めるもので、今までにない試み。スポーツや運動遊びを子どもたちに提供するのが本来のスタイルであるが、子どもたちが受け身にならずに、遊びを能動的に行うことが真の姿であるという観点から行ってみた。子どもたちは目を輝かせ遊んでいたのが印象的であった。

夏休み特別期間は「こどもスポーツアカデミー」。サッカー、バスケットボール、野球、バレーボールなどの身近なスポーツから、あまりなじみのないニュースポーツまで取り上げ、アカデミー形式で行った。今まではスポーツを子どもたちに提供し、楽しんで帰ってもらっていたが、そのスポーツの歴史やエピソード、豆知識などを子どもたちにおもしろく伝え、スポーツを幅広く理解してもらおうプログラムを実践した。学校的な雰囲気を出すために、1回参加(出席)するたびに出席カードをかいてもらい、体育室の壁にはりつけ5回出席すると、“スポーツアカデミーライセンスカード”をホルダーに入れて進呈した。

冬休み特別期間は2部制をとった。年末は、(株)本田技術研究所 二輪開発センターの協力のもと、組み立て式の電動ミニバイクを使用して、「モータースポーツにチャレンジ」を自転車に乗れる小学生を対象に行った。協力してもらうのは、今回で3回目になる。年始は、タオル、新聞紙、ビニール袋などを身近なものを使って、運動遊びを行う「身近な道具でスポーツあそび」を実施した。

春休み特別期間は「スポーツあそびルーム TOBIRA」を行った。段ボールの箱の中に、スポーツの種目名が書かれているゴルフボールが入っていて、参加する子どもに箱のTOBIRA(扉)を開けてボールを選んでもらい、そこに書かれている種目を行うという形式。どんな種目を行うのかという期待感を与えた。あらかじめ実施する種目が決まっている場合、スタッフは予習ができるが、この形はスタッフの指導力がとわれた。



キャッスルスportsゲームズ 2007
「GOAL GOAL GO ~~~AL」 ユニホック (体育室)



キャッスルスportsゲームズ 2007
「ゴールを決める! ~シュートで測定~」 (健康開発室)

スポーツあそびルーム“TOBIRA” パンブーダンス



(イ) その他のプログラム

毎年「体育の日」の3連休に、JリーグFC東京のコーチングスタッフとコラボレーションして、サッカー大会を行っている。FC東京のコーチが、子どもたちにサッカーを指導。集まった子どもたち同士で即席のチームを作って試合を行ったり、コーチと体育事業部スタッフとのエキシビションマッチを行う流れは定着しつつあり、毎年おおぜいの子どもたちが集まってくる。

夏休み特別期間に入る前の「海の日」には、「It's ライフセービング」を、25m以上泳げる子どもと大人を対象に行った。海の危険性や、万が一事故に遭遇したときの対処法を学習した。

11月23日には、「こどもの城杯 鬼ごっこ大会」を行った。祝日には体育室で鬼ごっこを行っているが、今回は小学生以上を対象に「スポーツ鬼ごっこ」を取り上げた。得点制で、スポーツ感覚で楽しめるスポーツ鬼ごっこは、スピードや作戦が必要になるため、子どもたちはエキサイトして楽しんでいた。

3. まとめ

体育事業部の活動は、講座・クラブ・講習会と一般来館児・者を対象としたプログラムに大別されるが、いずれも子どもたちには“動く楽しさ”を知ってもらいたいというところに活動のねらいがある。残念なことに運

サッカーフェスティバル2007「FC東京 サッカークリニック」



動は“好き”と“嫌い”に分かれてしまう傾向がある。理由はさまざまであろうが、体を動かすという、健康面での必要性は誰もが知っていることなので、ぜひ“好き”になってほしい。

強制や半強制は、運動に限ったことではなく、身にならなかつたりおもしろくなかつたりする。体育室でのプログラムで体を動かして遊び(スポーツをする)、“運動ってこんなに楽しいんだ”と少しでも感じてくれば、我々のねらいに一歩でも近づいたことになる。

数年前、タグラグビー(タックルの代わりに、腰につけた“タグ”を取ることでタックルとみなしゲームを中断できる、安全を考慮したラグビーのこと)を一般来館児・者向けのプログラムで行ったときに、一人の少年の親から手紙を受け取ったことがある。「息子が非常に興奮ぎみで帰ってきた」という文ではじまり、よくよく子どもの話を聞いてみると、ボールを運んでトライをして得点したわけではなく、ボールをもった相手チームの子どものタグを取って得点を阻止し、チームのみんなに感謝されたとのことであった。「息子は体育の時間が嫌いであったはずなのに、この一件で自信がいたらしく、体育の時間も意欲的になった」という内容であった。

このケースのように、運動を通じて何かを得、また感動したり、克服するきっかけになってもらえればありがたいと思うし、いろいろなプログラムを考える上で意欲がでてくる。

平成 19 年度活動一覽表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
プール一般利用	土曜日 13:30～16:00 日曜日・祝日 10:30～17:00	土・日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般利用。18歳以上 300円、小1～17歳 200円、幼児 100円。レンタル(タオル・水着) 各 200円。幼児は保護者が 1対1 で付き添って利用。(プール)
体育室一般利用 レクリエーションゲーム ドッジボール 卓球 ウォールサッカー ユニホック	各月 第1日曜日と前日の土曜日 第2日曜日と前日の土曜日 第3日曜日と前日の土曜日 第4日曜日と前日の土曜日 第5日曜日と前日の土曜日	週ごとに内容を替えて行っている。卓球の週は終日卓球の自由利用(混み合う場合は各グループ 20分交代で利用)。他の種目は、日曜日 14時と 16時の 2回、土曜日 14時に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングディスクのフリースローイングを行っている。利用時間は土曜日が 13時 30分～16時、日曜日が 10時～17時。土・日曜日と重ならない祝日は、鬼ごっこを行った。(体育室)
体力測定	土・日曜日、祝日	8種目の体力測定を行っている。4歳児くらいから大人までが利用でき、小学生以上は男女別に全国平均値と比べることができる。利用料は 1回 100円。土曜日 = 14時、15時、日曜日 = 11時、13時、14時、15時、16時。(健康開発室)
ビッグサタデー	土曜日 10:30～11:45	学校週 5日制に対応して、平成 14年度から始めた小学校 4年生以上を対象としたプログラム。クリケット、ラグビー、バレーボール、バスケットボール、バドミントンなどの種目を 2か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム(試合)の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。(体育室)
ファミリー アドベンチャー	5.20 8.5 11.18 H 20.3.23	身の回りにあるいろいろな“冒険”を家族で楽しむ野外プログラム。参加家族がふれあいながら、自然のなかの不思議を発見、新鮮な出会いなど、ちょっとした“冒険”にチャレンジ。参加費 = 500～2,000円(1人)。 □ 5月 20日 = パークアドベンチャー～なつかしのザリガニ釣りに挑戦!! (水元公園 = 東京都) □ 8月 5日 = 川遊びアドベンチャー～思いっきり川遊び (伊奈キャンプ場 = 東京都) □ 11月 18日 = 紅葉狩りアドベンチャー～クイズハイキングに挑戦! (秦野市 = 神奈川県) □ 平成 20年 3月 23日 = ミクロアドベンチャー～春をさがしに… (木場公園 = 東京都)
サッカーフェスティバル 2007	10.6 (サッカー祭り) 10:30～11:30 13:00～17:00 10.7・8 キックターゲット大会 10:30～11:45 サッカークリニック 13:00～14:00 14:10～15:30 16:00～17:20	6日は「サッカー祭り」。来館児・者を対象に、〔こどもの城〕独自ルールウォールサッカーのゲームを中心に実施した。7・8日は、Jリーグの FC 東京のスタッフがサッカークリニックを開催。プロのコーチがさまざまなテクニックを指導した。(体育室)
第 20 回水泳記録会	12.9 13:00～17:00	20年をふりかえるスライドショーや、スペシャルイベント「サンタクロースからの贈り物(宝とり)」「ウォーターティーチャーズ」を行った。水泳講座受講者がエントリー(1人 2種目 = 1,000円)を行い、年齢別、男女別で記録に挑戦。幼児 2種目、小・中学生 12種目。幼児 15人、小・中学生 119人参加。(プール)
親子 DE ばちゃばちゃ	11.1 10:00～11:30	「親子水泳」「ばちゃばちゃファミリースイム」のコースが人気を集めている。受講希望者が多く、キャンセル待ちをしている人も多い。そうした家族を対象に、一日体験コースを行った。1・2歳親子 50組が参加。(プール)
第 20 回新体操発表会	H 20.3.20 13:30～15:30	「ジュニア新体操」「シニア新体操」の受講生による発表会。1年間の成果を発揮し、家族の前で演技を発表した。今年のテーマは「翔」Show——はばたく、みせるなどをイメージして演技を構成し、披露した。20回を記念して、映像を使いこれまでの歩みをふりかえるなど、工夫をこらした発表会となった。(体育室)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 キャッスルスポーツゲームズ2007 GOAL! GOAL! GO ~~~ AL!	4.28・30、5.3～6 14:00～15:00 16:00～17:00 ※4.28は14:00のみ	シュートをうってゴールを決めるスポーツ（サッカー、バスケットボール、ハンドボール、ユニホックなど）を日替りで実施。どんなどきにゴールは生まれるのか？ 自分の技術、仲間の協力など、さまざまな角度から“ゴール”を考えて練習、ゲームをした。（体育室）
〈 “ ” 〉 “ ” いろいろなスポーツに挑戦	4.29 13:00、14:00、 15:00、16:00	いろいろなスポーツに挑戦するスペシャルプログラムを実施。（体育室）
〈 “ ” 〉 “ ” ゴールを決めろ！～シュートで測定～	4.28～30、5.3～6 10:00～17:00 ※4.28は13:30～17:00	ゴールが決まった瞬間は、だれにとっても気持ちのよいもの。ゴールやシュートにちなんだ、さまざまな“おもしろ遊び”に挑戦し、どのくらいの技術や集中力があるかなどを測定。（健康開発室）
〈 “ ” 〉 “ ” みんなであそぼう このゆびとーまれ！	4.29・30、5.3～6 11:15～11:45	体育室が原っぱや空き地に大変身。“ガキ大将（スタッフ）”が、伝承遊び、鬼ごっこ、スポーツ遊びなどを紹介。集まった来館児・者と、なにをして遊ぶかを相談して実施。（体育室）
〈夏休み〉 It's ライフセービング～ たのしい夏にするために	7.17 10:30～12:00	海・プールなどでの安全についての講習。溺れている人への対処法、着衣水泳を行う。本年度は、対象を小学生以上から保護者にまで広げた。大人が関わったことで、活動内容にメリハリができて、好評だった。参加費500円。協力：日本ライフセービング協会。（プール）
〈 “ ” 〉 こどもスポーツアカデミー ～楽しくスポーツを学ぶ～	7.21～8.23、8.27～9.2 14:00～15:00 16:00～17:00	サッカー、バスケットボール、ドッジボール、バレーボール、つなひき、クリケット、カバティーなど、いろいろなスポーツに日替りで挑戦。（体育室）
トランポリン	8.11・12 11:00～12:00 13:30～14:30 15:30～16:30	毎年行っている人気プログラム。競技用トランポリンを使用して、技の習得をした。指導は、日本トランポリン協会の河野公一さんほか。（体育室）
〈 “ ” 〉 体力を はかってみよう！	7.21～9.2 11:00、14:00、 15:00、16:00 (日・月曜日は13:00の回あり)	身長、体重、握力、垂直跳び、肺活量、立位体前屈、反復横跳び、閉眼片足立ちの8種目を測定。1回100円。（健康開発室）
〈 “ ” 〉 夏はプールだ！！	7.21～9.2 10:30～17:00	18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル(タオル・水着)各200円。幼児は保護者が1対1で付き添って利用。日によって利用時間が異なる。（プール）
〈 “ ” 〉 ちびっこプール	7.21～9.2 10:30～16:30	屋上に仮設プール(13.6×5m、水深60cm)を設置、一般利用。利用料200円、レンタル(タオル・水着)各200円。（屋上遊園）



こどもスポーツアカデミー「Tボール野球」



こどもスポーツアカデミー「相撲」

名 称	日 時	内 容
〈開館記念〉 ファミリースイミング	10.27・28、11.3・4 10:30～17:00	プール一般利用。一部にフロアを敷いて水深を浅くした幼児専用スペースを設置した。 (プール)
〈 " " 〉 家族みんなで体力測定	10.27・28 14:00、15:00、16:00	身長、体重をはじめ、握力や垂直跳び、肺活量など8種目の測定。 (健康開発室)
〈 " " 〉 親子のふれあい体操	10.28 11:00～12:00 14:00～15:00 16:00～17:00	11時の回は、1～3歳児対象に「親子体操」。14時の回は幼児から小学生親子対象に「親子サッカー」。16時の回は、幼児から小学生親子対象(子どもだけでも参加可)で「ファミリーサッカー」を開催。 (体育室)
〈 " " 〉 ファミリーパター	11.1 13:30～17:00	家族、友だちと一緒にパターゴルフ。用具を用意してあるので、時間中は自由に楽しめる。 (体育室)
〈冬休み〉 モータースポーツに チャレンジ	12.22～24 11:00、13:00、14:00、 15:00、16:00 ※12.22の13:00の回は休み	体育室に特設サーキットを設置。運転するときのアクセルワークなどをしっかり練習。自転車に乗れる小学生以上が対象。参加費100円(保険代)。協力は、(株)本田技術研究所 二輪開発センター。 (体育室)
モータースポーツ (バイク)を 身近に感じよう!	12.22～24 開館時間中	電動ミニバイクの組み立てやバイクのシミュレーターでの運転体験など。 (健康開発室)
〈 " " 〉 身近な道具で スポーツ遊び	12.25～27、H20.1.3～5・7 14:00～15:00 16:00～17:00	新聞紙やタオル、はいて来た靴など、身近な道具を使って、さまざまなスポーツ遊びに挑戦。昔懐かしい伝承遊びも取り入れた。 (体育室)
〈 " " 〉 冬も泳ぐぞ! レッツ・スイム	12.22～H20.1.7 10:30～17:00	18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル(タオル・水着)各200円。幼児は保護者が1対1で付き添って利用。日によって利用時間が異なる。 (プール)
〈 " " 〉 冬だ!みんなで 体力測定	12.25～H20.1.7 11:00、14:00、 15:00、16:00	身長、体重、握力、柔軟性など8種目を測定。1回100円。 (健康開発室)
〈春休み〉 スポーツあそびルーム "TOBIRA"	3.25～4.6 14:00～15:00 16:00～17:00	いろいろなスポーツ遊びを体験してもらうプログラム。1日に2つの"扉(とびら)"をあけて、2種目を行う。扉の向こうにはどんなスポーツ遊びが隠されているか、開いてみなければ分からない。 (体育室)
〈 " " 〉 レッツ・スプリング スイム	3.25～4.6 10:30～17:00	18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル(タオル・水着)各200円。幼児は保護者が1対1で付き添って利用。日によって利用時間が異なる。 (プール)
〈 " " 〉 体力測定	3.25～4.6 14:00、15:00、16:00 ※3.25～4.1は11:00、3.30・31、 4.6は13:00の回あり	身長、体重、握力、柔軟性など8種目を測定。1回100円。 (健康開発室)



モータースポーツ(バイク)を身近に感じよう!

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

※講座回数＝1・2期13回、3期9回

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容	
親子水泳	A	(組) 1・2歳児 と親 (30)	(組) ① 29 ② 27 ③ 28	水曜日 10:00～11:00	親と子を対象とした水泳コース。土曜日のコースは父親の参加が多い。父親が参加することで、よりダイナミックな動きができる。 受講料＝1・2期各29,000円、3期20,000円。
	B	“(〃)”	① 30 ② 30 ③ 30	土曜日 10:00～11:00	
幼児水泳	A	(人) 3・4歳児 (50)	(人) ① 40 ② 36 ③ 34	木曜日 14:00～15:00	単に泳法の修得だけでなく、水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2期各22,500円、3期15,500円。
	B	4・5歳児 (60)	① 31 ② 34 ③ 46	木曜日 15:00～16:00	
	C	“(〃)”	① 13 ② 20 ③ 19	金曜日 14:30～15:30	
	D	3～5歳児 (50)	① 49 ② 48 ③ 50	火曜日 14:30～15:30	
	E	“(〃)”	① 49 ② 43 ③ 48	水曜日 13:30～14:30	
幼児体育	A	3・4歳児 (40)	① 33 ② 29 ③ 31	水曜日 14:30～15:30	たくさんの友だちと一緒に思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しみながら健康な体や運動の基礎を作る。 受講料＝1・2期各20,500円、3期14,000円。
	B	4・5歳児 (40)	① 15 ② 15 ③ 15	火曜日 15:00～16:00	
	C	“(〃)”	① 14 ② 14 ③ 14	木曜日 15:00～16:00	

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小学生水泳 A	(人) 小1～6 (60)	(人) ① 26 ② 23 ③ 21	水曜日 14:30～15:30	生涯楽しめるスポーツ“水泳”を基礎から学び、4泳法をマスター。「シニア・スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施(10級～1級)。次への目標としている。 受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。 10級 顔つけ もぐり 息こらえ ポビング 水なれ 9級 伏し浮き 背浮き 板キック ボディーイメージ1 8級 伏し浮きキック 背浮きキック ボディーイメージ2 7級 ノープレクロール バックキック ボディーイメージ3 6級 クロール・バック(12.5) プレスト・バタフライ(キック) 5級 クロール・バック(25) プレスト・バタフライ(リズム) 4級 クロール・バック(50) プレスト・バタフライ(呼吸) 3級 クロール・プレスト(タイム) 個人メドレー 2級 個人メドレー(100)(タイム) 1級 個人メドレー(200)(タイム) ※バランス良く発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」「小中学生水泳(小学生のみ)」の2講座の受講ができる。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円(2コース合計)。
” B	”(〃)	① 46 ② 44 ③ 42	火曜日 15:30～16:30	
” C	”(〃)	① 52 ② 53 ③ 48	水曜日 ”	
” D	”(〃)	① 42 ② 36 ③ 31	金曜日 ”	
” E	”(〃)	① 56 ② 50 ③ 41	木曜日 16:00～17:00	
小中学生水泳 A	小2～中3 (40)	① 12 ② 9 ③ 11	火曜日 16:30～17:30	「小学生水泳」からのステップアップ講座。4泳法とも、自己記録の向上をめざす。指導者の推薦が必要。受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。 ※「シニアスイミングフレッシュ」の時間帯に練習することができる。
” B	”(〃)	① 42 ② 41 ③ 34	木曜日 17:00～18:00	
シニアスイミング	小1～高3 (30)	① 37 ② 36 ③ 36	火・水曜日 17:30～18:00	小学3年生以上で泳ぎが不得意な子どものクラス。クロールで25m以上泳ぐことを第一目標に練習を進める。90分の集中的な練習で上達の度合いが大きかった。受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。
シニアスイミングフレッシュ	小3～中3 (30)	① 34 ② 32 ③ 29	金曜日 16:30～18:00	
小学生体育 A	小1～6 (30)	① 32 ② 30 ③ 28	火曜日 16:00～17:00	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をとおして苦手な種目を克服する。さらに、鬼ごっこなどを取り入れ、持久力も身につける。 受講料=1・2期各17,000円、3期11,000円。 ※バランス良く発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」「小中学生水泳(小学生のみ)」の2講座の受講ができる。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円(2コース合計)。
” B	”(〃)	① 30 ② 29 ③ 26	木曜日 ”	
ジュニア新体操	小1～3の 女子(35)	① 26 ② 24 ③ 20	水・金曜日 15:30～17:00	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやボールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円。
シニア新体操	小4～中3 の女子 (35)	① 29 ② 25 ③ 23	水・金曜日 16:30～18:00	「ジュニア新体操」から一步進んで新体操独特の美しい表現ができるように練習。創作活動や発表会も開催。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円。
手足の不自由な子の水泳	小1～中3 (15)	① 13 ② 14 ③ 13	土曜日 17:00～18:00	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生が対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料=1・2期各17,500円、3期12,000円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
健康スポーツ教室 〈太りすぎクラス〉	(組) 太りすぎの 小学生とその 親 (20)	(組) ① 22 ② 21 ③ 20	土曜日 16:00～17:00	小児保健部との協力事業。医師、栄養士による健康・栄養のチェック、体育指導者による体力チェック——3者が協力してトータルな活動を行う。 受講料＝1・2期各24,000円、3期18,000円。

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ダイナミック・ヘルス・クラブ (D.H.C.)	(人) 成人 メンバー ビジター 法人	(人) 年間延べ 6,785 403 148 合計 7,336	火～土曜日 12:00～13:30 18:00～21:00 日曜日・祝日 18:00～20:00	18歳以上の大人のためのクラブ。プール、体育室、ジムを利用して体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。個人会員は、入会金100%オフ、会費20%オフキャンペーンを実施して、新規会員の募集に努めた。入会金0円、年会費50,000円、4か月会費20,000円、月会費5,500円、利用料(利用の都度)300円。利用パス券(月3,000円、4か月11,000円)、ビジター1,500円。
レディースコース スイミング リズム &ストレッチ	18歳以上の女性 (150)	① 45 ② 43 ③ 44	火・木曜日 10:00～11:00 水曜日 10:00～11:00 土曜日 11:00～12:00	スイミング3コース、リズム&ストレッチ1コースを併せてレディースコースとし、チケット制でどのコースでも参加できるようにした。チケット終了後は6回分の追加クーポン券を発行。生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも4班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から4泳法を身につけることを目標に健康作り。「リズム&ストレッチ」では、ゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生みだす。受講料＝1・2期各21,000円(13回分)、3期14,000円(9回分)。クーポン券(6回)5,000円。
マタニティ・スイミング	妊娠16週以降の妊婦	年間延べ 233	火・木曜日 11:00～12:00	小児保健部との協力事業。水泳プログラムをとおして、妊娠中を楽しく過ごすためのクラス。医師が活動前後に健康チェックを行い、活動中も不測の事態に備えて常駐する。出産や子育てにかんするレクチャーや栄養・心理の相談も受けられる。受講料12,000円(月7回)、入会金10,000円。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
母と子のすくすくランド	(組) おすわりの できる乳児 と母親 (30)	(組) ① 31 ② 26 ③ 29	金曜日 10:00～11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び、お母さんのシェイプアップも。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期各24,500円、3期22,000円。
幼児・母親体育 A	1・2歳児 と母親 (30)	① 29 ② 29 ③ 29	火曜日 13:30～14:30	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、体を動かすことの楽しさを身につける。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期各20,400円、3期18,000円。
〃 B	2・3歳児 と母親 (30)	① 29 ② 30 ③ 30	水曜日 11:00～12:00	
ばちばちファミリー スイム	1・2歳児 と父母、 祖父母 (30)	① 30 ② 21 ③ 18	金曜日 10:00～11:00	1歳から始まる水泳のビギナークラス。父母、祖父母のうち2人と幼児の組み合わせで参加できる。水慣れから、楽しい水泳活動をとおしてコミュニケーションも深めていく。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期各26,500円、3期23,500円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休み子ども集中水泳講習会	A (組) 小1～中3 (50)	(組) 50	7.21～25 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法を体験。受講料＝8,000円。
	B 4・5歳児 (40)	40	7.21～25 10:30～11:30	
	C 小1～中3 (50)	50	8.17～21 9:30～10:30	
	D 4・5歳児 (40)	40	8.17～21 10:30～11:30	
ガンバ 2007	小1～3 (30)	30	8.17～21 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を身につける、体操の苦手な子どものための5日間連続の体操教室。受講料＝8,000円。
春休み子ども集中水泳講習会	A 小1～中3 (50)	50	H20.4.1～5 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。受講料＝8,000円。
	B 4・5歳児 (40)	40	H20.4.1～5 10:30～11:30	
成人水泳集中講習会	18歳以上 (月20)	延べ 96	水・金曜日 18:30～19:00	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習。月ごとに募集を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。受講料＝10,000円(各月7回)。
子ども一日ドック	小1～中3 (10)	8	7.26 12:00～17:30	小児保健部との協力事業。体力測定など運動面の指導を担当。



夏休み子ども集中水泳講習会



ガンバ 2007

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
スポーツキャンプ	7.26～29	大自然に囲まれたニュー・グリーンピア津南でテニスや球技などのスポーツやトレーニングをとおして、全力を出した爽快感、充実感を味わえるキャンプ。自分の体の感覚やバランスをしっかり感じ、体力的にも、精神的にも成長することを目的とした。 (新潟県：ニュー・グリーンピア津南)
新体操夏合宿	8.2～5	緑深い矢祭町の自然に囲まれた環境のなかで、地域の人たちの協力も得て、伸び伸びと楽しく、充実したプログラムを行うことができた。今回は初めて、滝を見ながらの山登りにも挑戦した。講座生31人、OG2人、スタッフ4人の計37人が参加。 (福島県：東白河郡ユーパル矢祭)
健康スポーツ教室～太りすぎクラス～夏合宿	8.7～9	週1回1時間の講座とは別に、長時間運動を続けることで体を動かす楽しさを改めて知ることが目的。2泊3日のキャンプのなかで、登山や野外炊事などに挑戦し、食と運動の両面から自分自身を意識できるプログラムを実施した。 (静岡県：富士宮市天子の森キャンプ場)
チャレンジキャンプ	8.27～30	“何にでも挑戦しよう！”が合言葉の低学年体験キャンプ。今回は、場所を山中湖から朝霧高原に移し、田貫湖までのアドベンチャーハイクにチャレンジ。小学1～3年生45人が参加。 (静岡県：横浜YMCA グローバルエコビレッジ)
スキースクール パート1 1期 " 2期	12.26～29 H20.1.4～7	1期はスキーレッスンに最適な北志賀高原よませスキー場（長野県）。2期はファミリー向けゲレンデで安心して楽しめるニュー・グリーンピア津南（新潟県）。2期は新学期が始まる前なので、往復の疲労の軽減をはかるため新幹線を利用。2期は中学生のみスノーボードのレッスンあり。小学2年生～中学3年生が対象。1期は45人、2期は49人参加。
スキースクール パート2	3.26～29	小学1～3年生の低学年が対象のスキースクール。パート1と異なり、スキーのみならず「班対抗雪合戦」「雪上運動会」などレクリエーション的なプログラムも多く含まれている。低学年対象のキャンプなので、時間に余裕をもって行動。レッスン時間も考慮した。今回は、エコロジーについて話をしたり、実践をしてみた。45人参加。 (新潟県：ニュー・グリーンピア津南)



第20回新体操発表会

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
親子ふれあい体操 "1・2・3"	4.7・8	さぬきこどもの国（香川県）
すくすくスキンシップ	6.14	白井駅前センター児童館（千葉県）
親子ふれあい体操 "1・2・3"	9.5	北本市保健福祉部（埼玉県）
すくすくスキンシップ	10.17	春日部市児童センターエンゼルドーム（埼玉県）
身近な道具でスポーツ あそび	11.8・9	山口県児童センター
すくすくスキンシップ	11.16・17	NPO ヒューマンエイド、新津市健康センター（新潟県）
〃	12.13	戸田市立児童センタープリムローズ（埼玉県）
〃	H20.2.14・15	川辺町教育委員会（岐阜県）

プレイ 事業部



平成19年度の活動

1. はじめに

プレイ部門は、「こども活動エリア」の中心となっている屋内の広い遊び空間である「プレイホール」を中心に、「屋上遊園」さらに「パソコンルーム」「コンピュータプレイルーム」の運営を担当し、年間をとおしさまざまなプログラムを実施した。さらに夏休みと冬休みの特別期間には、自然の中での仲間との共同生活を体験するキャンプ活動も実施した。

活動プログラムは、〈あそび〉をとおして子どもたちのよりよい成長・発達を促すことを目的に、3つの方向性を基本にして計画・実施した。

①子どもの発達年齢や遊びの種類を考慮したプログラムの提供と遊び環境の整備 ②児童文化、子どもの遊び文化を題材にした行事やプログラムの提供 ③仲間遊びや子どもたち同士の交流を促進し、社会的な適応能力をはぐくむプログラムの提供。

少子化が進み人間関係が希薄化するなど、子どもたちが育つ環境が大きく変化している。子どもたちが、遊びや仲間同士のかかわりから得る、さまざまな学びと気づきを大切に、活動をすすめた。夏休み・春休みの特別期間と秋の連休には、子どもの生活体験や社会体験を広げることをねらいとしたプログラムを実施した。このプログラムは、子どもが主体的に参加体験し、“遊びながら学ぶこと”を重視した活動であった。

(ア) 一般利用

平常期間には、一般来館児・者に向けてさまざまなプログラムを実施している。人形劇、紙芝居などを上演す

る「みんなのこここ広場」や「おりがみあそび広場」、週替わりでおもちゃを提供する「金曜開店!あそびやさん」などの平日プログラム、小学生以上を対象に主に科学遊びを行う「サタデー・ラボラトリー」、節分・ひな祭り、七夕などの「季節行事」、親子・家族に向けた「ファミリープレイタイム」を実施した。

どのプログラムにも共通したねらいとなっているのが、子ども同士や親子で活動の楽しさを共有し、交流促進をはかることである。人形劇を見て一緒に笑ったり、折り紙を教え合ったり、また親子で季節行事の由来などを話し合ったり、とプログラムごとに交流の場面がよく見られた。

多くのプログラムは来館児・者全員を対象にしているが、「サタデー・ラボラトリー」や「ファミリープレイタイム」のように、あえて対象を限定しているプログラムもある。「ファミリープレイタイム」は、親子・家族単位での参加としており、「お父さん・お母さんに



ファミリープレイタイム「親子でペットボトル工作」

発見！からだであそBODY（ボディ）



子どもと遊ぶ楽しさを再発見してほしい」という思いをより強く伝えるために、子どもの遊びをサポートするのではなく、おとなの役割を用意し、一緒に楽しめる内容を企画した。最初は見ているだけであった親が、徐々に子どもと一緒に楽しんでいく姿も見られ、あらためて、このような対象とねらいを明確にした活動の場も大切であると感じた。

（イ）講座

【キッズクラブ／ユースクラブ】

「キッズクラブ」「ユースクラブ」は遊びをとおして子どもの社会性、協調性、積極性をはぐくむことを目的にしており、その活動も16年目をむかえた。本年度は、プログラムの展開方法に新たな可能性が見えたことが特徴としてあげられる。

「キッズクラブ」では活動の一環として、外部の絵本作家が行うワークショップに参加。ふだんの活動では接することのない外部の人とふれあうことで、子どもたちがいつも見せる姿とは違った側面を見ることができた。このことは、子ども一人ひとりの可能性を伸ばすなど、その後の活動を展開する上で、大きなヒントとなった。

「ユースクラブ」は活動の最終回に、〔こどもの城〕来館児・者向けのプログラムを運営するという企画をたて、そのための準備を定例のクラブ活動の前後に少しずつ行うという方法をとった。プログラム実施の数週間前から館内にポスターを掲示したり、「こどもの城ニュース」に記事を掲載するなど、ふだんの活動以外に広報準備活動をすることができた。

今後もより活動の幅を広げ、それぞれの子どもの状態に見合った展開を模索していきたい。

（ウ）グループ活動

グループ活動は、〈ごっこ遊び〉や〈劇遊び〉、人形劇

を素材とした〈表現遊び〉など、さまざまなプログラムをとおして、豊かな心をはぐくむと同時に、子どもたち同士が仲間意識を感じられるようになることを、主なねらいとしている。「忍者修行道場」28回、「みんないっしょに」5回、「森へいこう」5回、「パペットランド」6回、「オリンピック」2回と計46回の活動を行った。

ここ数年、1期の申込件数が増加しており、学年が上がってすぐの子どもの発達度合い、運動能力を見極めながらプログラム展開をしていく必要性を感じている。

年度によって、プログラムごとの実施回数に変化はあるものの、「忍者修行道場」の人気は根強い。子どもたちが“ごっこの世界”で夢中になって遊ぶことをとおして、仲間とのきずなをはぐくんだり、確認したりできる場、機会になっているようである。このような要素をもったプログラムを新たに開発していくこと、また既存のプログラムにその要素をさらに盛り込んでいくことは、今後の課題としてあげられるだろう。

（エ）野外活動

プレイ事業部では、年間で計3回のキャンプを実施した。

「ちびっこ冒険団」は期間中天候が悪く、屋内での活動を余儀なくされた。自然の中でのダイナミックな活動を展開するとまではいかなかったが、その分子どもたちの遊びへの工夫が随所に見られた。

「フェローシップキャンプ」は天候にも恵まれ、予定どおりすべてのプログラムを実施することができた。そのため、子どもたち同士のつながりが強くなり、仲間の絆を感じることでできるキャンプとなった。

「ゆきんこ冒険団」は、暖冬のため雪が少ないことが心配されたが、現地に到着したときには雪遊びをするには十分な量の雪があり、さらに天候も落ち着いていた。こちらも充実した活動を行うことができた。

どのキャンプにおいても、ボランティアの存在は重要で、〔こどもの城〕スタッフとともにキャンプの運営に参画し、活動を支えている。子どもたちと生活をともにし、心から子どものことを考えながらぶつかっていく姿は、参加した子どもたちに大きな影響を与えている。しかし、近年〔こどもの城〕ボランティアの登録数、とりわけ学生の割合が減少してきたことで、キャンプに参加するボランティアも減少し、キャンプの運営にも影響がおよんだ。今後、ボランティアの育成方法も含め、キャンプの運営形態などについても、検討していかねばならない。

ハンズオン広場「ようこそ！オシロタウンへ」



「事件を解決する」コースでは、館内を歩き回って、隠された文字や数字・目撃証言などを探しだすものや、プレイホールの「探偵事務所」で指紋や声紋・印刷物などの証拠をもとに、容疑者のアリバイと照合しながら、犯人推理を行った。

さまざまな手がかりから、犯人を推理するという内容に、小学生以上の子どもたちの参加が多く、探偵手帳を持ちながら、子ども同士で情報交換を楽しむ姿が多く見られた。

プログラムを企画するにあたり、子どもたちに何を学んでほしいのか、何に気づいてほしいのかを整理し、テーマやねらいを簡単で、具体的なものにしばった。また内容は、できるだけ体験の中で子どもたち自身が気づくよう工夫をした。今後もこのような、子どもが遊びながら学ぶということを重視した活動を、さらに深め広げていきたいと考えている。

3. まとめ

プレイ事業部の活動も22年目を迎えた。屋内・屋外の遊び場の運営やプログラムの実施、野外活動、さらに外部へ活動を伝える〈動くこどもの城〉や講師派遣など、幅広い活動となった。

開館当初よりさまざまな〈あそび〉のなかでの、子どもたち自身の気づき、学びを大切に考えてきた。「遊びと学びの体験プログラム」を実施することで、より具体的でわかりやすい形でプログラム化することになった。参加する子どもたちにとっても、より良い体験となっているようだ。ただ、今の段階では、実施時期が限られたプログラムとなっているが、今後は今までの活動内容を整理し、子どもたちが、いつでもいろいろなプログラムに参加できるような形を考え、遊びのスペースがより充実した形になるように計画していきたい。

2. 遊びと学びの体験プログラム ～〈発見・体験〉ハンズオン広場～

子どもは、自分を取り巻く社会の中で、多くのことを知り、体験を深めながら育つ。また、このような過程で、自分と社会の関係、そして、自分自身の存在についても考えることになる。このことは、子どもがひとりの人間として、社会の一員として生きていくために、とても大切な作業である。〈ハンズオン広場〉の活動は、子どもがさまざまなことを“体験”し、自分で何かを“発見”することを大切に、遊びながら“学ぶ”ことを楽しむ活動である。

【発見！からだであそ BODY】

夏休み特別期間に“からだ”をテーマに実施した。パソコンにつないだ顕微鏡で、体のいろいろな部分を拡大して観察したり、聴診器をアンプにつなげ、家族やともだち同士で心臓の音を聞きあって比べてみた。また内臓を模したパズルゲームを使い、おなかの内部の仕組みを楽しみながら知ったり、息の強さや、反射速度の測定や、耳や眉毛など、ふだんの身体測定にはない項目を測ってみるなど、自分の体をいろいろ調べ楽しんだ。

これらの遊びをとおして、自分の体についての発見と、不思議を感じることをめざし、“人”という存在を大切に感じられることを願った。

参加用紙に結果を記録し、参加者同士で確認し合えるようにした。これまでの取り上げていなかった内容のプログラムに、親子・兄弟での参加も多く、互いに調べ合うといった和気あいあいとした姿があった。

【ようこそ！オシロタウンへ】

秋の3連休に、「家を建てよう」と「買い物しよう」という2つのテーマで実施した。

店員や買い物客など、生活のなかの役割を楽しめる小さい子ども向けの“買い物ごっこ”と、のこぎりなどの大工仕事や、積み木を利用した“家を建てる”ことを、遊びのなかで体験する小学生向けプログラムを行い、子どもから大人まで幅広い年齢に対応した。のこぎりで木を切るということを初めて体験する子どもも多く、真剣なまなざしで取り組んでいた。

【こども探偵団～☆（ホシ）をさがせ～】

春休み特別期間には、子どもたちが「探偵」になって、4つの「訓練」と5つの「事件を解決する」コースのなかから好きなものを選んで取り組めるようにした。訓練では、「レーザー訓練」「記憶力訓練」「秘密道具訓練」「足跡追跡訓練」など、「推理」を楽しむにはまだ小さい子ども探偵ごっこを遊んだ。

平成 19 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容	
みんなのこにこ広場	水曜日 15:00～15:30	人形劇・紙芝居・影絵を週替わりで上演。いずれも女性ボランティアが協力。鑑賞型のプログラムには常連の参加者も多く、いろいろな分野の児童文化を伝える機会となっている。就園児にまぎって赤ちゃん連れのお母さんの参加が近年増え、子どもと一緒に楽しもうとする姿やアットホームな雰囲気にリラックスしている姿が見られた。(プレイホール)	
おりがみあそび広場	木曜日 14:30～15:30	日本の伝承遊びの一つである“折り紙”の楽しさを来館児・者に伝えるプログラム。ボランティアの協力を得て、折り図を用意せず口承で伝えている。月によってテーマを設定し、そのテーマにそった折り紙のメニューを設定した。11・12月のテーマ「歌の折り紙」は、『ぞうさん』『あわてんぼうのサンタクロース』など身近な歌を取り上げ、それにちなんだ題材を選び、カードにして完成させた。折りながら歌を口ずさむ子どもも多く、会場内での大合唱に発展することもあった。本年度のテーマは次の通り。6・7月「水辺の生き物」、9月「夏の思い出、祭り」、10月「お弁当作り」、11・12月「歌の折り紙」、1月「日本の伝統」、2月に「身につけるもの」、それ以外の月は「遊べる折り紙」。(プレイホール)	
金曜開店! あそびやさん	金曜日 開館時間中	期間ごとに数種類のおもちゃを選び、週替わりで来館児・者に体験してもらった。 1期＝ネジブロック／レゴブロック／魚の動きが楽しい魚釣りゲーム 2期＝バランスおもちゃ／ドミノたおし／木の自動車セット／変型木の積み木／はたらく車 3期＝ネジブロック／レゴブロック／かえるジャンプゲーム 実施日の中に、中高生の職業体験の受け入れ日があったため、おしろキッチン(レストランごっこ・1期)、魚釣りゲーム(3期)を特別に実施。中高生にコーナーに入ってもらい、お店やさんやお客さん、釣り堀の店員をしながら、子どもたちの遊びがより活発になるようサポートしてもらった。(プレイホール)	
おはなし人形広場	日曜日 15:00～15:30	月1～2回、プロやアマチュアの劇団による人形劇やパネルシアターの公演。本年度から実施場所を音楽ロビーからプレイホールへと変更した。オープンスペースで遊び場と直結している場所のため、いつでも親子が入り出るので、より多くの人に人形劇を身近に感じてもらうことができた。公演終了後には、人形とふれあい、おしゃべりできる時間を取ることで、さらに身近に感じる機会となっている。親子連れが多く、人形劇の世界を大人も子どもも一緒に楽しんでいる姿が多く見られ、公演が終了するころには、会場は楽しい時間を共有したという一体感で包まれていた。劇団公演回数は16回。(プレイホール)	
サタデーラボラトリー	土曜日 13:00～16:00 (受け付け時間)	小学生以上を対象に、科学遊び・映像遊びを中心とした直接体験を重視したプログラム。AV事業部と共同で毎週異なったプログラムを実施。44ページ参照。(プレイホールほか)	
フ ア ミ リ ー ブ レ イ タ イ ム	ファミリー わなげ大会	5.27 ① 12:30 ② 14:00 ③ 15:30	家族参加のわなげ大会。各回最大21家族まで募集し、3チームに分けて対戦、チーム優勝と家族賞を表彰した。エントリー後、家族でわなげの練習をする姿が見られるなど、家族みんなで楽しむきっかけとなったようである。55組参加。(プレイホール)
	おやこで ペットボトル工作	6.24 12:30～16:00	梅雨の時期、家族で家の中でもゆったり楽しめるようにと、ペットボトルを材料にした車の工作を楽しんだ。難しいところは保護者、模様をつける作業は子どもなど役割分担もし、親子で協力して制作していた。51組参加。(プレイホール)
	おやこで探検 オシロでビンゴ	9.23・24 12:30～16:00	5×5のビンゴシートに書かれた遊びや課題に、親子で協力しながら取り組むプログラム。大きな布に保護者をのせて子どもたちが引っ張る遊びや、子どもの体を定規にして物の長さを測る遊びなど、親子さまざまな遊びを楽しんでビンゴの完成をめざした。1列完成でゴールできるというルールにしていたが、25個の課題を全部達成した親子もあった。23日131組・24日76組参加。(プレイホール)
	あわせ手ツリー	12.9 12:30～16:00	保護者と子どもそれぞれの手の形を色紙に写し取ってハサミで切り取り、その手型をクリスマスツリーの葉っぱの部分に見立てて台紙にはりつける、クリスマスカード作りのプログラム。完成するときれいな作品になることや、その年の子どもの手形が残せて家族の記念になるという要素もあり親子で協力して作品作りを楽しんでいた。60組参加。(プレイホール)

名 称	日 時	内 容
ファミリータイム 親子でのんびり 昔あそび	H20.2.24 12:30～16:00	あやとりを中心に、おはじきやお手玉、竹返しなどの伝承遊びで遊べるコーナーを設置した。あやとりはもちつきや東京タワーなど2人以上の人数でやると楽しめる型を紹介した。母親が子どものころにやったあやとりを思い出しながら子どもに教えたり、父親がやり方の表示を見ながら子どもと楽しんだりとのんびり遊べるスペースになった。89組参加。 (プレイホール)
<七夕> 天までとどけ ねがいごと	7.4・6 13:00～16:00 7.7・8 11:00～16:00 (受け付け時間)	七夕の由来やそこに込められた願いを伝えるプログラム。短冊に願いごとを書いて、プレイホールにある笹竹に飾った。本年度のテーマは〈星〉。ブラックライトを使った「星の部屋」を設置し、既存の星座の並びからつなぎ方をかえてオリジナルの星座を作る「星つなぎ」のワークショップを実施。できあがった星座シートを「星の部屋」にはると、ブラックライトに反応して光る。動物や食べ物の名前の星座や「スカート座」「にじ座」など想像力豊かな星座がたくさんできあがり、最終日には満天の星空となった。また星の部屋では、「空にてんてん」と「たなばたさま」のパネルシアターも上演した (プレイホール)
<ハンズオン広場> ようこそ! オシロタウンへ	11.23～25 11:00～16:00 (受け付け時間)	「買い物をしよう」と「家をたてよう」という2つのプログラムを実施。「買い物をしよう」では、お店やさんになる人、買い物をする人に分かれ、ままごとの食べ物やお菓子の空き箱などを使ってお買い物ごっこを展開した。「家をたてよう」では、積み木つみやクレーンゲーム、のこぎりで木を切るなど「家をたてる」にちなんだ遊びに参加してポイントを集め、集まったポイントで壁や窓、ドアなどの家の材料と交換し、自分の家を作るというプログラム。作った家はホールの壁面に設置した大きなオシロタウンの地図にはり、街の住民になることができる。小さい子どもから楽しめるお買い物ごっこ、のこぎりを使ったり、家を地図にはったりする大きい子ども向けのプログラムで、子どもから大人まで幅広い年齢の参加があった。 (プレイホール)
<節分> 節分会大まめまき大会	H20.2.2・3 15:30～16:30	恒例の豆まき大会。節分の由来を参加劇仕立てで紹介し、子どもたちと一緒に豆まきを行った。怖さを克服してスタッフやボランティアがふんする鬼に一生懸命豆を投げたり、鬼が降参した姿を達成感あふれる様子で見守る姿は、この季節行事の大切さを感じさせる場面である。参加者にはお手伝い役をかって出てくれた年男年女の子どもから福豆が配られた。参加者は2月2日396人、3日215人。 (プレイホール)
<ひなまつり> みんなでひなまつり	3.1・2 11:00～17:00	日本の伝統行事である「ひなまつり」の由来やそこに込められた願いを紹介することを目的に実施。本年度は、親が子どもの成長を願ったり、感じたりする機会となることに重点をおいて、子どもの成長を記録できるカードを作ったり、「ひな段」に飾られている道具(貝あわせ、将棋、百人一首)を使って遊んだりした。記録カードには、子どもの手形を記録し、「この1年でできるようになったこと」「これから1年間の願い」を書きとめられるようにした。これをきっかけに親子で話をしたり、一緒に考えたりと親子での対話を楽しんでいる姿が多く見られた。また今回は、「ひなまつり」という季節行事を造形事業部、音楽事業部との共同企画での取り組みを行った。各部の情報をちらし1枚にまとめて広報したり、2つのコーナーのプログラムに参加すると記録カードが完成したりと、全館で「ひなまつり」の雰囲気味わえる2日間となった。 (プレイホール)
第41回バンパー大会	3.20 小学生の部 10:00～12:30 中高生の部 14:00～16:00	プレイホールの高学年コーナーにある遊具「バンパー」の大会。高学年コーナーに集う子どもたちのさらなる交流促進をめざして実施した。前回大会に引き続いて参加した参加者も多かった。小学生の部13人、中高生の部7人が参加。 (プレイホール)



みんなでひなまつり

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ゴールデンウィーク 人形劇フェア	4.28～30 ワークショップ 11:00～16:00 (受け付け時間) 人形劇上演 ① 11:30 ② 13:30 ③ 15:00 キッズ劇団上演 4.29: ① 14:40 ② 16:10 4.30: ① 11:30 ② 13:30 ③ 15:00	大学にある児童文化研究会などのサークルのネットワーク〈じゃんぐるじむ〉の学生とそのOBなどで構成されている「パペットマーケット」の協力を得て、「人形をつくる」、作った人形で「あそぶ」、人形劇を「みる」催しを実施した。「作ってあそぼう」では、手袋人形と口と手が動く封筒人形を制作した。三々五々集まってきた子どもたちは、完成した人形を使っての冒険ごっこや遊園地ごっこなど、お話の世界を楽しんだ。人形劇の公演「わくわくパペットショー」では、子どもたちが作るものと同じ人形が登場。人形劇をより身近に感じたり、お話の世界により入り込めたりしたようだ。新たな試みとして、会場にきた小学生が人形劇を練習し、発表するワークショップを行った。子どもたちにはもちろん、指導にあたった学生にとっても活動を活性化するものとなった。(研修室)
〈 〃 〉 たぬきのゴールデン大作戦～どどんとサクセスストーリー～	5.3～6 11:00～16:00 (受け付け時間)	“お金”をテーマに、たぬきの世界で億万長者をめざそうという、幅広い年齢層の来館児・者が楽しめるゲーム大会。働いて給料をもらう「お仕事ゲーム」と、当たりが出たらお金が増える「チャンスゲーム」の2種類10個のゲームを実施。さらに、参加者同士が直接かかわり合うことをねらって、集めたお金で自分の遊びのお店を出店することができる制度を作った。参加者が出したお店では「いらっしやい」と元気な声が響き、参加者同士楽しんでた。(ふしぎが丘)
〈夏休み〉 発見! からだで あそBODY (ボディ)	8.18～27 11:00～16:30 (受け付け時間)	“からだ”をテーマにしたいろいろな遊びを実施。「心音」「KA・RA・DA クイズ」「カラダ拡大マシーン」「五臓六腑パズル」「聞き分けチャレンジ」「うつし手え」「いろいろ身体測定」などの遊びをとおして、「自分のからだって、○○なんだ」とからだの再発見ができたり、人体の不思議を感じたりするなかで、自分や他人のからだのことを考えたり、体を大切にす機会となった。(プレイホール)
〈 〃 〉 第40回バンパー大会	9.2 小学生の部 10:00～12:30 中高生の部 14:00～16:00	プレイホールの高学年コーナーにある遊具『バンパー』の大会。第40回の記念大会。今回から、参加申込者に「対戦記録カード」を配布した。バンパーで対戦し、勝った時に相手のサインをもらえるというカードで、サインをもらうことを目的に連日練習に来てはバンパーを楽しむ姿も見られた。小学生の部12人、中高生の部5人が参加。(プレイホール)
〈開館記念〉 人形あそびのワークショップ～わくわくパペットランド～つくってトコトコあそんでトコトコ～	10.27・28 おはなし広場 11:30 人形劇遊びのワークショップ 13:00～16:30 (受け付け時間)	午前は、スタッフによる人形劇の公演「おはなし広場」。午後は紙コップを顔と胴体に、紙テープを手足にした人形「トコトコにんぎょう」を工作し、その人形を使ってサーカスや冒険、乗り物、シアターなどで遊ぶ「トコトコらんどであそぼう」を実施した。人形劇を“みる”、人形を“つくる”、人形で“あそぶ”——さまざまな形の人形遊びを展開した。親子で参加する姿が非常に多かった。(プレイホール)
〈冬休み〉 新春あそびのお年玉～コマがクルクル福も来る! 回してクルクルみんな来る!!～	H20.1.3 13:00～16:00 1.4～7 11:00～16:00 (受け付け時間)	世代をこえて遊べるもの、遊びこむ楽しさを伝えられるものとして、“こま”を取り上げた。屋上遊園では、投げゴマとディアポロ、プレイホールではベーゴマ、手びねりゴマ、手作りゴマで遊んだ。初めて取り組んだベーゴマでは、懐かしさからかお父さんやおじさんの参加も多く、子どもにひもの巻き方や投げ方を教えている姿もみられ、世代を超えた交流が自然と生まれていた。ディアポロは、小さな子どもたちも簡単に回せていたので、親子一緒に楽しんでいる姿も多く見られた。1日の終わりには「コマ大会」を行った。事前にエントリーした子どもたちによる、コマの勝負や技の披露など、子どもたちの真剣な表情に観ている応援団からの声援もだんだんと大きくなり、熱気ある大会が繰り広げられた。(プレイホール・屋上遊園)
〈春休み〉 こども探偵団 ～☆(ホシ)をさがせ～	3.29～4.6 11:00～16:00 (受け付け時間)	“探偵”になって、4つの“訓練”と5つの“事件”のなかから好きなものを選んでクリアしていくというプログラムを実施した。訓練では、ゴムに付いた鈴をならさないように目的地にたどり着く「レーザー訓練」や、パソコンを使った「記憶力訓練」など、自由に何でも遊ぶことができるようにした。事件は、文字や数字を館内から探しだすものや、プレイホールにある「探偵事務所」で指紋や声紋、アリバイなどの証拠を元に犯人を推理するものなどがあり、小学生以上の子どもたちの参加も多く、探偵手帳を持ちながら館内を歩きまわったり、友だち同士で情報交換する姿が見られた。(プレイホールほか)

〈パソコンルーム〉

名 称	日 時	内 容
メカメカロボット研究所	4.27～6.12	土台となるロボットの形を選び、コードやモーター、計器などの部品を自由に並べて、思い思いにデザインするプログラム。さまざまな性能が組み込まれ、「ドリルで岩をけずることができる」「ロケットが出て空を飛べる」など自由な発想を楽しんでいた。
ネイチャークイズ	6.13～7.10	パソコンの鳥と花の図鑑を使って、色や形、大きさといった特徴からそれぞれの名前を調べるプログラム。クイズ形式の問題に取り組むなかで、全問正解をめざしたり、親子で検索したりと、子どもの年齢によって、さまざまな楽しみ方をしていた。
ペーパープレーン	7.11～8.9	「折り紙飛行機」「カスタムジェット」——それぞれ数タイプのなかから好みのものを選び、主翼や尾翼をカスタマイズしたり、イラストや文字で機体をデザインした。作った飛行機はプレイホールに用意したコーナーで飛ばして遊び、より遠くに飛ばすための機体の調整や投げ方などを教わりながら、自分が作った飛行機で楽しんでいた。
恐竜復元コンピュータ	8.10～9.19	恐竜の骨や肉のパーツを使って、元の形に復元したり、新しい恐竜を組み立てたりするプログラム。骨の形をいろいろと組み合わせ、新しい恐竜の形を作りだしていく過程を楽しんだり、完成した作品を友だちや親子同士で見せ合っていて楽しんでいた。
パソコンことばあそびのA☆B☆C	9.20～10.23	言葉遊びを楽しむプログラム。パソコンと対決する「しりとり」、文字を並べ替える「アナグラム」、自分が作った文章が他の人が作った文章と入れかわる「4W遊び」、暗号を解読機能を用いて解く「暗号解読」、同時に聞こえる単語を何種類まで聞き取れるかに挑戦する「聞き分けチャレンジ」のなかから選んで遊べるようにした。とくにしりとりでは、パソコンに勝つことを目標に、親子や友だち同士で協力しながら対戦していた。
ひみつの宝箱	10.24～11.27	「たからばこ」「こものいれ」「こひきだし」「ちよきんばこ」「MDケース」のなかから選んだ箱の展開図に、ペイント機能で好きな色・柄を塗り、イラストをレイアウトしたものを印刷し、切り取って箱に組み立てた。実際に使えるもの＝実用品を自分でデザインし、作り上げることを楽しんでいた。
ミニクリスマスツリーをつくるう	11.28～12.25	あらかじめ用意してあるツリーの台紙に、リースや星、長靴などのイラストを飾りつけて印刷。刷り上がったものをハサミ、のりを使用して加工し、クリスマスの飾りを作製した。色画用紙にはりつけるカードタイプの「つるツリー（平面型）」「おるツリー（半立体型）」とパラソルのようにまるめて土台に立てて飾る「パラソルツリー（立体型）」の3種類。イラストのレイアウトはパソコンで容易にできるので、小学生以上の子どもたちの多くは、工が入る「おるツリー」や「パラソルツリー」を作っていた。
パソコン紙ずもう	12.26～H20.1.29	力士の“かお”“からだ”“あし”“右手”“左手”をデータのなかから好みのものを選び、パソコンで組み合わせた力士を印刷し、切り取って組み立てる。できあがった力士を使って、用意した紙相撲土俵で対戦して遊んだ。土俵入りや力士同士を組ませるコツ、土俵のたたき方など、紙相撲遊びの楽しみも伝えられるよう工夫した。
きみもパソコンアニメーター	1.30～3.11	パソコン上に2枚または4枚の絵を描き、できあがった絵を交互に映し出し、BGMをつけて簡単なアニメーションを作った。特に小学生の作品には、ストーリーや動画の変化に工夫をこらしたものが多くみられ、繰り返し遊びにきていた。
フレンドシップカード	3.12～4.22	名刺作りソフトを利用し、デザインされた名刺の中から1枚選び、名前・住所・趣味・特技・メッセージなどを入力。また、イラストを選んでレイアウトし、オリジナルの名刺を完成。パソコンに取り付けられたカメラを使って自分の顔写真を入れた名刺作りに挑戦する子どもも多く、名刺ができあがると友だちや親子で名刺交換している姿が印象的だった。

〈サタデー・ラボラトリー〉

名 称	日 時	内 容
ビックリおもちゃ大作戦!	4.14	“驚き”をテーマに、なかを見ようとすると突然動き出す「さそりの標本」作りや、いつ発射するかわからない「発泡入浴剤ロケット」を作った。参加:52人。(担当:プレイ事業部)
4コマまんが道場	4.21	おもしろい物語を4つの場面で構成する「4コマまんが」を創作する。セリフを考えて、ふきだしに記入するプログラムも開催。参加:28人。(担当:AV事業部)
のこぎりをひこう	5.12	のこぎりで丸太を最後まで自分の力で切ることに挑戦した。切り終えた丸太はペンで装飾したり、簡単なメモスタンドに工作した。参加:37人。(担当:プレイ事業部)
おどろきマジックの秘密〜てじなの“て”〜	5.19	いくつかの作品を見せて、その後種明かし。その作品ができるように練習した。最後は集まった保護者向けに、子どもたちが作品ショーを開催。参加:51人。(担当:プレイ事業部)
ピンホールカメラをつくろう	5.26	針穴をあけただけのカメラ「ピンホールカメラ」を紙工作で作成し、カメラの仕組みを体験した。参加:39人。(担当:AV事業部)
スチームパワーだ! 進めボンボン船	6.2	アルミ管と木の板を材料に、ろうそくの炎を動力源とする科学おもちゃ「ボンボン船」を作った。参加:36人。(担当:プレイ事業部)
いろいろプリント術	6.9	さまざまなプリント技術を紹介。その中から、プラスチック板に傷をつけてプリントする凹版印刷と、文字スタンプでの凸版印刷を体験した。参加:50人。(担当:プレイ事業部)
ばらばらマンガをつくろう!	6.16、9.8	絵がアニメのように動いて見える「ばらばらマンガ」を作る。絵が苦手な参加者用に塗り絵も用意した。参加:6月16日=45人、9月8日=43人。(担当:AV事業部)
混虫(まぜむし)工場	6.23、7.14、9.22、11.17、H20.2.2	[こどもの城]オリジナルペーパークラフト「混虫(まぜむし)工場」シリーズから、サタラボ用に簡略化したカブトムシ、クワガタムシ、ショウリョウバッタ、アゲハチョウ、スズメバチ、オオハサミムシ、サソリなどを製作。参加:6月23日=32人、7月14日=63人、9月22日=53人、11月17日=32人、平成20年2月2日=17人。(担当:AV事業部)
紙を漉(す)く	6.30	ミキサーで細かくした牛乳パックから、紙をすき、和紙風のはがきを作成した。参加:47人。(担当:プレイ事業部)
アナモルフォシスに挑戦!	7.7	ゆがんだ絵を円筒のミラーシート越しに見ると、正常な絵になって見えるアナモルフォシスを制作した。参加:24人。(担当:AV事業部)
フェルトを作るフェルトで遊ぶ	9.15	羊の毛から「フェルト」を作り、簡単なポーチを作成した。参加:56人。(担当:プレイ事業部)
火おこし	9.29	“舞切り式火おこし器”を使って、マッチやライターを使わない火おこしに挑戦した。参加:49人。(担当:プレイ事業部)
ニットに挑戦!	10.6、H20.1.12	身近な材料で作った編み機を使い、鈴入りマスコットを作った。キノコをかたどったマスコットやネズミのマスコットを制作。参加:10月6日=33人、平成20年1月12日=47人。(担当:AV事業部)
スーパー糸電話	10.13	紙コップで糸電話を制作し、毛糸や針金など実験コーナーのさまざまな素材で音がどう伝わるかを体験した。参加:39人。(担当:プレイ事業部)
ゾートロープを作ろう	10.20	12コマの動画をドラム状の本体に入れて回転させると、絵が動いて見える視覚がん具「ゾートロープ」を作った。参加:42人。(担当:AV事業部)
ご飯を炊こう	11.10	簡易ガスコンロと鍋を使って炊飯に挑戦。米をとぐ、水加減・火加減、蒸らし時間の調整なども自分でやり、1人0.5合のご飯を炊き上げた。参加:29人。(担当:プレイ事業部)
光のふしぎ	11.24	暗闇でペンライトを振ってデジタルカメラのバルブモードで撮影し、空中に絵を描いていく遊びを展開。参加:17人。(担当:AV事業部)

名 称	日 時	内 容
飛行機が飛ぶ秘密	12.1	画用紙と割り箸を材料にした飛行機を作って飛ばす。揚力実験装置も設置し、遊びながら飛ぶ仕組みを理解できるプログラムとなった。参加:37人。 (担当:プレイ事業部)
色のふしぎ	12.8	光の三原色(赤・青・緑)が印刷された紙でコマを作り、黒い扇型のマスクをかけて、色が変わる仕組みを体験した。参加:32人。 (担当:AV事業部)
ろうそくの工房	12.15	ろうそくになぜ火がつくのかを実験した後、ろうそくのしんに少しずつろうをつけていく製法でろうそく作りを楽しんだ。参加:49人。 (担当:プレイ事業部)
回転のふしぎをさぐる ～こまであそぼう～	H20.1.19	“こま”を題材に“回転=まわるもの”の不思議を体験した。その後、形が丸ではない変形こまを制作。参加:40人。 (担当:プレイ事業部)
あったかいぞ! カイロをつくろう	1.26	鉄粉と塩水を主な材料にしてカイロを制作。作ったカイロがどのように温度変化するか実験を楽しんだ。参加:73人。 (担当:プレイ事業部)
みる、きく、つたわる 音のふしぎ	2.9～11	展示コーナーでは音が聞こえる不思議や伝わる仕組みなどを体験。ワークショップコーナーは「スーパー糸電話」「音を描く」「逆回転でしゃべろう!」の3つを実施。参加:2月9日=47人、10日=111人、11日=94人。 (プレイ・AV事業部共同)
縄をなう	2.16	カラフルな平テープを使って「縄ない」にチャレンジした。参加:28人。 (担当:プレイ事業部)
君の絵がぐるぐる動く!! 「驚き盤」を作ろう	2.23	映画発明以前に存在した視覚がん具、「驚き盤」を制作。絵の苦手な参加者向けに見本や塗り絵のものも用意した。参加:50人。 (担当:AV事業部)
紙バペット・アニメを 作ろう	3.1	紙コップで作った人形をアニメ撮影して動かす。関節つきの紙人形を立ててアニメ撮影する小4以上のコーナーも併設した。参加:26人。 (担当:AV事業部)
体験! 車いす	3.8	車いすに乗って館内を移動する体験と、車いすコースをまわるという遊びをとおして、“曲がり方”“段差越え”などの基本操作の体験をした。参加:37人。 (担当:プレイ事業部)
「浮沈し」をつくろう	3.15	水圧で動く不思議な科学おもちゃ「浮沈し」を、ペットボトルとお弁当用しょうゆ入れで制作した。参加:48人。 (担当:プレイ事業部)
モアレにチャレンジ!	3.22	“モアレ現象”を利用した、動きのあるはり絵を作成した。専用の用紙を4色用意し、はり絵自体も楽しめるようにした。参加:14人。 (担当:AV事業部)



サタデー・ラボラトリー「体験! 車いす」



サタデー・ラボラトリー「縄をなう」

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
キッズクラブ	(人) 小1～4 (30)	(人) ① 30 ② 30 ③ 30	隔週土曜日 15:00～17:00 (原則)	①家庭や学校では体験できない活動を行う ②地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめざす ③子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで、創造性・自発性・協調性を養うこと、を目的とした〈あそび〉のクラブ。本年度は新メンバーが12人と多かったこともあり、グループとしての成熟には多くの時間を要した。しかし、自分たちの居場所としてキッズクラブを大切に思っていることは、早い段階から感じられた。当初は、個々での楽しみ方であったものが、体をぶつけ合い言葉を交わし遊んでいくなかで、だんだんと仲間と過ごすことが楽しいと感じる姿が多く見られるようになった。活動一覧は別表参照。1・2期は6回、3期は5回。受講料＝1・2期10,000円、3期8,500円。
ユースクラブ	小5～中3 (40)	① 44 ② 40 ③ 43	隔週日曜日 13:30～15:30 (原則)	10代前半の心の成長期に、集団活動とおし豊かな人間形成をはかることがねらいの〈あそび〉のクラブ。①プログラム活動をおしさまざまな直接体験をする ②仲間とのかかわりから人間関係を学ぶ ③計画から実施をおし夢を実現する——が目的。本年度は最上級生である中3のメンバーが多く、これまで以上に子どもたちとともに活動を作り上げていく部分を多くした。特に最終回には、〔こどもの城〕来館児・者向けのワークショップを展開した。そのための準備を、活動の前後の時間を使って自主的に行うなど、積極的な部分が見られた。活動一覧は別表参照。1・2期は6回、3期は5回。受講料＝1・2期10,000円、3期8,500円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小学生パソコン教室 ～ロボットプログラミング入門～	(人) 小4～6 (15)	(人) 15	8.21～24(4日間連続) 10:15～12:45	子ども向け用のプログラミング言語 LOGO(ロゴ)で、コンピュータプログラミングの初歩を学んだ上で、ブロックを組み立てて作ったロボットをうまく動かすためのプログラムを作る。グループごとに作ったロボットを操作し、設定されたコースをはみ出さずに進んだり、オーバルコースを一周する所要時間を競うゲームなどを行った。受講料＝8,500円。

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
ちびっこ冒険団 2007	7.28～31(3泊4日)	小学1～3年生のための舎営キャンプ。豊かな自然に恵まれた那須高原を舞台に、班ごとに考えたさまざまなグループ活動を楽しむ。班の仲間と“何をして遊ぼうか”“どうやって遊ぼうか”などを相談したり、協力しあうなかで、協調性や社会性を習得していくことを大きなねらいとしている。本年度は雨天が続いたため、館内で過ごすことが多かったが、その分子ども同士、リーダーと子どもたちが向き合う機会が多く、人間関係が密になった。参加者72人、ボランティア19人、職員3人。参加費39,000円。 (福島県国立那須甲子青少年自然の家)
フェロシップ キャンプ 2007	8.4～8(4泊5日)	小学4～6年生のためのキャンプ。基本は舎営とし、1泊は自分たちの作り上げた基地にビバークする。小グループごとによる活動を基本として、仲間との連携や思いやりなどの社会性を豊かにすることを目的の中心に考えて実施している。本年度は、宿舎近くの沢を使った「沢歩きハイキング」をメインの活動とし、自然を豊かに感じ仲間とともにさまざまな体験を楽しんだ。参加者40人、ボランティア12人、職員3人。参加費46,000円。 (福島県国立那須甲子青少年自然の家)
ゆきんこ冒険団 2007	12.25～28(3泊4日)	小学1～3年生のための舎営キャンプ。冬の自然を感じ、そのなかで遊ぶことをとおして、仲間との交流を広げる活動を行う。本年度は天候に恵まれ、晴天の下、雪もほどほどにあるという、雪遊びには絶好の日々となった。子どもたちは、「雪合戦」や「そり遊び」に「かまくら作り」とさまざまな雪遊びを体験できた。そして、遊びが十分満喫できた分、人間関係も深まった。参加者69人、ボランティア18人、職員4人。参加費39,000円。 (福島県国立那須甲子青少年自然の家)

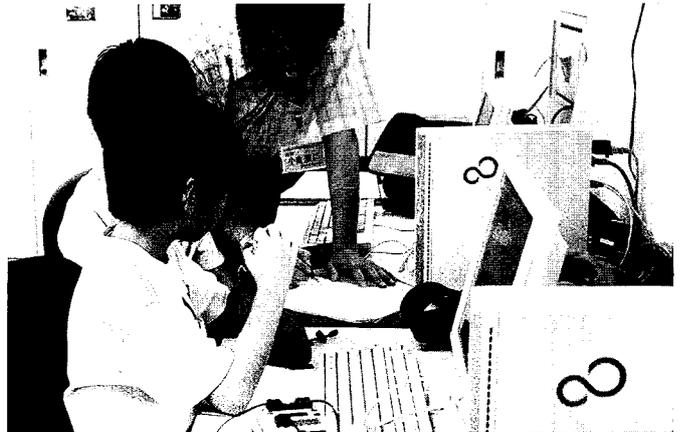
3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
みんなであそぼう！ パペットランド	6.26 研修 6.30 プログラム実施	「宮内こども文化センター」（駒かわさき市民活動センター＝川崎市）主催の宮内地区の児童厚生員向けの研修会として「みんなであそぼうパペットランド」を実施。人形制作・人形遊び・参加劇「おむすびころりん」の段階を追いながら、指導のポイントを実技研修。研修会参加者 19 人。実技の部では、センターを利用している小学生（学童クラブ）を対象に、「みんなであそぼうパペットランド」を実施。講義の内容を踏まえてプログラムの進行・劇の登場人物を講習会受講者が担当。プログラム参加者 35 人（うち親子 4 組）。
ほかほか広場 身近なもので遊ぼう	10.25 プログラム実施／研修会	愛知県一宮市立起児童館のある地域に住む、主に 0 歳から 2 歳までの乳幼児と親を対象に広場型のプログラム「身近なもので遊ぼう」を午前中に実施した。くつしたや広告チラシなどを使ったごっこ遊びを取り入れながら、参加した親同士のコミュニケーションをはかれるように設定。午後は、一宮市の児童厚生員を対象に、午前中の活動を例にして「ほかほか広場」の考え方や実施ポイントを実技研修。
〃	12.11 プログラム実施／研修会	大阪府門真市「なかよし広場」主催で地域に住む、主に 0 歳から 2 歳までの乳幼児と親を対象に、広場型のプログラム「身近なもので遊ぼう」を午前中に実施した。くつしたや広告チラシなどを使ったごっこ遊びを取り入れながら、参加した親同士のコミュニケーションをはかれるように設定。午後は、門真市の保育士、なかよし広場スタッフを対象に、午前中の活動を例にして「ほかほか広場の」考え方や実施ポイントを実技研修。
〃	H20.3.5 プログラム実施／研修会	埼玉県松戸市「野菊間こども館」主催。0 歳から 2 歳までの乳幼児と親を対象に広場型のプログラム「身近なもので遊ぼう」を午前中に実施した。くつしたや広告チラシなどを使ったごっこ遊びを取り入れながら、参加した親同士のコミュニケーションをはかれるように設定。午後は、市職員、保育士、民生委員を対象に、午前中の活動を例にして「ほかほか広場の」考え方や実施ポイントを実技研修。



キッズクラブ「ウォーターゲーム 2007」



小学生パソコン教室～ロボットプログラミング入門～

ユースクラブ「ジオラマラビリンズ」



フェローシップキャンプ



□キッズクラブの活動プログラム一覧□

日 時	プログラム名	内 容
4.15	キッズようこそ!はじめましてのゲーム大会	新メンバー12人を迎えじゃんけんゲームの数々。まちがい探し、3億円ゲームなどの親睦ゲームを実施。
5.13	わんぱくあそび大集合!	「だるまさんがころんだ」「バックン」など路地裏遊び。おたがいの名前が確認できるよう工夫した。
5.27	めざせ!紙飛行機名人	オリジナルのキットを使い、よく飛ば紙飛行機を作成。誰が遠くまで飛ばせるかなどの競技も実施。
6.10	スタジオパークの謎を追え!	グループごとに課題をこなしながらNHKスタジオパークへ。クイズを解きながら館内めぐり。
6.24	おいしい!たのしい!たこやきつくろ!	たこやきづくりにチャレンジ。焼くのも食べるのも楽しかった。苦労した「ひっくり返し」も上達。
7.15	ウォーターゲーム2007	水鉄砲を使った対戦ゲーム。ひたいに付けた金魚すくいの的が破られたらアウトになるというルール。
9.8	キッズ探検ビンゴ!	こどもの城周辺の街中を課題を解きながら探検。正解がタテ、ヨコ、ナナメでそろったらビンゴ。
9.22	ねえ!チャレランちゃんぴおん	「チャレランゲーム」をベースに、「カンカンつみ」などおもしろ遊びの記録に挑戦した。
10.13	レッツプレイ『ドッジ!』	屋上ネット広場で、ボールが2個になるバージョンや王様ドッジなど、いろいろなドッジボールを実施。
10.27	気分は遠足!!こどもの城館内ラリー	台風のため遠足は延期。〔こどもの城〕館内中を使ったポイントラリーを実施。
11.10	キッズ・ザ・秋の遠足	雨天のため、「こどもの国」から「国立科学博物館」へ行き先変更。クイズなど楽しみながら博物館見学。
12.1	冬だね!ホットにクッキング	中華まんじゅう作りに挑戦。簡単でおいしい肉まんじゅうとカレーまんじゅうを作った。
H20.1.12	新春遊びはじめのゲーム大会&こままわし	3人の新メンバーを加え、親睦ゲームとこままわしを行った。
1.26	キッズクラブともったいないばあさん!	絵本「もったいないばあさん」の作者、真珠まりこさんのワークショップを体験。その後、牛乳パックを使ったりサイクル工作を行った。
2.17	寒くたって遊んじゃおう!	屋上で「元気に遊ぼう」をテーマに、「バナナ鬼ごっこ」と「しっぽとり」。寒さを吹き飛ばすほど元気。
3.3	ビデオしりとり&作戦会議!	「ドッジボール」の予定が、強風のためビデオを使った「しりとり」に変更。最終回にむけて作戦会議も。
3.10・11	最後までたくさんたくさん遊ぼうよ!	10日は、まずドッジボール。夕食のカレーライス作り。閉館後の館内で「宝探し鬼ごっこ」。11日は、午前中は代々木公園で「陣取り」ゲーム。最後は4年生を送るパーティーで1年間をしめくくった。

□ユースクラブの活動プログラム一覧□

日 時	プログラム名	内 容
4.9	はじめましてのゲーム大会	新メンバーを迎えた初めての活動。互いに知り合うことのできるレクリエーションゲームを行う。
4.22	代々木公園であそぼう	代々木公園(渋谷区)に出かけ、「しっぽとり」や「くま狩り」といった、フィールドゲームを行う。
5.13	デジカメ・アニマル・ハンティング	デジタルカメラを持って周辺地域を歩く。絵や文字、実物などの“動物”を見つけて、撮影した。
6.10	みんなでつくる「ユース・ピッツァ」	上原社会教育館(渋谷区)の料理室を借りてピザ作り。食材の調達は大店の商店街で行った。
6.24	巨大!びっくり!!コリントゲーム	畳一畳分の広さのコリントゲームを作成。その日行われていた「とり+かえっこ」に出店。
7.29	おそろいのTシャツをつくっちゃおう	Tシャツの絞りぞめを行う。台風接近のため中止とした活動日を夏休み特別期間に振り替えた。
9.9	ユースといえば代々木へGO!	代々木公園で「こおりおに」「くま狩り」を行った後、〔こどもの城〕で2期の活動の企画会議を行う。
9.30	おだんごを作ったべよう&作戦会議	団子を作って食べた後、次回活動の企画会議。“山派”と“街派”に分かれてプレゼンを行った。
10.21	三浦半島みかん狩りハイキング	三浦半島の三浦富士・武山方面へハイキングに出かける。コースの最後でみかん狩りを楽しんだ。
11.11	こどもの国で野外炊事	こどもの国で野外炊事を行う。メニューは中3のメンバーたちが中心に考えたお好み焼きと豚汁。
11.25	2期最終回に何をするか の作戦会議	次回活動の企画会議。「長い時間一緒に過ごすことで、お互いをより知ることができるから」というメンバーの言葉に、「宿泊プログラム」と決定。
12.15・16	宿泊プログラム「代々木で 城で遊びつくせ」	前回の作戦会議の通り、1泊2日の宿泊プログラム。15日は代々木公園で「フォックスハンティング」「くま狩り」などを楽しんだ。16日は「パーティー」。午前中に料理とプログラムの準備をした。
H20.1.13	ゆーすひろく2008&3期作戦会議	「こどもの樹で記念撮影」など、止まった目にかかれていた指示に従い“すひろく”を楽しんだ。
1.27	たこ焼きつくって、たこ焼き食 べて、ついでに最終回まで 考えよう	たこ焼きを作って食べる。3期の活動、特に最終回の活動に向けての内容や準備方法などを相談。
2.17	冬でもガッチリ代々木でくま狩り	大人気プログラム、代々木公園での「くま狩り」を徹底的に行う。戦術が上手になってきた。
3.9	「ジオラマピリンズ」の準備とドッジボール	午前に最終回の活動「ジオラマピリンズ」の準備を、午後にはドッジボールを行う。
3.22・23	「ジオラマピリンズ～YOUす んじやいなよ～」準備と実施	最終回は、〔こどもの城〕に来館した子どもたち向けのワークショップ「ジオラマピリンズ」を実施。前日から宿泊して準備。当日は午前中だけの開催にもかかわらず、約200人もの参加があった。

造形 事業部



平成 19 年度の活動

1. はじめに

開館以来、造形スタジオでは、子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかにはぐくんでいけるように、①新しい視点で素材を探求して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせるワークショップ ②そのままでは素材になりにくい、音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感覚を新しくするワークショップ ③造形活動の基本となる“素材と道具と技法”の関係を分かりやすく理解できるように視覚化したワークショップ—この3つを軸に活動を展開している。それぞれのワークショップを1～3年間継続し、それらを順次くりかえしながらスタジオを運営している。

ワークショップの構成要素である〈展示・体験・制作〉という基本コンセプトを効果的に実施するため、ワークショップのテーマに応じて環境設定を行い、子どもたちが自主的に活動にかかわれるようにした。

本年度は前年度に引き続き、夏休み特別期間には「造形発見展～アートと造形2」、10月からは新しいテーマ「オープンスタジオ～からくりと造形」を実施した。

(ア) 一般来館児・者へのワークショップ

平常期間は「やってみよう！つくってみよう！」と題し、夏休み特別期間までのプログラムステップとして「アートとあそぼう」を実施した。10月からは“動き”を生み出す“からくり”をテーマに、2週間単位でプログラムを実施、平成20年夏休み特別期間へのステップとした。また、季節のなかにある共通のイメージをテーマにした「こども歳時記」も開催した。

(イ) 講座・クラブ

講座・クラブ活動では、「こどもクリエイティブクラブ～ゆかいな造形」を小学1～2年生対象のAコースと、小学3年生～中学3年生を対象としたBコースの2クラスにわけ、時間をずらして実施した。これは、学校のカリキュラムの関係で水曜日に多くの応募があるので、より多くの受講者を受け入れられるようにしたためである。「同～親子でアート」も5歳児親子から4・5歳児親子へ対象を広げ、講座開始時間を15分ほど遅くし、参加しやすいようにした。成人を対象にした「大人のための造形表現教室」も前年度同様に実施した。

(ウ) グループ活動

「かげをうつそう」「木をつくろう」「粘土でジャングル旅行」「竹体験」を実施した。造形スタジオの活動スケジュールと調整し、前年度より7件多い36件と、可能な限り受け入れた。なかでも「かげをうつそう」「粘土でジ



第22回造形スタジオ展

ヤング旅行」の利用が多かった。

小学校の申し込みもあり、前年度同様「竹体験」も実施回数が多かった。今後の直接体験に提示するために、グループ活動の予算を竹の見本購入にあてた。養護学校の申し込みもあり、プログラム内容をアレンジし、各団体に合った活動が実施できた。

本年度で3年目になるが、実技研修として、高校の保育科の利用もあった。本年度は「粘土でジャングル旅行」を実施した。さらに、低年齢児や多人数のグループの申し込みもあり、さまざまな団体のニーズに合わせたプログラムを引き続き検討していきたい。

2. 造形活動のテーマについて

子どもたち自らがものを見る視点や発想、そして表現領域を広げることが目的としたのがワークショップ「造形発見展」である。〔こどもの城〕開館以来、2～3年の間隔で実施し、前年度実施した「造形発見展～アートと造形」は、音・光・絵本・宝島・建築に続いて6番目のテーマとなる。本年度も引き続き〈アート〉をテーマにしたワークショップ「造形発見展～アートと造形2」を行った。

美術館やギャラリーに展示されている作品は、絵画や彫刻といった表現技法の違いはあるが、それらの作品が、色、形、線、バランス、素材性、重さ、空間性などといった造形の要素で成り立っていることが分かる。それは、私たちが知っている花や植物の色や形、海辺で見る波の線などと同じ要素であり、つまりは〈アート〉が決して特別なものではなく、むしろ日ごろからなにげなく見たり、さわったり、出会ったりしているさまざまな“物”や“事”のなかに潜んでいる証である。

マニュアルばかりが増え続け、自らが考え、関心を持って物事を見つめる機会が、少なくなりつつある現代社会の子どもたちが、日常にある物や現象とのかかわりを積極的に体験することで、外界を知覚する能力である視覚、触覚、聴覚、嗅覚といった感じ取る力と創造力を解



造形発見展～アートと造形2

放することをめざし、「造形発見展～アートと造形2」を企画、実施した。

平常期間の「やってみよう！つくってみよう！～アートと造形2」をプログラム試行のステップとして、プログラムの開発、実施、再考をくり返し、特別期間のプログラム構成の準備を行った。特に線、形、色、バランス、素材性など、より造形的な視点を重視しながらプログラム開発を進めた。

夏休み特別期間の「造形発見展～アートと造形2」では、平常期間中に行ったプログラムを総合し、〈視覚〉〈触覚〉〈聴覚〉の3つのカテゴリーに分類、3期に分けて実施した。

造形スタジオ全体に設定した〈展示〉〈体験〉のコーナーで、子どもたちがより積極的にかかわり、探検しながら〈アート〉を発見できるように、全体像と各コーナーの特徴、簡単な設問を付した「アート発見マップ」を制作し配布した。マップを片手に、真剣なまなざしで探検する小学生や、大人と一緒に考えながらゆっくりと探検している子どもたちが多く見られた。

日本の色は200色以上あり、それぞれに色を表す名前がついている。そのほとんどが鳥や動物、草花、木、鉱物などの自然の物からとられ、つけられている。造形スタジオへ向かう、エレベーターホールからロビーへぬける6mほどの細長い廊下を「いろいろ日本の色通路」とし、身近なものの名前がついた27色を選択し、名前の由来と、もともになった事物をイラストで分かりやすく説明。身近な物に眼を向ける第1段階を整備した。お気に入りの色の投票用紙を用意したところ、色そのものの美しさで選ぶのではなく、空色、桜色など、子どもたち自身が知っている言葉のイメージも大切な選択のポイントであるような傾向も見受けられた。

ロビーのスロープは「いろいろ形、線のスロープ」として、花、信号、波などの写真と、それぞれそのなかに隠れている丸、三角、四角、波線、直線といった図形をあわせてパネル展示し、日常よく目にする物のなかから形や線を探す楽しさを提示した。

ほかに、光の3原色がさまざまな組み合わせで投射され、色の変化や色つきの影を体験する「いろいろ影洞窟」。身の回りのものを赤、青、黄、緑、白、黒に色分けして収集し、同じものでも色によって印象が違って見えたり、色の持つ素材感を視覚的に体験する「いろいろ色ボックス」を設置して、造形スタジオ内に五感の解放をめざし設定した体験コーナー「いろいろ感覚洞窟」の導入的役割とした。

総合体験コーナーとなる洞窟内は、少し照明を暗くすることで触覚、嗅覚、聴覚、視覚といった知覚能力に集

夏休み造形教室「未来惑星○○○」



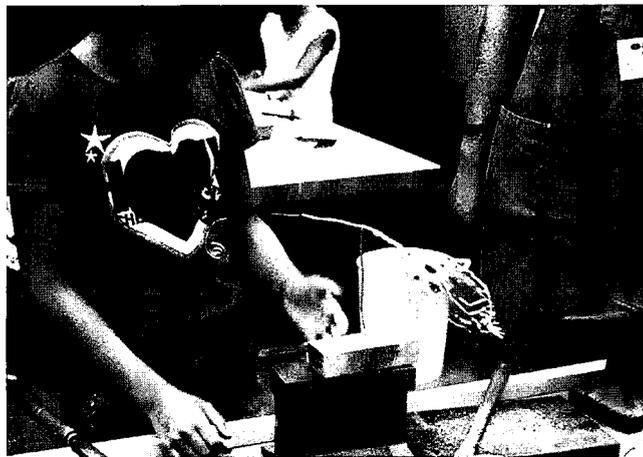
中できるように工夫した。洞窟に入ると、人工芝、金属、フェルト、スポンジなどさまざまな素材がはりつけられた壁面があり、視覚にたよらず、触感だけを楽しみながら奥へ進む仕掛けにした。触覚によって誘われた奥の壁には、ものを拡大して映し出したり、光を透過した時に見える形を映し出す、レントゲンのような映写窓を設置、身の回りにあふれるものを見ごぞしてきた形について、改めて気づくことができるようにした。

隣には空気孔のような穴をあけ、ひのきとお茶の葉の匂いをかぎ取ることができるようにし、嗅覚の再発見を促した。もう一方の壁面には、耳をあてて音を聞くコップを2つ設置。それぞれのコップからは、CDによってかえるとせみの鳴き声が、かすかに聞こえるように設定し、聴覚からくるイメージの喚起を促した。また、分割されたり、複眼的に見えたりする数種のレンズを設置することで、物の見え方の不思議さ、見方の楽しさを喚起できるように整備した。

〈アート〉を発見するために提示した、このような環境設定を子どもたちに深く楽しく理解してもらうため、イベント「見る！聞く！触れる！アート発見隊！」を、小学1年生以上（定員10人）を対象に、7月29日から9月2日までの毎週日曜日、午後2時から実施（約45分）。子どもたちはヘルメットをかぶり、特製の“アートパスポート”を持って、懐中電灯を持ったスタッフと一緒に、廊下やスロープ、その他のコーナーを体験。スタッフからの問いかけに答えたり、子ども同士で発言しあったりしながら、パスポートに書き込みをしてアート発見の旅を楽しんでいた。

最後は、さまざまな素材の入ったボックスから目隠しをして気に入った触り心地の素材を選び、収集して触覚シートを完成させ、パスポートにアート発見隊員認定のスタンプを押してもらおう。子どもたちにとっては、ものを見ること、聞くこと、ふれること、かぐことの楽しさをおして、自分をとりまく世界に注意を向け新発見す

アートと造形「モビーロ」



るきっかけとなったようだ。

子どもたちは、「造形発見展～アートと造形2」のワークショップをおして、自らが積極的に周囲とかかわり、日常生活のなかで見たり、聞いたり、ふれたり、かいだりしている事や物が、色、形、バランスといったさまざまな要素から成り立ち存在している事を発見し、物事の理解を深めていたようである。

3. まとめ

前年度から続けた「アートと造形2」では、日常目にするもののなかに色、形、線、バランス、素材性、重さ、空間性などといった造形の要素を発見し、〈アート〉とは特別なものではなく、身の回りに存在するものであることに気づき、表現するワークショップを展開した。

子どもたちは、ロビーからスタジオへのいろいろな触覚、視覚、嗅覚、聴覚などのしかけ、体験物を楽しみながら、〈アート〉をより身近なものと感じていた。こうした、造形の構成要素で構成したさまざまな展示・体験物は、「アートと造形」といったテーマにとどまらず、造形活動へのモチベーションを高める装置として使用できる。〈動くこどもの城〉など、普及活動への利用も今後検討したい。

10月からは、新たに平成20年夏休み特別期間の「オープンスタジオ～からくりと造形」に向けて、プログラムステップを開始した。今回からは数年間にわたって、1年間で完結するテーマ設定とし、より実験的な活動を模索して行きたい。

また、本年度も外部との協力活動を積極的に行った。特に、ブルーノ・ムナリー生誕100年ということもあり、〔こどもの城〕開館時から22年間継続している「ブルーノ・ムナリー巡回キット」を中心とした普及活動について、多方面から問い合わせや協力要請があった。今後も継続した普及活動を実施していきたい。

平成19年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
やってみよう！つくってみよう！ 「アートと造形2」	4.10～22、5.6～6.24、 7.8～20、9.6～10.1	夏休み特別期間プログラム「造形発見展～アートと造形2」に向け、プログラム試行のステップとして、色、形、線、バランスといった造形要素を取り入れたプログラムの開発、実施および再考。視覚、触覚、聴覚などの五感を刺激するワークショップ活動を実施、展開した。
やってみよう！つくってみよう！ 「からくりと造形」	10.3～26、11.6～12.2、 H20.2.5～2.17、3.4～23	春休み特別期間プログラム「からくりであそぼう」に向け、〈からくり〉の遊び的要素を造形表現としてとらえなおし、自分で作ったもののある部分を押す、引っ張る、たたく、転がすなどすることによって、ユーモラスな動きをする、思いもかけない部分が動く、不思議な音を発するなど、子どもたちが自分で作ったものの構造を理解して遊ぶワークショップ活動を実施、展開した。

こども歳時記

端午の節句	4.22～5.5	制作した造形物を“身に付ける”というテーマで展示構成とプログラムを実施した。スタジオ入口には、親子コーナー「かぶって！コイ」、クリエイティブコーナー「風見ゴイ」をかぶせ、変身させた干支のいのしし（「お正月」で展示したもの）を展示し、誘導役とした。スタジオ内には、「風見ゴイ」の素材である銅板などの金属板で制作した、レリーフ状のかぶとを展示した。「かぶって！コイ」の飾りでスタンピング技法を体験するため、紙で作ったこいやしょうぶ、柏もちにスタンプで飾りをし、スタジオ内外ににぎやかに展示した。また、幾何形態のスタンプで「かぶって！コイ」に飾りができるコーナーも設置した。前年度と同様に、端午の節句にちなんだ全国各地の伝統的な民芸品と、民芸品を図案化した描いたタペストリーも展示した。ゴールデンウィークスペシャルプログラムとして4月28日、5月3～5日に「風車をつくるう」を実施。「かぶって！コイ」にも取り付けできる紙の風車。限られた日数での実施だったが、季節感とあっていたため参加者も多かった。
七夕	6.26～7.7	親子コーナー「七夕ささひかり」、クリエイティブコーナー「七タルミナスパイヤル」は、ブラックライトで光る蛍光紙や蛍光ペンなどの素材を使い、「ひかり」を体験するプログラム。スタジオ内には、制作したものを光らせるためのブラックライトの部屋を設営した。部屋の内壁には、蛍光紙で作った織姫や彦星、星などを飾り、プログラムに参加しない子どもも光を楽しむことができた。また、アクリルのボールにシールで惑星風の模様をつけ、天井からつるして天の川のイメージを作った。
クリスマス	12.4～25	「からくりと造形」と連動し、“動き”をテーマにした展示やプログラムを実施した。“回る、動く”機構で遊べるオブジェ（モーターでサンタやツリーが360度回転するもの、取っ手を上下させるとトナカイがプレゼントボックスから顔を出したり隠れたりするもの、プーリー機構を使い、ハンドルを回すと遠心力でサンタの腕が広がりながらぐるぐる回るものなど）をスタジオ入口や、スタジオ内に体験コーナーとして設営をした。また、壁面や天井には、金銀の紙で作ったトナカイや星などのクリスマスアイテムを随所に飾り、クリスマスの雰囲気を出した。
お正月	12.26～H20.1.14	引き続き“動き”をテーマにした展示構成とプログラムを実施した。親子プログラム「お正月チョロチュー」は、ゴム動力で走る干支のねずみのミニカー。作ったチョロチューを走らせて遊べるレース場を設営した。クリスマスに展示をした遊べるオブジェを利用し、張り子で作ったねずみや、鏡もちなどのお正月にちなんだ飾りと差し替えをした。また、紙や布で作ったねずみ、獅子舞などをスタジオ外やなかの壁面にたくさん飾り、にぎやかな雰囲気を作った。前年度と同様に、正月や干支にちなんだ民芸品を展示した。3階ロビーにも全国各地の凧を天井に飾り、スロープには各々の凧の習わしの説明パネルを展示した。
節分	1.16～23	遊べるオブジェ（スイッチを押すと、モーターで360度オブジェが回転する）を引き続き生かし、張り子で作った鬼が回る展示をスタジオ入口に設営した。スタジオ内には、クリエイティブコーナー「クラン鬼～」に関連させ、ハンドルを回すとクランク機構で鬼の角が出たり隠れたりするからくりオブジェを設営した。また、紙や布で福の神や豆などを飾り、そのまわりに各々の節分との由来を説明した文章も掲示した。

名 称	日 時	内 容
こども歳時記		
「桃の節句」	2.19～3.2	プレイ事業部、音楽事業部との3事業部合同で、各事業部の桃の節句行事を取り上げた「おひなめぐり」のちらしを作成した。また、プレイホールのプログラムに参加するともらえるカードが着物になり、造形スタジオでは、スタンプコーナーでおひな様の顔を飾りつけ、両方で「合わせびな」になるイベントも実施し、3階の活動を連携させた。造形スタジオでは、引き続き“動き”をテーマに活動した。スタジオ入口には、スイッチを押すと民芸品を図案化した4種類のおひな様が、回転しながら入れ替わるからくり機構を使った遊べるオブジェを展示した。スタジオ内壁面には、紙で制作したひな壇を展示。段飾りや桃の節句にちなんだ習わしの紹介もした。また、前年度同様、桃の節句にちなんだ全国各地の伝統的な民芸品と、民芸品を図案化したタペストリーも展示した。

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 造形発見展「アートと造形2」	7.21～9.2	外界を知覚する能力“視覚”“触覚”“聴覚”“嗅覚”などの五感を刺激することによって、ふだんなにげなく接している身の回りにあるものの、色、形、線、バランス、素材性、イメージといった造形的要素に気づき、自ら発見し、出会うことのできる環境を、エレベーターホール、ロビー、スロープ、造形スタジオ入り口、スタジオ内特設ブースに整備し、〈アート〉の総合体験を目的とした、展示、体験、制作のワークショップを実施、展開した。
〈開館記念〉 第22回造形スタジオ展	11.1～12.2	開館記念行事にあわせて、毎年実施している展示の22回目。平成18年11月～平成19年10月までの1年間に実施したプログラムと活動を見渡すことができる、造形スタジオ活動のダイジェスト版。「造形発見展～アートと造形2」26点、「からくりと造形」4点、「こども歳時記」13点のプログラム作品と、「夏休み造形教室」「こどもクリエイティブコーナー」の各コースを、作品と活動風景写真で紹介した。蛍光紙、蛍光ペンを使ったプログラムはブラックライトの特製ボックス内に展示し、その魅力が伝わりやすい展示を行った。
〈 〃 〉 第14回親子体験 ワークショップ	10.27～11.4	親と子がそれぞれに制作し、積極的にプログラムにかかわることができるワークショップ。造形素材に色ラシャ紙を使った「つないでハウス」を実施。できあがった作品を親子で1つにつなげると、4つの空間(部屋)が生まれる立体的な家になる。
〈 〃 〉 ファミリードルッチャ ワークス	11.3・4	造形スタジオでは、子どもたちの制作意欲が高められる環境作りを大切に考えている。造形スタジオを訪れる人の制作意欲を高める、または制作の足がかりとなるよう、開館記念特別期間プログラム「つないでハウス」の巨大見本に飾り付けをすることを“仕事”として「つないでハウス巨大化プロジェクト」を実施した。より多くの子どもが参加できるよう、対象年齢を幼児からと設定した。そのほか、絵の具で一杯になったプレイングボードの清掃と、絵の具の準備をする「プレイングボードピカピカ計画」も実施した。前年度の仕事体験では、対象年齢を小学5年生以上としたが、低学年の参加希望もあり、本年度は対象年齢を小学1年生(1・2年生は保護者同伴)からとし、幅広い年齢や親子で参加してもらえるようにした。造形表現をとおし、人に喜んでもらえるような体験をした後、体育室での出店許可証を発行し、メイン会場の活動への足がかりとした。
〈春休み〉 やってみよう!つくって みよう! 「からくりであそぼう」	H20.3.25～4.6	私たちの身の回りにはどんな「からくり」が隠れていて、そしてそれらがどういった動きや働きをしているのか、「カム」「クランク」「プーリー」「テコ」「リンク装置」の5種類の「からくり」機構を取り上げ、これらの“しくみ”や“しかけ”が体験できる場として、それぞれ2台、計10台の大型展示体験物を設置した。制作コーナーの親子コーナーでは「クランク」、クリエイティブコーナーでは「プーリー」機構を用いたプログラムを実施。

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ クレイワーク～土の冒険～	(人) 小1～中3 (16)	(人) ① 16 ② 13 ③ 13	火曜日 16:15～17:30	土にふれ、たたく、のぼす、ひもにする、道具を使って変化させるなどしながら、土を他の素材と同じように表現の材料として使い、子どもたちが造形表現の可能性を広げられるよう指導していった。また、年間を通じて子どもたちが使用する粘土は、一人あたり合計100kg以上というダイナミックな活動である。1期は「かたまりからの変化」。ふだんは用いることのないような大きさの粘土のかたまりを使い、つまみ出す、くり抜く、象がん、磨き、型押しなどの技法を使いわけながら表現していった。2期は「板からの変化」を実施。こねて立方体にした粘土を、たたら板と切り糸を使って切っていくと、たたら板の厚さ分の粘土の板「たたら」ができあがる。この粘土の板を自由な形に切ってつなげて作る、型に沿って丸める、箱状に組み立てるなどして制作。そして3期は「ひもからの変化」で、ひも状にした粘土を渦巻き状にしたり、積み上げたりしながら制作した。本年度は、「粘土の冒険旅行～ちびっこパイレーツの大冒険」というテーマを設け、前述の各種技法を用いながら、ストーリー仕立てでプログラムを進行した。受講料＝1期(12回)31,000円、2期(11回)28,500円、3期(8回)21,000円。各期ごとに焼成費8,000円。
” ゆかいな造形 ～素材の楽しみ～ Aコース Bコース	小1～2 (16) 小3～中3 (16)	① 10 ② 12 ③ 12 ① 23 ② 19 ③ 17	水曜日 14:45～16:00 ” 16:15～17:30	布や木、金属、紙などのさまざまな素材を使い、それら素材に見合った道具を使い分け、遊びを通じてより深い造形体験をすることを基本としている。本年度は、「発見!! MYプラネット」というテーマを設け、ストーリー仕立てでプログラムを進行した。1期は惑星発見編。石こうの型取り技法で作る光ファイバー内蔵の惑星や、子どもたちとのプレーンストーミングで入れる物を決めたフェルト製の探検袋を制作(なかには光の屈折で逆さまに見える望遠鏡とペニヤ板を切り出して作った短剣を収納)。2期には惑星探検編として、細く絞った新聞紙を組み合わせて、全員の力を合わせて作る巨大なテントや、からくりでアームの部分が動くクレーン車などを制作。3期には宇宙人との出会い編として、羊毛の縮絨で作る宇宙人、竹で編んだ宇宙人の家など、さまざまな表現活動を行った。年間を通じて子どもたちは、さまざまな素材や道具、そして技法に接し、個人の造形表現の幅を広げながら、それぞれに楽しみを見出していた。受講料＝1期(11回)28,500円、2期(12回)31,000円、3期(9回)23,500円。
” 親子でアート ～わくわくアート～	(組) 4・5歳児 と親 (10)	(組) ① 9 ② 8 ③ 10	木曜日 15:30～16:30	身近にある材料、素材にふれながら、新しい触感や視覚を発見・体験し、親子で協力しての制作、親子それぞれの制作といった方法を随時取り入れ、造形活動とおして新しい親子のかかわり方、大人と子どもの関係を見つめ直すクラブ。本年度から、4・5歳児を対象にすることで、より幅広く新鮮な、大人と子どもの関係を見ることができた。色紙をミキサーにかけ紙粘土にしたり、自分の指の石こう型取り、羊の原毛からのフェルト作り、アルミ板の打ち出し、木材への釘打ちなどさまざまなプログラムを体験。大人も子どもも、日常見なれたものの変化、あるいは特殊な素材の触感や質感、工具の使い方などを十分に楽しんでいた。「こどもの日」や「お正月」など、季節行事にあわせたプログラムも実施、それぞれに季節感を満喫していたようだ。ゆったりとまわりの親子とふれあいながら、コミュニケーションを深め、今まで気づかなかった子どもたちの想像力に驚かされる大人たち、作品を見せてまわりのほかの親と会話を楽しむ子どもたちと、さまざまな場面で親子、大人と子どものほほえましいかかわりが自然に出現した。受講料＝1期(11回)28,500円、2期(12回)31,000円、3期(9回)23,500円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ 絵本の世界へ～イメージする楽しみ～	(人) 小1～中3 (16)	(人) ① 7 ② 4 ③ 7	金曜日 16:15～17:30	製本された絵本作りだけでなく、さまざまな素材や技法、描画材体験をとおして、“おはなし”を表現する造形力を養うことが目的。また、自分たちのなかにある想像力をさらに広げるきっかけ作りをめざした。1期では、波線や点線などいろいろな形の線を使ったコラージュ表現、紙をテーマにさまざまな表現(紙すき、絵の具体験、立体成形など)でお弁当を制作。また、触覚をテーマに、石ころの型取りやエンボス印刷、布やビニールなどのコラージュなど、さまざまな素材での表現方法を体験するプログラムを展開。2期は、箱型の家の部屋のなかと外を表現する、2枚の布に2つの場面を作ったカーテン、背景とキャラクターを壁に映せる回り灯ろうなど、「おはなしをつくる体験」をテーマにし、2つ以上の場面で構成された造形物を制作。場面の流れや転換を自然に発想できるプログラムを構成した。3期は、カード(等身大の自分の影を映した大きな紙に、部屋や野外の背景を飾り、写真撮影をして縮小したもの)を格子状のスリットがはいった土台の板に立て、差し換えることによっておはなしや空間を変えて遊べるカード型絵本。1年の集大成として、世界に1冊しかない絵本を制作した。受講料=1期(11回)28,500円、2期(12回)31,000円、3期(9回)23,500円。
// ハンズワーク～創造探検～	小3～高3 (16)	① 12 ② 10 ③ 9	土曜日 16:00～17:30	素材、技法、道具などについて、より良い知識を蓄積し、造形表現の力を養う、小学3年生以上の高学年向けコース。プログラム内容や目的にあわせて、手道具から電動式工具まで幅広い道具のなかから適切な工具を選択し、使用することで、子どもたちは素材の持つ性質や特徴にふれると同時に、工具の仕組み、利便性などを体験した。本年度も銅、アルミ、真ちゅうといった金属素材を積極的に取り入れ、鍛金、彫金のほかに、銅の錫びききといった高度な技法にも挑戦した。おもいおもいの形に切り出した銅の皿を、ガスバーナーで熱しながら、慎重に錫を定着させていく子どもたちの瞳には、驚きと発見、興奮がいま見えた。3期はアウトドアをテーマに、銅と自然木を組み合わせたシャベル、ガラスびんとアルミを使ったランタン、ペンキ用一斗缶を使ったバーベキューコンロなどを制作した。一斗缶は金属用のこぎり半分を切断、ふたと本体に仕上げた。子どもたちは大きな一斗缶を相手に汗を流しながら、一心不乱にのこぎりを動かしていた。最終日には屋外に行き、見本のコンロを使って実際にもちを焼き、コンロの使い方、火の扱い、後始末などを体験。焼き上がったもちをみなでおいしそうに食べていた。受講料=1期(11回)28,500円、2期(12回)31,000円、3期(9回)23,500円。
大人のための造形表現教室	児童の福祉、文化、教育活動にかかわっている人、児童の造形教育、表現教育に興味のある人(30)	① 15 ② 11 ③ 23	木曜日 18:30～20:00	児童の造形教育の新しい方法論を開拓した、ブルーノ・ムナーリの造形思考を柱に、造形スタジオで行った子どものためのワークショップ「アートとあそぼう」をはじめとしたさまざまなプログラムをとおして、造形表現とは何かを体験していく講座。平成20年(08年)は生誕100年の年にあたり、いろいろな施設で関連のイベント、展覧会があり、本講座でもムナーリのワークショップ「テクスチャー」「さまざまなかたち」「コラージュ」、作品から読み解いた「凹凸」「旅行のための彫刻」「読めない本」などを実施した。造形スタジオでのプログラムからは、さまざまな手法を用いた「コラージュ」「粘土のプログラム」など幅広い活動を行った。少人数ではあるが、年度を越えた継続者の多い講座。講師は、岩崎清・元こどもの城造形事業部部長(ギャラリー TOM 副館長/武蔵野美術大学講師)。受講料=1期(9回)19,000円、2期(12回)25,000円、3期(7回)15,000円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休み造形教室 A 未来惑星○○○	(人) 小3～高3 (1日コース ／5日間 計75)	延べ (人) 69	7.23～27 10:10～16:40	アルミパイプをしんにした発泡スチロールのかたまりを球体にカットし、紙や粘土で装飾した惑星を制作。軸を通して台座に取り付けると、地球儀のように回転させて惑星全体を観察することが可能。ピンのついたオブジェをこまにこまにして、すごろくとしても遊べる。受講料 5,000 円。
” B スーパーアート投 影機	”	延べ 51	7.30～8.3 10:10～16:40	虫メガネのレンズ 2 枚と電球を組み合わせ、いろいろなものを拡大投影できる投影機を制作。スライド式の 2 枚のレンズは、自らピントをあわせることで、身近な物体の気づかなかった細かな部分や見たい場所を選択し、観察することができる。受講料 5,000 円。
” C メタモア	”	延べ 43	8.6～10 10:10～16:40	筒状にした金網や金属板を組み合わせ、割ピンや針金で固定して作る金属生物。豆電球のついた特製の飾り台につり下げると、光をあびた金網の影が白い台座部分に映し出され、モアレ現象を観察することができる。受講料 5,000 円。
” D M.A.M (マイ・ア ート・ミュージア ム)	”	延べ 76	8.13～17 10:10～16:40	5 枚のベニヤ板を組み立て、内側をアクリルミラーやトタン板を使った壁に仕上げる。紙粘土のオブジェや金属片のモビール、コラージュ技法の絵画などを制作。自由自在にレイアウトできる美術空間が完成。スコープののぞき窓からなかを観察することが可能。受講料 5,000 円。
” E 触覚アート図鑑	小3～高3 (半日コース ／5日間 計150)	延べ 83	8.20～24 10:10～12:40 14:00～16:30	2 枚の板を同じ形にくり抜き、それぞれを金属素材、凸凹のある紙素材で装飾。同じ形だが触感の違う 2 種類のパーツを制作。穴のあいた板には、あて板をして、焼きごてで装飾。木の風合いをいかした入れ物として 2 種類のパーツを収納。木、金属、紙の 3 種類の触感の違いを楽しむ、持ち運び便利な図鑑的ツール。それぞれのパーツでフロッタージュ体験が可能。受講料 3,000 円。
” F 映・造ワークショ ップ「実験キュー ブ」	小3～高3 (2日コース ／6)	6	8.27・28 13:00～17:00	20cm角の透明アクリル板の入れ物（キューブ）と、粘土などを使ったマイキャラクターを制作。光や遠近法の実験をしながら、眼の錯覚や不思議を体験。キューブのなかでマイキャラクターを動かし、ビデオカメラで撮影したものをパソコンで編集して DVD に仕上げる。受講料 10,000 円。

特別企画「鉄はうたう Vol.6 ～キルギスと中央アジアの口琴展示」



ブルーノ・ムナーリ生誕 100 年記念特別レクチャー
「父、ブルーノを語る」アルベルト・ムナーリ

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
造形ワークショップ展 「音・光体験」	6.22 (研修会) 6.23 ~ 7.29 (展示)	研修会では、造形素材に〈光〉を取り上げ、過去に造形スタジオで実施した光を使ったプログラム「光のてんびょう」「ミラクルシアター」「UFO クルリン」を実施。参加者 39 人。 造形ワークショップ展では、直進光をテーマにしたものを 6 点、反射光をテーマにしたものを 5 点、そしてブラックライトを用いて光の劇的な変化を楽しむプログラム 4 点の計 15 点を、活動写真とプログラムサンプルで構成した作品パネルとして展示を行った。 (富山県こどもみらい館)
造形ワークショップ展 「素材ア・ラ・カルト」	10.17 ~ 11.14 (展示) 10.18 (研修会)	研修会で実施するプログラムを含め、紙や木など身近な素材を使った 10 点のプログラムパネルを展示。研修会では、「身近な素材からの造形発見〜造形ア・ラ・カルト」をテーマに、既成概念にとらわれることなく、自由な発想で五感を刺激するプログラム、「マペット」「竹のぼり」「糸はなが」を実施。参加 28 人。 (名古屋市児童館連絡協議会、愛知県名古屋市とだがわこどもランド)

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
「メコンのかけ橋〜ラオスと日本のこどもの絵」展	4.21 ~ 5.13	ラオス・セコン県バクトンタイ村の建設中の小学校の子どもたちの作品と東京都の小学校の子どもたちの作品展。ラオスの民族衣装、民具、絵本、教科書や子どもたちの写真などで多角的に紹介。会期中の日曜、祝日にワークショップを開催。主催は、NPO 市民の芸術推進委員会、こどもの城造形事業部。後援はラオス大使館、JICA、NGO 日本国際交流センター、東京都図画工作研究会。 (ギャラリー)
第 11 回図工大好き子ども美術展	9.11 ~ 10.8	東京都小学校図工専科の教師を中心に構成される、NPO 市民の芸術推進委員会との共催による子どもたちの作品展。「図工ってなに？〜かんじる・おもう・みる・あそぶ・わたし〜」をテーマに 400 点以上の子どもたちの作品を展示。造形スタジオのクラブの子どもたちの作品も展示。9 月 15 日には文部科学省教科調査官の奥村高明さんによるギャラリートーク、21 日にはアーティスト折元立身さんによるレクチャー「アートと介護」を開催、多くの参加者があった。また、毎年、好評のワークショップも毎週日曜日の午後に開催した。 (ギャラリー)
ブルーノ・ムナリー展	9.12 ~ 11.11 ※ワークショップ 10.1・2	生誕 100 年を迎えたブルーノ・ムナリーの〔こどもの城〕コレクションによる作品巡回展。公開ワークショップでは、「テクスチャー」「コラージュ」「木をつくろう」「さまざまなかたち」を実施。 (長野県小海町高原美術館)
ブルーノ・ムナリー展 〜しごとに関係ある人 出入りおことわり	10.25 ~ H20.1.27 ※ワークショップ 11.3	生誕 100 年を迎えたブルーノ・ムナリーの展覧会への協力。作品選定、カタログ制作などへの資料協力、およびワークショップ「木をつくろう」を実施。 (東京 Shiodomeitalia クリエイティブセンター)
ブルーノ・ムナリー生誕 100 年記念特別レクチャー「父、ブルーノを語る」アルベルト・ムナリー	12.2 14:00 ~ 15:30	開館記念の特別事業として開催した「ブルーノ・ムナリー展」とワークショップなどをとおして、造形スタジオの活動に深い影響を与えたムナリーさんの生誕 100 年を記念して、息子であるアルベルト・ムナリーさんに日常生活や創造の秘密についてお話いただいた。80 人を超す受講者で大盛況であった。造形スタジオでは、業績をふりかえる昭和 60 年(85 年)来日時の資料展も開催した。
特別企画「鉄はうたう vol.6 ~キルギスと中央アジアの口琴展示」	H20.1.22 ~ 2.17	杵と振動弁からなる、ごく単純な構造ながら、世界中のさまざまな民族がもつ口琴を紹介する 6 回目になる展示。木、皮などのユニークなケースに大切に収められたキルギスの金属口琴テミル・コムズを中心に、近隣の中央アジア諸国の口琴を展示。キルギスのカリマンさんのコンサート「キルギスの口琴と弦楽器の調べ」を 1 月 26 日に開催。主催は、〔こどもの城〕造形事業部、日本口琴協会。後援は、キルギス共和国大使館。(造形スタジオ)

平成 19 年度プログラム一覧表

1. 親子コーナーのプログラム

名 称	内 容	
ア ー ト と 造 形	てっとり	2つ折りにした紙に手の形を写し取って切り抜き、飾り付けをし、羽のように飛ばたく生き物を完成させる。
	つなぎま線か？	ガタガタ、なみなみ、クルクル、直線などいろいろな線のコピーをつなぎあわせ、ひとつの絵を作る。
	テクスケール	アルミ線で形を作り、2枚の半透明の薄い紙の間にいろいろな素材を入れ、はさみ込む。台座に取り付けて完成。光を透かしたり、触感を楽しむ。
	ひっきびっきー	紙コップに、たこ糸やゴム、ひもなどをつけ、引っばったり、弾いたりして音の違いを楽しむ。
	ゆらりーろ	紙にポンチで穴を開け、穴に色セロハンをはる。紙を好きな形に切り、バネのように巻いた針金をつけ、台紙に固定する。光を通すと色がゆらゆらとゆれる。
	ミルポケット	黒い紙のなかを好きな形に切り取り穴を開ける。そこに、トレーシングペーパーをはってスクリーンを作り、鏡面仕上げの紙と合わせポケット型にする。光を当てると鏡面部分に描いた絵や文字が反射して見える。
か ら く り と 造 形	でこボコっする	台紙を好きな形に切り、凹凸のあるいろいろな素材をはりつける。上から紙をかぶせ、クーピーで凹凸をこすりだし模様を写しとる。
	くねくねまっきー	竹ひごに波段ボールの帯をつけ、波段ボールの端に飾り付けをする。竹ひごを回すと、のびたり縮んだり、くねくねと動きだす。
	ヒッパッテコー	紙の帯を引いたり戻したりすると、トンネル状にふくらんだ紙が伸びたり縮んだりする、ユーモラスな表情を見せる“からくり”がん具。
	テコピコタケ	たこ糸を引っ張ると、竹筒がピコッと動く“からくり”がん具。
	グルクルン	3つに切ったストローに、アルミ線を通す。つまみをグルグルと回すと、ストローにつけた飾りがクルクルと回る。
	X(エックス)クルン	2つに割った割り箸につけたたこ糸に、飾りをつける。飾りを巻いて、たこ糸をピンとはると、飾りがクルンと回る。
こ も 歳 時 記	カタカタレーサー	輪ゴムを仕込んだ正方形の木の板のタイヤ部分と、本体になる紙の帯を組み合わせ、飾り付けをする。木の板を回して手を離すと、カタカタと音をたてて走り出す。
	テコビョンブー	段ボール板に竹ひごの片端を固定し、反対の端を浮かせるようにし、小さな半分に割った竹を段ボールに固定する。竹ひごを指先で弾くと、テコの原理で飾りがビョンと動き出す“からくり”がん具。
	端午の節句 「かぶって！コイ」	紙の帯と輪ゴムで自分の頭のサイズにあったバンドを作り、2つ折りにした大きな紙に取り付ける。自分で作ったスタンプでこいの飾り付けをする。ゆらゆら泳ぐかぶれる大きなこいの完成。
	〃 〈イベント〉 「風車をつくらう」	型紙を使い、紙に切り込みの印をつけ、風車を作る。竹ひごとストローで、持ち手を作り完成。親子コーナー「かぶって！コイ」にも取り付けることができる風車となる。
	七夕 「七夕ささひかり」	くるくると巻いた紙に切り込みを入れ、中心からそと紙を引き出すと、枝をひろげた笹竹のようになる。蛍光紙や蛍光ペンで飾り、ブラックライトで光らせて楽しむ。
	クリスマス 「テコリンスマス」	色紙でプレゼントボックスを作り、ふたに、和紙を使って竹ひごを取り付ける。竹ひごを上下に動かすとテコの原理でふたが開閉し、なかのプレゼントが見え隠れする。
お正月 「お正月チョロチュー」	お正月 「お正月チョロチュー」	輪ゴムを動力とした竹のタイヤを半分に割った竹に取り付け、ねずみの飾り付けをする。干支のねずみが走り出す、竹のミニカーの完成。
	節分 「オニビョーン」	針金と凧糸を結んだものを段ボールの穴に通し、針金の先を段ボールに固定する。たこ糸を引っばり放すと、針金の先についた、鬼の飾りがビョーンと飛んでいく。

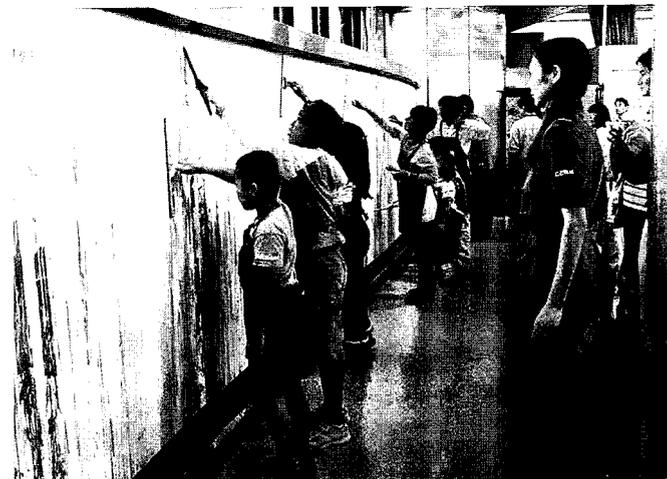
名 称	内 容	
こども歳時記	桃の節句 「ひな絵巻」	色紙の帯の両端に竹ひごを取り付ける。色紙に桃の節句の飾り付けをし、穴を2つ開けた段ボールに竹ひごを差し込む。完成して竹ひごをクルクル回すと、お雛さまの飾り付けが絵巻物のように動き出す。
	〃 〈イベント〉 「おひなめぐり DE あわせびな」	プレイ事業部、音楽事業部との合同プログラム。造形スタジオのスタンプコーナーで、おひな様の顔を作る。プレイホールの「みんなでひなまつり」に参加してもらったカードで着物を作る。ふたつを組み合わせると「あわせびな」になる。
その他	ファミリーウーク 「つないでハウス」	家の形に切った台紙の表と裏に、家のなかや外の飾り付けをする。できあがったものを親子でつなげると、楽しい立体の家にもなる。
	ファミリードルッチャワークス 「つないでハウス 巨大化プロジェクト」	「ファミリードルッチャワークス」の仕事プログラム。親子コーナー「つないでハウス」の巨大見本に、こすりだし技法（凹凸のある素材の上に紙をのせ、クーピーでこすり模様を作る）で部屋に飾るものを制作。完成したものを巨大見本に飾り付けをする。

2. クリエイティブコーナーのプログラム

名 称	内 容	
アートと造形	わくわく惑星	丸めてテグスを通した新聞紙にラシャ紙をはって惑星を作る。平竹を弓状にしならせ、テグスを張ると、惑星がクルリと回転する。(小3以上、1時間30分)
	ラインでどう!?	銅線をハンダ付けして、線だけの立体を作る。(小3以上、1時間30分)
	エンボッ刷る	銅板にワイヤーや竹ひご、ワッシャーなどで模様を作り、版画用の紙をかぶせてプレス機とおし、でこぼこを紙に写し取る。それぞれの素材によるでこぼこの感触の違いを確かめて楽しむ。(小3以上、1時間30分)
	竹フォン器	径の違う竹筒を組み合わせて、受話器のような形を作る。片方の穴を薄い紙でふさいでしゃべると、音が変わって聞こえてくる。(小3以上、1時間30分)
	モビーロ	アルミ線を曲げて形を作り、色セロハンで飾りつける。バランスをとりながら支柱にのせれば、セロハンの色を透過した光が下に映し出されながら、モビールのようにゆるやかに動く。(小3以上、1時間)
	キラキラスコープ	鏡面仕上げの紙をくしゃくしゃにして筒にし、片側を小さな穴をあけた黒い紙でふさぐ。輪にしたアルミ線の色セロハンをはり、ふさいだ黒い紙の先に取り付けて光を見ると、キラキラと乱反射する色が楽しめる。(小3以上、1時間)
	フロッタウン	凸凹のある、いろいろな素材で地面を作る。地面の凸凹をこすりだした紙をつかって建物を作り、街を完成させる。(小3以上、1時間)
くるりんシャドー	厚紙を好きな形に切って、ポンチで穴をあけ、色セロハンで穴をふさぐ。ストローをつけて竹ひごに通し、くるくると回しながら影と光の色を楽しむ。(小3以上、1時間30分)	



こども歳時記「お正月」。親子コーナーで作った「お正月チョコチュー」を走らせて遊べる「レース場」を造形スタジオ内に設けた。



ファミリードルッチャワークス「プレイングボードピカピカ計画」

名 称	内 容
か ら く り と 造 形	クルギアクル 波段ボールを竹ひごに巻いてギアを作り、それぞれがかみ合うように段ボールの枠にとりつけて飾る。ハンドルを回せば飾りがクルクルと回転する。(小3以上、1時間30分)
	シンクルン ゴムに通した竹ひごを左右に動かすと、両はじの竹筒が同時にクルクルと動く“からくり”がん具。(小2以上、1時間)
	メタニョール アルミ板を打ち出してドーム状にしたものに、色とりどりの針金を組み込み、飾り付けると完成。つまみを動かすと、アルミのドームから出ている針金と飾りが動きだす。(小3以上、1時間30分)
	ウッドクルン 電動糸のこを使って、ベニヤ板を自由な形に切り出し、アームになる別のベニヤ板を組み込む。ひもを引っ張ると、テコの原理でアームが動く。(小3以上、1時間30分)
	テコトパタン 2枚の板どうしの1辺を和紙でとめ、たこ糸を組み込んだら飾り付ける。たこ糸に指先で軽く力を加えると、上の板が上下にパタンパタンと動く。(小3以上、1時間30分)
	カチャダケスライ ダー のこぎりで輪切りにした竹と、動かす部分の割り竹にドリルで穴を開ける。竹ひごを輪切り竹に通し、中で割り竹と組み合わせたら、全体を飾りつけるとできあがり。竹ひごを前後に動かすと、割り竹がカチャカチャと動きだします。(小3以上、1時間30分)
	プーリープーリー 輪切りにした2つの竹の断面にそれぞれ厚紙をはり、土台の軸に通したら、竹に輪ゴムをかけて飾る。片方の竹を回すと「プーリーベルト」の機構で、もう片方の竹もクルクルと回りだす。(小3以上、1時間30分)
こ も の 歳 時 記	端午の節句 「風見ゴイ」 銅板をたたいて丸みをつけ、中心からアルミの支柱を立てたら、ストローにつけた紙のこいを差し込む。完成したものを頭にかぶると、頭の動きに合わせてこいがクルンと回転する。(小3以上、1時間30分)
	七夕 「セタルミナスパイ ラル」 螺旋状に巻いた数本のアルミ線を段ボールにとめ、飾り付けをしたストロー片を通したら、アルミ線の反対側も段ボールでとめる。上下をひっくり返すと、飾りがクルクルと回りながら降りてくる。(小2以上、1時間)
	クリスマス 「クルツ！スマス」 紙でクリスマスの飾りを作り、竹ひごの先に取り付ける。完成してひもを引っばると、飾りがクルクルと回りだす。紐錐式(ちゅうすいしき)という機構を使ったおもちゃ。(小3以上、1時間)
	お正月 「お正月クランクね ずみ DE チュー」 輪切りにした竹にクランクの機構を組み込み、干支のねずみの飾り付けをする。ハンドルを回すと、ねずみの頭がピコピコと動く。(小3以上、1時間30分)
	節分 「クラン鬼～(クラン キ～)」 ベニヤ板と金属の板で箱を組み立て、なかにアルミ線で作ったクランクの機構を組み込んだら、鬼の飾り付けをする。ハンドルを回すと、箱の中から鬼の角とペロが出たり入ったりする。(小3以上、1時間30分)
桃の節句 「おひな大行進」 おひな様の飾りをした紙の帯と、ギアの機構を木の角材に取り付ける。完成してハンドルを回すと、おひな様の飾りが、行進しているかのようにクルクルと動き出す。(小3以上、1時間30分)	
そ の 他	ファミリーウイーク 「ハウス×ハウス」 垂木を斜め半分に切ったものを、建物に見立てて飾り付ける。建物のまわりは、公園や森、道路など、自由自在！(小3以上、1時間)
	ファミリードルッチ ャワークス「プレ イングボード ピカ ピカ計画」 プレイングボードを1人(1組)一面、自分の力で真っ白に掃除をする、お仕事体験プログラム。(小1以上=小1・2は保護者同伴、20分)

音楽事業部



平成19年度の活動

1. はじめに

音楽ロビーを一般活動の拠点とし、スタジオは特別な催しと講座・クラブの活動の場となっている。音楽ロビーは、長年の実験的プログラム実施の積み重ねで、ユニークな音楽遊びが展開されるオープンスペースとして、〔こどもの城〕のなかでもなくてはならない遊びの場となっている。手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかにすれば音楽の楽しさと共感する喜びを子どもたちに伝えることができるか、をコンセプトにプログラム開発を行い、環境整備に工夫をしてきた。

平常期間の一般活動については、平日は1日1回の音楽遊びのメインイベントを核として、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー」を数回実施している。音楽遊びのプログラムでは、特に親子のスキンシップがはかれる歌遊びやダンス、そしてパネルシアターなど。1回30分のプログラムの流れで、“動”と“静”のメリハリをつけた構成としている。

日曜日・祝日は、11時30分から17時まで、催しを9本組んでいる。ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー」、音楽遊びプログラム「音楽広場」、そして世界の民族楽器が体験できる「めずらし楽器にチャレンジ」、管楽器や打楽器などによる編成でリズムカルな楽曲を演奏する「Oshiro Band ミニライブ」——自然に体が動き出すような楽しい選曲で、子どもたちも自由に楽器をならし、親子で音楽を遊べるスペースとなっている。

スタジオの一般来館事業の核となるのが、Bスタジオで行われる「わいわいスタジオ」である。世界各地の民

族音楽などを定期的に取り上げたり、手作り楽器のワークショップを開催するなど、来館する親子にさまざまな音楽体験の場を提供している。

特別期間の催しは、特に来館児・者が多いことと、学童の来館も増えることを念頭においたプログラムを実施し、多人数異年齢の来館児・者に幅広い音楽体験の場を提供している。

夏休み特別期間は、インドネシアやアフリカの楽器をベースにした「親子で作ろう手作り楽器のワークショップ」を実施。充足率は、ここ数年100%となっており、人気企画として定着している。

講座・クラブについては、ほかでは体験できない音楽活動をめざして、邦楽・民族音楽系なども含むユニークなラインアップで運営している。

グループ活動については、個々の参加団体の要望にフレキシブルに対応できる、柔軟で積極的な姿勢と応用力のあるプログラムを用意している。



ドキドキッズ オン ステージ「タイコ満載！」

2. 音楽ロビーの活動から

(ア) ダンス [E] (カッコイイ) プロジェクト

本年度初めて企画された、夏休み特別期間プログラム「あそび day キャンプ」として実施した音楽事業部のプログラム。通常の音楽ロビー活動とは異なり、事前募集した子どもたち(小1～3、16人)が、1日かけて取り組んだ。

「あそび day キャンプ」に対して、企画研修部から提示されたキーワードは、“非日常性”“躍動感”“開放感”“協力体験”“親和性”だった。音楽事業部では、“ダンスという非日常的な活動をとおして、自分以外の子どもたちと協調する”“人に見てもらふことの楽しさを知る”“楽しいと感じていることを人に伝え、見ている人にも楽しんでもらう”“仲間と一つの目標に向かって努力し、達成感を味わう”という、4つのねらいに設定してプログラムを作った。

そして最終的に、①オリジナルの曲に合わせて一曲踊れるようになる ②音楽ロビーで一般来館児・者に向けて発表する—という2つを目標にした。

私たちは、子どもたちが“遊ぶような感覚で体を動かす”ということをおおにしたいと考えた。ただ振り付けを習うだけでは〈あそび〉の要素は薄れてしまう。いかに〈あそび〉の要素を取り入れるかに注意し、遊ぶような感覚で楽しみつつ、いつの間にか振りを覚えられるようなアプローチをおお考えた。

例えば、スタッフが考えた振りを伝える時、あえて“練習”という言葉をおお使わず、鏡に自分の姿を映し、スタッフのまねっこ遊びをすところから始める。そして、ただまねをすのではなく、動きに合わせた言葉をしゃべりながら動く。このときに使った言葉は『お・お・おはよ!』である。『お・お・お』は、両手のひらを床にむけ、膝をバウンドさせるようにまげる。『は』で両手

をおおあげて『よ』で下におおおろす。言葉をリズムにのせて繰り返してしゃべることで、音楽のリズムも自然と体に入ってくる。そして、言葉のリズムに乗せて体を動かすと自然に動きも覚えられ、結果、いつの間にか振りも覚えてしまう。

ほかのパートでは、子どもたちが2つのグループに分かれて話し合ひ、自分たちで振り付けをした。限られた時間内で初対面の子どもたち同士が、何もなところから作り出すのは難しいとおお考え、ジャンプ・まわる・足踏みなどスタッフからいくつか動きをおお提示した。子どもたちからも、しゃがむ・手足をおお大きく広げるなど、アイデアがおおうまれた。すると、子どもたちはそこから動きをおお展開し、実際に動いて話し合ひながら動きをおお組み合わせることに夢中になったり、2グループともユニークな振り付けがおおできあがった。

踊るだけではなく、『夏』からイメージした言葉をリズムや動きにおお変えたり、言葉の持つイントネーションやリズムをおお意識し、全身をおお使い、体を楽器のように音をおお出して表現する工夫もした。また、多少難しい振り付けもおお考え、繰り返すことで、習得できる達成感を味わえるような場面もおお作った。

このように、子どもたちは“ダンスをおお踊る”ということをおおとおして、さまざまな形で音楽をおお楽しんでた。

迎えた本番では、事前におお踊る場所に立ってみたにもかかわらず、あまりにおお大勢の観客をおお目の前にしてかなり緊張してたようだ。練習時の笑顔がでず、立つ場所がおお分からなくなった子もいた。しかし、生演奏の迫力ある音楽におお盛りたてられ、徐々に練習をおお思い出し、最終的にはキラキラ輝く笑顔におお躍動感あふれるダンスをおお披露できた。子どもたちらしい魅力あふれるステージに、来館した子どもたちや大人もひきつけられ、楽しんでた。客席参加の場面もあり、たくさんの拍手をおもらった子どもたちは、とてもうれしそつうだった。

本番後、子どもたち全員から「楽しかった」「またや



あそび day キャンプ～ダンス [E] プロジェクト (練習)



あそび day キャンプ～ダンス [E] プロジェクト (本番)

世界をあそべ！ わんぱくツアー～ハワイ



りたい」という声がきかれた。「最初は難しかったけど、できるようになって楽しかった」「友だちとなかよくなれた」「お客さんにたくさん拍手をもらえてうれしかった」などという感想も多かった。1日をとおして、挑戦することの難しさや上達していくことのおもしろさを体験し、ダンスの持つわくわくした感覚を共有でき、人に楽しんでもらうことの喜び、達成感も感じられたようだ。

(イ) うたってハッピー ひなまつり

桃の節句にあわせたプログラム。通常の歌のコンサートをひな祭りバージョン・参加型に変えたものだ。その場にいる女の子なら誰でも参加でき、希望する女の子たちは頭に手作りの冠を飾り、「おひなダンサーズ」として台座のように装飾をしたステージに上がる。屏風やぼんぼりを作るなどして、雰囲気を出した。ステージに上がらない男の子は「五人ばやし隊」としてフロアの楽器を元気よく演奏する。

まずは「おひなまつり」の歌を全員で合唱する。ステージの女の子たちは、少し照れながらも元気に歌った。最後の2曲は、子どもたちのよく知っている歌に合わせて踊る。ダンス[E]プロジェクトと大きく違うところは、その日に偶然居合わせた子どもたちが、気軽にステージに上げられるという点である。当然練習時間はないので、いきなりの本番。“みせる”工夫、ステージ上の子どもたちには“みられる”ことを意識してもらうように工夫をした。

踊る曲はすぐになじめるよう、よく知っている曲を選んだ。ステージの子どもたちから見やすい場所にスタッフが一人立ち、リードしてダンスを踊る。そうすることで踊りに統一感・一体感が出る。もちろんスタッフと全く同じである必要はないが、やってみたい気持ちがあっても自由に踊れない子どもたちにとっては、よいガイド

めずらし楽器にチャレンジ～カリンバ（親指ピアノ）



となっていた。そしてステージ上の子どもたちに、ポンポンやペットボトルのシェイカーを持ってもらうことで、とても華やかでかわいらしい光景になった。見守る保護者たちも写真・ビデオ撮影をしながら、うれしそうにあたたかい目で子どもたちを見守った。

同じ「音に合わせて体を動かす・踊る」プログラムでも、ダンス[E]プロジェクトとは異なるスタイルやアプローチの仕方でも楽しんでもらえたと思う。

これまでも、プログラムのなかで子どもたちが主役になれる場面をいくつか作ってきた。そこでの経験を生かし、全面的に主役となれるプログラムに取り組んだ。あくまで主役は子ども達である。

子どもたちは、自分と同じ“子ども”がやっていることに大変興味を示す。見ている子どもたちも「自分にもできそう」「やってみたい」など、より親近感をもってもらえる。見せる側にいる子どもたちにとっても観客が自分と同じ“子ども”ということで、「こんなことができるんだよ」「がんばってるでしょ」という感じで、得意気でうれしそうな表情になる。

発信する側と受け取る側の間でエネルギーが通い合い、楽しい空間を一体となって共有している様子が見られ、子どもたちの持つエネルギーや吸収力・楽しいと感じたものに対する集中力に改めて驚かされた。またそれを見ている保護者のやさしい目が、さらに音楽ロビーを温かい空気で包んでいたように感じた。

今後も、子どもたちが主役となるイベントに積極的に取り組んでいきたい。

(ウ) そのほかの新規事業

【オリジナル楽器ガイド】

夏休み特別期間の「めずらし楽器にチャレンジ！スペシャル」では、コンサートで演奏される楽器43種類を一覧にしたガイドを作成した。コンサートの間に、スタ

ップの説明を熱心にメモする子どもたちがたくさん見受けられることから、夏休みの宿題などにも役立ててもらえるように、楽器のイラスト、音の出し方や楽器の材料などを記載した。主に小学生に配布したが、大人にも好評であった。音楽ロビー入口には、ガイドにのせた楽器イラストの原画を額に入れて展示した。

【ドキドキッズオンステージ】

青山円形劇場を会場にして、講座・クラブ合同の発表会という形で公演してきた「ぼくらのサウンド」。20年(21回開催)を超えた本年度は、「ドキドキッズオンステージ」としてリニューアルした。会場を音楽エリア(音楽ロビー、Bスタジオ)にすることで、座席数の制限などがなくなり、出入りも気兼ねなくできることから、小さな子どもたちと保護者にも、気軽に観覧していただいた。

講座ごとの公演に加え、複数の講座でのジョイント公演も行った。講座生が来館児に行う楽器体験コーナーもあり、来館児・者との交流の場となった。講座生が自分の音楽を大事にし、ほかの子どもたちに伝えていくという、音楽や楽器をとおしたコミュニケーションが生まれ、子どもたちから子どもたちへという働きかけに、ほかの習い事ではなかなか見られない、[こどもの城]らしい活動となった。

【からだポカポカこころホカホカ】

春休み特別期間恒例になった、体育事業部との共同プログラムだが、本年度は特別期間に実施している0～3歳の子どものと保護者向けのスペース「ゆったり親子のおんがく園」を会場にして行った。体のいろいろな部分を使った歌遊びや、ハンカチを使って体を動かす遊びなど、体育スタッフの豊富な動きのバリエーションで「からだポカポカ」。遊びに用いる伴奏も穏やかな音色にし、アイリッシュ・ハーブの優しい音で「こころホカホカ」になるように30分間を構成した。

音楽ロビーでの元気でエネルギッシュな活動とは一味違い、小さな子どもと保護者が安心してゆったりと遊べる空間になった。大きな子どもたちが増える特別期間にこそ、需要のあるプログラムだといえる。来館児・者におなじみになった「ゆったり親子のおんがく園」で、少しずつでもこのようなミニプログラムの実施を考えてみたい。

【春はキラキラダンスぞんす!】

春休み特別期間に実施した2種類のダンスプログラ

ム。自分一人で完結するダンスではなく、その場での出会いを意識的に感じてもらえることをねらいとした。また、どちらのプログラムともスタッフが作ったオリジナルの音楽が遊びを盛り上げた。

子どもたちとスタッフ扮する「ソラシドレンジャー」が力を合わせて悪者に立ち向かう「音楽戦隊ソラシドレンジャー」。大切に咲かせた花が悪者に奪われ、登場したヒーローと技を増やしなが、最後に花を取り戻すという定番のストーリー。子どもたちになじみやすく、自分がヒーローになったつもりで奮闘する姿が多くみられた。みんなで声を合わせ、動きを合わせることで集団を意識する遊びになった。

もう一つは「爆裂祭」。スタートは和太鼓のデモンストラクション。初めて耳にする小さな子どもや保護者にも迫力のある演奏が好評だった。カラフルな衣装も用意し、気分を盛り上げるとともに、ファッションショーのような華やかな雰囲気を出した。年齢ごとのグループで前に出てダンスを披露する場面では、わが子の姿はもちろんだが、年齢ごとに変化していく子どもの様子を見守る、保護者の暖かい眼差しが印象的だった。

前年度の活動から浮かび上がった“はじめて出会った子どもと子ども、また子どもと大人のかかわり”というテーマでプログラムのレパートリーを増やすことができた。今後も継続性を持って新しいプログラム作りに取り組んでいきたい。

3. まとめ

本年度は、さらに多くのオリジナル音楽遊びプログラムが生まれ、オリジナルの楽曲も数多く生み出された。また、子どもたちが“主役”となり、大人や子どもたちの前で自己表現する場面を作ることをテーマにした、いくつかの新しいプログラムに取り組み、成果が得られた。プログラムに使用する楽器や衣装などにも新たな工夫が随所に見られた。

開館以来実施してきた、青山円形劇場を使った講座・クラブ発表会「ぼくらのサウンド」を見直し、「ドキドキッズオンステージ」として新たなスタートを切ったことも良い成果があったと思われる。楽器などの技術を習得するだけでなく、音楽をとおしてさまざまな形で人との交流をはかり、社会性を身につけ創造性をはぐくみ感性を養う。[こどもの城]で行う児童健全育成としての音楽活動に、初心を忘れず今後も取り組んでいきたい。

平成 19 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
みんなでライブ!	火曜日 15:00～15:30	子どもたちがよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童謡、体を動かす遊びのプログラム。音楽を楽しむなかで、親子のふれあいを感じるものを取り入れている。担当スタッフ4人それぞれが個性を生かし、幅広い年齢層に対応するプログラム作りに取り組んだ。 (音楽ロビー)
赤ちゃん特等席 ばぶりんパラダイス	火～金曜日 開館時間中 (上記催し開催時を除く)	0～1歳児と保護者のコーナー。特別期間に行っている乳幼児向けプログラム「ゆったり親子のおんがく園」の利用者や火曜日に実施している「赤ちゃんサロン」の参加者の間にすっきり定着。赤ちゃんを囲んで初対面の母親同士が自然と交流をもてる場になっている。 (音楽ロビー)
うたってハッピー	火曜日 14:30～15:00 16:30～17:00 水・金曜日 14:00～14:30 16:00～16:30 木曜日 14:00～14:30 土曜日 11:30～12:00 13:00～13:30 日曜日・祝日 11:30～12:00 13:00～13:30 15:00～15:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか、アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しめる。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。前年度から土曜日の午前中に実施して好評だったので、日曜日も午前中から実施するように変更した。早い時間帯に来館する幼児と保護者には特に好評であった。 (音楽ロビー)
ストリートオルガン やってみよう!	火曜日 13:30～14:00 16:00～16:30 水曜日 13:30～14:00 15:30～16:00 木曜日 16:00～16:30 金曜日 13:30～14:00 16:30～17:00 土曜日 12:30～13:00 日曜日 12:15～13:00 16:30～17:00	ロビー常設のオランダ式手回しオルガン。親子、兄弟、友だち同士などでペアになり、演奏を楽しんだ。 (音楽ロビー)
すいようパチパチパーク	水曜日 14:30～15:00	歌遊び、手遊びを中心とした参加型プログラムと、アフリカ、インドネシア、ブラジルなどの音楽を聴かせる観賞型プログラム2種を実施。観賞型プログラムにも、使用した楽器にふれたり、スタッフと演奏する参加部分も設け、子どもと一体になって音楽を感じ合えるイベントを行っている。 (音楽ロビー)
なにがでるかな? うきうきタイム	木曜日 13:45～14:00	この時間に15分間のショートプログラムを実施して4年目。開始当初は、子どもも少なく、その後の歌の時間に対する前座的な位置付けであった。しかし参加する人が増え、14時30分からの「木曜なかよし広場」よりも、多く集まるようになってきている。今後は同じ手遊び系の催しとの違いをどう出していくのか、木曜全体のプログラムの組み立ての変更も視野にいれながら考えていきたい。 (音楽ロビー)
木曜なかよし広場	木曜日 14:30～15:00	スタッフが交代わりで司会を担当。それぞれの個性を生かしながら、乳幼児から親子で気軽に楽しめるプログラム構成に努めている。内容は、遊び歌、パネルシアター、絵本、簡単なダンスなどが中心。 (音楽ロビー)
みんなの楽器屋さん	木曜日 15:30～16:00	世界各地の楽器を紹介する、鑑賞と体験のプログラム。気軽に参加できるように、スタッフが「楽器屋」の店長・店員に扮するという〈あそび〉の演出をしている。活動には女性ボランティアも参加。演奏のみならず、楽器体験時のサポート役としても活躍。年に2回は「ボランティア・スペシャルプログラム」として、女性ボランティアのみでプログラムを開催。その集大成として企画研修部主催の「あそびのおもちゃ箱」にも出演した。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
みかんちゃんズの オパオパサンバ!	金曜日 15:00～15:30	女性ボランティア中心の活動。サンバのリズムに合わせて体を動かす「サンバ新聞」というプログラムに取り組んだ。ボランティアメンバーの一人ひとりが、プログラムリーダーとしてスキルアップをはかり、活動を支えてくれている。(音楽ロビー)
音楽あそびマーケット	土曜日 13:30～14:00	本年度から始めた新規プログラム。パネルシアター、紙芝居、絵本に音楽を組み合わせ楽しんでもらう鑑賞型の活動と、手遊び、音楽遊びという参加型の活動を組み合わせた。土曜日であることから、幅広い年齢層に楽しんでもらえる内容を心がけた。(音楽ロビー)
宅配!ミュージック ボックス	土曜日 14:00～14:30	演奏を聴く・楽器にふれて演奏してみるという体験をとおして、さまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。時間になると宅配ボックスが届き、その中に紹介する楽器や音楽のヒントが入っている——という設定。国・地域や楽器の素材、奏法など、さまざまな角度から楽器を紹介した。(音楽ロビー)
ポコ・ア・ポコ 土曜音楽倶楽部	土曜日 14:30～15:20	6年目を迎える高学年向けの楽器体験コーナー。1期は「箏」、2期は「三味線」、3期は新しい楽器として「インドネシアのガムラン」を取り上げた。どの楽器も、参加した子ども同士あるいはスタッフと合奏することで、みんなで演奏する楽しさを伝えられるようにした。2月には体育・AV・プレイ事業部と企画研修部の共同で、小学生プログラムのスペシャル企画を実施。音楽事業部は、インドネシアのガムランとアフリカの太鼓で参加。一つの部だけでなく、同じ年齢層をターゲットにしているプログラムを、さまざまな事業部が連携しながら行う活動を、今後も続けていきたいと思う。(音楽ロビー)
みんなであそぼう! 音楽広場	日曜日・祝日 13:30～14:00	担当職員一人ひとりの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやダンスなども加えたバラエティー豊かなプログラム(「わいわいスタジオ」のある日は実施しない)。(音楽ロビー)
Oshiro Band ミニライブ	日曜日・祝日 13:45～14:00 ※「みんなであそぼう!音楽広場」がないとき 14:45～15:00 16:00～16:30	ポルカ・テキーラ・トルコ行進曲など、リズムカルな楽曲をマリンバ、ギター、トランペット、バイオリンなどの楽器で演奏。子どもたちはそれらの楽曲に合わせて手作り楽器や木琴などを自由に演奏する。オリジナルアレンジの新曲に挑戦してレパートリーを増やしている。前年度の「インストプッチンライブ」からイベントタイトルを変更。(音楽ロビー)
めずらし楽器に チャレンジ	日曜日・祝日 14:00～14:30	世界各地の楽器を演奏し、紹介・体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特徴をわかりやすく紹介。コンサート終了後は使用した本物の楽器をゆっくり体験してもらおう。夕方に実施していたが時間を繰り上げることでより多くの親子に参加してもらえるようになった。(音楽ロビー)
わいわいスタジオ	日曜日・祝日(ほぼ隔週) 13:30～14:00 15:30～16:00	一般来館児・者の親子全般を対象にした催し。演奏者を招いたコンサートの企画と、身近な材料を使って手作りで楽器を作るワークショップの2種がある。ワークショップでは、フィルムケースを利用して、穴をあけたり素材をはったりして烏笛を完成させる。小学生対象のプログラムと幼児も参加できるプログラムがある。コンサートは「フラメンコ」「草笛」「ア・カペラ」、音楽スタッフのグループ「モーモーず」が出演。子ども参加コーナーや楽器紹介などをプログラムに盛り込み、多くの親子に楽しんでもらった。(Bスタジオ)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ワウワウ!アフリカ	4.28～30、5.3～6	アフリカをテーマにしたプログラム。手作りの太鼓を使ってリズム遊びをする「タムタム大王とあそぼう」(13時)、アフリカの音楽にのせた手遊び、音楽遊び「みんなであそぼう!アフリカ広場」(14時30分)、アフリカの太鼓、バラフォン(木琴)、親指ピアノなどのアフリカの楽器の演奏と体験「アフリカ楽器にチャレンジ」(15時)で構成。(音楽ロビー)
〈 " 〉 ストリートオルガン やってみよう!	" 12:15～13:00 16:30～17:00	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 " 〉 うたってハッピー!	" 11:30～12:00 14:00～14:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡ほか。アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しめるようにしている。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。(音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 Oshiro Band ミニライブ!	4.28～30、5.3～6 13:45～14:00 16:10～16:30 ※5.3は13:45のみ	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 ゆったり親子の おんがく園	" 13:00～17:00	0～3歳の幼児と親がゆっくりと音のでるおもちゃ〔音具〕で遊ぶことのできる部屋。親子のふれあいを楽しむためのスペース。大勢の親子に利用された。 (Aスタジオ)
〈 " 〉 アフリカンドラムに チャレンジ!	5.3 15:30～16:20	ゴールデンウィークのスペシャルプログラムの一つ。プロのパークァッションリストによるアフリカンドラムのワークショップ。対象は小学生以上。定員20人(22人参加)。約50分間の長い時間だったが、集中してリズムを覚え、合奏した。最後は音楽ロビーの来館児・者の前で演奏を発表した。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 おんがくがスキ! ファイナルコンサート	5.6 13:30～14:20 15:30～16:20	15周年を迎える恒例のオリジナルコンサート。6人のメンバーによるバンド演奏。オリジナルの曲や歌遊び、打楽器演奏など、親子、家族で楽しめる内容。次年度から音楽エリアに場所を移して実施する予定。 (青山円形劇場)
〈夏休み〉 ストリートオルガン やってみよう!	7.21～9.2 12:15～13:00 16:30～17:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 あそびモリモリ キラりん☆広場	7.21～8.7 14:00～14:30	歌遊び、リズム遊び、パネルシアター、ダンスとバラエティに富んだ内容で実施。スタッフによる日替わりプログラム。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 夏のごいっしょライブ!	7.21～8.7 11:30～12:00 13:30～14:00 15:30～16:00 8.8～19 11:30～12:00 15:00～15:30 8.20～9.2 11:30～12:00 14:00～14:30	バンド形式による弾き語り。歌の演奏は子どもたち、親子にとって、大変人気のあるプログラムであることから前年度同様、夏休み特別期間中とおして実施した。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 めずらし楽器に チャレンジ!	7.21～8.7 14:30～15:00 8.8～19 15:30～14:00 8.20～9.2 13:00～13:30 15:30～16:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。定番の楽器紹介に加え、本年度も手作り楽器のワークショップ受講生による演奏も行った。大人数による迫力のある演奏だった。8月20日からは「めずらし楽器にチャレンジ!スペシャル」として1日に2回、内容を変えて実施した。小学生の宿題に役立ててもらおうと、期間前から演目の予定表を配布したり、参加者には楽器のイラストと解説を書いた「オリジナル楽器ガイド」をプレゼント。音楽ロビー入口には原画も展示したところ、熱心に見ている大人も多かった。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 Oshiro Band ミニライブ	7.21～8.7 13:10～13:30 16:10～16:30 8.8～19 13:55～14:15 8.20～9.2 13:40～14:00 15:15～15:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 ゆったり親子の おんがく園	7.21～8.7 13:00～17:00	児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間と同じ。 (Aスタジオ)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 世界をあそべ！ わんぱくツアー	8.8～19 13:00～13:35 14:15～14:50 8.20～9.2 14:30～15:05	世界のいくつかの地域にスポットをあて、その土地の歌遊び、ダンス、ゲーム、お祭りなどを、音楽に重点をおいた〈あそび〉にアレンジした。ロシア、ブラジル、スペイン、アフリカ、スイス、ハワイ、フィリピン、日本を取り上げた。3年目の本年度は、どのプログラムも完成度を高めることができた。くりかえして来てもらえるように、本年度も期間中有効のパスポート（スタンプカード）を作り、スタンプラリーをした。前年度よりも簡単にゴールできるようにし、ゴールできた子どもの記念写真を撮影し、期間中飾るようにした。これを見て興味を持ってくれる子どもも多かった。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 あそび day キャンプ ダンス[E] プロジェクト	8.8 10:30～15:30	小学生以上が対象のダンスプログラム。オリジナルの曲にヒップホップを基調とした振り付けで、ただ習うだけでなく、子どもたちが考えた振りも取り入れて踊った。音楽ロビーのステージで生バンドをバックに来館児・者に向けて練習の成果を披露した。16人が参加。 (A スタジオ・音楽ロビー)
〈冬休み〉 うたってハッピー クリスマス	12.22～25 11:30～12:00 13:00～13:30 15:00～15:30	バンド形式による弾き語り。この時期ならではのクリスマスの曲を多く取り上げた。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 みんなであそぼう！ クリスマス	" 13:30～14:00	手遊び、歌遊び、パネルシアター、ダンスなどのプログラム。「こどもの城」のマスコット「マック・マックロー」も登場して一緒に楽しんだ。参加者にはカードやシールなど、スタッフが考案したクリスマス・プレゼントを用意した。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 ゆったり親子の おんがく園	12.22～27、H20.1.3～7 13:00～17:00	児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間と同じ。 (A スタジオ)
〈 " 〉 わいわいスタジオ クリスマススペシャル	12.23・24 13:30～14:00 15:30～16:00	23日は、ア・カペラコンサート。毎年出演している常連のグループ「ペンギン・フィッシュ」がクリスマスソングを演奏。サンタクロースやとなかひのつのを着けた演出もあり、クリスマス気分が高まった。24日は音楽スタッフによる「モーモーズの“ようこそクリスマス”」。牛に扮した2人が繰り広げるおはなしと遊びのコンサート。今回は仲間の“ふくちゃん”と3人で息の合ったコンサートであった。 (B スタジオ)
〈 " 〉 2007年 年忘れスペシャル	12.26・27 13:30～14:00 15:00～15:30	新規の年末プログラム。音楽のスタッフによる「マックローとおどろろ！ジャジャーン♪と年忘れダンス大会」（13時30分）に“マックロー”も登場し、歌遊びやダンスを楽しんだ。「みんなであそぼう！ドカーン♪と年忘れゲーム大会」（15時）は、企画研修部のスタッフによる新聞を使ったゲーム大会。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 新春おんがく祭！ お正月だよ！ ウオパメス！	H20.1.3～7	前年度実施した「ウリパダオ」をリニューアル。童謡の弾き語りコンサート「うたってハッピー」（11時30分、13時、15時10分）、マリンバ、管楽器、ギターなどによる演奏の時間「Oshiro Band ミニライブ」（14時50分、16時）、おはなしの時間「パネルシアター」（13時30分）、世界の楽器にふれる「めずらし楽器にチャレンジ」（14時10分）、「ストリートオルガンやってみよう」（12時15分、16時30分）の頭文字を合わせて「ウオパメス」とした。 (音楽ロビー)
〈春休み〉 うたってハッピー	3.5～4.6 11:30～12:00 13:30～14:00 15:30～16:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 ストリートオルガン やってみよう！	" 12:15～13:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 Oshiro Band ミニライブ	" 13:10～13:30 16:10～16:30	夏休み特別期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " 〉 春はキラキラ ダンスぞんす！	" 14:00～14:30	春休み恒例となったダンスプログラム。ヒーローが主人公の「音楽戦隊ソラシドレンジャー」と和太鼓を使った「爆裂祭」という2種類のオリジナルダンスプログラムを実施。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈春休み〉 めずらし楽器に チャレンジ	3.25～4.6 14:30～15:00	児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 " 〉 新小3からの お箏ワークショップ	3.25～30 13:00～13:50 15:00～15:50	新小学3年生以上を対象としたお箏の体験ワークショップ。各回10人定員。高学年向けに40～50分間の内容にした。じっくりと自分で取り組む姿が印象的であった。確実な参加者を得るために、前年度同様、電話での優先予約枠を設けた。約90人が参加。(Bスタジオ)
〈 " 〉 ゆったり親子の おんがく園	4.1～7 13:00～17:30	毎年春休みに実施してきた、体育事業部スタッフとの共同プログラムを「ゆったり親子のおんがく園」で実施した。オリジナルのスキンシップ遊びや、体育スタッフによる新体操のリボンやサッカーのデモンストレーション、スカーフを用いた遊びやハーブの演奏など盛りだくさんの30分プログラム「からだポカポカこころホカホカ」(4.2、4、6/14時)。(Aスタジオ)
ドキドキッズ オンステージ	11.8、H20.2.17、3.2、9、20	前年度まで実施していた音楽事業部講座・クラブ発表会「ぼくらのサウンド」に変わる新規事業。音楽の活動エリアで実施することで来館する子どもたちに、より気軽に観覧してもらおうことができるようになった。 □サンバ・コンサート(レッツ・プレイ・サンバ初級、レッツ・プレイ・サンバ) = 11.18 / 13:30、15:30 / Bスタジオ □三味線三昧(三味線) = H20.2.17 / 13:30、15:30 / Bスタジオ □あつまれタイコのなかまたち(パーカッション・アンサンブル) = H20.3.2 / 13:30、15:30 / Bスタジオ □タイコ満載!サンバ&和太鼓フェスティバル(和太鼓、レッツ・プレイ・サンバ初級、レッツ・プレイ・サンバ) = H20.3.9 / 13:30 / 音楽ロビー □ひらけリズム・ムービングのとびら(リズム・ムービング、リズム・ムービング&パーカッション) = H20.3.20 / 14:30 / Bスタジオ

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
リズム・ムービング	(人) 3～5歳児 (20)	(人) ① 18 ② 16 ③ 11	火曜日 15:30～16:20 (全32回)	身の回りのことからリズムを感じさせ、感覚を揺り動かし、創造性をはぐくむ。コンガ、ボンゴなどの打楽器、リズムやメロディー、ハーモニーを演奏できるオルフ楽器を使用。受講料=1期20,500円、2期20,500円、3期14,000円。
リズム・ムービング &パーカッション	小1～3 (15)	① 10 ② 10 ③ 10	火曜日 16:30～17:20 (全32回)	リズムによる自己表現を行う。さらに読譜力など、音楽的基礎力の理解、打楽器演奏法の導入、オルフ楽器を使った即興演奏をするなど一歩踏み込んだ指導を行う。受講料=1期20,500円、2期20,500円、3期14,000円。
パーカッション アンサンブル	小4～高3 (15)	① 10 ② 9 ③ 8	火曜日 17:30～19:30 (全32回)	さまざまな打楽器をふんだんに使い、演奏したり、体を楽器にしてリズム打ちを行ったり、子どもたちははじけるようなリズム感を表現する。初心者にもすぐに演奏を楽しんでもらえるていねいな指導を行う。受講料=1期20,500円、2期20,500円、3期14,000円。
みんなで楽しい リトミック I	(組) 3歳児と親 (20)	(組) ① 23 ② 18 ③ 15	水曜日 14:00～15:00 (全32回)	子どもの発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動とおして親子のコミュニケーションをはかり、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うことをめざしている。受講料=1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
〃 II	4歳児と親 (20)	① 25 ② 21 ③ 21	水曜日 15:00～16:00 (全32回)	初級(I)でつちかってきた、感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすような心がけ、それぞれの成長の実際に合わせながら、個性豊かな発達をうながす。受講料=1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
〃 III	5歳児と親 (20)	① 19 ② 19 ③ 19	水曜日 16:00～17:00 (全32回)	就学を控えるころになると子どもの感受性も親離れが始まり、子どもたち同士の接触の機会が多くなる。ここでは生き生きと目を輝かせて、音楽を楽しみながら学ぶ。受講料=1期19,000円、2期20,500円、3期14,000円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おんがく大好き ミュージック・パーク ～ダウン症児のための 楽しいリトミック	(組) ダウン症の 2歳6か月 ～6歳児と 親 (10)	(組) ① 19 ② 19 ③ 18	木曜日 15:00～16:15 (全29回)	ダウン症児とその保護者を対象としたクラス。音楽を使って、無理なく楽しみながら療育の手助けをすることをめざす。また音楽での保護者の心身開放も目的の一つとして活動を行っている。 受講料＝1期20,000円、2期20,000円、3期18,000円。
和太鼓グループ	小3～高3 (12)	① 14 ② 12 ③ 10	土曜日 14:30～15:30 (全32回)	湯島に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。 受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
レッツ・プレイ・ サンバ初級	小1～3 (10)	① 11 ② 11 ③ 10	土曜日 13:00～14:00 (全15回)	低学年向け初級講座は、サンバ楽器を使った演奏と踊り(ステップ)を指導。“サンバ”をとおして、音楽の楽しさや仲間と演奏する楽しさ、音楽に合わせて身体を動かす楽しさを感じてもらう。受講料＝各期7,000円。
レッツ・プレイ・ サンバ	小4～高3 (10)	① 14 ② 14 ③ 14	土曜日 15:30～17:00 (全15回)	ブラジルの独特な打楽器を使い、サンバのリズムを楽しくアンサンブルするコース。対象年齢を引き上げたため、より高度で力強い演奏を展開している。 受講料＝各期7,000円。
合唱講座	小1～4 (30)	① 33 ② 30 ③ 30	土曜日 14:00～15:30 (全32回)	遊ぶことをとおして、無理なく体を動かしたり、声を出したりすることを体験する。体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動プログラム。 受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
こどもの城 児童合唱団 I	小2～3 (合唱講座 修了者・30)	① 44 ② 43 ③ 43	土曜日 15:30～17:30 (全32回)	音楽をとおし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験し、総合プログラムを展開。 受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
“ II	(小2～3 (合唱講座 修了者・60)	① 122 ② 118 ③ 115	土曜日 17:00～19:00 (全32回)	
混声合唱 こどもに聞かせる おとなのコーラス	高校生以上 (15)	① 70 ② 70 ③ 69	土曜日 19:30～21:00 (全32回)	子どもたちに、豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざし、合唱を楽しんでいる。メンバーは高校生から社会人と幅広く、コンサートや合宿などのときは、「こどもの城児童合唱団」と活動をともにしている。 受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
三味線A(初心者)	小2～高3 (12)	① 12 ② 9 ③ 9	日曜日 10:00～11:30 (全32回)	初心者にも取り組みやすく工夫したカリキュラムで実施している。年度末にはBスタジオで一般来館児・者に向けてコンサートを行った。受講生による来館児・者への体験コーナーも好評。 受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
“ B(経験者)	小2～高3 (12)	① 5 ② 5 ③ 5	日曜日 11:30～12:45 (全32回)	
ガムラン講座	小1～高3 (15)	① 8 ② 7 ③ 8	日曜日 13:30～15:00 (全32回)	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「ガムラン」の初心者と継続者のクラス。さまざまな音楽的な要素が潜在し、アンサンブルすることでその特異さが分かる民族音楽。受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おんがく星みつけた～就園前のリトミック～	(組) 2歳児 と親 (30)	(組) ① 32 ② 32 ③ 34	木曜日 10:30～11:30 (1・2期10回、3期9回)	就園前の幼児と保護者が対象で、リズム遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。親子でスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料＝1・2期17,000円、3期15,500円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容	
親子 で 作 ろ う 手 作 り 楽 器 の ワ ー ク シ ョ ッ プ	インドネシアの 竹のリコーダー “スリン”	(人) 小1～高3 ※小4以上は 子どもだけで の参加も可 (計50)	(人) 計 50	8.12、23 13:00～16:00	インドネシアの6穴のたて笛・スリンは、インドネシアの多くの地域で演奏され、ジャワ島のガムラン音楽にも使われている。細い棒を竹筒の中でスライドさせて鳥の鳴き声をまねできる、スライドホイッスルも製作。7年目のプログラム。受講料=親子ペア 5,800円、子どものみ=2,900円。(Bスタジオ)
	ベトナム式の 金属で作る “口琴(コウキン)”	// (計50)	50	8.13、29 13:00～16:00	世界各国、さまざまな地域で使われている小さな楽器。その音色は人々を楽しませてくれる。半開きのくちびるにあて、指ではじいて中央の弁を振動させると、口腔や頭に共鳴して音が出るユニークな楽器。“宇宙人のような声が出せる”と紹介。受講料=親子ペア 5,800円、子どものみ=2,900円。(Bスタジオ)
	アフリカの太鼓 “ジェンベ”	// (計90)	90	8.15、18、25 13:00～16:00	「講義」+「製作」+「合奏」のワークショップ。子どもが演奏しやすい小型のジェンベを作った。セネガル出身のパークッションニスト、ワガン・ンジャエローズさんによる合奏指導も前年度以上の白熱ぶりであった。8年目を迎えた大人気プログラム。受講料=親子ペア 9,800円、子どものみ=4,900円。(Bスタジオ)
	インドネシアの 竹の木琴?! “ガンパン”	// (計48)	48	8.16、27 13:00～16:00	ジャワ島のガンパンは、木琴に似た竹製の楽器。“ドレミファ……”の聞きなれた音階と独特な民族音階の両方が楽しめる。受講料=親子ペア 9,800円、子どものみ=4,900円。(Bスタジオ)
	オクターブ8台 つくっちゃう Big アンクルン	(組) 小1～高3 の親子ペア (6)	(組) 8	8.19 11:00～16:00	これまで一人一台のアンクルン講座を行っていたが、8台1オクターブを親子2人で作るコースを設けた。作りなれると楽しそうに作業する親子は、職人顔負けであった。受講料=親子ペア 15,000円。(Bスタジオ)
	インドネシアの 竹のハンドベル “アンクルン”	(人) 小1～高3 ※小4以上は 子どもだけで の参加も可 (30)	(人) 19	8.21 13:00～16:00	“竹のハンドベル”ともいわれ、多人数で演奏する程魅力を発揮する楽器。完成したアンクルンを持って、スタジオ内で演奏(発表会)を行い、保護者に披露。受講料=親子ペア 5,800円、子どものみ=2,900円。(Bスタジオ)
	アフリカのトー キングドラム “タマ”	// (30)	30	8.30 13:00～16:00	太鼓の胴にたくさんのひもが張られていて、ひもをコントロールすることで音程が変化し、しゃべっているかのような音を表現できる。西アフリカのウォロフ族に伝わる奏法をワガン・ンジャエローズさんに指導してもらおう。受講料=親子ペア 9,800円、子どものみ=4,900円。(Bスタジオ)
	ブラジルのサ ンバ楽器 “タンボリン”	// (25)	21	8.31 13:00～16:00	リオのカーニバルで有名なサンバの楽器・タンボリン(小型の太鼓)を親子それぞれで作成。できあがったタンボリンと他のサンバ楽器による“合奏”により、一段と気分は盛り上がった。演奏指導に力を入れたコースになっている。受講料=親子ペア 9,800円、子どものみ=4,900円。(Bスタジオ)
	リピーターのための もっとやりたい ジェンベ	// (30)	9	8.26 13:00～16:00	[こどもの城]のワークショップでジェンベを作った人を対象にした新コース。“マイ・ジェンベ”を持参し、ワガン・ンジャエローズさんのパワフルな指導で、演奏技術を高める。質問コーナーを設けるなど、講師と親睦をはかりながら進めた。受講料=親子ペア 5,000円、子どものみ=2,500円。(Bスタジオ)
	大人のための手作 り楽器“スリン”	指導者・一 般 (30)	16	8.22 13:00～16:00	大人(指導者・一般)のためのコース。本年度は竹のリコーダー・スリン(2種)を作った。制作をとおして、子どもたちに民族楽器を指導する方法を解説。受講料=4,000円。(Bスタジオ)
感じる心を育てる	// (80)	53	11.23 13:30～16:00	日本ダウン症協会理事長の玉井邦夫大正大学教授を招いて、障害児教育について講演も行う。事前に募集した質問に対し、回答してもらおう。ワークショップでは「おんがく大好きミュージックパーク～ダウン症児のための楽しいリトミック」の講座内容の紹介、作曲家でピアニストの福沢達郎さんと音楽スタッフで遊びの専門家の山本誠による楽しいコンサートを実施。参加者とスプーンを楽器にして楽しい時を過ごした。「こどもの城児童合唱団」とのジョイントコンサートも実施。5回目。協力は、日本ダウン症協会。(Bスタジオ)	

3. その他

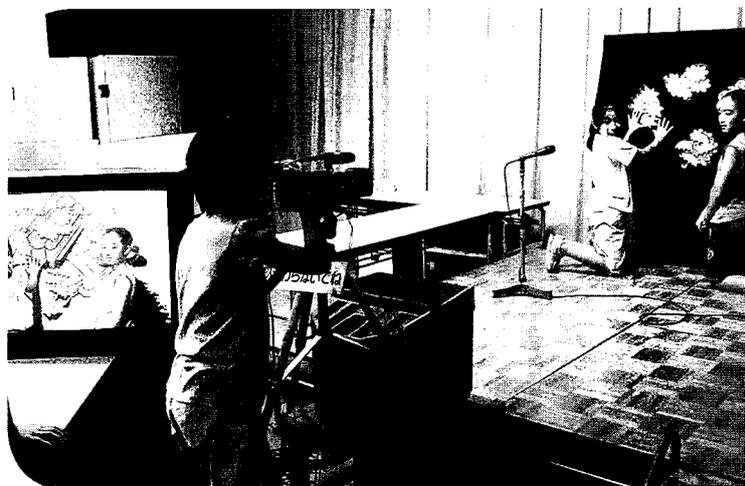
〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
手作り楽器ワークショップとアンクルンコンサート	5.25 ~ 27	インドネシアの民族楽器アンクルン(竹のハンドベルと言われている)の演奏を中心としたコンサート。インドネシアと日本の曲をおりまぜて演奏。だれにでも簡単に音が出せるので、参加コーナーでは幼児(大人が付きそう)から小学校高学年までの子どもたちが楽しそうに参加してくれ、即席でキラキラ星を演奏し、大きな拍手を集めた。「手作り楽器のワークショップ」はフィルムケースを使った4種の鳥笛を制作。(宮崎県延岡市保育士会)
からくた音楽で遊ぼう	10.19 ~ 21	「栃木県児童館フェア」(10月20・21日)のコーナーとしてゲスト参加。ブースを設けてミニ・ワークショップを行った。紙コップを使ったカシン(ブラジルのマラカス)作り。自分で作ったカシンを持って、ブラジルの太鼓(チンバウ)に合わせてリズム遊びやダンスを。128人が参加。10月19日に実施した「音楽遊びの講習会」には児童厚生員等40人が参加。(栃木県子ども総合科学館)
手作り楽器ワークショップ	H20.1.9・10	身の回りにある廃材(フィルムケース)を利用して、音の出る楽器・音具を制作する児童館職員向けのワークショップ。多くの子どもたちの興味をひく、鳥の鳴き声が出せる4種の笛の制作指導を行った。受講者は積極的に楽しむ姿勢で参加し、子どもたちへの展開を約束してくれた。(大分県佐伯児童館)
おはなしコンサート	2.3	絵本の楽しさを親子でゆっくり味わってもらう“絵本の読み語り”公演。おはなしフェスティバルという催しの一環で行った。絵本の読み語りに音楽を活用するための講習会と、絵本を題材にしたワークショップ(企画研修部)を実施。約50人が参加。(千葉県野田市櫛のホール)
ガドガドコンサート	2.29・3.1	オリジナルの音楽遊びやダンス、アフリカやブラジルの民族音楽の紹介など——約1時間のコンサート(3月1日)には、約130人の親子が参加。2月29日に実施した「音楽遊びの講習会」には、保育士等12人が参加。(福島県南会津町保健センター)

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
こどもの城児童合唱団 夏季合宿	8.7 ~ 12 岩手県	岩手県内2か所で夏合宿。「岩手子どもの森」ではスタッフのアイデアたっぷりの企画を楽しみ、また遠野市では地域の子どもたちと一緒に宿泊研修をし、おいしい野菜と星空を満喫。交流を深めた。
「ずっと友だち」コンサート	H20.3.15・16	日ごろの活動の成果を発表する公演。3歳から大人まで、約260人が大集合!元気いっぱい歌って踊って、会場から拍手喝采をあびた。今回は平和をテーマにしたコーナーを設け、来場者と一緒に戦争の恐ろしさ、平和の大切さを歌にのせ考えた。出演は、合唱講座、合唱団ⅠⅡ、混声合唱、みんなで楽しいリトミックⅠ・Ⅱ・Ⅲ、おんがく大好きミュージックパーク。(青山円形劇場)

A(オーディオ・ビジュアル)V 事業部



平成 19 年度の活動

1. はじめに

AV 事業部では、ビデオライブラリー、スタジオおよび音楽ロビー、映像調整室、マスターコントロール室、そして 10 階の AV 資料室を拠点にさまざまな活動を展開している。

【ビデオライブラリー】

VHS、レーザーディスク、DVD などの映像作品が 2 万 2 千タイトル登録されたビデオ図書館であり、利用者は 1～5 人用のブース（計 35 の小部屋）で好みの作品を視聴することができる。登録作品は、子ども向けアニメはもとより趣味・教養・娯楽など多岐にわたっている。

【スタジオおよび音楽ロビー】

A・B 2つのスタジオと音楽ロビーでは、国内外の優れた作品を厳選して行われる「こどもの城映画劇場」や「おもしろビデオ館」などの上映プログラムと、映像を作ったり仕組みを体験することのできるワークショップ「不思議な映像実験室」を実施している。また、夏休み特別期間などには「映像科学ワークショップ」と題する各種講習会も行っている。

【映像調整室】

B スタジオで行われるコンサートや、各種イベントの様相を収録するとともに、館内テレビへ中継する。また、館内各所で行われるプログラムを映像に記録し、館内テレビ用の催物案内映像を制作・送出する。

【マスターコントロール室】

青山劇場・青山円形劇場で行われる公演や、一部講座・野外活動などの内容を収録・編集する。でき上がった作品は、ビデオライブラリーにオリジナル作品として登録

するほか、関係者には実費で頒布している。

【AV 資料室】

ビデオライブラリーに登録する作品の事前チェック（試視聴）や、運用に必要なデータベース（頭出し時間、視聴時間、収録作品数、概要、言語、対象年齢など）の構築を行う。また、ビデオライブラリー内の各種目録（あいうえお順、分類順、絵・写真入）作成などのほか、視聴促進のためのさまざまな企画も立案する。

2. 館内テレビ放送を使った ニュースキャスター体験

（ア）ニュースキャスターコーナー

特別期間に B スタジオで、ビデオインスタレーション的なイベントを行っている。その催しの 1 コーナーとして、ニュースキャスターの体験をするコーナーを実施。キャスター体験といってもごく簡単なもので、小学校低学年から、幼児でもある程度楽しめるものをめざした。



ドルッチャワークス「お仕事体験～ニュースキャスター」

キャスター体験というより、“キャスターごっこ”といった方がイメージが近いかもしれない。

子どもたちには、まずニュース原稿を書いてもらう。自分で原稿を書く、という部分が“アナウンサー”体験ではなく“キャスター”体験としている理由である。ニュースの内容は、今日自分がおもしろいと感じたこと。この原稿をカメラの前で読み上げ、“私のニュース”となる。収録は、キャスター席の前に収録のための機材をそろえたブースを用意し、子どもたちがニュースを読んでいる目の前で行った。

Bスタジオの隣には、映像調整室というスタジオの催しを収録し、館内にテレビ放送するための部屋がある。本来ならばスタジオにキャスター席を設置し、その収録は映像調整室で行う設計である。しかし、この催しでは収録ブースをスタジオの中に設置し、子どもたちから見えるところで収録作業を行った。テロップを合成したり、音声を調整して完成の画面に至るまでの一連の作業を、子どもたちの目の前で行うことで、映像が作られる過程全体を体験してもらうためである。

収録したニュースは、時間をずらして館内のテレビに放送した。ニュースにもかわらず、生放送で行わない理由は、一人ずつ練習をしてから本番を行うため、放送の切り替えが煩雑になると、出演した子どもが自分が館内テレビに映っているところを見ることができるようにするためである。

この催しは、子どもたちがニュース原稿という短い文章を作るところから始まる。これまでAV事業部で取り組んできた遊びで、子どもたちが自分で感じたことを文字にして表現していく催しは初めてではないだろうか。新しい形態の催しとして、今後も改良を加えながら展開していきたいと考えている。

(イ) あそび day キャンプ「こども特派員」

「あそび day キャンプ」では、企画研修部と共同で「こども特派員」という、ニュースキャスターコーナーのスペシャル版を実施した。10時30分から17時まで、ほぼ1日かけたプログラムである。一般来館児・者向けのキャスターコーナーは、その場で原稿を書いて読むだけだが、「こども特派員」ではスチールカメラを持って館内で取材を行った。また、「あそび day キャンプ」のテーマの一つが“仲間作り”のため、グループに分かれてプログラムを進めた。

取材するニュースネタは、あらかじめいくつかの候補を決め、その催しを行っている事業部にも事前に協力を依頼した。子どもたちは6人3グループに分かれ、グループごとにニュースネタの候補の中から一つを選んで

取材を行う。写真撮影やインタビューなどの取材を終えた後、会議室でニュース原稿を書き、取材結果をグラフや図解したボードを作り、写真を選んで自分たちがニュースを読む際に必要なものを準備していった。準備を終えたら、Bスタジオの「びっくりビデオ広場」内のニュースキャスターコーナーへ移動して発表をする。生放送でニュースを発表した後、ニュース原稿と写真を使って新聞を作り、全てのプログラムが終了となる。

これまでAV事業部で行ってきたプログラムは、視覚がん具を“工作”するなど、ものをつくるプログラムが多かったが、今回の「こども特派員」では子どもたちが“自分の考えをまとめる”という作業の多いプログラムとなった。

ワークショップでの“工作物”は、ある一定のフォーマットにしたがって作業を進めるなかで、一定の完成度を保つことができる。しかし今回のような“考えをまとめていく”プログラムで、これまでのようなフォーマットを作っていくことが可能なのか、“考える”ということをフォーマット化できるのか、今後検討の余地があると考えている。

(ウ) ファミリードルッチャワークス お城TVスタジオ

「お城TVスタジオ」は、前年度に実施した全館事業プログラム「ドルッチャワークス」にあわせて「お城TVニュースセンター」としてスタートした。子どもたちが楽しみながら職業体験（「こどもの城」としての定義は“誰かに認められること、喜ばせること”と設定）もできるプログラムを提供するということで、Bスタジオをテレビスタジオにし、ニュースキャスター体験などを実施した。

今回も、全館事業プログラム「ファミリードルッチャワークス」にあわせて実施した。「こどもの参画」「家族の再発見」がテーマとなっていて、「お城TVスタジオ」は、子どもたちが地下2階の「夢のこどもの城」のスタッフとなり、遊びのお店を出すための研修プログラムという位置付けも兼ねていた。

研修プログラムとしては、ニュースキャスター体験コーナーをアレンジして、事前に用意した「ファミリードルッチャワークス」のイベント案内を収録し、館内放送で流すこととした。これにより、子どもたちに研修を受けさせると同時にイベントの宣伝にも役立ち相乗効果を得られた。

一方、実施時期がファミリーウイーク期間ということもあり「家族の再発見」もテーマに取り入れ、ニュースキャスター体験コーナーの原稿に「家族のニュース」を新しく用意した。これは、家族のなかで起こったニュ

ースを子どもたちが館内放送で紹介するというもので、子どもたちに、もっと家族のことに興味をもってもらうというねらいで実施した。

その他、一般来館児・者向けのコーナーとしては、クロマキー合成で「こどもの城」の天気予報をして遊ぶお天気コーナーと、実際に収録はしないキャスターブースを設けてキャスター気分を体験しながら記念写真を撮影できるコーナー、自分の考えたニュースを収録して館内放送で紹介するニュースキャスター体験コーナーを実施した。

3. その他の活動

(ア) サタデー・ラボラトリー

【新規プログラム】

「モアレにチャレンジ」では、モアレ現象を利用して不思議な絵を作った。モアレ現象とは、規則正しい繰り返し模様を複数重ね合わせた時に、それらの周期のずれにより視覚的に発生するしま模様のことで、このプログラムでは、細かいしま模様の線の入った用紙に、同じ模様の4色の用紙ではり絵を作成し、その上にまた同じ模様のOHPシートを重ね、OHPシートを上下左右に動かしたり、回転させてずらすことにより動きのあるはり絵を完成させた。切りばりする用紙の模様の変えてはると、絵の動き方が変わって見えたり、1色で作ると隠し絵になったりと幅広いアレンジが可能。

「アナモルフォシスに挑戦！」では、もともになる絵から“ゆがみ絵”を制作した。四角いマス目のグラフのなかにもともになる絵を描き、その絵を扇形のマス目のグラフに置き換えていくと、扇形に湾曲した絵が完成する。一見何の絵か分からなくなるが、円筒にしたミラーシートを指定の場所に置くと、そこに写った絵がもとの絵と同じに見えるようになる。

紙コップを素材としたアニメ作りでは、多人数の子どもたちが一緒にアニメ撮影を楽しむことができるよう、新たに以下のようなゲーム性を加味した方法を取り入れた。すごろくのようにマス目を描いた競争用トラックを作り、そこに複数の紙コップ人形を並べる。順番にサイコロを振って、出た目の数だけ自分の人形を進め、その都度1コマずつコマ撮りしていき、最後の人形がゴールするまでこれを続ける。完成した画面を見てみると、人形が抜きつ抜かれつと競争しているように見える。ひとまず分が動かす距離の基準になるので、人形の動きがおおざっぱにならないといった点も、この方法ならではの特徴である。またこのプログラムでは、高学年向けに、ハトメで可動する関節を付けた紙人形の骨

格を用意し、それをアニメートして“歩き”を表現するコーナーも試験的に実施した。

【スペシャルプログラム】

学校週5日制への対策としてはじまった土曜日の小学生プログラムを中心に、2月9～11日の3連休に、「小学生プログラムスペシャル」を企画研修部・体育・音楽・造形・プレイ・AV事業部共同で実施した。来館児・者の低年齢化が進むなかで、小学生対象の魅力的なプログラムがあることをアピールしていくための催しである。それぞれのプログラムに参加した子どもが一目で分かるよう、共通の名札を作って参加した子どもたちに着用してもらった。

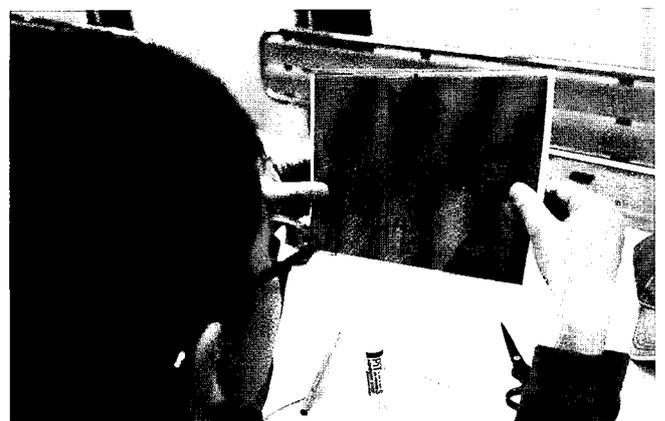
実施にあたって、各部門の小学生プログラムのねらいについて再考したところ、「自分で発見する、考えて見つける」という共通項がみえてきた。そこで「発見！」をテーマにして、各部署でスペシャルプログラムを組み立てた。

「サタデー・ラボラトリー」では「みる、きく、つたわる 音のふしぎ」を実施。展示やワークショップで、音が聞こえる不思議や伝わる仕組みを体験。ワークショップは3つのコーナーを設け、糸電話の仕組みを体験する「スーパー糸電話」、透明なフィルムに線などの模様を描いて光学再生する「音を描く」、録音した音声を逆回転再生させて正しく聞こえるようにしゃべる「逆回転でしゃべろう」を実施した。

(イ) ビデオライブラリー視聴促進活動

ビデオライブラリーでは、特別期間を中心に、ふだんあまり視聴されることのない分野のビデオ作品や、テーマに沿ったビデオ作品の視聴促進活動として、いろいろな特集を行っている。本年度は、「のりもの」「童話・絵本」「魚」「クリスマス」「懐かしのアニメ」などの特集を行った。

「のりもの特集」は、恒例となった鉄道イベントにからめた特集である。鉄道イベントでは、Nゲージの鉄道



サタデー・ラボラトリー「モアレにチャレンジ」

ビデオライブラリー 魚特集「魚つりゲーム」



模型を走らせるコーナーや、車のおもちゃを使ったゲーム大会、乳幼児向けの乗り物おもちゃのコーナーなどの遊び場をスタジオに設置した。ビデオライブラリーには乗り物にかんするビデオ作品がたくさんあるが、年間をとおして比較的視聴される分野に入る。特に、小さな子どもの電車にかんする知識はすごいものがある。恐らく家庭でも、映像や本、おもちゃで親しんでいるものと思われる。今後も「のりもの特集」については、利用者の要望が多いので続けていきたい。

ビデオライブラリーには、500タイトル以上の童話・絵本のビデオ作品がある。「童話・絵本特集」では、過去20年間で、どんな童話が多く見られたかをランキング形式で掲示をして、童話・絵本への関心をより深めてもらおうと考えた。ビデオ作品にはセルアニメ、人形劇、影絵、陶器人形、着ぐるみなど、さまざまな手法で作られたものがある。ちなみに第1位は“セルアニメのシンデレラ”、第2位は“人形劇の人魚姫”であった。1つの童話をビデオ作品にするとき、いろいろな作り方や伝え方があるので、見比べることを奨励してきた。見比べながら、そのビデオ作品が伝えようとしているものを感じ取ることが大切であるとする。この特集では、そのほかにペーパークラフトの「赤ずきんの指人形を作ろう」のコーナーも設けた。

夏休み特別期間には、「魚特集」を実施した。動物にかんするビデオはよく見られているが、魚についてはあまり見られない。そこで、魚をもっと身近に感じてもらうため、魚の写真を使ったかるたを作成して「魚かるた大会」を行ったり、魚の写真を型どりしたものに磁石をつけて「魚つりゲーム」を実施したりして、興味がわくような工夫をした。「魚かるた大会」や「魚つりゲーム」は大いに盛り上がったが、あまり作品視聴には結びつかなかった。

「クリスマス特集」は季節柄、視聴促進の意味合いよりも、施設の雰囲気作りに力を入れた。クリスマスのオーナメントのぬり絵をして、大きな紙のツリーにはりつけて、何本ものツリーをライブラリーいっぱい飾りつけた。

「懐かしのアニメ特集」では、お父さんお母さんが子どもころに見たアニメーションを、子どもと一緒に見ることで、映像を使って親子のコミュニケーションの機会になればと考え実施した。

いろいろな特集を組むことで、ライブラリーの活性化を今後も考えていきたいと思う。

4. まとめ

〔こどもの城〕が対象とする利用者の年齢層は、0歳～18歳未満と幅広い。利用層の中心となっている低年齢の子どもがアニメ好きだからという理由で、幼児用のアニメばかりを用意しては、小・中学生からは見向きもされなくなる。従って、ビデオライブラリーでは対象年齢各層向けの作品を、まんべんなく調達する必要があり、実際にそのような対応をとっている。

イベントにかんしても同様である。特に、不特定多数の子どもを受け入れる開放型のイベントでは、年長の子ども用と同様に、低年齢用のプログラムのことも考えておかなければならない。

本年度の「館内テレビ放送をつかったニュースキャスター体験」が、幅広い年齢層に対応したプログラム作りの一つの例といえる。このプログラムは「ニュースキャスターコーナー」「あそびdayキャンプ」「ファミリードルッチャワークス」の3つの枠の中で展開した。それぞれの枠は求められるテーマも、対象年齢も異なっていたが、テーマが要求するあらゆる要素を洗い出すことによって、幼児から中学生程度まで、かなり広い年齢層に対応するプログラムとして展開することができた。臨機応変に対応することができたのも、20数年来のノウハウの蓄積があればこそだと自負している。

この方法は、一人の子どもに対する継続的なサービスとして展開することもできる。子どもがどんな年齢に成長しても、〔こどもの城〕には、それを受け入れる体制が、常にあるということだ。

特定の学年を対象とする“学年雑誌”は、同じパターンを1年周期で繰り返すが、子どもの方が成長してこれを通過していくために、子どもには常に新しい刺激がもたらされる。今後の我々の活動にも、あらゆる年齢向けの引き出しを用意していくことが重要であると感じる。

平成 19 年度活動一覽表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
ビデオライブラリー 自由利用	開館時間中	趣味、教養、娯楽、スポーツ、アニメなど、幅広いジャンルにわたるビデオソフトを 22,000 タイトル以上所蔵するビデオの図書館。利用者は、ビデオライブラリー内に設置された 35 のブース (小部屋) で好みのソフトを視聴できる。 (ビデオライブラリー)
おもしろビデオ館	金曜日 15:30～16:00	ビデオライブラリーにある上映可能なビデオソフトから、テーマを決めて選び、上映。作品に興味を持ってもらうため、上映のあとに手作りの絵本を作っている。 (B スタジオ)
サタデー・ラボラトリー	土曜日 13:00～16:00 (受付時間)	小学生～高校生を対象とした、身近な不思議を体験するプログラム。クラフト、科学遊び、映像遊びなどを週がわりで実施。新規のプログラムも増やして、フレッシュなイメージを保つことに留意している。プレイ事業部と共催。 (プレイホールほか)
不思議な映像実験室	土曜日 15:30～17:30	2枚の絵を描いて作るアニメおもちゃ「くるくるアニメ」と、表と裏の絵が重なって見える「ソーマトロープ」を実施。ソーマトロープは、季節に合わせた用紙を充実させた。ボランティアスタッフによる簡単な視覚がん具の展示コーナーも併設。 (音楽ロビー)
不思議な映像実験室	日曜日・祝日 (月1～2回) 11:00～17:30	映画発明以前からあった、絵が動いて見えるおもちゃ (視覚がん具) の展示とワークショップを行った。展示と幼児向けのくるくるアニメコーナーは、随時参加できるようにしてある。ワークショップは、時間枠を決めて実施。「ソーマトロープ」(11時30分～12時30分)、「フィルムに絵を描こう」(13時30分～14時30分)、「ぱたぱたアニメをつくらう」(15時30分～16時30分)を実施した。 (B スタジオ)
こどもの城映画劇場 カナダのアニメーション	日曜日・祝日 (月1～2回)	フィルム・ライブラリー「武藤行雄記念文庫」収蔵のNFBCのアニメーション作品を上映 (11時35分、13時35分、14時35分、15時35分)。これまで1日に同一プログラムを4回上映していたが、本年度は2・3プログラムを上映し、同じ人が複数回会場を訪れても楽しめるよう試みた。 (B スタジオ)
館内放送テレビ中継録 画	日曜日・祝日、特別期間	B スタジオで実施される音楽事業部担当「わいわいスタジオ」などを館内のテレビへ中継および録画。特別期間には、「こども活動エリア」の催し物案内を中心とした映像情報の作成・送付も行った。 (B スタジオ・映像調整室)
おもしろビデオ館スペシャル「シャーロットの贈り物」DVD 発売記念試写会	5.13	くもと子ぶたの友情を描いた映画「シャーロットの贈り物」のDVDの発売を記念した試写会を行った。こどもの城友の会とソフト発売元の招待という形で事前申込制とした。 (B スタジオ)
走れ! キャッスルトレイン～ミニバージョン& こども鉄道模型運転会 (第28～32回)	5.19・20 (第28回) 6.23～7.1 (第29回) 9.29・30 (第30回) 11.10～18 (第31回) H20.1.19・20 (第32回)	第28・30・32回は「ミニバージョン」。鉄道のおもちゃや車のおもちゃで遊ぶことができるようにした。第29・31回は「こども鉄道模型運転会」。鉄道模型 (Nゲージ) の運転を体験できるプログラム。鉄道関連のパソコンコーナーやプラレールコーナーなども設置。 (フリーホール)
秋まつり 「屋上映画上映会」	9.22・23	秋まつりのイベントの一つとして、屋上ふしぎが丘からビデオライブラリー・造形スタジオの壁面につるした白いシートに16mm映画の上映を行った。23日は小雨と強風のため上映は中止。 (屋上ふしぎが丘)
「101匹わんちゃん」試写会	H20.3.8	企業との提携で、ウォルト・ディズニー作品「101匹わんちゃん」を友の会と一般利用者を対象に試写会を行った。 (フリーホール)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈春休み〉 ビデオライブラリー のりもの特集	4.1～6	乗り物ビデオの視聴促進。車のコーナーやプラレールのコーナーなども設置。 (ビデオライブラリー)
〈児童福祉週間〉 〃 童話・絵本特集	4.28～5.6	過去20年間で、どの童話のビデオ作品が多く視聴されていたかをランキング形式で発表。また、ペーパークラフト「赤ずきんの指人形を作ろう」のコーナーも同時に行った。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 おもしろビデオ館スペシャル カートゥーンネットワークアニメシアター	4.28～30、5.3～6	アニメ専門チャンネル「カートゥーンネットワーク」で人気のアニメ作品を上映（11時、13時35分、14時35分、15時35分）。5月5・6日には上映作品の一つ、リトルロボットのキャラクターの着ぐるみが登場し、来場者と記念撮影などを行った。（Bスタジオ）
〈夏休み〉 ビデオライブラリー 魚特集	7.21～8.31	いろいろな魚を身近に感じてもらえるように、魚のぬり絵コーナーや魚かるた大会、つりゲームなどを行った。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 サタデー・ラボラトリー まつり 夏の陣	7.21～29	「エンジョイ吹き矢」(21～23日)、「君の絵がぐるぐる動く!! 驚き盤をつくろう」(24・25日)、「スライムの科学」(26・27日)、「ニットに挑戦～金魚リン」(28・29日)に加え、「クイズ100問答えてラリー」(21～29日)を行った。また幼児コーナーとして、夏向けの絵柄の用紙を加えた「ソーマトロップ」を実施。 (Bスタジオ)
〈 〃 〉 びっくりビデオ広場	8.1～9	ビデオの特殊効果装置などを使ったビデオインスタレーション。本年度は、赤と青のサインペンで描いた絵を、赤と青のフィルター越しに交互に見ると、フィルターと同色の色が見えないことを利用した「赤青アニメ」や、地図の映像と自分の姿を合成して、お天気予報ごっこをするコーナーを加えた。 (Bスタジオ)
〈 〃 〉 不思議な映像実験室	8.12～19、8.21～9.2	視覚がん具の展示とワークショップ。展示コーナーは、本格的な視覚がん具の再現品から、夏休みの宿題のヒントになるような身近な材料で作れる視覚がん具を展示。ワークショップコーナーは、幼児から小学生低学年を主な対象に「くるくるアニメ」を実施。(Aスタジオ)
〈開館記念〉 ビデオライブラリー ビデオ動物園	10.31	「赤ちゃん大集合」に合わせて、ビデオライブラリーの各ブースを映像動物園にした。その他、動物おもちゃのコーナーも設置。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 〃 のりもの特集	11.1	「赤ちゃん大集合」に合わせて、乳幼児向けプログラムを実施。企業の協力で赤ちゃん向けの車のおもちゃで遊べるコーナーも設置。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 お城TVニューススタジオ	11.3・4	「ファミリードルッチャワークス」の一環で実施。天気予報コーナーとキャスターになって記念写真を撮れるコーナー、読み上げたニュースを収録放送するコーナーを設けた。“お仕事体験”のプログラムとして、[こどもの城]のイベント案内を収録放送した。(Bスタジオ)
〈冬休み〉 ビデオライブラリー クリスマス特集	12.1～25	クリスマスに関連したビデオソフトの視聴促進活動を目的に行った特集。期間中は「クリスマスツリーを飾ろう」のコーナーを設置。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 ミラクルスタジオ	12.26・27、H20.1.3～7	音楽事業部と共同で映像と音をテーマにした展示を実施。今回はテレビに映った自分の姿に光線の映像が合成される「ミラクルビーム」を新たに加えた。光センサーが仕掛けてある「魔法の玉」に触れると光線の映像が画面に現れる。 (Bスタジオ)
〈 〃 〉 ビデオライブラリー 懐かしの アニメーション特集	H20.1.3～7	お父さんお母さんが子どものころに見たアニメーションを紹介し、子どもと一緒に見ることで親子のコミュニケーションの機会とさせたいと考えた特集。(ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 ピンホールカメラで遊ぼう	1.5	干支やお正月にちなんだ絵が、影絵として写し込めるピンホールカメラを実施。4種類の影絵が仕込まれたピンホールカメラから、好きなものを選んでインスタントフィルムに撮影した。 (ギャラリー)

名 称	日 時	内 容
〈春休み〉 走れ！キャスルトレ イン プラレールコーナ ー ブーブー広場	3.25～31	プラレールコーナーに、0～2歳児親子のための「ブーブー広場」を設置。(Aスタジオ)

2. 講座・クラブなど

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏 休 み 映 像 ・ 科 学 ワ ー ク シ ョ ウ ブ	いきもの図鑑 (人) 小1～高3 (4日間＝ 2回/日＝ 計96)	(人) 計 63	8.12～15	オリジナルペーパークラフトで“いきもの”を再現する。「ヘラクレスオオカブトムシ」「トノサマバッタ」「オオカマキリ」を交互に制作。他に数種類のおまけの型紙つき。受講料＝1,800円。(Aスタジオ)
	天体望遠鏡工 作教室 (人) 小4～高3 (4日間＝ 2回/日＝ 計96)	計 90	8.16～19	塩化ビニールパイプやボール紙など、身近な材料を使って天体観察用望遠鏡“マックロースコープ”を作る。受講料＝2,300円。(Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ 「映画のしくみを体験！」 ムービーミエ ール (人) 小3～高3 (1日間＝ 2回/日＝ 計24)	計 24	8.21	35mm 映画フィルムを動かしてみる、簡易フィルムビューアーを制作。ムービーミエール本体の組み立てと、ピエロがパントマイムをする白黒映画フィルムへのダイレクトペイントを体験。受講料＝2,800円。(Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ 「映画のしくみを体験！」 キノーラ (人) 小1～高3 (4日間＝ 2回/日＝ 計96)	計 96	8.22～25	ぱらぱらマンガを、アニメのように連続して見ることができる装置、キノーラを制作。装置を組み立て、15～30枚の動く絵を描いてセットする。受講料＝2,100円。(Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ 「映画のしくみを体験！」 ブラクシノス コープ (人) 小1～高3 (6日間＝ 2回/日＝ 計144)	計 145	8.26～31	映画が発明される前にあった視覚がん具、ブラクシノスコープを制作。帯状の紙にアニメのように絵を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵がアニメのように動いて見える映像おもちゃ作りを体験。材料費の都合で100円値上げ。受講料＝2,400円。(Aスタジオ)
あそび day キャン プ こども特派員	小3～中3 (15)	18	8.1	子どもたちが【こどもの城】の催しなどを取材。取材内容をまとめてニュース原稿を作り、館内のテレビ放送で発表。その後、まとめた記事を再構成して新聞を作った。(研修室・Bスタジオ)

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
不思議な映像実験室	6.9	低年齢向けの内容をとの希望があったので、「くるくるアニメ」と「ソーマトロップ」を中心に紹介。この講習会から新しいテキストを使用。ここ数年間使用してきたテキストで足りないと感じた事柄を積極的に記載したもので、講習会の内容に合った情報量の豊富なものになったと思う。(奈良県橿原市飛驒市民センター)
アニメ・ワークショップ ／不思議な映像実験室	10.27	花川北コミュニティセンターでの行事「こどもまつり 2007」のプログラムの一つとして午前中に子ども対象の催し、午後に指導者講習会を実施。(北海道石狩市花川北コミュニティセンター)

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
聖徳大学生涯学習社会 貢献センター「子ども の体験コーナー」	6.24	保育園児を対象に、「くるくるアニメ」と「ぱたぱたアニメ」作りを体験するワークショップを実施。 (千葉県松戸市聖徳大学生涯学習社会貢献センター)
日野市中央公民館アニメ 教室	7.26・27	紙コップ人形や切り絵などを使って、アニメ作りを体験するワークショップを実施。 (東京都日野市中央公民館高幡台分室)
映像教育実践セミナー	7.25、8.7	〔こどもの城〕での映像プログラムを、教員や指導者を対象としたセミナーで紹介。 (横浜市情報文化センター)
パルテノン多摩 アニメ・ワークショップ	8.11・12	毎年恒例のワークショップを本年度も実施。視覚がん具作りの初級コース、紙コップ人形アニメを作る中級コースを開催。 (東京都多摩市パルテノン多摩)
児童健全育成推進財団 こども映画祭	H20.2.2	(財)児童健全育成推進財団平成19年度「こども映画祭」上映の視察、指導。アニメ『マダガスカル』を上映。 (千葉県佐倉市南部児童センター)
〃	2.16	同上。映画『シャーロットのおくりもの』を上映。(東京都町田市子どもセンターつるっこ)
川崎市アートセンター 「アニメ1日教室」	3.30	「ぱたぱたアニメ」と「紙コップ人形のアニメ」を作るワークショップを実施。 (神奈川県川崎市アートセンター)

〈映像記録〉

名 称	日 時	内 容
館内活動の記録	通年	講座などをビデオ取材し、ソフト化して参加者に販売。体育事業部「母と子のすくすくランド」(Part 1～3)の3本。同作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。
館外活動の記録	夏休み、冬休み、春休みの 各特別期間	〔こどもの城〕の館外活動に同行してビデオ取材、ソフト化して参加者に販売した。体育事業部「チャレンジキャンプ2007」「スキースクール」(Part 1－1期、同一2期およびPart 2)／プレイ事業部「ちびっこ冒険団2007」「フェロシップキャンプ2007」「ゆきんこ冒険団2007」／企画研修部「ジュニア・アウトドア・スクール2007」「ジュニアスプリングキャンプ2008」。 上記作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。視聴できる。
劇場公演の記録	通年	青山劇場・青山円形劇場の公演・講座発表会をビデオ収録し、編集してビデオライブラリーで公開。さらに一部を出演者などに販売。 ◎青山劇場＝「青山太鼓見聞録」など。 ◎青山円形劇場＝「こどもの城マタニティー・コンサート」「ア・ラ・カルト」「デーモン小暮の邦楽維新 collaboration 煩惱のゴブレット」「月猫えほん音楽会2007」「こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ タントさんのふしぎなレストラン2」など。 青山劇場・青山円形劇場を合せて、25本を収録。
館内の催し案内生放送	夏休み・冬休み特別期間中の 数日	館内の催し案内を、〔こどもの城〕スタッフが出演して生放送で行いたい、という提案を受けて、仮設中継システムを組んで放送を行った。Bスタジオの夏休み特別期間「びっくりビデオ広場」、冬休み特別期間「ミラクルスタジオ」で生放送コーナーを設置。Bスタジオの催しの都合で、スタジオからの中継が困難なときは、劇場収録等の予定に影響のない範囲でマスターコントロール室から中継を行った。さらに、館内各所よりイベント実施中の模様を実況中継した。

保育研究 開発部



平成 19 年度の活動

1. はじめに

本年度も“子ども家庭支援プログラム”を3つの事業に分けて行った。保育事業(「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」)、一般来館児・者事業(「親子工房」「よちよちクラブ」「1・2歳児の遊び場」)および研修事業(「保育セミナー」「家庭支援の理論と実践」「子育て支援のニュースレターの発行」)である。

3つの事業は互いに有機的につながっている事業で、保育事業のなかから一般来館児・者事業へ生かせる内容を「親子工房」「よちよちクラブ」のプログラムに取り入れ、また保育事業から見える子どもを取り巻く課題・問題点などは研修事業の内容作りに生かしている。

本年度は、3つの保育事業の一つである低年齢児向け講座の「親子教室」から見える、家庭育児の姿について取り上げる。毎回、参加前の子育てへの思いを記述形式で聞いているが、今回は参加後にも子育てについて気づいたことや、自分が変わったことをアンケートで聞いてみた。そこから見えた保護者の気持ちの変化を紹介する。

「保育クラブ」「幼児グループ」は、それぞれの保育形態を紹介するとともに、保育活動のなかのテーマ活動から、保護者やその他の大人が直接・間接的に参加した内容を紹介する。保育活動は、遊びの時間(自由遊び・テーマ活動)、食事の時間、集まりの時間など、生活と遊びのバランスを考えて行っている。遊びの時間のなかには自由遊び(自由に好きな遊びを見つけて遊ぶ=保育室、屋上、館内)とテーマ活動(表現活動、プール、砂場、館外活動をテーマにそって展開する)の2つの形

態の遊びの時間がある。テーマ活動の内容は、保育者が子どもの年齢や興味・経験を考慮して選定しているが、2歳児保育(3または4時間保育)、3～5歳児保育(4または6時間保育)、幼児グループの各保育で、ほぼ毎回行っている。そのなかから、いくつかのテーマ活動を紹介する。

2. 3つの保育事業

(ア) 親子教室

講座形式で行っている、1歳児親子の家庭を対象にした10回連続の子育て支援プログラムである。開館当初は「母子教室」という名前で行っていたが、平成6年から「親子教室」と名前をかえ、対象も母と子から母と子と父にして現在に至っている。平成17年度から土・日曜日に行っている家族プログラムを4回に増やし、家族が子育ての楽しさ・喜びを感じられるようなプログラム作りに力をいれた。



親子教室「親子でバスケット」

10回のプログラムの前半は、母と子を対象にしたプログラムが中心で、後半は母親や父親が学びながら、また家族と一緒に遊びながら、楽しく育児をする時間になるようにプログラムを組み立てている。

まずは、他の家族との出会い。参加者がプログラムと一緒に楽しめるようにと、音楽遊びや新聞遊びを行う。あわせて、2つのテーマ（離乳食から幼児食に変わる時期の食事の工夫や心の発達・現状理解）を、2回に分けて管理栄養士や臨床心理士をまじえて話し合う。母親同士が子育ての話をし、工夫点に気づいたり、悩んだりしていることも、子どもの発達の過程であることを互いを知る機会としている。

後半は、ファミリーで遊ぶためのプログラム。小麦粉粘土作り、他の家族と一緒にゲーム遊びなどをおして、より家族が仲良くなり、他の参加者とも打ち解けあうことのできるプログラムにしている。ファミリープログラムとして「親子でバスケット」「オセロ風ひっくり返しゲーム」「じゃんけん列車」などを行っている。どれも子どもと一緒に、母親・父親も楽しめるようなプログラムの選び方をしている。

さらに、母親・父親が小児科医師の話聞きながら、自分が幼かったころを思い出し、子どもの健康な育ちを再確認する場も設けている。

修了式をひかえるころに、母親同士のディスカッションの時間を設けている。日常生活のなかで、みんなはどうしているのかなど、聞いてみたいことを中心に話し合う。時間が足りないぐらいに盛り上がり、もっと時間がほしいとの要望が毎回だされるほど好評を得ている。おやつあげ方、午睡の時間帯、遊び場所、幼稚園選びなどさまざまな話題が出される。

母子で遊ぶ時間（手遊びほか）、他の母子と一緒に楽しむ時間（ダイナミックな新聞紙遊び・給食ほか）、母親同士が専門家をまじえ、同じテーマのもとで育児を考える時間、家族で遊ぶ時間（スキンシップ遊び）、他の家族も交えて遊ぶ時間（小麦粉粘土作りほか）、父親同士で子育てを語る時間（「家族で最近出かけた場所は？」などと家族の話題を話す）、家族で学ぶ時間（小児科医師による講義）、家族で参加した喜びを味わう時間（修了式“ごっこ”）、家族で家族の良さを振り返る時間（「家族とは？」と短いスピーチをする）など、いろいろな時間をたくさんの親子・家族とふれあいながら過ごし、各家庭がより豊かな子育てへつながるようにと、細かな配慮をしながらプログラム内容を作っている。

参加前のアンケートでは「1対1になりがちな親子関係をやめたい」「母親の情報交換をしたい」「初めての子育てなので、多くの親子と触れ合う機会を持ちたい」「母

親のストレスやイライラを相談する場が欲しい」「父親にも子どもの成長を見届けるよい機会となって欲しい」など、他の家族と一緒に子育て時期を楽しく過ごしていきたいと願う姿がみられた。

参加終了後のアンケート結果では——「子どもが人に対して、積極的になり、友だちとのコミュニケーションをとり、手遊びや遊戯も家でやりはじめるようになった」「母親は皆同じ悩みを持っていることを知り、気持ちが前向きになって、子育ての楽しさを感じるようになった」「自分自身の気分転換ができるようになった」「小児科の先生や心理の先生の話聞いて、1～2歳の子どもが以前よりわかるようになり、イライラすることが少なくなった」「子どもが友だちと遊ぶ姿を見て、とてもうれしく感じた」「父親は以前より子どもに関心を持ち、夫婦でしつけや教育について話し合えるようになった」「子育てにかんする自分の視野が広がり、協力的になった」「家族みんなで教室に通ったことで、子どもと一緒にしとげたという達成感が子育ての自信につながった」「父親が家事も少しずつ手伝うようになった」と子育てに前向きになった姿がうかがわれた。

近年は、両親が1歳児の発達の姿を知らないうちに、子どもの姿に悩みを深める傾向があるが、専門家の話「子どもの育ち」を一緒に聞くことで、安心につながっていくようにみられる。また、母親はわが子と同年齢の子どもや、その母親と一緒に過ごす時間を持つことで、日常的な悩みが軽くなり、育児を前向きに考えることができるようになっていき、子育てにゆとりがはじめていく姿が見られた。

父親も、母子とともに家族で楽しむプログラムを過ごすことで、より家族が身近になり、子育てに協力する家庭も出てきた。結果、父親が子育てに参加してくれることは、母親の安定感につながっていることが、母親の表情・姿からうかがえた。

本年度の参加者は、第1子での参加が42組中33組、親の平均年齢父親39歳、母親36歳であった。第1子の育児から、教室への参加を望む傾向が強い。

3期をとおしての応募総数は48組で、参加したのは16組、16組、10組の計42組だった。父親の参加率は年々増している。父親の参加率は、約73%で、前年度より3%アップしている。

（イ）保育クラブ

「保育クラブ」（2～5歳児）の登録定員は年間450人であるが、本年度の登録数は456人だった（兄弟、「親子教室」修了児が随時入会する）。本年度も、子どもにより良い保育環境や集団遊び（異年齢児保育が魅力）の

体験をさせたいとの応募理由が多かった。

会員には「保育プログラム」「家族プログラム」「情報提供サービス」の3つのサービスを行っている。「保育プログラム」では、異年齢児混合保育（1・2歳児、3～5歳児）、チーム保育（各保育者の持ち味を生かす）、保育ボランティア（小5～社会人）の参加——などが特徴であることを伝える。また、保育クラブの利用の仕方について、「保育クラブガイドブック」を入会の際に配り、ていねいに説明、納得した上で入会してもらっている。家族プログラムは「親子遠足（春・秋）」「親子工房」など。情報提供プログラムでは「保育クラブ通信（おやとこ）」年4回発行、小児保健部と連携しての「健康診断（春・秋）」など。このほか、「こどもの城」の入館券としても利用できることを伝えた。

■ 1～2歳児の保育のテーマ活動から

1日の定員が14人（定期利用12人、フリー利用2人）。月～金曜日の5日間で、曜日ごとに顔ぶれの違う子どもたち70人が、集団遊びを経験するための保育に参加している。

2歳児保育プログラムは、3時間保育と4時間保育があるが、どちらも毎回30分間程度のテーマ活動時間を設けている。

例年、さまざまなテーマ活動を行っているが、本年度は、『ペーパー粘土づくり』『ローラー絵の具（木の葉づくり）』『クリスマスツリー作り』などを行った。そのなかから主に、母親が参加し、ともに楽しめた活動を紹介する。

【クリスマスツリー作り】（「保育活動記録」から）

絵の具を使った活動をとおして、色が変わる楽しさを知り、色を塗る道具を使ってみる。また、母親と一緒に作る経験をするのがねらい。

○絵の具の筆で色を塗ろう

赤・青・緑の3色の絵の具のなかから、子どもたちは、迷うことなく自分の好きな色を選んだ。絵の具を塗る道具は〈絵の具の筆〉。ダンボールの端から端まで塗りつぶしていくのが、今回の大仕事となった。筆はローラーと違い、すぐには塗りつぶせないし時間もかかる。端からていねいに塗る子ども、真ん中からサササーと塗って「はい、おわり！」とあきってしまう子どもとさまざま。あきってしまった子どもも、きれいに塗り上げている子どもを見ると、もう一度「やってみようかな」と筆をとっていた。どの子どもも、いつもなら絵の具が手に付いたら気にするのだが、今回はそのようなこともなく最後まできれいに仕上げた。

○ローラーを転がして形をとろう

次は型とり（ステンシル）だ。あらかじめ牛乳パック

クリスマスツリー作り



で作った、☆型・雪だるま型・△型を、子どもたちが塗ったダンボールにのせクリップで留め、その上から今度はローラーに白の絵の具をつけコロコロ、コロコロ転がし形をつけていった。☆型・雪だるま型・△型の形が現われてくると、ローラーを持つ子どもの手がかもももというように転がしていった。まだ力が弱く、大人のようにはっきりと浮かびあがるのには時間がかかるが、それでもローラーを転がすのがとても楽しい様子が、伝わってきた。

○お母さんと一緒に飾りを付けよう

いよいよ仕上げはお母さんと一緒に飾り付けだ。素材は、丸ビーズ・ボタン・ペットボトルで作ったビーズを使い、それぞれの形を「雪だるまみたいだね」「これはお星さまかなあ」といろいろに見立てながら付けた。お母さんは、子どもの持つビーズにボンドを付けたり、子どもが指示した場所にボンドを付け、その上に子どもがビーズを置いたり、全部自分がやりたくて、お母さんの出る幕はないなあという姿も見えたりしたが、その間はお母さん同士、コミュニケーションを楽しみ、子どもの作る姿を微笑ましく見つめていた。

今回のクリスマスツリー作りは、木の葉作りでも経験していたせいか、自分でやってきたものが形になり、仕上がっていくことを子どもたちは学んだようだった。またお母さんたちも、子ども自身が絵の具を塗って、型をとるというように、段階を経て作品を作り上げていくことに感心して、我が子の成長を感じたようだった。

一人ひとりのかわいいツリーは、一つでも素敵なツリーだったが、集まって大きなすてきなクリスマスツリーになった。

■ 3～5歳児の保育（4時間保育）のテーマ活動から

3～5歳児の保育活動は、週4日（火～金曜日）保育する「幼児グループ」の4・5歳児を核として進めている。本年度の3歳児の定期保育におけるテーマ活動は、通常活動（運動遊び、砂場遊びなど）に加え、造形

きりんご



活動『種のコラージュ作り』『自画像』『きりんご』の3作品に力を入れた。

そのなかから、家庭で母親がおにぎりをにぎる姿をまねして作っていたかのように見えた『きりんご』からの子どもの姿を紹介する。

【きりんご】（「保育活動記録」から）

想像をふくらませて、夢のりんごを作る過程で、自分が好きな色作りをする、粘土を両手で包み込みながらりんごの形をつくるのがねらい。

○クイズクイズ、なーんのクイズ!?

「私はお顔が赤くてまんまるで、甘くておいしいです。黄色いお友だちもいます」と保育者が子どもたちに問いかけると、「りんごー!!」とすぐに答えが返ってきた。

今回、幼児グループの子どもたちが夢の野菜を制作するにあたって、きりんグループの子どもたちは世界にひとつだけの自分のりんご——名づけて『きりんご』を作ることにした。大きなブルーシートの上に、輪になって座ると、並べられた粘土板をみてピンときたSくんは、「あ、粘土だ!」とウキウキした様子。でも『きりんご』を作る粘土はいつもの油粘土とは違う。軽くて3歳児の握力でも扱いやすいふわふわ粘土。あらかじめ半分に切っておいたものをお友だちと分けて手に取ってみると、「うわ～なんだかふわふわしてる～」とさっそくこねこね……。

絵の具屋さんにならした保育者は、子どもたちに何の色りんごにしたいかを聞いた。好きな色を選ぶ時の子どもたちの表情は、真剣。ちぎった粘土に保育者から絵の具をチョン、とのせてもらおうと、いよいよこねる作業にはいった。

「先生～私の全然(少しも)緑色にならないよー」。グーパー、グーパーと言いながらこねた。

「あっ! ちょっと青いのがみえてきた!」、グーパー、グーパー……。

「うわ～、(青と黄色が混ざって)今度は緑色になった

よ!!」

軽い素材といえども、白い粘土に絵の具をなじませるのは、子どもたちにとって大仕事だったと思う。こねるたびに少しずつ色がでてきて、マーブル状に変化していく色のおもしろさをあじわったり、油粘土とは異なる何ともいえない粘土の感触だったり、こねすぎて粘土が暖まったりしてしまうくらいだった。

色を混ぜ込んだ子どもは、粘土をひとまとめにして、保育者に手助けしてもらいながら、のべ棒で薄くのぼしていく。それらを事前に両面テープをはっておいた、りんご状になった球体の発泡スチロールに、ギュッと巻きこんだ。子どもたちは、まるでおにぎりを握るおかあさんをまねているようにもみえた。

発泡スチロールが見えなくなるまで、指で粘土を伸ばして形を整えたら、最後にへたを選んだ。へたは子どもたちが自分で木の棒を一本選び、スタッフにさしてもらった。名前が書いてある葉っぱは、子どもたちがはさみで切りへたにつけた。作っている過程ではりんごと認識していなかった子どもも、ギャラリーに置いたはだかんぼうの木に自分の『きりんご』を実らせると、「おいしそうなりんごだね～」と笑顔がこぼれていた。

世界にひとつとして同じものがない、活動曜日別に生えた子どもたちの作った、すてきな『きりんごの木』ができあがった。

■3～5歳児の延長保育のテーマ活動から

保育クラブ(幼児グループは除く)の3歳児以上の子どもは、1年間曜日を決めて延長保育に参加することができる。保育クラブのフリー保育の子どもと幼児グループの子どもは、必要に応じて午後4時(原則)までの延長保育を受けられる。通常は火～金曜日。夏休みなどの特別期間は、月曜日も利用できる。定員は8人までとしているが、常時ほぼ定員が埋まり、要望も多く、9月から10人定員とした。

子どもの遊びのためと、親の都合から延長を申し込む家庭がほとんどで、親の緊急の用事などの緊急保育を受けた日もあった。午前の保育とは異なり少人数の保育活動となるが、保育のねらいは「遊び」を重視して、ゆったりとした雰囲気の中かで、好きな遊びを十分楽しむこと。充実した「ごっこ遊び」ができるように配慮することとしている。延長保育は別名「おやつ組」と呼ばれて親しまれている。

延長保育も、テーマ活動を取り入れて行っている。本年度内容の一つに、2か月間をかけて取り組んだ『探検ごっこ』がある。この活動は保育室内の活動にとどまらず、[こどもの城]のスタッフの協力、また近隣の大学に許可を得て実施できた構内散歩の活動など、さまざま

な大人の協力のもとで実施した。子どもにとっては、活動場所が広がり、保育者にとっても、他に協力を依頼してプログラムを作るおもしろさを経験したプログラムとなった。

【探検ごっこ】（「保育活動記録」から）

共通のイメージを持ち、空想の世界を楽しみ、探検隊の仲間として力を合わせ、友だちとかかわりを深め、一緒に遊びを進める楽しさを味わう。他部門の協力のもと、子どもたちは人とかかわりを広げ、また地域にある大学構内に出かけて構内見学をすることで他施設への興味を広げることがねらい。

○『探検ごっこ』は1通の手紙からはじまる

10月から11月にかけて、2か月にわたって楽しんできた『探検ごっこ』。「あのね、先生が今朝こどもの城に来たら先生の机の上にこの手紙があったの」と子どもたちと1通の手紙を読んだことから始まった。手紙の差出人は、宝島のミラクルという人からだった。

手紙は「こどもの城のおやつ組のみんなは勇気がある子たちと聞きつけた。みんなの勇気を試すために宝物を隠した。ぜひ、がんばってみつけてもらいたい」という内容だった。初めて届いたその手紙のことを、保育者が子どもたちに「ねえ、どうする？」と真剣に相談したので、子どもたちも純粋に宝島のミラクルの存在に驚いたようだったが、探検する気持ちになったようだ。

探検隊気分を盛り上げるために、探検グッズの制作をすることになった。最初に作ったのがバンダナ。「探検をするぞ!」という気持ちがわくようで、探検の重要なアイテムとなった。その他にも、一番初めにみつけたピカピカ光るまるい宝物、ミラクル・パワーが腕輪になり、次にみつけたミラクル・リボンがバッグになり、おしまいはミラクルから届いたセロファン、ミラクルグラスが双眼鏡になり、次々と探検グッズが追加されていった。

子どもたちは、グッズを作って身につけては館内に探検にでかけて行った。ある日はミラクルからの手紙を頼りに宝物を探しに行き、またある日は大切な探検グッズがなくなってしまう事件が起り、探検隊の毎日はとても忙しい日々となった。

1か月以上の探検の日々のなかでは、絵本、虫眼鏡、館内の地図、『かがくのとも』の絵本などをヒントにし、館内の各部門に協力を依頼して、その日のテーマを持って探検を繰り返していった。

ふだんはなかなか行けない、地下4階から13階までの館内探検、[こどもの城]の裏庭や青山学院大学のキャンパス探検まで、短い時間のなかだが、勇気を出したり、がんばったりしながら、探検隊の仲間と一緒に過ごすこ

とで、いろいろな気持ちを感じたようだった。偶然、目にしたのから想像をふくらませ、空想の世界を楽しみながら歩くのは、保育者にとっても楽しい探検の時間となった。

（ウ）幼児グループ

2年間定期的継続的に週4日保育に参加する、4・5歳児のグループ。「保育クラブ」の3～5歳児をまじえた異年齢児混合保育。4歳児11人、5歳児10人。幼児グループは保育活動の核となる子どもたち。「幼児グループ」の大きな保育のねらいは、家庭と協力して人間性豊かで自発的な子どもを育てることにある。本年度のテーマ活動は“食”を中心に、“食”にまつわる内容を中心に活動を行った。

ベランダには、幼児グループの保護者と子どもたちが栽培しているキャスルガーデン（ベランダ栽培）があるが、その場所で栽培している稲を鳥から守るために作った『かかし』、育てた野菜を描いた『野菜の絵』、こんな野菜があったらいいなど作った『夢の野菜』など、身近な野菜作りから造形活動にひろげた。栽培は保護者と一緒に行ったが、造形活動の『夢の野菜』も「あったらいいなあ～こんな野菜」を家族みんなで考えたアイデアをもとにして、子どもたちが保育者と一緒に行った。

【夢の野菜】（「保育活動記録」から）

感じたこと、思ったことや想像したことなどを、さまざまな素材や用具を使って自由に描いたり、作ったりすることを楽しむ。家族が夢の野菜と一緒に考える、楽しい時間を持つ——がねらい。

○こんな野菜があったらいいのに

幼児グループ（4・5歳児）の子どもたちは、保育のなかで毎日お昼ごはんを食べているが、そのなかには、いつも野菜が入る。大好きな野菜もあるし、ちょっと苦手な野菜もある。でも、大きくなるにはみんな必要。

そこで、「こんな野菜があったら良いのになあ」という



夢の野菜

“想像の野菜”を考えてみることにした。「どんな形？」「どんな色？」「食べるとどうなる？」「その野菜の名前は？」というようにイメージを具体化し、さらに「実の野菜？ 葉の野菜？ 根の野菜？ 花の野菜？」などと深めていくようにした。

一人ひとり家庭に持ち帰って、絵に描いて来てもらうことにした。家庭で考えてきたものは、お父さんお母さんや兄弟で楽しく出し合ったアイデアから、おもしろい夢の野菜があったり、子どもたちの願いをかなえるような野菜だったり、ユーモアを感じさせる野菜だったり、そうかと思うとリアリティーを追求したもの、バイオテクノロジーでできあがったのかしら？ と思える野菜などさまざまだった。

そこで、なるべく身近な物を使って、これらの想像の野菜を一人ひとりが形にすることにした。日ごろから保育環境として、使わなくなった空き箱やペットボトル、果物のクッション材、新聞紙などを用意し、身近な素材を自由に使って作ってみることにした。自分の考えた物がどんどん形になるのは、わくわくし、とてもうれしいことなのだろう。保育者もなるべくじっくりと相談し、材料を決めて取り組んだ。

自分の野菜ができあがると「〇〇ちゃんのはどんなのかしら？」とか「ちょっと手伝おうか？」などと友だち

の作るものにも興味を示したり、「これ僕の作った〇〇っていう野菜だよ」と誇らしげに紹介する姿もあった。世界に一つしかない、素敵な夢の野菜作りとなった。

3. まとめ

「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」の3つの保育事業から、「親子教室」修了後の育児への意識変化と、子どもたちが家族や他の大人と直接・間接的に取り組んだテーマ活動の様子を紹介した。

保育研究開発部は、活動をとおして子どもが興味関心の幅をひろげ、楽しい時間を増やしていけるように、そして育児をしている母親父親・かかわる大人もともに、直接・間接的に楽しい時間を増やしていけるようにと考え、さまざまなプログラムを毎年実施している。

参加した母親父親・その他の大人は、子どもが取り組む活動に巻き込まれての参加であっても、結果としては、家庭やかかわる大人にとっても、楽しい時間につながっていくことを、「親子教室」参加の家族の声をはじめ、保育事業にかかわった家族や、協力していただいた関係者の姿から感じた。一人ひとりの子どもの成長をまわりの大人が寄り添い、大切に見守り、支える環境作りが子どもと大人にとっても欠くことのできない視点であることを再認識した。



探検ごっこ



平成 19 年度活動一覽表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
親子遠足	10.30	「保育クラブ」「幼児グループ」の2～5歳児の家族プログラム。家族同士の交流をはかるのがねらい。例年春と秋の2回行っている。春は雨天のため中止となった。秋は〔こどもの城〕からスタートをし、代々木公園までを親子で探検ポイントを歩く『親子で探検ウオーク』を実施。2歳児親子向けと3～5歳児向け(2コース)のカードを用意。1時間30分を目安にゴールまで進んだ。全員が同時にスタートしたが、時間差があった方がもっと楽しめたようだった。『探検ウオーク』は家族でよく考えながら楽しんで参加できるプログラムだったので、父親参加プログラムとしては良いプログラムとなった。代々木公園では、保育スタッフから家族に積極的にかかわるプログラムと合わせて、親子同士の交流を深めるプログラムを行った。参加親子91人。代々木公園(渋谷区)。
保育活動展	H20.2.1～17	テーマは「こどももようパートV」。「幼児グループ」を中心に「保育クラブ」の2～5歳児の保育活動をさまざまな絵や協同制作、作り物、写真などで紹介している。本年度の幼児グループと保育クラブ3歳児の保育活動は、「食」をテーマに展開していった。鳥から稲穂を守るために作った『かかし』、育てた野菜を描いた『野菜の絵』、夢の野菜があったらいいのになあと作った『夢の野菜』、『種・野菜スタンプ』『きりんご』などを行った。幼児グループはその他に、自画像を展示。延長保育は個人製作と共同製作を中心に展示。探検ごっこをテーマに探検グッズ(バンダナ・双眼鏡・腕輪・バック)、探検地図(割り箸ペンで描く)を展示。2歳児では曜日別に親子で工作した『クリスマスツリー』や『動物(牛乳パックを使って製作)』『魚(ペーパー粘土)』『木の葉っぱ』を展示。保護者をはじめ一般の来館者も立ち寄る姿が見られ、子どもの作品に接して感動したという感想が寄せられた。保護者からも好評。(ギャラリー)
よちよちクラブ	6.9、7.14、9.8、10.20、11.24、12.1、H20.1.12、2.9(土曜日) 11:00～12:00、 13:30～14:30	一般来館の1・2歳児の親子のための子育て支援プログラム。年間8回。親子320組が参加。定着したプログラムになった。児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間中は「よちよちクラブ拡大版」を行った。通常の「よちよちクラブ」の内容は親子でゆったりとおもちゃなどで遊び、手遊び、簡単な作りもの、パネルシアターなどを楽しむ。〔こどもの城〕に遊びに来て偶然通りかかり参加する親子も多い。保育者は参加の親からの子育ての悩み、助言を求められることもあるが深刻なものは少ない。毎回参加する同じ親子もいる。「親子教室」「保育クラブ」につながるプログラム。予約制だが、当日参加可。(保育室1)
保育室の一般開放	土・日曜日、祝日 10:00～17:00	1・2歳児のためのおもちゃや絵本を用意して、〔こどもの城〕に来館する親子に遊べる場を提供した。定期的に遊びに来る親子もいる。こどもの城ボランティアグループが定期的に絵本の読み語りを親子に行っている。(保育室2)



親子遠足「親子探検ウオーク」



〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 よちよちクラブ拡大版	5.3～5 10:00～17:00	館内に低年齢児向けのプログラムや親子で遊べるスペースが少ないことから、特別期間中に来館する1・2歳児の親子を対象に、企画研修部、小児保健部と合同でバブバブベータウンの一つとして通常の「よちよちクラブ」を拡大して行った。広いスペースを1・2歳児の親子向けに、魅力的な空間に整えることに工夫を要した。内容的には通常行っている手遊び、作り物、パネルシアターなどを多くしたり、保育スタッフのトークを入れたりして進めた。時間も10時開館から午後5時までとした。親子でゆったりおもちゃで遊ぶ姿や、保育スタッフの出し物を楽しむ親子の姿などが見られた。本年度も都内をはじめ埼玉、神奈川県から遊びに来ていた。参加者の声に「いつも1・2歳児が遊べるこのくらいのスペースがあったらいいですね」という声があった。館内を歩きつかれて、少し休憩に訪ねる親子もいた。昼寝をする親子もいて、親子で安心して休める場になっていた。常設の場が望まれる。3日間151組の親子(祖父母、兄弟含む)約407人。(研修室)
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子工房「くらげくらげくらげ」	8.18・19 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	材料：ビニール袋1枚、糸または毛糸(好きな方を選ぶ)8本、ホログラムシート4本、紙テープ4本。 ビニール袋を折って8弁の花びら型に切り、花びら型の先端に糸または毛糸、ホログラムシートを12本つける。蛍光マジックで模様を自由に描き、糸または毛糸を一つにまとめて結び完成。作り終わったら補助棒を付ける。しなりのきく針金の先端が鋭利になっているので、先端を保護し、安全に使用できるようにした。室内を暗くし、ブラックライトのそばで上下にゆらすと、泳いでいるように見えた。基本形はパラシュート。単純な形であるが、あかりや動きの工夫をすることで、子どもにも保護者にも楽しんでもらえた。持ち帰る時には、輪ゴムをつけてヨーヨー風にして持ち帰らせた。2日間439人が参加。(保育室1)
〈開館記念〉 つくって遊ぼう親子工房「紙から生まれた！カーミン」	11.3・4 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	材料：両面テープのついた紙(からだ用)4本×2セット、カラフルな紙10本、輪ゴム4本、正方形の紙3本。使用道具：両面テープ、はさみ、マジック。 マーブルの紙8本を組み合わせ、球を2個作り、カラフルな紙で目、鼻、手足などを自由にアレンジして人形を作る。今回も親子に人気が出た作り物になった。親子工房終了後に作り方の問い合わせがあった。2日間213人が参加。(保育室1)
保育室の一般開放	特別期間中の土・日曜日 10:00～17:00	〔こどもの城〕に来館する1～2歳児の親子がおもちゃなどで自由に遊べる場の提供。午前中は利用する親子は少ないが、午後にかけて入室が多くなる。午後は閉館間際まで混み合うことが多い。また、おもちゃの紛失も目立った。(保育室2)

2. 講座・クラブなど

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
幼児グループ	(人) 4歳児(11) 5歳児(11)	(人) 10 11	火～金曜日 10:00～14:00	〔こどもの城〕を保育の場とする週4日、2年間にわたる継続的な保育活動。「保育クラブ」の主に3歳児が曜日別に加わり、異年齢児保育となる。多様な人間関係を体験するため、ボランティアとも遊ぶ。チームで保育を行い活動を深める。プール活動など、体育事業部との連携プログラムも行う。年々子どもたちが集団で遊ぶ機会が少なくなっていることから、本年度は友だちとかかわり合って遊ぶゲームなどを例年より多くし、またテーマを持って子どもたちが共同で製作をする喜びを感じてほしいことから、遊びのなかから共通のイメージを持って共同で製作するようにした。保育活動展がその発表の場になった。保育料41,000円、給食費4,800円(いずれも月額)。延長保育を希望する家庭も多い(別途保育料)。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
保育クラブ	(人) 2～5歳児 (登録数 456)	(人)	月～金曜日(2歳児)	日時を選べる、会員制の保育。集団遊びを希望する2歳児の家庭、幼稚園に行きながら夏休みなどの保育に参加したいという3～5歳児の家庭などが多い。入会時にていねいなガイダンスを行う。保育内容を伝える他に、子どもの送迎などにおける安全上についての協力と、避難訓練などを行っていることへの理解を求める。 本年度も緊急カードを提出してもらい、緊急時に、スムーズに対応できるようにそなえた。他にイベント、通信、家族プログラムのサービス実施。希望で延長保育(3～5歳児)も受けられる。 入会金10,000円、年会費5,000円。保育料、2歳1,350円(1時間)、3歳児以上1,000円(1時間)。給食600円、おやつ代200円(1回)。
		14	10:00～13:00	
		9	10:00～14:00	
		14	火～金曜日(3～5歳児) 10:00～14:00	
		9	10:00～16:00	
	(1日 あたり)			

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子教室	(組) 1歳児親子 (各期16)	(組)	月曜日ほか	親子遊びを中心に、子育ての楽しさを両親で体験するプログラム。保育スタッフの援助で、ほかの親子との交流等も図る。本年度より土・日曜日は兄弟参加も可とした。医学、心理発達にかんする講義、栄養士などからのアドバイス。父親(家族)の参加4回を含む。受講料40,500円。
		16	10:00～13:00(月)	
		11	10:00～12:00(土・日)	
			(全10回。月曜日6回、土曜日1回、日曜日3回)	

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
子育て支援の理論 と実践	(人) 子育て相談 担当者など (各回50)	(人)	6.30 10:00～16:30	前年度までの「子育て相談研修会(基礎編)」と「同(応用編)」を踏襲した形で年3回開催。今日的なテーマや問題を取り上げ、前年度までの「基礎編(初任者向け)」のステップアップとして組み立てた。受講料各7,000円。各回のテーマと講師は以下のとおり(敬称略)。 第1回「複雑な社会の中での親とのコミュニケーション」(山崎美貴子神奈川県立保健福祉大学/杉山良子明治学院大学)。 第2回「心身の病気を抱える親との関わり～疑いも含めて～」(上別府圭子東京大学)。 第3回「虐待を疑った時の親へのサポートの仕方」(倭文真智子東京都墨田児童相談所)。スーパーバイザーは、山崎美貴子(神奈川県立保健福祉大学)。
		65	10.27	
		60	H20.1.26	
第21回こどもの 城保育セミナー 「子どもの育ち・ 社会の育ちパート Ⅲ～子育ての最善 の利益を支える子 育て支援～」	保育関係 者など (80)	59	8.4 10:00～17:00 8.5 10:00～15:00	全国の保育所、児童館、行政の児童福祉担当者などが対象。毎回、児童福祉が現代社会の中でどのような動きとなっているのかを取り上げている。受講料は13,000円。各日のテーマと講師は以下のとおり(敬称略)。 1日目＝基調講演「こどもの傍らにあることの意味」(大場幸夫大妻女子大学)リレー講演「放課後子どもプランについて」(西浦啓子厚生労働省雇用均等児童家庭局育成環境課・放課後子どもプラン推進室)、「子どもとメディア」(屋間行雄こどもの城AV事業部)、「難しい、今日の子育て」(山田道子こどもの城保育研究開発部) 2日目＝分科会①「子どもの健康と生活」(助言者：巷野悟郎こどもの城小児保健クリニック/近藤洋子玉川大学文学部) 同②「全ての親とうまくつきあうために PARTⅡ～“難しい親”をどう理解し、どう関わるか～」(助言者：倭文真智子東京都墨田児童相談所) 同③「職員同士が育ちあうために～最善のサービスを提供する為には、最善の保育者集団になること」(助言者：杉山治子聖心女子専門学校)

3. その他

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
パパもママも「楽しく子育て」／音楽遊び「子どもと一緒に」	9.8	子育て中に支えてくれる地域の人や保育施設で出会った人の言葉が、子育て中の母親には励ましになることについての話をした。参加者 15 人。長野市ふれあい福祉センター。
一時保育のプログラム	11.14	子育てサポーターリーダー養成講座。一時保育をする上で、親から離れて他の子どもや大人と安心して過ごす保育の条件として、どんなことがあげられるのかを参加者と一緒に考えた。参加者 100 人。中央区月島社会教育委員会。

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
子育て支援のニュースレターの発行	第 28 (通巻 44) 号 = 7.25 第 29 (通巻 45) 号 = 12.1 第 30 (通巻 46) 号 = H20. 2. 20	行政、経済界、利用者にかんする情報および子育てをめぐる情報、「家庭支援の理論と実践」研修会の内容の概要を紹介。本年度は、児童福祉施設における次世代の子育てを支える支援策として行政の動きをはじめ、各地の実践などを中心に取上げた。児童福祉施設の果たす役割の大きさを実感させられるとの読者の声。他に本年度から「こどもの城」で行っている各事業部の活動の紹介や、活動をとおして見られる最近の親子の様子なども紹介している。主な配布先は、子育て支援にかかわる実践者、研究者、大学など年間購読を希望する個人および団体。その他見学者、関係所管課に無料配布。年間購読料 2,000 円（郵送料、印刷代一部負担金）。

小児保健部



平成 19 年度の活動

1. はじめに

開館以来、子どもの健康の問題に取り組む小児保健部では、一人ひとりの心配ごとに応じていく「小児保健クリニック」の活動のほか、妊娠中から主に乳幼児の“子育て支援”を目的とした活動にも重点をおいている。スタッフは、医療・心理の専門職である。

当部の活動は整理すると次のように分けられる。

- ①「小児保健クリニック」での診療・相談
- ②グループで行う講座や催し（“子どもの肥満改善”や“保護者の子育て支援”など）
- ③“子育て支援”の現場にかかわる人への啓発
- ④活動の成果についての研究

本年度の活動を振り返ると、乳幼児と保護者を対象にした子育て支援の活動である「赤ちゃんサロン」「季節の離乳食」は、前半は参加人数が前年度に比べ少なかったが、後半は新聞やテレビに取り上げられたこともあって、大幅に増加し、にぎわった。特に、10月31日の全館行事「赤ちゃん大集合」は、参加者 563 組 (1,156 人) と盛況であった。

〔こどもの城〕全館にベビーカーを押して訪れる親子連れが増えて、低年齢の子どもと保護者への子育て支援活動に、どう取り組んでいくかが真剣に問われているといえよう。国の施策の一つとしても、乳幼児と保護者の交流・居場所作りを目的とした“子育て広場”の設置が、地域の児童館などにも求められてきている。

〈動くこどもの城〉では、ノンプログラム型「ぼかぼか広場」を展開するために、本年度は小児保健部から「赤ちゃんサロン」の実践を全国 6 か所で行った。また子育て

て支援のための指導者向け講演会は 4 か所で行った。

小児保健部では、現場で保護者の相談にあたる専門職に、新しい小児保健の基礎知識を提供し、地域で役立ててもらいたいと、年 2 回、子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康 0.1.2 歳児～」を実施している。これも、参加希望者がたいへん多い。

さらに、年に 1 回の「小児保健セミナー」も、昨年に引き続き、“気になる保護者”のテーマで開催した。3 年連続のテーマであるが、多くの受講希望者があった。子育て支援の現場で“気になる保護者”にいかに対応するかが、現場の専門職にとっては切実なものになっている。“モンスター・ペアレント”なる言葉が一般に流布していることから、この状況がうかがえる。

これらの講習会は、保育士・保健師などの専門職を対象に実施してきた。しかし、最近では子育てを支援する活動が、地域のボランティアなど幅広い層にひろがりつつあり、そうした“支援者”も視野に入れた講習会などの必要性が感じられるようになってきた。〈動くこどもの城〉では、幅広い“支援者”を対象とした講習も行っている。

このように、〔こどもの城〕の“子育て支援”には、保護者・支援者の双方から期待が高まっている。保健・栄養・心理などの各領域からの視点を生かして、今後も対応していきたい。

診療・相談は、減少傾向にあるが、平常期間の活動のほかに、5月の児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間には「バブバブベビータウン」（子育て相談も行う、乳幼児親子向け休憩室）を、また夏休み特別期間に

は小学生を対象とした「あそび day キャンプ～きみの五感にチャレンジ!」という1日のプログラムを行うなど、一般来館児・者対象のプログラムに多くかかわった1年でもあった。

2. 診療・相談活動

「小児保健クリニック月別診療・相談件数」として、表1に本年度の統計を示した。診療・相談の総件数は、2,506件で、前年度よりも160件減少している。これは、新規来所者（主に小児科の初診）が321件から265件へと56件減り、心理・発達相談が前年度1,185件から987件へと198件少なくなったことが影響している。しかし、医師による診療（健康保険適応）の総件数は、1,308件であり、前年度より49件増えている。これは、初診が減少している反面、再診で継続する人が増えているからと考えられる。乳幼児健康診査（公費）は81件で15件減少したが、健康診断（自費）は44件と、8件の増加となっている。

「新規来所者の居住地域内訳」（表2）では、東京都内の割合は前年度とほとんど同じで約8割（79.6%）、埼玉・千葉県など近隣の県が約2割である。東京都内の内訳では、地元の渋谷区はほぼ同数で、世田谷・港・杉並・目黒の近隣5区が上位を占めている。「新規来所者の年齢内訳」では、4歳児が40件（12.5%）から21件（7.9%）に減少したが、それ以外は大きな変動はない。

「新規来所者の診療・相談内容別内訳」（表4）は、「発達の相談（疑いも含む）」が多いのは前年度と同じで、79件。23件減少したが、全体の割合は29.8%と約3

【新規来所者の診療・相談内容内訳】（表4）

内 容		件数 (%)
発達 の 相 談 (疑 い も 含 む)	自閉症・自閉的傾向（広汎性発達障害）	24 (9.1)
	精神遅滞	23 (8.7)
	言語発達遅滞	16 (6.0)
	学習障害・注意欠陥多動性障害	12 (4.5)
	ダウン症、その他先天異常	4 (1.5)
小 計		79 (29.8)
情 緒 ・ 行 動 面 の 相 談	情緒障害・情緒不安	36 (13.6)
	不登園・不登校	16 (6.0)
	神経症（強迫神経症など）	11 (4.2)
	育児不安	4 (1.5)
	集団不適応	1 (0.4)
小 計		68 (25.7)
身 体 的 ・ 心 身 症 的 な 相 談	肥満（心理的な問題含む）	22 (8.3)
	身体疾患（低身長・アレルギー疾患など）	7 (2.6)
	夜尿症・頻尿	5 (1.9)
	心身症（脱毛・チック・吃音など）	5 (1.9)
小 計		39 (14.7)
合 計		186 (70.2)
健 診	乳幼児健康診査（公費）	56 (21.1)
	健康診断（自費）	23 (8.7)
合 計		79 (29.8)
総 計		265 (100)

割であることはあまり変わらない。内訳では「自閉症・自閉的傾向（広汎性発達障害）」が18件から24件に増え、割合も5.6%から9.1%に増加した。一方で、ここ数年「発達障害」を疑って受診する人が多かったが、本年度は、「情緒・行動面の相談」が、8件増えて68件に

【小児保健クリニック月別診療・相談件数（初診・再診内訳）】（表1）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H201月	2月	3月	合計	
診 療	132	99	142	77	93	110	112	100	107	116	83	137	1,308	
健 康 診 査（公費）	7	5	5	5	3	9	7	6	9	10	5	10	81	
健 康 診 査（自費）	1	23	4	8	1	2	1	1	2	1	0	0	44	
育 児・健 康 相 談	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	6	
心 理・発 達 相 談	75	78	96	93	83	86	86	96	81	83	60	70	987	
ダ ウ ン 症 療 育 相 談	5	6	5	8	7	6	8	10	8	8	5	4	80	
合 計	221	212	252	191	188	213	215	213	207	219	154	221	2,506	
内 訳	初 診（新規）	21	31	26	28	19	23	20	19	23	20	13	22	265
	再 診	200	181	226	163	169	190	195	194	184	199	141	199	2,241

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】（表2）

居住地域	渋谷区	世田谷区	港 区	杉並区	目黒区	その他の23区	市郡部	小 計	川崎市	千葉県	埼玉県	その他	小 計	合計
人 (%)	65 (24.5)	23 (8.7)	13 (4.9)	10 (3.8)	10 (3.8)	71 (26.9)	19 (7.2)	211 (79.6)	14 (5.3)	13 (4.9)	10 (3.8)	17 (6.4)	54 (20.4)	265 (100)

【小児保健クリニック新規来所者の年齢内訳】（表3）

年 齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12～17歳	18歳以上	合計
人 (%)	33 (12.5)	38 (14.3)	14 (5.3)	19 (7.2)	21 (7.9)	19 (7.2)	14 (5.3)	21 (7.9)	20 (7.5)	16 (6.0)	19 (7.2)	9 (3.4)	22 (8.3)	0 (0.0)	265 (100)

なり、割合も 18.7%から 25.7%に増加している。

「身体的・心身症的な相談」の「肥満」は、前年度 49 件と、“メタボリック・シンドローム”への関心の高まりでいつにもなく多かったが、22 件に減少した。

このように、新規来所者の件数は減ってはいるものの、内容的には、発達の障害などだけではなく、複雑な家庭的問題を抱えている事例が増えているように思われる。保護者自身も傷つきやすかったり混乱したりしているが、実際には生活も忙しく、子どもの状況にじっくり取り組めないでいることも多い。こういった子どもの情緒面に目を向け、相談にのることも大切である。

3. 子育て支援講習会

「最新の小児保健の基礎と実際 ～心とからだの健康 0.1.2 歳児～」

“0.1.2 歳児の心とからだの健康”をテーマにした子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際」は、平成 13 年度に始まり本年度で 7 年目、10 回を数え、586 人が受講した。最初は年 1 回の実施であったが、申し込みが多く、平成 17 年度から 1 日コースと 2 日コースの 2 回に増やした。それでも定員を超える申し込みがあり、受講できなかった場合でも、次回への参加を希望する人が多いという盛況ぶりが続いている。このテーマが、現場の人たちをひきつけているのは確かなようである。

いったいこのニーズの高さはどこからくるのか、そしてその期待に応えるために、私たちが果たすべき役割とは何かを整理し、今後につなげていきたいと考える。

【講演会の目的とその背景】

講習会を始めたきっかけとして、2つのことがあげられる。

1つ目は、近年の少子化傾向への対策として国が掲げた〈エンゼルプラン〉などの実施のなかで、現場が苦慮している状況がうかがえたことである。

平成 6 年に厚生省（現厚生労働省）をはじめとする 4 省が、「今後の子育て支援のための施策の基本方向について」という、いわゆる〈エンゼルプラン〉を示した。そのなかに、「多様な保育サービスの充実」があり、保育所が「低年齢児 0～2 歳児の受け入れ枠を拡大する」「子育て支援などの多様なニーズに対応できるよう施設・設備の整備を図る」などが盛り込まれた。また、保育所などに「子育てネットワークの中心として地域子育て支援センターの整備」も求めている。

それでも少子化への歯止めがきかず、平成 11 年には「新エンゼルプラン—重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画についての要旨—」が新たに示された。これにより、0～2 歳児の受け入れ枠の拡大、病児保育

最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康 0.1.2 歳児～



の推進など、保育所が担う子育て支援は、さらにひろがっていった。

しかし、平成 14 年の合計特殊出生率は 1.34 と最低になり、次に「少子化対策プラスワン」が打ち出された。これは、就労家庭だけでなく専業主婦家庭、ひとり親家庭などの居場所作りをめざして、地域のさまざまな子育て支援サービスの推進と、ネットワーク作りの導入などをうたっていた。専門的に子育て支援を行う役割を持った「子育てサポーター」「子育て支援相談員」なども登場した。このように、“0～2 歳児と親”とのかかわりが増えていった現場では、0～2 歳児の知識や経験が少なかつただけでなく、従来の子育ての考え方では新しい世代の親子に対応しにくかったことなどにより、困惑する場面が多くなったと想像される。

2つ目は、小児保健部においても、「赤ちゃんサロン」「クリニックの診療・乳幼児健康診査」などをとおして、日ごろから、0～2 歳児の親の子どもへのかかわり方に不安を感じていたことがあげられる。育児情報があふれすぎる故に、子育てへの不安や悩みを抱えてしまったり、子どもの発達にそぐわない働きかけをしていたりする光景を目にすることが多くなっていった。そのような親に対して、ていねいなはたらきかけが必要だと感じていたのである。

これらのことから、0～2 歳児にかかわっている現場の人たちに、乳幼児の心とからだの発達の最新の基礎知識と、親子へのかかわり方を学べる機会を提供したいと考えたのであった。0～2 歳児の基礎的な心身の発達を総合的にとらえた講習会は少なかったため、小児保健部が「クリニック」や「赤ちゃんサロン」などで培ってきた実践的な経験をもとに、分かりやすく伝えられるのではないかという思いもあった。

【講演会の内容】

別表（98 ページ参照）に、本年度の講習会の概要が記載されている。講師は小児保健部のスタッフで、小児科医師、管理栄養士、看護師、臨床心理士、保健師がそれぞ

たかが「遊び」、されど「遊び」

「遊び半分」という表現にみられるように、「遊び」という言葉は時々、「いい加減である」とか「本気でない」という意味で使われます。しかし子どもの心理療法において使われる「遊び」という言葉は、この「中途半端」という意味とは全く逆の意味になります。

子どもが、心の問題を抱えてクリニックに来院した場合、一般的に行われるカウンセリングの方法はプレイセラピー（遊戯療法）となります。それは子どもは大人とは違う現実やファンタジーのなかで生きているためです。このことをわかりやすく説明するには、サンタクロースの物語を思い出してもらえるとよい気がします。大人の視点から見ると、サンタクロースの物語は常識的にはあり得ないフィクションですし、たいていそんな夢物語を信じる子どもをみて、ほほえましく見守る形で終わってしまいます。

では子どもに「サンタクロースなんていないんだよ」と言ってみたらどうなるでしょうか？ おそらく「そんなことないよ！ だって去年だって……」というふうに、時には泣きながら真剣に訴えてくることでしょう。それだけ子どもにとって、サンタクロースは大事なファンタジーであり、まぎれもなく生きている物語となります。もしかすると、逆に「サンタクロースがいない」という現実の方が、違和感があり、フィクションと感じられているかもしれません。それだけ子どもの世界は、大人と違うリアリティに生きているといえます。

プレイルームでカウンセラーと向き合った子どもは、自分の中にあるリアリティにそって「遊び」の世界へと入っていきます。そして「遊び」で表現された内的なリアリティは、言葉よりも体感を含んだストレートなものになります。例えば“生まれた弟がお母さんをとっちゃって悲しい、嫉妬してしまう”という表現よりは、“赤ちゃん人形

を捨てたり、悪い子にする遊び”として、また“子どもかわいさのあまり干渉的になり、つい自分の思いどおりにしようとする親のために、動けなくなっている子”は、“大きな渦巻きに飲み込まれたり、魔女に魔法をかけられたりするな遊び”として表現される方が、リアリティをもって、その子どもの物語が感じられてきます。そして時には、こうした物語のような遊びにもならず、自分の中にある激しい攻撃性を、カウンセラーにひたすら剣を手にして戦い続ける子どもの姿にも出会います。

これらは言わば「遊び」ですが、中途半端なものではありません。子どもはまさに全存在をかけて真剣に遊びます。そしてそういう「遊び」をカウンセラーという存在に認められて、子どもは心に抱えていた問題を「遊び」のなかに表現し、真剣に「遊びぬく」ことで変わっていきます。つまり単なる「遊び」のように見えて、されど「遊び」なのです。

こうした話を聞くと「心の問題なのに遊びで変わっていくって楽しそう」と思われる方がいるかもしれませんが。確かに楽しい瞬間もあるかも知れませんが、もとをただせば、子どもたちは皆クリニックに来て「遊ぶ」設定にならざるを得なかった大変さを抱えており、そしてその大変さを表現して生き抜くということをプレイセラピーのなかではするので、「楽しい」が「しんどい」体験となります。ですから変化していく時にまるで知恵熱であるかのように、体調の不調を訴えて、カウンセリングが休みになることもめずらしくありません。

このように一般的に「遊び」というと軽くとらえられがちですが、本気で生き抜いた時にそれは大きな力を発揮します。本気で「遊ぶ」ということはある意味真剣勝負です。クリニックでそんな子どもの可能性の表現としての「遊び」に出会うたびに、「遊び」とは奥深いものだなとしみじみ思います。
(臨床心理士 北原 知典)

れのテーマについて話し、質疑応答や情報交換の時間も設定した。

1年目は、「赤ちゃんの発達と発育」「赤ちゃんサロンの事業説明」と、現場の悩みを吸い上げ、問題点を整理するための分科会も実施した。分科会は、「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般について」「発達や親子関係などへの対応について」の3つのテーマに分かれて話し合いをした。当初は定員40人と少なめに設定し、参加者が情報や意見を交換しやすいようにと考えていた。ところが、申し込みが多かったこと、分科会で“もっと話をききたい”という声が多くあったことから、2年目からは2日コースに変え、各テーマを講義にして基礎的な内容を深めた。3年目からは定員を50人に増やして行っている。

【参加者の動向】

参加者の職種は、保育士が約半数を占め、毎回、最も参加が多い（図1）。最近、参加者の中に子育て支援相談員という職種を目にすることがある。子育て支援事業が地域に浸透し始めてきていることがうかがえる。

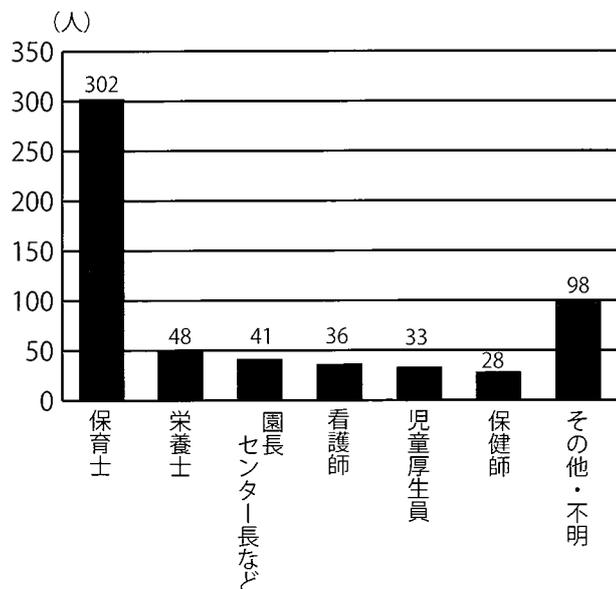
参加者の年齢は、20～50歳代がほぼ同じ割合で、どの年代も関心が高いといえる（図2）。

参加者の地域は、関東が多いが、北は北海道・東北、南は沖縄・九州と全国に広がっている。

知ったきっかけは、「役所からのDMを見て」が329人（56.1%）で最多である。自治体の管轄部署が積極的に情報を広報した、と思われる地域からの参加が多いようである。

参加者の出席率は98%以上であり、熱心に聴講して

【「子育て支援講習会」職種別参加者数】(図1)



いる。真剣な姿を目の当たりにするたびに、“最新の小児保健”の情報の提供という責任を痛感する。

参加後のアンケートでは、50～70%以上の人々が満足している。「勉強になった」「わかりやすかった」「現場で活用していきたい」という感想が寄せられているが、「もっと具体的な事例の話を知りたい」という要望も多い。基礎を押さえつつ、現場で役立つ具体的な対応の提供を求められていると感じている。

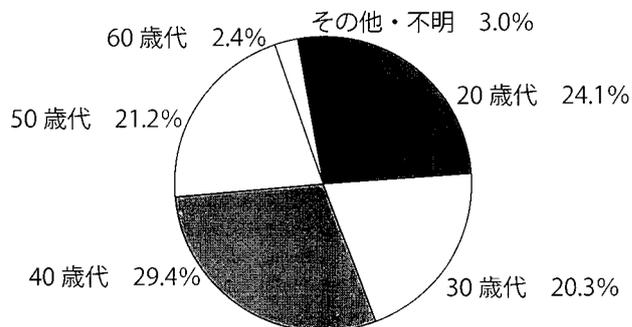
【現場の悩み】

質問の内容は、子育て全般で多岐にわたるが、多くみられるのが、離乳食・食事についてと、行動や発達の気になる子どもへの対応である。

離乳食・食事では、小食・偏食・食に関心がない・進め方についてなどが多い。最近、増えているのが食物アレルギーなどの、アレルギーへの対応である。これは病児保育の拡大や、低年齢児の受け入れが増えたことが影響していると思われる。特に職場と家庭の考え方に差がある場合、どのように家庭と連携をはかっていけばいいのか頭の痛い問題のようだ。

自閉症などの発達障害、嘔みつきや奇声などの行動への対応についての質問も初回から続いている。子どもの気になる点を、親にどのように伝えたらいいのかとい

【「子育て支援講習会」年齢別参加者数】(図2)



う悩みもあれば、逆に親の子育てに疑問を感じたとき、解決するすべが分からないという場合もあり、現場の苦悩が伝わってくる。

このような現状を知り、少しでも解決のヒントになればと、小児保健セミナーに「気になる親へのかかわり方—上手な聴き方・話し方—」というテーマを平成17年度から取り上げ、こちらも好評である。

国が子育て支援事業を掲げて14年たつが、現場の試行錯誤は続いている。参加者の悩みは、親の悩みをそのまま反映しているといえる。現場が、子育てをサポートする自信をつければ、親に安心感をもたらすことにもなると考える。そのためにも、参加者の動向を探りながら、今後もさらに充実した内容の講習会を提供していきたい。

4. まとめ

今回は、「子育て支援講習会」を中心に述べた。少子化対策としての目的だけではなく、子どもたちに心身ともに健康に育ってほしい、少しでも明るい社会にしていきたいという願いからも、子育て支援に関心を持っている方々は多い。

平成20年度には、「赤ちゃんサロン」の時間帯の延長なども計画され、〔こどもの城〕としても「子育て支援活動」への新たな取り組みを迫られている。クリニックでの診療や個別相談、「赤ちゃんサロン」などの活動から得られた経験を、今後もいろいろな専門の視野を生かして、全国につながる活動に結びつけていきたいと考える。

平成19年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
小児保健クリニック (診療・相談) 小児科診療 育児・健康相談 乳幼児健康診査 健康診断 栄養相談 心理相談 発達相談 ダウン症療育相談	月曜日を除く毎日 9:30～17:00 木曜日・金曜日(各月1回)	診療・相談は予約制。小児科医師・保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士が診療・相談にあたる(週2回小児精神科・月1回小児耳鼻科を含む)。 小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。乳幼児健康診査は、東京都乳幼児健診委託機関のため受診票で受けられる。 育児・健康相談は、相談料1回5,000円。心理・発達相談は、担当者1人の場合1回50分5,000円、医師の診察を受けずに直接相談に入る場合、初回のみ7,000円、専門相談のダウン症療育相談は、相談料8,000円。 専門医師が担当。(小児保健クリニック)
赤ちゃんサロン	火曜日(年18回) 12:30～14:00	対象は3～18か月の乳幼児とその保護者、妊婦。参加者同士が自由に交流(井戸端会議)し、赤ちゃん同士がふれあう場。小児科医師・保健師・管理栄養士・臨床心理士が加わり子育ての相談も行う。本年度は延べ3,285人が参加した。入館券対応。(音楽ロビー)
第22回マタニティ・コンサート	7.8 15:00～17:00	妊娠中に、楽しくリラックスできるひとときをすごしてもらい、出産を迎えようという主旨のコンサート。ピアノの竹村浄子さんとソプラノの森美佳さんの演奏、絵本のスライド上映と朗読とのコラボレーションを行った。野末源一山王病院産婦人科医師と巷野悟郎こどもの城小児保健クリニック医師の話、体育事業部スタッフによるリラックス体操なども行った。公募、無料招待。208人参加。劇場事業本部との共同事業。(青山円形劇場)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 パパバブベータウン 赤ちゃん♡チョコッと 相談	4.29・30 10:00～17:00	ゴールデンウィーク特別期間中に、小児保健部、企画研修部、保育研究開発部が共同で実施(4月28日～5月6日)。小児保健部は、4月29・30日を担当。0～2歳児親子(兄妹の入室可)で、1日3回子育て相談を実施。29日61人、30日68人参加。相談というより、のんびり過ごす家族がめだっていた。入館券対応。(研修室)
〈開館記念〉 第14回 赤ちゃん大集合 ～赤ちゃんサロンスペ シャル～	10.31 15:00～17:00	対象は3か月から2歳未満の乳幼児と保護者。小児保健部は研修室の「赤ちゃんサロンスペシャル」会場で「小児科医師の話」や「井戸端会議」「子育て相談」を行う。また8階で育児用品関係業者・団体による「情報・展示コーナー」を開催。他の事業部もそれぞれ「親子ふれあい遊び」「にこにこパーク」「みんなのにこにこ広場」「うたってパブリック・あそんでパブリック」「子育てビデオ特集」「すくすく体操」などを実施した。参加者は1,156人(563組)。全館行事として実施。入館券対応。(研修室ほか)

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
健康スポーツ教室 (太りすぎクラス) 第24期	(組) 太りすぎの 小学生とそ の親(20)	(組) ① 22 ② 21 ③ 21	土曜日 14:00～17:00	太りすぎの改善のために医学指導(東京女子医科大学東医療センター医師)・栄養指導(和洋女子大学ほか)・体育指導(体育スタッフ)。水泳と体育を交互に実施)を行う。保護者向けレクチャー(食事、心理、運動の年3回)、親子で屋外活動(駒沢オリンピック公園自転車乗り、神宮スケート、都内ウォーキング～都庁から東京タワー展望台まで、の年3回)、夏合宿は天子の森キャンプ場(静岡県富士宮市)、冬合宿は自由参加で蔵王(宮城県)へ。体育事業部との共同事業。 受講料=1・2期(各12回)各24,000円、3期(9回)18,000円。 (小児保健クリニック/体育室/プールほか)

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
マタニティ・スイミング	(人) 妊娠16週 以降の妊婦 (35)	(人) 4月 11 5月 16 6月 20 7月 26 8月 33 9月 35 10月 29 11月 20 12月 18 H20 1月 14 2月 18 3月 19 (計259)	火・木曜日(月7回) 11:00～12:00 ※夏休み特別期間(7.21～ 8.31)は10:30～11:30 ※4月のみ月6回。	妊娠中、心身ともに健康に過ごすことを目的として水泳を行っている。母親になる人たちの友だち作りにも役立ち、妊娠期からの子育て支援の意味も大きい。水泳前後の検診は、日本赤十字社医療センター産科医師、助産師と小児保健スタッフが担当、年4回レクチャーも実施。体育事業部との共同事業。 入会金 10,000円、受講料 13,000円(月額)。 (プール)

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
季節の離乳食	(組) 5～1歳6 か月の乳児 とその親 (10)	(組) 計 89	金曜日(年9回) 13:30～14:30 ※ 5.11=15 / 6.8=5 / 7.13=4 / 9.7=13 / 10.5=4 / 11.9=5 / 12.7=15 / H20.1.25 =14 / 3.7=14	離乳食の作り方・与え方に悩む母親たちに、実際に調理した食材などを見せながら、ちょっとした工夫のできる調理法などを紹介。互いに疑問点を質問し合うなど、話し合う母親同士の交流も大切な要素になっている。 受講料 2,000円(1回)。 (小児保健部プレイルーム)
親子のほっとタイム	3～1歳6 か月の乳児 とその親 (10)	計 43	金曜日(年6回) 13:30～14:30 ※ 6.29=5 / 7.6=9 / 10. 12=4 / 10.19=10 / H20.3.14=8 / 3.21=7	「健康管理」「心とからだの発達」の2つのテーマを各3回。親同士のなかに小児保健部のスタッフが加わり、子育ての疑問や悩みなどを話し合う。話を聞いて正しい情報を知ること、不安を解消し子育ての自信をつけてもらうことが目的。受講料 2,000円(1回)。 (小児保健部プレイルーム)
こども1日ドック	(人) 小・中学生 (10)	(人) 8	7.25 12:30～17:00	対象は小・中学生。医学と体育の両面からの総合健康診断。小児科医師による診察、尿検査、血圧測定、身体計測、生活習慣調査、食生活調査、性格テスト、体力測定の結果に基づいて診断・指導を行う。受講料 10,000円。 (小児保健クリニック/健康開発室)
あそび day キャン プ～きみの五感に チャレンジ	小・中学生 (20)	18	7.27 10:30～15:00	チームに分かれ、人と協力しあう体験をつちかうこと、そして、自分の五感をより身近なものとして知り、楽しむことを目的に実施。“さわる”“かぐ”といった行為だけで、“もの”を当てたり、目隠ししてさまざまな仕掛けをほどこした部屋を歩くなどの体験を行った。受講料 1,500円。 (研修室ほか)

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第22回小児保健 セミナー「気にな る親へのかかわり 方 PART3～上手 な話の聴き方・伝 え方～」	(人) 保育士・児童 厚生員・保健 師・看護師・ 養護教諭など 子育て支援の 専門家(100)	(人) 129	12.1 10:00～17:00	親(家族)の心の問題をどうとらえればいいのか、また現場での実際の対応にはどのように気をつけたらよいかを学び、さらに私たち自身の言葉の話し方をみがくという内容だった。「親の心の問題への対応」(高梨愛子：東京都東村山福祉園・児童精神科医師)、「言葉・わかりやすい伝え方」(岡部晃彦：(株)NHK放送研修センター・日本語センター・エグゼクティブアナウンサー)、「現場での対応」(中館慈子：(株)ファミリーサポート・代表取締役)の3氏の講演を行った。受講料 7,000円。 (研修室)

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
子育て支援講習会 (第9回/第10回) 「最新の小児保健 の基礎と実際～心 とからだの健康 0.1.2 歳児～」	(人) 保育士・栄 養士・保健 師・看護師 など (各50)	(人) 86	6.23 (第9回) 10:00～17:00	子育て支援の活動にたずさわる現場の職員の研修会。「最近の子育ての問題点」のほか、「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般」「気になる子どもの理解とその対応」などの講義、「子育て支援の方法と実際」の説明や質疑応答による情報交換の時間を持った。講師は小児保健部スタッフ。保育所、児童館、保健センターなど全国各地から多数参加。どちらのコースも定員を上回る申し込みがあった。第9回(1日)は受講料7,000円、第10回(2日間)は受講料13,000円。(研修室)
		77	H20.2.15・16 (第10回) 10:00～17:00	
第2回次世代育成 支援講習会「思春 期の心身の発達を 考える	児童厚生 員・保育士・ 心理相談 員・保健師 など(50)	33	2.29 10:00～16:30	思春期の子どもの体や心の変化などを理解し、学校や児童館、保育所での援助や指導を考えていく講習会。「思春期のこころの情景」(木部則雄：白百合女子大学教授・児童精神科医師)、「思春期の子とどう関わるか」(岩田慶子：新潟県燕市白山町児童館館長)、「情報交換」。受講料7,000円。(研修室)

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
ほかほか広場 乳幼児と親のための交 流広場	6.21 9.5 10.2 11.6 11.16 H20.1.31	「赤ちゃんサロン」のように、親同士の交流の場に援助者が加わって相談ができるようにする方法を実際に行った。午後は職員向けに乳児を持つ親子への子育て支援の方法について研修会を実施した。 6月21日＝東京都分寺市 9月5日＝岐阜市 10月2日＝茨城県牛久市 11月6日＝山形県鶴岡市 11月16日＝東京都大島町 平成20年1月31日＝千葉県船橋市
子育て支援研修会 「乳幼児の発達と大人の かかわり」	7.20	臨床心理士が、0～2歳の子どもの発達と大人のかかわり方について、保育士、ボランティアなどに講演。東京都大島町。
“ 「乳幼児の健康管理と応 急処置」	10.11	看護師が、乳幼児のけがの応急処置や事故防止など、健康管理について実習を含めて講演。埼玉県さいたま市。
“ 「乳幼児の食生活」	10.25	管理栄養士が、授乳、離乳食など乳幼児の食生活について基本的な考え方を講演。山梨県敷島市。
“ 「乳幼児の発達と大人の かかわり」	11.7	臨床心理士が0～2歳の子どもの発達と大人のかかわり方について、子育て広場のボランティアなどに講演。愛知県名古屋市。



パブパブベビータウン



あそび day キャンプ～きみの五感にチャレンジ

企画 研修部



平成19年度の活動

1. はじめに

企画研修部の本来的な業務は、「こどもの城」の事業部全体にかかわる意思統一、調整、また終了後の総括だが、このほかにも、全館事業や共有スペースを使った催しの実施、グループ活動、野外活動などの企画調整、業務部総合案内課とともに「こどもの城友の会」の運営、外部関連団体との協力事業なども実施した。

ボランティアの活動にかんしては、その養成から日常活動のコーディネートまで担当しており、夏休み・春休み特別期間の野外活動への参加の調整を行うとともに、高校生の社会参加を目的としたグループ活動「L.I.T.」(Leader In Training)、小・中学生を対象とした遊びを媒介にした社会参加のための講座「じょいんクラブ」の運営にあたった。

また、こどもの城児童厚生員等実技指導講習会など、指導者向け研修会の企画運営にあたるほか、子育て支援基金からの助成を受けて、全国レベルでの子育て支援にかんするモデル事業（助成金事業については「こどもの城から全国へ」= 135 ページ= 参照）、財団法人こども未来財団に協力して子育て支援にかんする研修会も実施した。

なお、国庫補助事業〈動くこどもの城〉の事務局、全国の児童館情報の収集などのいわゆる“センター機能”については、本年度から事業本部で所管することとなった。

2. 事業全体のとりまとめ

劇場部門を含めた事業全体のとりまとめでは、「事業計画書」および「事業報告書」の資料の作成、事業内容

をまとめた小冊子「こどもの城 事業と運営」の年次改訂、特別期間ごとの事業計画のとりまとめを行った。日常的なものでは、週間事業予定表、週末や特別期間の館内掲示用事業予定“デイリー版”などを作成した。これらはすべての情報のもととなるだけに、作成には細心の注意を払うとともに、少しずつではあるが、分かりやすく、使いやすいものであるように改良をしていきたい。

特に各特別期間の事業では、事業計画のあり方を明確にし、その上で各部と意見交換をしながら事業が進められるように配慮した。また、事業終了後の振り返りにも時間を割いた。次年度以降は事業計画の段階からこうした地道な作業を積み重ねていきたい。

(ア) 来館児・者増をめざして

【繰り返し来館の促進と優待パスの発行】

夏休み特別期間には、「3回あそんで、また来てね」キャンペーン～39(サンキュー)キャンペーン～を実施



とり+かえっこ

した。時期をかえて来館すると、違った遊びが体験できるようにプログラムの配置に工夫をしたうえで、夏休み特別期間の繰り返し入館を促進するため、3回有料入館すると9月に利用できる入館招待券をプレゼントした。抽選で10人に10枚の招待券をプレゼントするダブルチャンスも用意した。該当する券種を限定したことで、来館児・者にはその区別がつきにくく、せっかく応募しても無効になることがあり、対応する総合案内課での案内も煩雑になるなど課題も多かった。今後はシステムをシンプルにするなど工夫をしながら、「繰り返し入館」促進に引き続き取り組みたい。

優待パス類の発行実績は、「平日ゆうゆうパス」(平日・大人) 271枚(前年度328枚、17年度357枚)、「小・中学生土曜日パス」37枚(前年度は54枚、17年度50枚)、「ドキドキパス」(夏休み特別期間限定:子ども) 183枚(前年度143枚、17年度118枚)、「わくわくパス」(同:大人) 170枚(前年度133枚、17年度106枚)であった。

【近隣小学校等への働きかけ】

近隣の小学生にもっと来館してもらう機会をつくるため、渋谷区20校、港区19校の区立小学校開校記念日の全児童招待(渋谷区と港区)を継続して行った。しかし、来館率は港区は5.7%(前年度5.7%)と横ばいだが、渋谷区は4.4%(同7.2%)と前年度よりも落ちている。来館率10%以上の学校が7校あり、最高では28.8%の学校もあることから、平均した数字が落ちてはいるが、配布に協力的で小学生が積極的に利用してくれている学校もあるので、数字の落ち込みを見て容易に判断せず、開校記念日にあたる曜日の影響などを考慮したり、学校関係者とコミュニケーションをとる方法を探しながら、今後も継続していきたい。

春休み特別期間の新1年生招待も継続して実施した。渋谷区・港区の95幼稚園・保育所に約3,000枚を配布。全体の来館率は4.6%(前年度4.4%)であった。

特別期間案内ちらしは、夏休み特別期間に限り都内の児童館、小学校、幼稚園に約14,000枚を送付した。

【平常期間の土・日曜日プログラムの強化】

本年度は特別期間以外に、平常期間の週末の来館促進をはかるために、年間4回の全館的な特別イベントを計画・実施した。

近年は「学校週5日制」の影響もあり、ウイークデーは学童期の子どもたちの利用が減少している。〔こどもの城〕の本来の目的である「健全育成」を実現するためには、幅広い年齢層の子どもたちの来館を促進することが必要となる。そこで本年度は、繰り返し来館のきっかけとなるように、週末に特別事業を計画し、それぞれの

事業ごとにねらいや対象を整理し、魅力ある週末の活動をアピールすることに努めた。

具体的な内容としては、①子どもたちが遊ばなくなったおもちゃを交換することを活動のメインとする「とりかえっこ」(6月23・24日)、②縁日形式のイベント「秋まつり」(9月21・22日)、③全館的なプロジェクトを結成し子どもの参画について考える「ファミリードルッチャワークス」(11月3・4日)、④小学生の来館促進をねらった「小学生プログラムスペシャル」(平成20年2月9～11日)の4事業を実施した。

それぞれの事業の実施時には、多くの来館児・者を迎えることができた。しかし、その他の週末にも効果をもたらすような周到な準備がされておらず、催しが単発に終わった感もあった。今後も継続した事業実施や事業拡大、実績についての追跡調査などの取り組みが必要であろうと考えられる。

【特別期間への対応】

特別期間については、従来と同様に来館児・者の増加する時期に合わせて、ギャラリーや青山円形劇場などのスペースを使ってイベントを実施した。来館児・者の多い時期にさまざまな体験をする企画を増やし、多くの子どもたちのニーズにこたえる努力をした。今後も外部関連団体との協力や、企業とのタイアップなど事業形態や運営の方法について工夫をして、積極的に事業展開をしていきたい。

(イ) グループ活動

受け入れ件数は、169団体3,332人(前年度163団体3,400人)。件数、利用者ともに依然として高い水準を維持している。内訳を見ると、ほとんどが未就学の児童で、小・中学生は極めて少ない。

本年度は高校生の利用が2件あったが、いずれも職業体験の一環として子どもに接する現場を体験したいという理由での利用であった。今後の展開を考えていくには、職場体験など他の受け入れ方法と、トータルで検討していく必要がある。

(ウ) 動くこどもの城

※「こどもの城から全国へ」(135～144ページ)参照。

(エ) こどもの城友の会

「こどもの城友の会」は、家族単位で入会してもらい、〔こどもの城〕の施設を積極的に利用し、さまざまな催しに参加してもらう会員組織で、一般の催しへの優待や、友の会独自の催しを行った。

会員のための会報「こどもの城友の会通信」は年12

回発行し、「こどもの城ニュース」(年 11 回)、講座募集や催しの案内などとあわせ、会員あてに毎月 1 回発送した。平成 20 年 3 月で通巻 132 号となった。

会員から「子どもが小さかった時は(友の会通信が)自分と世の中を結ぶ架け橋だった」「このような情報がないと見過ごしてしまうので、たいへん役立っている」「(小児保健や保育の)コラムを参考にして、子どもの毎日の生活を整えてあげたいと思っている」などの声が寄せられている。効率の問題はあるが、会員と心の通う手作りのよさは今後も生かしていきたい。

年度末での会員数は 965 家族(前年度 1,125 家族)と減少している。劇場事業部や外部団体との連携で公演への招待・優待の機会を増やすとともに、友の会限定のイベントを企画するなど努力をしているが、会員数の増加につながらず苦戦している。

友の会限定のワークショップ「友の会おそなえ餅づくり」「にこにこ畑タペストリー」は、2 年目の活動。「おそなえ餅」は前年度を上回る参加者で、会員同士の交流もあり、またスタッフが会員から話を聞く時間も十分あった。今後は、たくさんの参加者に対し交流をはかるための有効なプログラムが提供できるかどうかを課題。また、友の会の催しで、家族同士が親しく交流でき、家族で過ごす時間のすばらしさを共有できるような催しを行い、多くの人たちに魅力的な「こどもの城の友の会」でありたい。

3. ボランティアの活動と養成

〔こどもの城〕には、施設内で専門スタッフとともに、子どもの健全育成活動を行う登録制の「こどもの城ボランティア」のシステムがある。ボランティアを養成し、活動に参画してもらうために本年度も次のような事業を行った。

(ア) ボランティアの活動

「こどもの城ボランティア」は、それぞれの活動に意欲的に取り組んだ。しかし、ここ 3 年ほど年間活動人数が減少してきており、特に特別期間活動、野外活動へ参加する青年ボランティアの減少が顕著になっている。

特別期間活動は、実施当日の人数よりも、準備段階での参加減少が目立つ。日常活動でもパネルシアターや人形劇など、練習が必要になる活動の参加が減少。短期間に集中して実施される活動より、長期にわたる活動が敬遠される傾向がうかがえる。また、学校カリキュラムの変更で、春休み、夏休み期間中の登校日が増え、このことが野外活動への参加を難しくしているようだ。青年層の気質の変化だけでなく、アルバイトや学校生活など青

キャスルロボダン研究所～みんなで世紀の大発明～



年層の生活全般の変化が、ボランティア活動参加者の減少に影響しているのではないかと推察されるが、本質的な要因は何なのかを探り、問題解決に向けて早急に動き出す必要がある。

【日常活動】

〔こどもの城〕の平常期間に、各事業部で行われている事業に協力する活動。本年度は体育、プレイ、音楽、AV、保育、造形、小児保健の各事業部で活動を行った。主に平日は女性ボランティアが、土・日曜日、祝日は青年ボランティアが中心になって活動した。本年度は特に、女性ボランティアの意欲的な活動展開が多くみられた。反面、青年ボランティアの人形劇、パネルシアターなどの、一定の人数による継続した練習が必要な活動の低迷が顕著になった。

【特別期間活動】

ゴールデンウィーク(児童福祉週間)、夏休みなどの特別期間中に実施する活動。主にプレイ事業部、企画研修部スタッフとともに、約 2 か月前から数人のボランティアがプロジェクトチームを編成し、企画、準備、実践までのすべてのプロセスにかかわった。主に学生のボランティアが中心になって活動した。若い世代のユニークな発想と行動力が生かされる活動である。

本年度は、「子どもの参画」をテーマに各プログラムに取り組んだ。また、11 月に行われた全館事業では、こどもの城スタッフが編成したプロジェクトチームと連携して事業を展開した。

【野外活動】

夏休み、冬休み、春休み特別期間に実施するキャンプ活動を支援する活動。本年度も体育、プレイ、企画研修部それぞれのキャンプ活動にボランティアが参加した。キャンプは 24 時間生活をともにするため、ふだんの活動ではうかがえない子どもの一面に接することができる。子どもにとっても、身近な目標としてのボランティアと長時間ふれあうことができる。

野外活動への参加は、キャンプのプログラム企画・準備から、実施後のフィードバックまでの一連の活動にかかわるので、それぞれが自分の位置を確認し、主体的にかかわりを深めていくことになる。企画研修部では、「ジュニア・アウトドア・スクール」「ジュニア・スプリング・キャンプ」を実施した。

■ジュニア・アウトドア・スクール

前年度に引き続き、キャンプ運営にできるだけ子どもの意見を取り入れることに取り組んだ。前年度は、キャンプ5日目に実施した『森の仲間の祭典』で子ども実行委員会を設けた。本年度は、その実行委員会に高校生リーダーL.I.T.にも入ってもらった。この取り組みは、子ども、L.I.T.、そしてボランティアリーダーたちに、今までにない体験と、大きな学びの機会をもたらした。

ジュニア・アウトドア・スクールは参加年齢が幅広く、それぞれにあったプログラムの準備が必要となる。しかし、自然や人間の環境が日常生活と大きく変わるので、その変化に直面したときに、精神的にも、肉体的にもストレスを受けることとなる。そのストレスを乗り越えたときこそ、本当の意味での学びや成長の機会となるが、こうしたストレスを乗り越えるために、簡単に援助の手を差し伸べるよりも、本人の意欲や主体性を引き出すことが重要になってくる。

子どもの意見を反映させ、主体性を高めることによって、豊かな自然と多様な人間関係を基盤にしたキャンプをさらにダイナミックなものにしていきたいと考える。

■ジュニア・スプリング・キャンプ

今回のキャンプで特筆すべき点は、キャンプ準備期間中に並行して行われた第57期ボランティア講習会の受講生にも参加を呼びかけたことだ。4人の学生（高校3年生2人、大学生2人）の参加があり、新しいメンバーを迎えたことで、経験者のボランティアたちにもよい刺激となった。

プログラムでは、2年ぶりに実施した『イグルーづくり』が好評だった。前年度は雪不足で実施できなかったが、このことがかえって参加者の期待感を高めたようだ。天候にも恵まれ、1日をとおしてじっくりと取り組むことができ、各班が作ったイグルーは個性的で完成度も高かった。

逆に、参加者自身が企画から参画して実施するプログラム『プロジェクトX』の評価はかんばしくなかった。3年前から実施しているプログラムだが、今回はアンケートに「間延びした」「走ってばかりで疲れた」などの具体的な評価とともに、「リーダーがもう少し手伝ってくれれば」と、ボランティアリーダーのかかわり方への指摘もあった。

初めての試みとして、L.I.T.が中心になって子どもたちとともに運営したため、“メンバーとL.I.T.とボランティアリーダー”という三者の関係になったことで、パートナーシップの在り方が課題となった。L.I.T.の参画は、プログラムに主体性と躍動感をもたらす。だからこそ、大人の側のコーディネートと、高校生・子どもに向き合う姿勢が問われてくるのではないかと思う。

■その他のキャンプへの参加

この他、各事業部から活動依頼を受けて、下記の野外活動に多くのボランティアが参加した。

チャレンジキャンプ(体育事業部)／ちびっこ冒険団(プレイ事業部)／フェローシップキャンプ(同)／ゆきんこ冒険団(同)

【代表者会】

青年ボランティア各期の代表者1～3人で構成される組織。こどもの城ボランティア全体の活性化をめざし、ボランティア同士の交流会、学習会、機関誌の発行などを行う、ボランティアのセルフヘルプ活動。月1回第2土曜日に定期会議を行っている。本年度は31人のメンバーで構成され、“話したい、つなげたい代表者会づくり”をテーマに、意欲的な活動が展開された。

(イ) ボランティアの養成

〔こどもの城〕の施設ボランティアとして、活動を希望する人に対し、年3回の講習会を実施している。前年度からの継続者を含めて、平成20年3月末までの登録人数は、青年ボランティアが257人、女性ボランティアが90人、合計347人となった。これら登録ボランティアは、年間延べ7,269人が意欲的に活動を行っている。ボランティア活動を希望する人を対象とした講習会を以下のとおり行った。

【ボランティア講習会】

大学生以上(社会人を含む)の青年層を対象とした講習会を2回(第56・57期)、主に平日昼間に参加しやすい女性(おおむね30代以上)を対象とした女性ボランティア講習会を1回(第21期)、計3回の講習会を実施した。

第56期講習会は、より多くの受講生を確保するために、平日の実施を少なくして土曜日に2コマを実施する形をとり、平日はスケジュールの調整が難しい、学生や社会人の参加を見込んだ。しかし、割合としては学生が多かったものの、応募も少なく、少人数での実施となった。要因として、資格取得の授業が土曜日に多いことや、アルバイトなどが週末にあることから、かえって参加がしづらい状況もあったと考えられる。5～7月に開催するのは、夏の活動に向けて登録者増をはかる目的もあ

る。この時期の開催が適切かどうか、再検討の必要を感じる。

第57期講習会は、早めの広報を行ったこと、現在登録している学生に呼びかけ、学校での配布に協力してもらった結果、大学1・2年生の学生の参加が多く、定員に近い人数が集まった。活気ある雰囲気、講習会も積極的な参加が見られ、登録後もイベントなどの企画にかかわるメンバーが多かった。こう考えると、大学の授業がない時期が、学生の参加が多くなることから、実施時期について検討をしたいが、事業のかねあいからなかなか他の時期に移すことが難しいのが現状である。

第21期女性ボランティア講習会は、3年ぶりの開催で多くの参加を見込んだが、7人の応募で修了者は6人となった。活動参加の方法を検討した結果、「最初の3か月は研修期間としていろいろな活動をまわる」スタイルにし、その後フォローアップミーティングを行い、ベースになる活動を決めてもらうこととした。年齢的に登録ボランティアの平均よりはるかに若い30代後半が中心だったこともあり、「新しい活動を考えてみたい」という希望もあって、各グループへの活動の参加が少なく、イベント活動への参加(21期生が企画するものを含む)が見られた。

【ボランティアグレードアップ講習会】

例年実施している、野外活動の技術講習を目的とした講習会を、6月と平成20年2月に実施した。

6月の講習会は、「ジュニア・アウトドア・スクール」の事前トレーニングと位置づけ、埼玉県野外活動センターで実施。キャンプのためのシミュレーションにとどまらず、ボランティアリーダーのキャンプ技術の向上、体力増進をかねて、キャンプ場までの登山を行い、夏の活動にそなえた。登山に自信のなかったメンバーが、こうした経験をもとに、夏の小学生登山に挑戦したこともあり、講習会の成果が感じられた。

2月は、「ジュニア・スプリング・キャンプ」のための現地トレーニングをかねて、新潟県国立妙高青少年自然の家で実施。講師の桃井奉彦さんも招いて、イグルー作りのトレーニング、クロスカントリースキー実習などのトレーニングを、自然観察を兼ねて実施した。少人数の参加ではあったが、日常では体験できない雪上活動をとおして、春のキャンプでの活動を有意義にする機会に恵まれたことが、成果として感じられた。

4. 講座・クラブ

【社会福祉講座 じょいんクラブ】

9人の参加で継続者も多く、本年度で“卒業”となる中学3年生は、クラブ開始時からの参加で、最後の活動

をしめくくる年ともなった。

9月の開始当初に、メンバーから活動に対する希望を聞き、“盲導犬”をメインテーマとすることにした。そこで、[こどもの城]の登録ボランティアで、パピーウォーカーの活動をしている人にお話し、日本盲導犬協会から預かっている10か月のラブラドル犬とのふれあい、パピーウォーカーの役割や盲導犬についての学習を行った。また12月には、活躍中の盲導犬アンソニーとユーザーの櫻井さんを、日本盲導犬協会に紹介してもらい、ふれあい活動を実施。実際に盲導犬と生活をする櫻井さんとの出会いやお話、実際に盲導犬と歩いてみる体験をとおして、子どもたちは「犬のいる安心感」「ユーザーと盲導犬の信頼関係」を肌で感じていた。

活動の最後に自分たちで企画するワークショップは、こうした体験から「エンじょいんスタンプラリー」を計画。来館児・者が館内を巡りながら、手話や盲導犬にかんするクイズ・ゲームに挑戦する内容を3日間かけて準備した。盲導犬クイズは、小さい子どもたちだけでなく、大人にとっても知らないことが多く、「むずかしかった」という声もあったが、自分たちが感じたことをみんなに伝えようと、一生懸命に取り組む姿が印象的だった。

特筆すべきことは、高校生L.I.T.、健康スポーツ教室(小児保健部・体育事業部)と、じょいんクラブの3つの講座で合同冬合宿を行ったこと。場所は、宮城県国立青少年の家南蔵王野営場、平成20年1月12～14日の2泊3日で極寒の自然体験活動を行った。講座生を小学2年生～高校生の縦割りの4グループに分けた。小集団生活で、ブリザードのなかでも、元気に遊び、活動。都会っ子はめったにない雪体験を楽しんだ。夏に毎年キャンプを実施している場所ということもあり、今回は地元の方にさまざまな場面で温かい応援をしていただいた。



じょいんクラブ

【L.I.T.の活動】

「L.I.T.」(Leader In Training)は、高校生の社会参加活動プログラム。前年度の9月から継続しているメンバーの活動が8月で終了し、9月から新しいメンバーを迎え本年度の活動を行った。今期のL.I.T.のまとめの活動として、事前募集した小学校1～3年生30人を対象に、会場を一つの王国に見立てたロールプレイングゲーム『キャスルアドベンチャー 2007 ぼくらの国を復活させよう』を、8月に2日間にわたって実施した。

6月から準備活動を行い、特にこの活動では、高校生自らが次のような目標を立てた。

- ①多種多様なL.I.T.のさまざまな意見を集めて作りあげること、認めあうこと、達成感を感じることを。
- ②自分たちも楽しむこと。
- ③自己満足で終らせず、何かを感じられるように、より主体的に参加する。

そして、参加する子どもにかんしては、次のような体験をしてほしいと考えた。

- ①偶然集まった子どもたちとの達成感
- ②遊びを作る楽しさ
- ③自分だけで楽しむのではなく、楽しさを他の人と分かち合う楽しさを感じてもらう

こうした目標をもとに実施した本番では、参加した子どもたちの、エネルギーあふれる行動に振り回されながらも、非常に純粋でストレートな遊びに対する意欲に、子ども自身の可能性を感じたようだった。修了式では、1年間の感想を次のように述べている。

・最初は小さい子どもと遊ぶと思っていたが、話し合いが多くて苦手だった。みんなはすごいな。貢献できたことは少ないが、みんなにいろいろ教わった。

・L.I.T.はあこがれだった。これがよかったとは言えないが、みんなできてよかった。いろんなことを学べた。ここで学んだことが、ほかに生かしてよかった。

・キャンプのL.I.T.のイメージが強かったが、ふだんの

活動は随分イメージが違った。学校の話し合いとは違って、みんな意欲がある。1回1回の話し合いでいろいろ学べた。

・今日、男の子だけの班を担当したが、まとまりがなくて、喧嘩したりして大変だった。でも時間がたつにつれて、だんだんまとまって協力してくれた。喧嘩を止める力はまだないが、その場をつくる力を学んだ。

・L.I.T.は生活の一部でいつも考えていた。みんな意欲的で、一人ひとりが一生懸命なのがカッコいい。良い友達を持ってよかった。悩むと相談にのってくれるのもうれしかった。

・「L.I.T.やっていいのかな、勉強しなきゃ」と思ったけど、子どもたちの笑顔で元気をもらって受験もがんばれると思った。

・入った時から緊張していた。始めのころは自分の発言の少なさに反省していた。今は緊張が解けて発言できるようになった。来年残る唯一の男子なので後輩の役にたちたい。

5. まとめ

開館22年を経過し、社会情勢の変化や来館児・者の需要の変化に、〔こどもの城〕の事業も対応を求められている。乳幼児連れの来館児・者への対応、小中学生が多い土・日曜日の対策、中高生の職場体験やボランティアの育成など、すでに着手していることも多いが、いずれも一つの事業部だけで対応できる問題ではなく、複数の部署または全館にかかわる問題となってくる。

企画研修部に求められるのは、優れた調整能力とコンセンサス作りである。立場が違い、スムーズに行かないことも多く、同時に、どこにも当てはまらない問題の処理をしなくてはいけない事態も次々にやってくる。問題を、一つずついいねいに解決していくことの積み重ねのなかに、〔こどもの城〕の事業の進むべき方向性を見出していきたい。

平成19年度活動一覧表

1. 一般利用

〈展示・ワークショップなど〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 こどもの城ジュニア・ プレス	4.28～30、5.3～6 11:00～17:00	おもしろかった〔こどもの城〕の遊びについて来館児・者に取材し、壁新聞にして発信する遊び。子ども同士、子どもと大人がかかわりあい、向かい合える場面を作ることができた。 (4階ロビー)
〈 〃 〉 バブバブベータウン	4.28～30、5.3～6 10:00～15:00 ※5.6のみ担当	特別期間中に、乳幼児の居場所づくりとして設営。企画研修部担当日はボランティアリーダーが在室し、親子にゆったりかかわることができた。ボランティアによる手作りおもちゃも、温かい印象をかもし出した。人形劇イベントの隣室に設置したので、そちらへの参加親子にとっては利用しやすかったようだが、9階研修室は遊び場や休憩室からの動線が悪く、課題はあるが“居場所”を作れたことが重要である。 (研修室)
〈 〃 〉 アイスクリームのプレ ゼント	5.3	5月9日の「アイスクリームの日」にちなんで、来館児・者にアイスクリームをプレゼント。協力は、(株)日本アイスクリーム協会。 (フリーホール)
〈 〃 〉 こどもの城ジュニア・ プレス・スペシャル	5.4 13:00～15:30	本格的な取材をし、新聞を発行し、館内で配布した。 (会議室ほか)
〈 〃 〉 こども探偵団番外編～ マックローを探せ!	5.5 11:00～16:30	館内にある「マックロー」マークを探し出し、謎をとくと「探偵団員証」がもらえる。グリーンティンクに回っている本物のマックローに会うとスタンプがもらえて、ポイントがアップする。 (全館)
〈 〃 〉 マックロー・グリーテ ィング	5.5 開館時間中 (3・4回)	「こどもの日」を記念して、子どもたちと握手をしたり記念撮影をして、〔こどもの城〕をアピールした。 (ピロティ、アトリウム、屋上、研修室など)
〈 〃 〉 こどもフェスティバル 「おんがくがスキ!ファ ィナル・コンサート」	5.6 13:30～14:30 15:30～16:30	来館児・者の多いゴールデンウィークに、家族で、劇場で気軽に楽しめる質の高い催しとして、毎年実施している「こどもフェスティバル」。音楽ロビー活動から生まれた人気バンド、ガドガドによるライブは15周年を迎え、ゴールデンウィークの青山山形劇場での公演は最終となる。聞かせる曲、遊べる曲、踊れる曲、コントやジャグリング、手遊びなどもあり盛りだくさん。おもしろくも質が高い演奏と演出で、小さい子どもからすべての年齢の来館児・者が共有できる、音で遊べる時間と空間を提供してきた。青山山形劇場スタッフも一つになって作りあげてきた「おんがくがスキ!」に終止符が打たれるのはとても残念だが、活動そのものが休止するわけではないので、〔こどもの城〕館内・館外での、さらなる活躍を期待する。延べ600人が参加。 (青山山形劇場)
とり+かえっこ	6.23・24 開館時間中	遊ばなくなったおもちゃをバンクで売り、引き換えたポイントで別のおもちゃが買える遊び。〔こどもの城〕の特色を出すために、館内のプログラムに参加して遊んだり、「お仕事体験」をするとポイント引換券がもらえて、その方法でもおもちゃが買える仕組みにした。子どもの感性、自主性を大事にした「こどものまち」。ここで集めたポイントは、別の地域で行われる「かえっこ」とも共通で使える。 (ギャラリー)
〈夏休み〉 きこりんと 木のおもちゃ工場	7.21～8.12 開館時間中	木にふれて遊び、環境にも興味を持ってもらう催し。毎日実施した体験ワークショップでは、のこぎりで木片を切り出し、ヤスリで角を落とし、自分の積み木のピースを作った。親指ピアノやバードコールを作る小学生以上のプログラムも実施。協力、住友林業(株)。 (ギャラリー)

名 称	日 時	内 容
〈 〃 〉 こどもの城 あそび day キャンプ	7.27、8.1、8、18、25～27 11:00～16:30	本年度から始めたプログラム。野外活動や一日講座とは違い、じっくり遊びに取り組み、仲間とふれあったり互いを高めあうことを目的とした、小学生以上の日帰りキャンプ。みんなて活動を楽しむなかでの社会的な成長を期待して実施。 7月27日：きみの五感をためしてみよう（小1～6／小児保健部） 8月1日：こども特派員 テレビニュースとニュースペーパーにチャレンジ（小3～中3／AV事業部と企画研修部） 8日：Dance [E] プロジェクト（小1～6／音楽事業部） 18日：みんなてつくろうスプラッシュランド（小1～6／企画研修部とボランティア） 25日：Come on! キッズスポーツキャンプ（小1～3／体育事業部） 26・27日：キャッスルアドベンチャー 2007 ぼくらの国を復活させよう（小1～3／企画研修部とLIT）
〈 〃 〉 キンダー・フィルム・ フェスティバル	8.7～12	本年度で 15 回目となった子どものための映画祭。子どもをテーマにした映画、子ども向きのアニメーションを上映するだけでなく、声優吹き替え、審査員、司会進行、受付といった映画祭進行のすべてに子どもたちが参加した。キンダー・フィルム・フェスティバル実行委員会が主催、児童育成協会は共催者として催しを支えた。（青山円形劇場）
〈 〃 〉 満天の星朗読会～メガスター +宮沢賢治の童話の世界	8.14～19 13:00、15:00	大平貴之氏が開発したプラネタリウムシリーズ「メガスター」で青山円形劇場に星空を出現させ、その星あかりのもと、賢治作品『双子の星』『オツベルと象』『やまなし』の朗読を楽しんだ。（青山円形劇場）
秋まつり～みんなて縁 日たのしもう！～	9.22・23 16:00～20:00	日曜日対策としての特別イベント。縁日・お祭りを〔こどもの城〕らしくアレンジし、さまざまな世代に楽しんでほしい、今後の来館につなげることが目的。また、地元の人や友の会、講座・クラブ受講生にも積極的に呼びかけ参加してほしい、日ごろの感謝を表しつつ、〔こどもの城〕への理解をより深めてもらえるよう努力した。各部の協力で運営した飲食模擬店のほか、ゲームや星空映画会、講座生による和太鼓コンサート、サンバやパンディロの演奏など、〔こどもの城〕の遊びを生かしたプログラムで、楽しい宵を過ごした。児童健全育成推進財団にも協力してほしい、ゲームの一店舗を運営してもらった。（屋上ふしぎが丘・ネット広場）
グリーグの音とカラダ であそんじゃおう！グ リーグ没後 100 年記念 子どもワークショップ	10.19 15:00～16:30 ※4～6歳と保護者 10組 10.19 11:00～12:30 ※2・3歳と保護者 10組 13:30～15:00 ※小1～4年生 30人	ノルウェー王国大使館からの声かけで、親子と小学生向けのワークショップを開催。講師は中ムラサトコ（ボイスパフォーマー）、鈴木亜紀（音楽・写真・文筆家）、岩橋由莉（表現教育実践家）。グリーグの曲の生演奏にあわせてカラダを動かし、何かを模倣したり、リズムに乗ったり、スカーフを使ったりして、親子のふれあい遊びを楽しんだ。小学生クラスでは、「さんびきのやぎのがらがらどん」もモチーフに取り入れ、グリーグの曲とあわせ、表現遊びを楽しんだ。（Bスタジオ）
〈開館記念〉 第 14 回おりがみカー ニバル／全国児童館お りがみ作品展	10.27～11.18 開館時間中	子どもからお年寄りまで幅広く気軽に楽しめる折り紙に、多くの人に親んでもらうための催し。日本折紙協会と共催。「全国児童館おりがみ作品展」を同時に開催。「つながる」をテーマに 25 館から出品された作品を展示した。関連企画として「おりがみにつよくなる講習会」を開催した。（ギャラリー）
〈 〃 〉 赤ちゃん大集合	10.31 10:30～17:00	開館記念特別期間恒例の、乳幼児と親を対象にした催し。お母さん同士の語らいの場「赤ちゃんサロンスペシャル」をはじめ、研修室でボランティアが運営する「みんなてあそぼうにこにこパーク」、体育室では対象年齢別に「ごろごろハイハイ」「たっちたっちタッタッタ」「てくてくピョンピョン」の 3 プログラムと「It's a ベビーワールド」を実施。音楽ロビーでは「うたってパブリン」「あそんでパブリン」などのコンサートや手遊び、ビデオライブラリーでは「どうぶつビデオ特集」とぬいぐるみで遊べる広場、プレイホールでは「みんなのにこにこ広場」で人形劇を上演した。研修室には企業や団体の協賛を得て、情報展示コーナーを開設した。578 組の親子が参加。（研修室ほか）
〈 〃 〉 ファミリードルッチャ ワークス	11.3・4 10:00～17:00	“子どもの参画”“家族の再発見”をもとに生まれたプログラムで、「来館者から来館者へ“楽しさ”を提供することがねらい。子どもだけでも、家族単位でも「遊びのお店」（体育室）を出店し、ほかの来館児・者にプログラムを提供し「夢のこどもの城」をつくる。出店するには各エリアでの「お仕事体験プログラム」に参加し〈こどもの城マインド〉を体験しなければならず、全館を使った遊びとして展開した。（体育室ほか）
〈 〃 〉 マックロー・グリーティング	11.3 開館時間中（3・4回）	〔こどもの城〕の開館を記念して、子どもたちと握手をしたり記念撮影をして、〔こどもの城〕をアピールした。（ピロティ、アトリウム、屋上、研修室など）

名 称	日 時	内 容
CAMP かぞくのひづけ ワークショップ	11.18 10:00～18:00	少子化対策を目的とした「家族・地域のきずなを再生する国民運動」の一環として、内閣府が定めた「家族の日」を記念して実施。写真家の広川泰士さんが撮影した家族のポートレートや、家族同士で撮影した写真を素材にして、1冊の家族のアルバムを作る、子どものためのワークショップ。共催：(株)CSK ホールディングス/機材協力：アドビシステムズ(株)、エプソン販売(株)、(株)ニコン。(会議室)
〈冬休み〉 だがしやタイムトラベル	12.22～27、H20.1.3～7 ※展示は開館時間中	昭和30～40年代の駄菓子屋の店先にあったおもちゃの展示と、おもちゃで遊べるコーナーを開設。駄菓子屋もオープンし、雰囲気を盛り上げた。前年度の「青山あそび寄席」の流れをくんで、他事業部の協力で日替わり遊びコーナーをオープンした。 1月3日：マックローとあそぼう（クイズ大会・13時、15時） 4日：めんこであそぼう（13時～16時） 5日：ピンホールカメラであそぼう（13時～16時） 6日：凧づくりに挑戦（和紙でつくるエイ凧・13時～16時） 7日：駄菓子屋になってみよう（13時～16時）（ギャラリー）
〈 〃 〉 マックロー・グリーティング	1.3 開館時間中（3・4回）	子どもたちと握手をしたり記念撮影をして、〔こどもの城〕をアピールしたほか、ギャラリーでの日替わりプログラム「マックローとあそぼう」もあわせて実施。クイズ大会を行った。（ギャラリー、ピロティ、アトリウム、屋上、研修室など）
〈 〃 〉 新春もちつき大会	1.4 13:00～15:00	日本の風習を子どもたちに伝えていきたいと、毎年行っている伝統行事の一つ。もち米40kgを2つの臼でつき、ふかしたもち米が臼の中でつかれてもちになる過程を体験した。衛生規則上の問題もあり、残念ながらその場で食することはできないので、参加者には市販の個別包装の切りもちを配布した。約500人がきねを持って体験した。毎年、部を超えた多くの職員とボランティアの協力で運営している。（ピロティ）
〈 〃 〉 こま名人来る！	1.6 11:30、15:00	こまのおっちゃん、こと藤田由仁氏と弟子の“たけちゃん”による、こままわしのパフォーマンス。藤田さんには数年ぶりに登場していただいた。近い距離で、さまざまな種類のこまと技を見たあと、子どもたちも缶ゴマをまわす体験の時間を持った。初めてこまを手にする幼児でも、“おっちゃん”と“たけちゃん”の指導で、すぐにまわせるようになった。親子で楽しむ姿も多かった。（体育室）
〈春休み〉 ニッサンゆかいな絵本 と童話展 えほん畑はに ここ畑	3.25～4.6 開館時間中	第23回ニッサン童話と絵本のグランプリ受賞作品の原画やパネル展示、そのストーリーから広げたテーマで「好きな人にあげたいもの」をつくって畑で育てて収穫する、というワークショップを開催。材料は自動車に使用している内装材や緩衝材や紙など。日産自動車の工場から提供を受けた材料にあわせ、包装紙や雑誌、飲料のプラスチック容器、布の端切れなどを〔こどもの城〕内から調達して使用した。会場装飾の一部は、「こどもの城友の会」による手作りタペストリー。今回は、グランプリ受賞者・とみた真矢さんから子どもたちへのメッセージビデオも流した。協力、日産自動車(株)。（ギャラリー）



「ニッサンゆかいな絵本と童話展」会場を飾る、手作りタペストリー作り

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
おもちゃ図書館 マックロー	〔こどもの城〕の休館日を除く水曜日（延べ49回） 11:00～16:00	障がいのある子どもが気軽に利用できる遊び場として、昭和62年（87年）に開設された「こどもの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も4人のボランティアを中心に運営された。利用者数はその日によってまちまちだが、年間300人近い利用者があった。「夏休みのお楽しみ会」や「クリスマス会」などの催しを行い、他のおもちゃ図書館との交流もはかった。（会議室）
学習会 イギリスの事例に学ぶ子どもがいいきい遊ぶまちをつくる	H20.2.24 13:30～17:00	イングランドの子ども政策に大きな影響力を持つNCB（National Children's Bureau：全国子ども局）の遊びにかんする部門であるPlay England（プレイ・イングランド）ヨークシャー・ハンバー地方支部事業担当のクリス・スネル氏を迎え、子どもがいいきいと遊べる環境を作っていくために、遊びを保障しようとするさまざまな取り組みの社会的な位置づけや具体的な展開方法などを学んだ。NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会との共催。
アートスケープ 2008	2.28～3.9 開館時間中	首都圏のインターナショナルスクール、アメリカンスクール 10校と日本校 1校の合同美術作品展。600人におよぶ生徒が制作した絵画、版画、素描、立体作品、陶芸、写真などさまざまなジャンルの作品を展示。（ギャラリー）

2. ボランティアの活動

〈定例活動〉

名 称	日 時	内 容
保育活動 （保育研究開発）	月～金曜日 10:00～16:30	保育スタッフとともに、2歳児クラス、または3～5歳児グループに入り、運営補助。（保育室ほか）
赤ちゃんサロン （小児保健）	月2回火曜日 12:30～14:00	小児保健スタッフとともに、乳児とその親を対象にした広場事業の運営サポート。（音楽ロビー）
紙芝居 （プレイ）	第1・3水曜日（練習は毎週） 15:00～15:30	親子を対象に紙芝居を行う。（プレイホール）
女性人形劇 （プレイ）	第2水曜日（練習は毎木曜日） 15:00～15:30	手作りの人形を使い、脚本から上演までを行う。昔話や音楽に合わせて人形が踊る人形劇を実施。（プレイホール）
影絵 （プレイ）	第3水曜日（練習は毎火曜日） 15:00～15:30	人形、背景、脚本など手作りで実施。昔話や童謡・唱歌を独自に演出・構成して実施。（プレイホール）
おりがみあそび広場 （プレイ）	木曜日 14:30～15:30	毎回2～3種類の折り紙遊びを子どもやその親を対象に伝える。毎月の折り紙の企画も実施。（プレイホール）
みんなの楽器屋さん （音楽）	木曜日 15:30～16:00	プログラム導入の手遊びや、音楽プログラム『みんなの楽器屋さん』で参加する子どもたちをサポート。年数回、ボランティアが楽器の演奏も実施。（音楽ロビー）
絵本であそぼっ （企画研修）	金曜日 14:30～15:00	幼児とその親子を対象に、絵本の読みかたりを実施。（Aスタジオ）
みかんちゃんズの オパオパサンバ（音楽）	金曜日 15:00～15:30	スタッフとともに“サンバ”のリズムを中心に子どもたちと一緒に演奏、プログラム指導を行う。（音楽ロビー）
布おもちゃ （企画研修）	第2・4金曜日 15:00～15:30	プレイホール幼児コーナーで子どもたちが遊ぶ「抱き人形」を製作。また幼児コーナーの環境づくりとして、遊具や装飾の手芸関係の活動を行う。（ボランティアオフィス）
ビッグサタデー（体育）	土曜日 10:30～11:45	小学校4年生以上の高学年を対象にしたスポーツプログラム。バスケット、バレーボール、サッカーなどを実施。（体育室）
不思議な映像実験室 （AV）	土曜日 15:30～17:30	来館児・者を対象に行う視覚がん具作りのワークショップ（主にくるくるアニメ）の運営補助。（音楽ロビー）

名 称	日 時	内 容
手足の不自由な子の水泳 (体育)	土曜日 17:00～18:00	講座に参加する子どもたちにボランティアが1対1でつき、水泳の補助。(プール)
こどもの城アドベンチャー (企画研修)	第1・3土曜日 14:00～17:00	子ども活動エリア全体を使って、与えられたヒントをもとに進んでいく、ウォークラリー形式のゲームを実施する。(全館)
土曜昔あそびの会 (企画研修)	第2・4土曜日 14:00～17:00	来館した子どもたち、その親を対象に、コマや三つ馬などの伝承遊びを実施。(ふしぎが丘ほか)
キッズクラブ(プレイ)	月2回土曜日 15:00～17:00	小学1～4年生を対象に行う年間をととしたクラブ活動を運営する。プログラム企画・準備、グループワーカーとしての役割を担う。(会議室ほか)
青年人形劇(企画研修)	月1回土曜日 13:00～13:30	本年度から、プレイホールで実施。公演も日曜日となった。[こどもの城]のマスコットキャラクターの棒使い人形を使ってのオリジナル人形劇を実施。(プレイホール)
造形活動(造形)	日曜日 10:00～17:30	造形プログラムの運営補助。(造形スタジオ)
つくってあそぼう (企画研修)	第1・3土曜日 14:00～17:30	小学校低学年を対象に、廃品や身の回りの材料を使用して手作りおもちゃのワークショップを行う。手作りおもちゃの開発も独自で行っている。(フリーホール)
パネルシアター (企画研修)	第2・4日曜日 13:00～15:30	パネルシアターの公演とその合間にパネルを使って遊ぶワークショップを実施。平日夜や、土曜日に練習日を設けた。(プレイホール)
絵本の読みかたり (企画研修)	第2日曜日 14:00～14:30	保育室の1～2歳児コーナーで実施。お話し会の後、子どもたちに自由に絵本を読んであげる時間も実施。(保育室2)
L.I.T. = 高校生ボランティア (企画研修)	月2回日曜日 10:00～16:00	[こどもの城]を活動基盤に、年間をととして高校生が行うボランティア活動を支援する。ボランティアはプログラムを企画、準備、運営する際のアドバイス、よりよいグループ活動を行うためのワーカーとして働きを担う。(会議室ほか)
ユースクラブ(プレイ)	月2回日曜日 13:30～15:30	小学5年生～中学3年生を対象に行う年間をととしたクラブ活動を運営。プログラム企画・準備、グループワーカーとしての役割を担う。(会議室ほか)
日曜クラブ(企画研修)	月2回日曜日 14:00～17:00	縄跳び、フラフープ、ドッジボール等を実施。七夕、クリスマス、ひなまつりの時期にはクイズ大会も実施。(ふしぎが丘)
ファミリープレイタイム (プレイ)	2か月に1回日曜日 12:30～16:00	親子を対象に、クラフト、遊び、クッキングなどのプログラムを実施。ボランティアは運営のサポートを行う。(プレイホール)
じょいんクラブ (企画研修)	日曜日(年10回) 13:30～15:30	子どものための社会福祉講座。手話通訳士の講師が進める、手話を中心にしたワークショップの運営補助と子どもたちが考える活動のサポート。(会議室)
親子のほっとタイム (小児保健)	3日間×3回/年 13:30～14:30	小児保健部の講座に、赤ちゃんのサポートで入る。(小児保健プレイルーム)
手作り楽器のワークショップ(音楽)	夏休み特別期間 12:00～16:00	事前準備活動を行いつつ、作り方の研修を受け、4種類程度の手作り楽器のワークショップの運営サポート。(Bスタジオ)

〈特別期間中の活動〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ためきのゴールデン大作戦〜どどんとサクセスストーリー〜	5.3～6	“ためきの世界”のゲームに挑戦し、“葉っぱー”を集め億万長者をめざす。子どもが運営するゲームコーナーも運営。 (ふしぎが丘)
〈 “ ” 〉 あそびのおもちゃ箱	5.3～6	人形劇などの公演系の8つのグループが参加。またトコトコ人形を使って遊ぶワークショップ「ごっこ遊び」も同時並行で運営した。 (研修室)
とり+かえっこ	6.23・24	子どもが持ち寄ったおもちゃをポイントに代えて、他のおもちゃと交換するプログラム。ボランティアは各コーナーの運営と、ゲームコーナーの運営を行う。 (ギャラリー)
〈夏休み〉 きこりんと木のおもちゃ工場	7.21～9.2	夏休み特別期間をとおして実施した。角材や自然木を素材にして作るおもちゃワークショップの運営補助を行う。 (ギャラリー)
〈 “ ” 〉 スプラッシュフェスタ ～目指せ 伝説の海賊王～	8.17～19	水遊びをテーマに、水の感触や仲間とのふれあいを楽しむゲームを企画・運営。 (ふしぎが丘)
秋まつり～みんなで縁日たのしもう！～	9.22・23	食べ物や、駄菓子などの屋台を運営。独自のゲーム屋も企画・運営。 (ふしぎが丘)
〈開館記念〉 赤ちゃん大集合	10.31	女性ボランティアは、「みんなであそぼうにこここパーク」を実施。親子でゆったり遊ぶ手作りおもちゃのスペースを運営。 (研修室)
〈 “ ” 〉 ファミリードルッチャワークス	11.3・4	各部から選出されたスタッフにより運営された全館事業。ボランティアは代表者会が中心になって運営し、子どもが作るお店のサポートを行った。 (体育室)
〈冬休み〉 新春あそびのお年玉～ コマがクルクル 福も来る 回してクルクル みんな来る～	H20.1.3～7	伝承遊び「コマ」を素材に、子どもたちがじっくり取り組み、新しい遊び方をつくるためのサポートをとおして、人間関係作りをひろげることを目的に実施。毎日夕方、コマ大会も実施。 (屋上遊園)
〈春休み〉 キャスルロボダン研究所～ みんなで世紀の大発明～	4.4～6	段ボールを素材にして自由にロボットを作るプログラムを企画、運営。巨大ロボット作り、ゲーム大会「ロボダンピック」も時間を決めて実施。 (ふしぎが丘)
ゆったり親子のおんがく園	児童福祉週間（ゴールデンウィーク）、夏休み、冬休み特別期間	特別期間に設けられる乳幼児とその親子のためのゆったりスペース。主に女性ボランティアを中心に、親子の居場所づくりの環境整備を行った。 (Aスタジオ)



ためきのゴールデン大作戦〜どどんとサクセスストーリー〜

〈高校生プログラム＝L.I.T.(Leader In Training)〉

名 称	日 時	内 容
タウンマップの作成活動	4.6	前年度に引き続きタウンマップの制作。グループ全体の意欲は低下気味。昼食を持ち寄り、パーティーを行い、オーバーナイトハイキングを計画するなどのアプローチを試みる。
オーバーナイトハイキング	4.21・22	グループの活性化を目的に、メンバーの提案でオーバーナイトハイキングを実施。神奈川県三浦半島 33km を、3つのグループに分かれて、一晩とおして歩く。
タウンマップ制作・夏プログラム検討①	5.27	タウンマップの制作と並行して、夏のプログラム『キャッスルアドベンチャー 2007 ぼくらの街を復活させよう』のポスター作り。日程は 8 月 26・27 日に決定。
〃 ②	6.10	タウンマップの制作、夏のプログラムの企画準備。
〃 ③	6.17	夏のプログラムの目的や流れを考える。
〃 ④	7.10	夏プログラムの電話受け付けを行う。参加人数は相変わらず少ない。
〃 ⑤	7.22	タウンマップの 5 枚分の地図部分の原稿が完成する。夏プログラムは当日の流れの決定、出店される遊びのワークショップの種類が決定する。
ジュニア・アウトドア・スクール 2007	8.3～9	特別活動として希望者が、キャンプ活動（場所：宮城県・国立南蔵王青少年野営場）をボランティアとともにサポートする。
タウンマップ制作・夏プログラム検討⑥	8.12	夏のプログラムの準備活動を中心に行う。また合宿についても話し合いを行う。タウンマップはすべての原稿が完成する。
〃 ⑦	8.19	タウンマップは印刷を終え、完成する。あわせて近隣施設（電力館、たばこと塩の博物館、東京都児童会館、NHK スタジオパーク、春の小川プレイパーク）にタウンマップを届けに行く。夏のプログラムはさまざまな用具の準備、制作を行う。
夏プログラム準備・合宿	8.25・26	宿泊をして、プログラム最終準備とシミュレーション。
夏プログラム実施	8.26・27	こどもの城館内でタウンマップの配布を始める。今期の L.I.T. にとっては最後の活動となる。
開校式	9.17	開校式、個人面談、自己紹介を中心にしたグループワークトレーニング、「子どもたちの今」をテーマにしたワークショップ、年間計画と活動の主旨を話す。
こどもの城見学・今後に向けてのミーティング	10.8	館内ラリーを実施しながら館内を見学。グループ運営・ボランティア活動におけるパートナーシップのあり方を考える。また、リーダーからの提案でクリスマスプログラムの実施を決定。
冬プログラム検討①	11.11	冬休みプログラム「新米サンタのクリスマス」に向けての企画会議。目的・主旨を話し合う。クラフト・ゲーム・ステージの 3 コーナーを計画。今後のスケジュールについても話し合った。
〃 ②	11.18	前回話し合った目的をもとに、各コーナーの内容を検討。装飾については全体でイメージの統一をはかった。
〃 ③	12.9	ゲームで使用する小道具やクリスマスツリーの試作。装飾は、具体的に絵コンテを起こしてから作成した。トーンチャイムを用いての楽器練習や紙芝居公演の練習もあわせて行った。
〃 ④	12.16	1 日のタイムテーブルや当日の衣装を検討。またゲームの原案をもとに細かな装飾などを進めていった。トーンチャイムや紙芝居の練習も行う。
冬プログラム準備	12.22	翌日に控えたプログラム本番に向け、会場設営や簡単なシミュレーションを行う。また、各コーナーごとに担当者が流れの説明をする。
冬プログラム実施	12.23	地下 1 階フリーホールにて「新米サンタのクリスマス」を実施。プログラム終了後に、次のプログラムに生かすために振り返りを行った。
冬プログラム振り返り・今後の活動について	H20.1.27	冬のプログラムについてのフィードバックを行う。また、今後の活動について、どのようなことがやりたいのか、各自意見を出し合い、8 月までの大まかなスケジュールを立てた。
集団遊び	2.20	前回の振り返りで話し合われた「メンバー間の関係性を深める」ために、代々木公園で遊ぶ。「だるまさんがころんだ」や「どろけい」などを楽しむ。
春プログラム検討①	2.17	冬のプログラムの振り返りをもとに、「今の子どもたちに伝えたいもの」をプログラムに盛り込んだ。その結果、人と人とのつながりが持てる遊びを行うことに決定。「昭和」をテーマにした遊びのプログラムを、小中学校、または公園で行うことを前提に話し合いを進める。
〃 ②	3.16	近隣の小学校での開催を前提に会議を進める。さまざまな遊びのほかに、昔の電化製品の展示、七輪を使ったプログラムを行うことを検討。また、メンバー自身もコマやケン玉の練習を行うことに決定した。
〃 ③	3.23	「大きな遊び（集団遊び）」「小さな遊び（少人数遊び）」「生活体験」「展示」の 4 つのコーナーを設けることを決定する。企画書を作成し、次回、小学校に挨拶に行くことを検討する。
「ジュニア・スプリング・キャンプ 2008」参加	3.27～31	希望者のみ（12 人）の特別プログラム。ジュニア・スプリング・キャンプに班付 L.I.T. として参加。【こどもの城】ボランティアとともに、小学校 3 年生～中学校 3 年生の班活動を行う。

3. 講座・クラブなど

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
じょいんクラブ	(人) 小4～中3 (20)	(人) 9	日曜日 13:30～15:30 (原則)	手話の習得に中野佐世子さん(手話通訳士)を招き、手話の体験学習を行う講座を3回と、子どもたちが主体的に考えるグループ活動を実施。本年度は、クラブ員の意見で、日本盲導犬協会の協力で盲導犬とのふれあいや、パピーウォーカーとの交流も実施。最終回のこども企画プログラムは「エンじょいんスタンプリアー」を館内で実施。受講料=後期(10回)12,000円。

〈専門指導者向けの講習会など〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第56期 ボランティア講習会	(人) 18歳以上 (高校生不可) (30)	(人) 18	5.12～7.4 18:00～20:30 (宿泊研修5.25～27)	22人の応募があり、学生13人、社会人5人の計18人が修了。平均年齢22歳。座学はオリエンテーションなどを含め8回。「今ボランティアに求められるもの」(児童健全推進財団・阿南健太郎さん)、「こどもの城ボランティアの役割」(こどもの城・熊澤桂子)、「こどもと野外活動」(わんぱく大学・三好千鶴さん)、「遊びはこどものごはんだ」(こどもの城・佐野真一)、「こどもの城ボランティアスピリッツ」(こどもの城ボランティア)。宿泊研修は、千葉県手賀の丘少年自然の家で実施。
ボランティア グレードアップ講習会「夏季野外活動」	こどもの城 ボランティア (30)	16	6.16・17	小4～中3を対象にした「ジュニア・アウトドア・スクール」に参加するボランティアが対象。主な内容は「安全・快適登山術」「ディスクゴルフに挑戦」「野外炊事実習」「オーバーナイトソロに挑戦」「自然観察ハイキング」「スコアOLに挑戦」を実施。また、1泊2日のキャンプの運営を、食事、物品、プログラムとそれぞれの係に分かれ運営。本番のキャンプ本部運営の動きをシミュレートした。埼玉県野外活動センター(埼玉県)。
第21期 女性ボランティア講習会	おおむね 30歳以上 の女性 (20)	6	11.15～29 13:00～15:00	7人の応募があり、6人が修了した。平均年齢37歳。「こどもの城ボランティア活動紹介」(こどもの城・熊澤桂子)、「こども文化を究める～みんなでコマっちゃおう!～」(こどもの城・松下浩市)、「共に育つ社会を創るボランティア活動」(小田原女子短期大学・吉田真理さん)。
第57期 ボランティア講習会	18歳以上 (進路決定の 高校生可) (30)	26	H20.2.10～3.13 18:00～20:30 (宿泊研修3.2～4)	28人の応募があり、高校3年生5人、学生16人、社会人5人の計26人が修了。平均年齢21歳。座学は「遊び心を再チェック!実践 子どもの心を育むレクリエーション」(こどもの城・熊澤桂子)、「豊かな社会を創るボランティア活動を考える」(京都光華女子大学・妻鹿ふみ子さん)、「子どもたちにとって魅力的なリーダー その要素は?」(こどもの城・岡野正和)、「子どもの育ちを支える児童館」(小田原女子短期大学・吉田真理さん)、「今、大切な子どものためのプログラムづくりのポイント」(こどもの城・下村一)。宿泊研修は、神奈川県足柄ふれあいの村で実施。
ボランティア グレードアップ講習会「冬季野外活動」	こどもの城 ボランティア (30)	7	2.22～24	小3～中3を対象にした「ジュニア・スプリング・キャンプ」に参加するボランティアが対象。主な内容は「フィールド探索」「雪上プログラム研究」「雪の妙高体験」「イグルー作りの実際」「こどもと自然体験(講義)」など。経験豊かなメンバーを活用したトレーニングメニューを多く取り入れ、相互関係、相互援助の活性化を目指した。国立妙高青少年自然の家(新潟県)。

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
ジュニア・アウトドア・スクール 2007	8.1～7	小学生 43 人、中学生 34 人、高校生 5 人、ボランティア 30 人、スタッフ 3 人の合計 115 人が参加。6泊7日。幕営。場所は独立行政法人国立花山青少年の家南蔵王野営場(宮城県)。 【主なプログラム】 □アウトドア朝市・グループアクティビティー＝2日目に実施。朝市でその日の昼食、夕食の食材を買出しして、プログラムも食事メニューもすべて班ごとに自由に過ごす。 □オーバーナイトソロ～中学生プログラム～＝中学生だけが参加するプログラム。ブルーシートで作った一人用のシェルターで、森のなかで一人で過ごす。 □熊野岳登山～小学生プログラム～＝小学生は蔵王連峰最高峰 1,841m の熊野岳をめざす。濃い霧と強風の悪天候の中、全員元気に踏破する。 □アウトトリップ＝テントサイトから離れ広大なキャンプ場のどこかで、ドーム型テントを使って班ごと宿泊する。しかし、当日は雷雨に見舞われ中止となる。 □森の仲間の祭典＝子どもたちが班ごとに屋台を出すお祭り。今年は高校生リーダーと子ども実行委員会「お祭り隊」が中心になって企画、運営を行った。
ジュニア・スプリング・キャンプ 2008	H20.3.27～31	小学生 42 人、中学生 34 人、高校生 12 人、ボランティア 20 人、スタッフ 3 人の合計 111 人が参加。4泊5日。場所は独立行政法人国立妙高青少年自然の家(新潟県)。 【主なプログラム】 □ナイトウオークラリー＝4年ぶりに実施。グループごとに懐中電灯を持って、反射板の光を頼りに夜の森を探検。都会では感じられない夜の暗さと仲間の温かさを感じた。 □グループアクティビティー＝班ごとに自由にさまざまな雪上活動に取り組む。クロスカントリースキー、そり遊び、チュービング、おやつ作り、クラフト等を実施。 □イグルーづくり＝スノーブロックを切り出し、それをらせん状に積んで作る雪の造形活動。班ごとに全員が入ることのできるイグルーを一日かけて制作。夜はそこでパーティーを実施。 □プロジェクトX＝高校生リーダーと子ども実行委員が中心になって、企画、準備、運営を行うプログラム。誘拐されたリーダーを取り戻すという物語風のプログラムを実施した。



ジュニア・アウトドア・スクール 2007

ジュニア・スプリング・キャンプ 2008



平成 19 年度「グループ活動」プログラム一覧表

	プログラム名	対象年齢	内 容	
体 育	すてきな新体操	3 歳児～中 3	ボール・リング・なわなどの手具を使って楽しく体操してみる。	
	たのしい体育・運動	3 歳児～中 3	身近な道具を使った運動や、マット・とびばこなどを使ってサーキットなどのゲーム。	
	レクリエーション	3 歳児～中 3	おにごっこやしっぽとり・フラインクディスク・パラバルーンを使って楽しく運動。	
	球技で楽しく汗を流そう!	3 歳児～中 3	ウォールサッカー(室内サッカー)・ユニホック・タグラグビーなどの球技から選択。	
プ レ	劇遊び「森へ行こう」	4 歳児～小 2	森のお姉さんや木こりと一緒に森の中を探検する、ごっこ遊びのプログラム。	
	劇遊び「忍者修行道場」	4 歳児～小 2	悪者忍者の挑戦を受け、さまざまな忍者修行に挑む、ごっこ遊びのプログラム。月齢・人数によって内容が変わる。	
	みんなであそぼうパペットランド	4 歳児～小 2	紙コップでネズミの人形を作り、ネズミにちなんだ遊びをしながら、お話の世界で遊ぶ。	
	みんなであそぼうパペットランド	3 歳児～小 2	くつ下であおむしの人形を作り、あおむしになりきって、お話の世界で遊ぶ。	
	みんないっしょに	3 歳児～小 2	歌やレクリエーションダンス、パネルシアターなどを組み合わせた「つどいの広場」。	
	わくわくオリンピック	4・5 歳児	幼児からできるレクリエーションゲームを“オリンピックごっこ”。	
	こどもの城オリンピック	小 1～	オリンピック種目を愉快地アレンジしたレクリエーションゲーム大会。15 人以上。	
イ	パソコンであそぼう	小 1～	合成写真や紙飛行機の設計制作など、パソコンのさまざまな機能を使った 5 種類の活動から選び体験する。	
	造 形	かげをうつそう	4 歳児～小 6	自分の影をプレイングボードに写し取り、その影の中を絵の具でデザインしてみる。
		木をつくろう	4 歳児～小 6	グループ全員が協力して、床に大きな紙の木を作る計画の楽しさを知る。
		粘土でジャングル旅行	5 歳児～小 2	粘土で飛行機・テント・木・動物などを作りながら、みんなでジャングル旅行。
竹体験	小 1～	日本の伝統的な植物「竹」の特質、しなる、かたい、筒状などを体験しながら竹の造形。		
音 楽	忍者ってほんとうにいたの?	3～5 歳児	子どもたちのイメージーションによる忍者ごっこ遊び。	
	スカーフであそぼう	3～5 歳児	スタジオの照明に映えるスカーフで楽しく遊ぶ。	
	まつりばやし	3～5 歳児	お祭り広場になった音楽スタジオで、楽しく和太鼓をたたいてみる。	
	やってみようガムラン	3 歳児～	インドネシアの打楽器オーケストラ、ガムランを演奏したり、踊ったりしてみる。	
	サンバでおどろう	4～5 歳児	ブラジルのカーニバル気分でサンバに挑戦。自分で作った楽器を持って踊ってみる。	
	たたいてみよう日本の太鼓	4～5 歳児	いろいろな種類の和太鼓を思いきり叩いてコンサート。リズムは簡単!	
	インドネシア・アンクルン	小 1～	インドネシアの珍しい竹の楽器を紹介。みんないっしょに合奏体験。	
A V	めずらし楽器大集合	3 歳児～	アフリカ・中国・インドネシア・ブラジルなどから集めた珍しい楽器のコンサート。	
	みんなでつくろう“はたばたアニメ”	4 歳児～	みんなが描いた 2 枚の絵を交互に映し、絵の動くアニメ体験する。	
	フィルムに絵を描いてみよう	小 2～	透明な映画フィルムに着色して映写すると、スクリーンに楽しい図柄が。	
	ビデオであそぼう	小 3～	突撃インタビュー・ビデオでしりとり・伝言ゲーム。ここではみんながカメラマン。	

劇場 事業本部



高円宮憲仁親王殿下メモリアル「ローザンヌ・ガラ 2007
～ローザンヌ国際バレエコンクール受賞者による～」

平成 19 年度の活動

1. はじめに

劇場の運営は、劇場を貸す事と自主（提携）公演を行うことに大別される。稼働日数は、青山劇場が使用可能日数 342 日中 315 日、青山円形劇場が使用可能日数 362 日中 317 日と、ほぼフル稼働の状態、前年度を上回った（公演演目一覧参照）。

しかしながら、前年度の年報でもふれたが、青山劇場のコンピュータ制御の舞台機構の老朽化に伴い、機構のメンテナンス・更新にかかる費用の負担が重くなり、完全な整備が不可能になりつつある。長期休業しての完全改修の道を選ばなければならない時期が、もうそこまで来ているように思われる。どのような改修をするのがベストなのか、具体的な検討を急がねばなるまい。

2. 主な自主・提携公演

（ア）青山劇場

■高円宮憲仁親王殿下メモリアル「ローザンヌ・ガラ 2007 ～ローザンヌ国際バレエコンクール受賞者による～」■

平成 16 年（04 年）に『ローザンヌ国際バレエコンクール東京開催』の 15 周年記念と、長年にわたり青山劇場・青山円形劇場の舞踊企画を深い愛情と理解を持って見守って下さった、故高円宮憲仁親王殿下追悼のために企画された『ローザンヌ・ガラ』の第 2 弾として 8 月 17・18 日の 2 日にわたって開催した。

73 年からスイス・ローザンヌ市で開催されている「ローザンヌ国際バレエコンクール」は、プロフェッショ

ナルへの登竜門として国際的に名高く、同コンクールでの受賞が世界各国の一流バレエ団への入団、活躍のきっかけになった者は数え切れない。なかでも日本人ダンサーにとってはスカラシップによる留学が、プロ市場が確立されている国際バレエ界で、職を得るための第一歩となることの意義は大きく、堀内元、熊川哲也などを筆頭に、過去の受賞者たちは現在国内外の一流バレエ団の中核として実績を重ねている。

毎年のように日本人参加者が受賞しているが、近年の受賞者は留学後そのまま海外のバレエ団に職を求め、所属するケースが圧倒的に多く、残念ながらその活躍を私たちが日本で直接目にする機会は限られている。

彼らが海外で学んだことを日本に帰って披露し後進に伝えていくことによって、わが国のバレエは発展していく——故高円宮憲仁親王殿下がかつてお寄せくださったお言葉をキーワードに、世界各国で活躍する受賞者たちを国内に紹介する受け皿としての意義を持たせ、また国内で活躍するダンサーたちともども、各バレエ団の特色を持ち寄り披露する場となった。

第 1 部、第 2 部では本年度（07 年）入賞したばかりの 2 人のデモンストレーションを含め、過去の受賞者が所属バレエ団などのパートナーとともに参加、パ・ド・ドウを披露した。彼らが所属先のレパートリー作品を踊るなかには、古典作品のみならず現代振付家の作品も多く登場し、世界のバレエの潮流を紹介することにもつながった。

第 3 部では特別プログラムとして、神戸を本拠地に活動する貞松・浜田バレエ団の『DANCE』を上演した。これは、世界的に著名な振付家オハッド・ナハリンの

貞松・浜田バレエ団「DANCE～Minus 16～」



『Minus16』を女性だけで踊れるように改訂した作品で、平成17年度文化庁芸術祭舞踊部門大賞を受賞、東京での初演となった。

「邦人ダンサーがグローバルな活躍をみせ久しい。その成果の一端を示すとともに、ローカルな立場から世界を見据える試みも紹介。日本バレエの現在、未来を考えるうえで興味の尽きない公演」(バレエ評論・高橋森彦氏)をはじめ、各方面から高い評価を受けることができた。

- 主催 財団法人児童育成協会 (こどもの城)
- 助成 日本芸術文化振興会・舞台芸術振興事業
- 特別協賛 ㈱マ・メール
- 協力 新書館「ダンスマガジン」/チャコット(株)
- 後援 カナダ大使館/イスラエル国大使館/ケベック州政府在日事務所/ブリティッシュ・カウンスル/ドイツ文化センター/東京アメリカン・センター/ローザンヌ国際バレエコンクール主催団体「舞踊振興財団」
- スタッフ フェスティバル・ディレクター：高谷静治/監修：鈴木和子/照明：中山安孝/音響：実吉英一/映像：福井正紀/舞台監督：森岡肇/プロデュース：高輪育子(こどもの城劇場事業本部)/制作協力：平岡久美(Dance in Deed!)
- 出演 高部尚子(谷桃子バレエ団)、齊藤拓(谷桃子バレエ団)/中村かおり(パシフィック・ノースウエスト・バレエ)、リュシアン・ポストルウェイト(パシフィック・ノースウエスト・バレエ)/崔由姫(英国ロイヤルバレエ団)、佐々木陽平(英国ロイヤルバレエ団)/中村祥子(ベルリン国立バレエ団)、ロナルド・サフコヴィッチ(ベルリン国立バレエ団)/菊池あやこ(ヴェルツブルグ・バレエ団)、遅沢佑介(フリー)/タチヤナ・パウノヴィック(ライブツィヒ・バレエ団)、横関雄一郎(山本禮子バレエ団)/木田真理子(レ・グラン・バレエ・カナディアン)、児玉北斗(レ・グラン・バレエ・カナディ

アン)/河野舞衣(ミュンヘン州立バレエ・アカデミー)/吉山シャルル・ルイ・アンドレ(イングリッシュ・ナショナル・バレエスクール) ※所属は公演時

■ TAIKO JAPAN 2007 ■

太鼓公演は多数あるが、日本の伝統のなかで位置づける試みや可能性を模索する公演、また、民俗の太鼓と創作太鼓を横断的に扱っている公演は少ない。太鼓音楽はともすればポップス音楽と同一視されがちだが、単に伝統楽器であるばかりではなく、民俗の伝統の延長線上にある現在を舞台上に表現することもめざしている。

『青山太鼓見聞録』は、東京新聞主催による『東京国際和太鼓コンテスト』と『太鼓カレッジ』、[こどもの城]音楽ロビーでの『子ども向けワークショップ』や『太鼓見聞録外伝』と連携し、鑑賞、体験、そしてチャレンジと、太鼓のさまざまな魅力をいっぱいそなえ、青山劇場と青山円形劇場、[こどもの城]全体で、太鼓フェスティバル『TAIKO JAPAN 2007』として開催した。

◆青山太鼓見聞録〈ウチハヤス・打ち囃す〉

グループの枠を超え、実力ある太鼓打ちを集めて構成する『青山太鼓見聞録』の第4回公演。今回のテーマは、昨年の〈打ち込みの美学〉に続き、日本の太鼓のもう一つ特徴ともいえる〈打ち囃す〉に焦点を当てた。

古来、太鼓は、祭りの場に降臨した神々を〈榮やす(はやす)＝囃す〉ために打ち鳴らされてきた。神を慰撫し、また人々も一体となって楽しみ、生きる希望の糧とする、芸能の始原ともいえるだろう。

伝統ある民俗の太鼓と、現代の創作太鼓の演奏家により、祭りの場で打たれ、地域の願いを込めて打ち囃されてきた太鼓と、リズムの多様さで魅了する創作太鼓曲を演奏した。

- 会場 青山劇場
- 日時 8月24日 19時開演
- 出演 新垣千里・史乃姉妹、尾張新次郎太鼓、焱太鼓、浅野町子、今福優、藤本吉利
- 企画・構成・演出 太鼓見聞録編纂委員会＝浅野昭利(財)浅野太鼓文化研究所理事長)、小野晋司(こどもの城劇場事業本部)、平沼仁一(アートウィル、東京打撃団主宰)、茂木仁史(平凡社新書「入門日本の太鼓」著者)
- 舞台監督 金子芳浩(ニケステージワークス)
- 照明 片田光彦
- 音響 武藤一郎(こどもの城劇場事業本部)
- 主催 財団法人児童育成協会(こどもの城)、財)浅野太鼓文化研究所、東京新聞
- 助成 芸術文化振興基金
- 協力 鼓童
- 制作協力 アートウィル

◆太鼓見聞録外伝〈太鼓に生きる、小口大八のすべて〉

組太鼓とセット太鼓を考案し、あの、鉄筒さえも創作して戦後の太鼓界を牽引してきた小口大八氏の、太鼓人生のすべて。御諏訪太鼓による名曲演奏と、青山太鼓見聞録出演者が綴る、夢のコラボレーション。

□会場□青山円形劇場

□日時□8月25日 19時30分開演

□出演□小口大八 御諏訪太鼓／古屋邦夫、松枝明美、原邦晴、高林英彦、小口佳澄、アート・リー

□友情出演□藤本吉利（鼓童）、今福優、新垣千里・史乃姉妹（残波大獅子太鼓）、地下朱美・木下千恵子・山田瑞恵（焔太鼓）、村山二郎・田川智文・加藤拓哉・関根まこと・横山亮介・露木一博（東京打撃団）

◆第6回東京国際和太鼓コンテスト

『東京国際和太鼓コンテスト』は、課題曲と自由曲により、演奏技術ばかりだけでなく、独創性やパフォーマンスとしての表現力などを総合的に競うコンテスト。さまざまな審査員が多角的視点で評価し、各部門の最優秀賞、優秀賞、敢闘賞を決定した。これまでの受賞者からは、プロの演奏家も輩出しており、本年度もレベルの高い舞台となった。

□会場□青山劇場

□日時□8月25日：組太鼓部門青少年の部／26日：大太鼓部門・組太鼓部門一般の部

□審査結果□

大太鼓部門＝最優秀賞：塩原良／優秀賞：菅原光朗／敢闘賞：築瀬和重

組太鼓部門（青少年の部）＝最優秀賞：邦楽アカデミー大元組ジュニア／優秀賞：和太鼓キッズゆりかご／敢闘賞：讃岐国分寺子供太鼓「鼓音」／審査員特別賞：須恵東中学校

組太鼓部門（一般の部）＝最優秀賞：創造和太鼓集団大太／優秀賞：鼓組／敢闘賞：星槎国際高等学校和太鼓部

□審査員□山本寛斎（デザイナー／プロデューサー）

※26日のみ／山口とも（打楽器奏者）※25日のみ／磨赤兒（大駱駝艦主宰）、高田みどり（打楽器奏者）、岡田知之（打楽器奏者）、浅野昭利（財）浅野太鼓文化研究所理事長、茂木仁史（国立能楽堂プロデューサー）※26日のみ

□本選出場者（演奏順）□

組太鼓部門青少年の部（25日）

課題曲：細谷一郎作曲「鼓楽響成一組太鼓のための一」

鼓摩の会 和太鼓 和楽（山梨県）、心叫太鼓 厚嵐会 Jr.（北海道）、転輪太鼓風雲児 風組（愛知県）、讃岐国分寺子供太鼓「鼓音」（香川県）、須恵東中学校（福岡県）、邦楽アカデミー大元組ジュニア（東京都）、讃岐国分寺子供太鼓

「鼓來」（香川県）、和太鼓キッズゆりかご（栃木県）、いずみ太鼓 鼓聖泉ジュニア（大阪府）、山木屋太鼓クラブ（福島県）

大太鼓部門（26日）

課題曲：石井眞木作曲「ビーテッセンスⅠ—大太鼓独奏のための一—」

國分入道光雲（愛知県）、築瀬和重（愛知県）、富田和明（神奈川県）、塩原良（長野県）、原田嘉子（広島県）、内海いっこう（兵庫県）、新田哲久（広島県）、栗原史幸（東京都）、菅原光朗（東京都）、伊勢竜二（福井県）

組太鼓部門一般の部（26日）

課題曲＝石井眞木「ビーテッセンスⅡ—太鼓合奏のための一—」

和太鼓「嚶鳴座」（愛知県）、創造和太鼓集団 大太（長野県）、太鼓衆「楽」（千葉県）、星槎国際高等学校和太鼓部（神奈川県）、和太鼓集団 風聚（東京都）、岐阜県立岐阜総合学園高等学校太鼓部「風音」（岐阜県）、鼓組（千葉県）、和太鼓 一番風（高知県）、和道・深江太鼓（長崎県）、邦楽アカデミー 大元鼓龍組（東京都）

◆和太鼓カレッジ

下記の講座のほか、親子で参加しミニ太鼓を作る工作教室などバラエティーに富んだプログラムを、体育室、フリーホール、ピロティなど〔こどもの城〕全体で開催した。また、音楽ロビーでは、来館児・者を対象に東京打撃団によるワークショップも開催した。

□日時□8月24～26日

□講師陣□和太鼓＝新垣千里・史乃姉妹（残波大獅子太鼓）／小林春彦（鬼島太鼓代表）／東京打撃団／ヒダノ修一／焔太鼓 ※五十音順

篠笛＝村山二郎（東京打撃団）

□主催□東京新聞・財浅野太鼓文化研究所・財児童育成協会（こどもの城）



第6回東京国際和太鼓コンテスト
組太鼓部門（青少年の部）最優秀賞：邦楽アカデミー大元組ジュニア

- 後援 文化庁・国際交流基金
- 協力 アートウィル
- 協賛 J-POWER 電源開発(株)・あいおい損害保険(株)

(イ) 青山円形劇場

■ソーマ／キャバレーデカダンス

SOMA / Cabaret Décadance ■

“ソーマ”は、カナダ・ケベック州モントリオールを本拠地として活躍する人形劇カンパニー（99 年設立）で、人形劇とダンスが融合したおしゃれな作品の数々は、世界的にも高い評価を得ている。平成 19 年(07 年)3 月には、“ケベック月間 / Mois du Quebec / Quebec Month in Japan” イベントが、文化、芸術、経済、社会など分野を問わず日本各地で行われ、全国 7 か所をツアーした「ケベック月間」記念公演の最終公演として青山円形劇場で公演した。

“キャバレーデカダンス”は、ユーモアや不条理のセンスで、カリスマ性を持ったキャバレーのスターである人形たちによって演じられる。音楽に合わせて踊る個性的な人形たちと、ダンサー出身の 2 人のプレイヤーの息のあったステージ—ある人形は出遣いで、ある人形はオブジェクトシアター的に、またある人形は文楽人形のように、生きる喜びを斬新な技法で描き、人形が想像を超えた不思議な魅力で迫ってくるパフォーマンスが幅広い層の観客を魅了した。

- 日時 4 月 2・3 日 各日共 19 時開演
- パフォーマー セルジュ・デローリエール Serge Deslauriers / イーノック・トゥルコット Enock Turcotte / アンドレ・アンヌ・ルブラン Andre-Anne Leblanc
- テクニカル・ディレクター ジャン・フランソワ・ビソン Jean-Francois Bisson
- 演出 レイナルド・ミショー Raynald Michaud
- スタッフ 舞台監督：原口佳子（Office モリブデン） / 照明コーディネーター：片田光彦 / 音響コーディネーター：武藤一郎（こどもの城劇場事業本部） / テクニカル通訳：長谷川彩 / 制作：佐久間広一郎、中康彦（SOMA 日本ツアー制作実行委員会）、小野晋司（こどもの城劇場事業本部）
- 主催 SOMA 日本ツアー制作実行委員会 / 財団法人児童育成協会（こどもの城）
- 後援 ケベック州政府在日事務所
- 特別協賛 ケフィア倶楽部 / ケフィア・アグリ
- SOMA 2007 日本ツアー
- [福岡県朝倉市] 3 月 17 日 / 杷木国際子ども芸術フェスティバル バーレンス小野屋ホール

[大阪府枚方市] 3 月 21 日 / ひらかた人形劇フェスティバル メセナ枚方多目的ホール

[愛知県名古屋市] 3 月 22・23 日 / 損保ジャパン人形劇場ひまわりホール

[東京都港区] 3 月 25 日 / EATS and MEETS Cay (スパイラル B1F) (特別公演)

[長野県飯田市] 3 月 28 日 / 飯田市公民館ホール

[兵庫県神戸市] 3 月 31 日 / 神戸市アートビレッジセンター KAVC ホール

[東京都渋谷区] 4 月 2・3 日 / 青山円形劇場

■青山円形劇場 & 玉川大学芸術学部提携公演 パフォーミング・アーツ・フェア in 青山■

玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科と、青山円形劇場との提携公演のコンセプトは、「次世代の舞台芸術を担う人材の育成」。この提携は平成 14 年（02 年）のミュージカル『ドリーミング・ボーイ』公演から始まった。学生の若い感性と、経験豊富なスタッフとの出会いが、作品を創りあげる大きな刺激となり、新しい形の舞台創造を提示する最初の取り組みであった。

提携公演スタートから 3 年目の平成 17 年(05 年)夏、玉川大学では校内各所を使い「アートフェア」（期間中異なるタイプの多数の作品を実験上演するフリンジのスタイル）を実施。上演作品は公開審査で決まった学生企画が主で、運営組織も学生が主体となり、「学生の挑戦」を促す良い機会となった。この成果を受けて学生自身が主体となり、劇場と大学との提携 4 年目の平成 18 年、「Performing Arts Fair in 青山」13 演目 21 作品の上演が実現した。

提携 5 年目の本年度も、学生自身が、芸術創造活動の将来の可能性を提示することをめざして、全 13 演目を 5 日間で一気に上演する、レパートリーシアター形式で開催した。演目は、演劇・音楽・太鼓・映像と多岐に渡り、ストレート・プレイ、朗読、映像、ダンスなどあらゆる手法を用いてプログラムは構成された。

プログラム

A プログラム = Primero (オープニング映像)、Body (映像 + ムーブメント)、ぼくはノラ (リーディング)、カルメン (コラボレーション)

B プログラム = Primero (オープニング映像)、“太” <Da> (玉川太鼓)、きからおりれない (リーディング)、時間 (ストレートプレイ)、mixed dialogue story Vol.2 (方言ミックスシアター)、“KECAK” for 6 percussionists (パークッション)

C プログラム = Primero (オープニング映像)、“太” <Da> (玉川太鼓)、あめの日に ~ the day of rain ~ (パントマイム)、こうのとりのエクスプレス (リーディング)、シ

エイクスピア・アンソロジー (ストレートプレイ)

□日時□6月13～17日 全7回公演

□主催□玉川大学芸術学部/財団法人児童育成協会 (こどもの城)

□出演・振付・演奏・製作□玉川大学芸術学部パフォーマンス・アート学科生

□サポート□こどもの城劇場事業本部/玉川大学芸術学部パフォーマンス・アート学科教員、メディア・アート学科教員

■月猫えほん音楽会 2007 えほん×ジャズ=めちゃ² 楽しいシアターライブ■

“絵本”と“読み聞かせ”の持つ魅力を新しい側面から取り上げた企画で、親子(小学生)を対象とした招待公演。大きな月(スクリーン)に絵本を映しながらの読み聞かせと、ジャズ・ピアノの即興演奏を組み合わせた、絵本とジャズとのセッションライブ。さらにパントマイムを加え、観客参加で作るシーンなど、他に類を見ない画期的なステージを展開した。希望する観客には、フェイス・ペインティングで猫に扮し、“猫道”と呼ぶ長いトンネルをくぐり抜けて入場するなど、さまざまな趣向で生の楽しさを演出することに成功した。

近年、“絵本”と“読み聞かせ”の魅力が注目され、いろいろなどところで取り上げられている。その理由のひとつには、何かと暗い世相のなかで絵本の持つ美しさと奥深さに人々が改めて目を向けたからであり、親子のコミュニケーション不足が指摘されるなか、絵本の読み聞かせが、それを深めるのに役立つと多くの人気が気づいたからではないだろうか。

『月猫えほん音楽会』は、平成11年(99年)に始まり、本年度で9回目となる。絵本の読み聞かせへの関心の高さを示してか、毎回たくさんの応募があり、今回は定員1,600人のところ約2,012世帯5,700人の応募があった。

□日時□7月27～29日

□出演□佐山雅弘(ピアノ)/波多雅子(進行)/本多愛也(パントマイム)/能祖将夫(朗読)

□スタッフ□演出:吉澤耕一/構成:能祖将夫/美術:小竹信節/協力:東京動物園ボランティアーズ

□主催□財団法人こども未来財団/財団法人児童育成協会(こどもの城)

■Aoyama First Act#8

■イクウメ「散歩する侵略者」■

■Aoyama First Act#9

■黒色綺譚カナリア派「葦の籠～アシノカゴ～」■

若手新進劇団およびパフォーマンス集団支援育成プロジェクトとして、平成14年度から始まったくAoyama

月猫えほん音楽会 2007



First Act)。青山円形劇場の特殊な空間が、多くの若手劇団にとってその芸術的目標となっているが、円形の特性を生かせる企画を持ちながら、資金難などで公演を実現できない劇団は数多い。そこで才気と熱意にあふれる青山円形劇場未経験の劇団を選び出し、最初の1回だけのチャンスとしてさまざまな支援を与え、公演を実現させ飛躍のきっかけをつかんでもらう。そして将来、青山劇場、青山円形劇場はもちろんのこと、演劇界の担い手として精進してもらおうのが、本シリーズの目的である。今回はその第8弾として、イクウメによる『散歩する侵略者』、第9弾として、黒色綺譚カナリア派による『葦の籠～アシノカゴ～』を上演した。

イクウメは平成15年(03年)結成。作・演出を手掛ける、前川知大のちょっと怖くて不思議な物語を劇団員が体现。“センス・オブ・ワンダー”な世界を提示し、話題急上昇の劇団。『散歩する侵略者』は、主人公を人間の概念を奪う宇宙人に設定し、愛、戦争、財産などさまざまな分野に問題提議する意欲作で、今までに見たことのない物語展開に多くの観客が魅了され、大変な評判となった。

黒色綺譚カナリア派は、唐組出身の赤澤ムックが主宰。昭和前期を時代背景に滑稽な悲喜劇を描き、耽美で色鮮やか非日常空間を創り上げる、注目の新進劇団。『葦の籠～アシノカゴ～』は、昭和初期の川原が舞台。そのリアルな舞台美術は、青山円形劇場に入った瞬間から驚きを与え、赤澤ならではの“アンダーグラウンド”な演出に多くの観客が魅了された。

本年度の両劇団はともに、青山円形劇場初進出とは思えない、期待以上のハイレベルな作品を創り上げ、高い評判を得た。これからもこのシリーズを通じて、さまざまな個性を展開させるとともに、演劇界に新たな枠組みを生み出すべく努力したい。

◆「散歩する侵略者」

- 日時 9月12～16日 7回公演
- 作・演出 前川知大
- 出演 岩本幸子、安井順平、瀧川英次、内田慈、日下部そう、他
- 主催 イキウメ
- 提携 財団法人児童育成協会（こどもの城）

◆「葦の籠～アシノカゴ～」

- 日時 平成20年3月19～23日 8回公演
- 作・演出 赤澤ムック（出演も）
- 出演 大沢健、下総源太郎、升ノゾミ、牛水里美、他
- 主催 黒色綺譚カナリア派
- 提携 財団法人児童育成協会（こどもの城）

■日韓ダンスコンタクト Vol.9 ■

日韓の劇場間ネットワークとして平成15年(03年)にスタート。東京・青山円形劇場とソウル・シアターゼロが共同で、日韓・若手アーティストの芸術交流の機会として9回目の開催。日韓の若手アーティストの創造活動がさらに刺激的で豊かな関係に発展すること、日韓の舞台表現の現場が活性化することを目的としている。今回も大学生インターンを受け入れて、3日間に渡り12作品を上演した。

また、本公演と同じプログラムを9月にソウルで開催し、参加アーティストは連続してソウルと東京で作品を上演。また、Cプログラムの日韓共同作品は青山円形劇場での公演後、フィリピン・マニラでも上演された。

継続的な芸術交流事業が、日韓のアーティスト相互に影響を及ぼしあい、共同のための土壌づくりに成果をもたらし、また、韓国のダンス状況に関心を集めるきっかけとなってきたプログラムである。平成12年(00年)ごろと比較しても、日韓ダンサーの芸術交流や公演機会が飛躍的に増えた現在、日韓ダンスコンタクトの役割がひとつの節目を迎えたとも理解することができる。新たなプロジェクトにより、ダンスのさらなる可能性を探っていきたい。平成19年度文化庁国際芸術交流支援事業。

出演

◆Aプログラム 11月20日 19時開演

ド・テヒ Doh Tae-hee / 今津雅晴 / キム・ジョンドク Kim Joung-dug / 倉知可英

◆Bプログラム 11月22日 19時開演

ユン・ソツテ Yoon Suk-tae / 大竹千春 / 神村恵 / キム・ヨンミ Kim Young-mi

◆Cプログラム 11月24日 18時開演

ソン・ユジョン Son Yu-joung / 美加理+カン・ウンイル Kang Eun-il / キム・ジョンウン Kim Jung-eun / 岩淵多喜子

スタッフ 舞台監督：原口佳子 / 照明：アイカワマサアキ / 音響：武藤一郎（こどもの城劇場事業本部） / 宣伝デザイン：藤森文胡（undo） / 翻訳：イ・ジュウイ / 通訳：平木杏梨、李世珍 / インターンシップ協力：玉川大学芸術学部 / 協力：ハイウッド / 制作：小野晋司（こどもの城劇場事業本部）、平岡久美（Dance in Deed!） / ディレクター：高谷静治（NPO-DAM）、シム・チョルジョン（シアターゼロ）

日韓ダンスコンタクト実行委員会 高谷静治 / 小野晋司 / 平岡久美 / 花光潤子 / アイカワマサアキ / シム・チョルジョン / チェ・ジンヨン / イ・ジュウイ / ナム・ジョンホ / ソン・キシュク / ソン・クァンジュン / ユン・ミラ / ジョン・ウィシュク / チョウ・ユンラ / ハン・ソンスク

主催 財団法人児童育成協会（こどもの城） / 日韓ダンスコンタクト実行委員会

後援 駐日韓国大使館 韓国文化院

■青山円形劇場プロデュース

ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン■

クリスマスの時期を迎えた老舗のレストランの開店から閉店までを、ショートショートのお芝居とバンドマンの生演奏でつづる音楽劇。役者と音楽家が一体となって創り上げる、しゃれたエンターテインメントショーとして定着し、19回目を迎えた。今回はゲストとして、自然体の芝居で定評のある筒井道隆が参加した。全28ステージが完売し、約9,600人を動員した。

大阪公演も、大阪ビジネスパーク円形ホールで4ステージを行い、年末の大阪を賑わせた。

日時 11月30～26日（28回公演）

※大阪ビジネスパーク円形ホール（12月29～31日：4回公演）

スタッフ 演出：吉澤耕一 / 構成：白井晃 / 台本：高泉淳子 / 音楽監督：中西俊博

出演 高泉淳子、白井晃、陰山泰+筒井道隆（ゲスト）、中西俊博、クリス・シルバースタイン、竹中俊二、林正樹

協賛 富士通(株)、メルシャン(株)、キリンビバレッジ(株)

制作協力 遊機械オフィス

大阪公演主催 関西テレビ放送、(株)ハートス、キョードー大阪

■第20回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「タントさんのふしぎなレストラン～野菜の国でゆびきりげんまん～」■

オリジナルの童話を、歌やバレエ、生演奏でつづるお正月恒例のファミリーオペレッタ。〔こどもの城〕のスタッフで創作するこの作品は、本年度で20回目を迎え、

大人も子どもも楽しめるファミリー向け公演として、常に高い人気と安定した動員を保っている。

本年度は、「タントさんのふしぎなレストラン」シリーズの第2弾。お料理と音楽が大好きで、とっても元気なおばあさん“タントさん”と、孫の“むすび”が繰り広げるファンタジー。シリーズとおしてのテーマは、食育。現在、注目されているこの問題を取り入れながら、従来のキリンファミリーオペレッタらしく、親子のコミュニケーションや夢を持つこと、思いやることの大切さを描いた。

温かで楽しい、登場人物たちが繰り広げる童話の世界と、観客参加型の演出により、観客を物語の中に引き込み、子どもだけでなく大人からも多くの反響を得ることができた。今後も、現代社会では忘れられがちな心の豊かさ、大切さを感じとれるような良質な舞台作品を創作し、より多くの観客に提供したい。

なお、この作品は、厚生労働省社会保障審議会児童文化賞推薦作品に選定された。

□日時□平成20年1月2～7日

□スタッフ□脚本：山下哲／演出：高谷静治

□出演□オペラクリエーション・イン・青山、こどもの城児童合唱団、平多正於舞踊研究所、金田・こうのバレエアカデミー、他

□共催□キリン福祉財団

■中西俊博 Leapingbow2008～Cool Groovin'～■

中西俊博が、毎回新しい実験的なことにチャレンジしていくコンサート『Leapingbow』。前年度に引き続き“Cool Groovin'”バンドの登場となった。このバンドは、青山円形劇場でリズムバンド&フィドルチームの編成で、硬派なサウンドを聴かせる音楽を展開したい、という中西の構想の元で結成され、ライブハウスでの活動(青山円形劇場制作)も含め年に数回コンサートを行っ



中西俊博 Leapingbow 2008～Cool Groovin'～

ている。

リズムバンド(ドラム、ギター、ベース、ピアノ、バッキングトラック：固定の若手ミュージシャン)と、5人のフィドルチーム(中西が教えるバイオリンの生徒：全員プロのバイオリニスト)を従えた11人編成の異色のバンドが奏でる音楽は、リズム感、グルーブ感を重視した音楽。エフェクターを利かせた、バイオリンとは思えない厚みのある音は、観客を魅了していた。バイオリンの常識を超えた新しい感覚の、そして聴くというより“体感”する音楽として、多くの人に広めていきたい。

□日時□1月19・20日(2回公演)

□スタッフ□演出：吉澤耕一

□出演□中西俊博(Violin)、KAGE(Drums)、円山天使(Guitar)、鳥越啓介(Bass)、清水絵理子(Piano)、井内求生(Program)、伊藤彩(Violin)、武内いづみ(Violin)、maiko(Violin)、佐藤桃子(Violin)、浅沼杏花(Violin)

□協賛□LIU BEAU

□協力□ヤマハ(株)

□制作協力□(株)エムアンドビーデザイン

■デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration と煩惱のゴブレット■

和の調べの既成概念を打破し続ける、人気シリーズ第24弾となる今回は、“うなるカリスマ浪曲師”国本武春、“尺八界の巨匠”三橋貴風をむかえ、“邦楽使いの達魔(たつじん)”デーモン閣下&黒船バンドと青山本場所のCollaborationを繰り広げた。

□日時□1月29日～2月3日(全5回公演)

□出演□デーモン小暮閣下(朗読・歌唱)、国本武春(浪曲)、三橋貴風(尺八)、黒船バンド：松崎雄一(編曲・キーボード)+雷電湯澤(ドラムス)+石川俊介(ベース)

□スタッフ□プロデュース：三橋貴風／舞台監督：山村唯史(Waltz)／照明：雑賀博文(ステップアップ)／音響：渋谷博(オフィスクロコ)／宣伝デザイン：藤森文胡(undo)／制作：小野晋司(こどもの城劇場事業本部)

□主催□(財)児童育成協会(こどもの城)、東京新聞

□協賛□(株)宮本卯之助商店

□協力□吉本興業(株)

また、今年度は下記2回の提携公演も開催した。

◆Vol.22 さきたま秋の怪奇譚 9月22日／コピス みよし(三芳町文化会館)

ゲスト邦楽奏者：木乃下真市(津軽三味線)、三橋貴風(尺八)／ホスト：デーモン小暮閣下(朗読・歌唱)／洋楽器：黒船バンド／朗読題材：「山月記」(中島敦)

◆ Vol.23 富士・居待の月 9月30日／富士市文化会館 ロゼシアター中ホール

ゲスト邦楽奏者：外山香(箏)、沢井比河流(箏・三絃・ギター)、三橋貴風(尺八)／ホスト：デーモン小暮閣下(朗読・歌唱)／洋楽器：黒船バンド／朗読題材：「竹取物語 EPISODE-1」

■ 青山円劇カウンスル #1 ～RISE!～「ウラノス」■

新進気鋭、今が旬の劇作家と組んで新しい魅力あふれる“円劇”(青山円形劇場×演劇)をプロデュースする新企画、青山円劇カウンスル(=会議)の名のもとに、多くの協力者が集まった。

第1弾には、Aoyama First Act #8『散歩する侵略者』が大好評のうちに終了した、人気急上昇の劇団「イキウメ」の前川知大が脚本。また、注目を集める劇団「グリーン」の作・演出家で、平成20年1月の青山劇場公演新感線プロデュース『IZO』の脚本に抜擢された、青木豪が演出を担当。この現在、小劇団の世界で最も注目を集める2人の劇作家の組み合わせが、制作当初から話題となり、全く違う個性のぶつかり合いが、どのような作品を生み出すのか、注目を集めた。

テーマは環境問題。ある家の裏庭に現れた「ワームホール」の利用法をめぐって、それぞれの人々の思惑が交錯し、思いもよらぬラストへと結実する。この「センス・オブ・ワンダー」で、風刺の効いた前川ワールドを青木豪の決め細やかな人物描写により表現。酒井美紀を初めとする個性あふれる出演者たちの熱演も相まって、大きな感動を呼び、大好評のうちに幕を閉じることができた。

今後の展望として、多くの演劇関係者からこの企画への参加希望もあり、協賛の可能性もある。この企画を通じ、かつての〈青山演劇フェスティバル〉のような活気を円形劇場に取り戻し、停滞気味の演劇界に新風を吹き込むべく、着実に努力したい。

□日時□2月6～17日 15回公演
□スタッフ□脚本：前川知大(イキウメ)／演出：青木豪(グリーン)

□出演□酒井美紀、土屋裕一、川村ゆきえ、津村知与支、中野英樹、岩本幸子、今井朋彦、大河内浩
□共催□ネルケプランニング

■ TOKYO DANCE TODAY ■

本年度から、新たなダンスシリーズ“TOKYO DANCE TODAY”を開催、第1弾は、ダンス、生演奏、人形劇、映像、コントを緻密かつハイスピードに展開する数々のヒット作により、国内外で活躍中のコンドルズが、完全円形のステージで観客も一体となる新作『UFO』を上演。そして第2弾『Flowers』は、演じ手と語り手を分離す

る独自の手法で話題作を創り続けてきたク・ナウカシアターカンパニーの中心メンバーとして活躍の美加理と、独自の音響表現を確立し、数多くの舞台芸術作品にも参加する音楽家・種子田郷との共同作品で、「ダンストリエンナーレ2006」発表作に続く注目のパフォーマンスを上演した。本年度はコンドルズと美加理×種子田郷を取り上げたが、2組ともに円形のユニークな空間を生かした独創的な作品を仕上げ、好評を得ることができた。

1980年代から発展を続けてきた日本におけるコンテンポラリーダンスだが、ここ数年は特に東京エリアでのダンス公演数が飛躍的に増加している。しかし、コンテストやフェスティバル等での上演機会が多いこともあり、長い作品を創る構成力が追いつかず、衣裳や舞台美術などの総合的な視点や、大きなスケールで空間をつくるアーティストの少なさが目立つ。

国内外で活躍するアーティストが、練り込んだ作品を発表する継続的な機会を設けることにより、そのような日本の状況に刺激を与えることができる。また、これまでで最も活況を呈していると言われる日本のコンテンポラリーダンスを海外へ発信していくプログラムとしても位置づけたい。アーティストが構成力とスケール感をもって作品づくりに臨み、日本のコンテンポラリーダンスがさらに豊かに発展していくことをめざしている。

◆ TOKYO DANCE TODAY #1 コンドルズ「UFO」

□日時□2月20～22日 各日共20時開演／2月23日 13時・18時開演

□構成・映像・振付□近藤良平

□出演□青田潤一、石渕聡、オクダサトシ、勝山康晴、鎌倉道彦、古賀剛、小林顕作、橋爪利博、藤田善宏、山本光二郎、近藤良平

□スタッフ□照明：坂本明浩(OneDrop)／音響：原嶋紘平(SONIC WAVE)／舞台監督：筒井昭善／舞台美術：ArtBros.／衣裳：高松浩子／セリフ脚本：小林顕作(宇宙レコード)／舞台写真：HARU／宣伝美術：柳沼博雅(VERSO)／コンドルズweb制作：青木崇／制作助手：平岡久美／制作：小野晋司(こどもの城劇場事業本部)＋勝山康晴(ROCK STAR)

□主催□(財)児童育成協会(こどもの城)＋ROCK STAR
□助成□日本芸術文化振興会 舞台芸術振興事業

◆ TOKYO DANCE TODAY #2 美加理×種子田郷「Flowers」

※平成18年11月「ダンストリエンナーレTOKYO」初演作品『生のもものと火を通したもの／闇の碧』改訂

□日時□2月26・27日 各日共19時開演

□構成・演出・出演□美加理、種子田郷

□振付□美加理
 □音楽・ライブ演奏□種子田郷
 □スタッフ□音響デザイン：宮本幸／照明：片田光彦
 ／舞台監督：原口佳子／構成協力：さとうじゅんこ／
 衣装：岩崎晶子／ヘア & メイク：河西幸司（アップーク
 ラスト）／音響システム：Sympho Canvas®（ON-COO）、
 Taguchi／協力：サイスタジオ、朝霧高原ふもとっばら
 ／宣伝写真：青山立行（WHITE ROCK）／宣伝デザイン：
 有北眞也（PAZAPA.inc）／制作助手：平岡久美／制作：
 小野晋司（こどもの城劇場事業本部）

□主催□財団法人児童育成協会（こどもの城）

□助成□日本芸術文化振興会 舞台芸術振興事業

■青山円形劇場オブジェクトシアター Vol.11

「KOUSKY V」沢則行 Meets 中西俊博～夢のかけらたち～

オブジェクトシアターとは、人形だけではなく、さまざまな「モノ（オブジェクト）」や仮面や俳優自身（肉体）も舞台上に登場し、総合的に作品を作り上げる方法で、チェコやポーランドで生まれ、世界に広がっている新しい舞台様式のこと。フィギアシアターとも呼ばれ、衝立の影に隠れて人形を操るパペットシアター（いわゆる人形劇）とは異なる表現方法です。

“KOUSKY”とは、断片・部品を意味するチェコ語の複数形。ここではチェコを拠点に活躍している人形劇作家・沢則行の小作品集のことで、いくつかの短編作品を中心に構成されている。

今回は例年のレパートリーに加え新作『かぐや』も上演され、人形の魔術師・沢則行とバイオリン（音）のファンタジスタ・中西俊博とのコラボレーションが、人形が音楽を、音楽が人形の動きを引き出し、おしゃれて美しい、摩訶不思議な舞台空間が青山円形劇場に現出された。

また、中西俊博の一人多重演奏も披露され好評を博した。

□日時□2月29～3月2日

□出演□沢則行、中西俊博

□作・演出・美術□沢則行

□音楽□中西俊博

□主催□財団法人児童育成協会（こどもの城）

□助成□芸術文化振興基金

■ROLLY Glory Rolly 2008 Final

エンターティナー ROLLY が、バイオリニストの中西俊博を音楽監督に迎え、ジャズを軸にした音楽を展開す

るコンサートの第3弾。前年度からの試みで中西：作曲、ROLLY：作詞によるこのコンサート限定の新曲披露や、複雑極まりない構成の映画音楽メドレー、アコースティックギターによる弾き語り、超絶早弾き、すかんちの名曲を新アレンジで、もちろんスタンダードジャズナンバーをROLLY風になど、盛り沢山の演奏を繰り広げた。

メンバーは回数を重ねただけであり、バンドとしての意識や関係性が強く、ひとつの世界観がしっかりできあがっていた。そして観客もこのバンドでしか体感できない音に酔いしれていた。

今回でジャズ軸のコンサートは終了、ジャンルに捕らわれない音楽づくりを追求するROLLYは、中西とともに新シリーズに向けて構想を練り始めている。

□日時□3月28～30日（4回公演）

□演出□吉澤耕一

□音楽監督□中西俊博

□出演□ROLLY（Vocal／Guitar）、中西俊博（Violin）、クリス・シルバースタイン（Bass）、楠均（Percussion）、林正樹（Piano）

□共催□SMA プレイヤーズ

3. まとめ

本年度の“自主公演”は概ね好調であった。特に『アラ・カルト』『こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ』『月猫えほん音楽会』などは規模こそ違え、季節ものの企画として完全に定着した事業になった。どの公演も制作予算の大半を助成金（協賛金）と入場料収入に頼らなければならないのだが、外部資金の調達と観客動員の努力が相乗的に機能し、収支的にもバランスの取れたものであった。現在、これらに続く企画を新しく作りはじめてはいるが、これらの企画が一朝一夕にできたのではなく、10年、20年と継続して実施し、定着した事実を忘れず、地道な努力を続けたい。

もちろん動員（収益）が確実に見込める企画にこしたことはないのだが、〔こどもの城〕として発信そのものに意義のある企画も先細りさせることなく、自ら継続して企画制作していくことで、はじめて劇場は表情のない顔から、生き生きとした表情の豊かな顔を持つことができる。そして、その顔に応じた貸し劇場のレパートリーも生成されるのだ。

また、それを可能にする大切な人的財産の新旧交代にも目を配り、来るべき変革の時期に対応しなければなるまい。

平成19年度公演演目一覧表

1. 青山劇場

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主・提携公演〉 高円宮憲仁親王殿下メモリアル「ローザンヌ・ガラ2007」～ローザンヌ国際パレエコンクール受賞者による～	8.15～18	2	S = 8,000 / A = 7,000	2,380	2,016	84.7	
青山太鼓見聞録 - ウチャハウス、打ち囃す -	8.22・23	1	S = 4,500 / A = 4,000	1,200	622	51.8	
第6回東京国際和太鼓コンテスト(東京新聞)	8.25・26	2	大人 = 2,500 / 中学生以下 = 1,000	2,400	1,683	70.1	
Dance Noel 2007「クリスマスの贈物」 (NPO アートセラピー研究所ダム)	12.25・26	1	1階席 = 4,000 / 2階席 = 3,500	1,175	956	81.4	
チャリティーコンサート「真帆志ぶきと素敵な仲間Ⅱ」 (オフィス・イレブン)	12.27	1	9,000	1,156	995	86.1	
(自主・提携公演 小計) 5件	11	7					
〈貸し館〉							
ディズニーライブ!「ミッキーのマジック★ワールド」 (キョードー東京)	4.5～15	18	S = 5,800 / A = 5,300	20,736	10,467	50.5	
丸美屋食品ミュージカル「アニー」 (日本テレビ)	4.16～5.6	25	S = 8,000 / A = 6,000	27,825	24,653	88.6	
スーパーバトルライブ「美味学院」～デリシャス5 史上最強の敵～ (エイベックス エンタテインメント)	5.10～20	8	6,800	8,634	6,017	69.7	
ブロードウェイ・ミュージカル「DAMN YANKEES ～くたばれ! ヤンkees～」 (フジテレビ)	5.21～6.6	17	SS = 12,000 / S = 11,000 / A = 9,500 / 立見 = 9,000	19,688	15,901	80.8	
ディズニー・チャンネル プレゼンツ「ハイスクール・ミュージカル」 (フジテレビ)	6.7～28	21	SS = 11,000 / S = 10,000 / A = 8,500 / 立見 = 7,000	25,090	22,404	89.3	
少年隊PLAYZONE2007「Change 2 Chance」 (ヤングコミュニケーション)	7.2～8.14	35	S = 15,000 / 立見 = 10,000	38,541	37,536	97.4	
ミュージカル「あいと地球と競売人」 (財)島根県文化振興財団)	8.19～22	2	一般 = 2,800 / 大学生以下 = 1,500 / 立見(一般) = 2,000 / 立見(大学生以下) = 1,000	2,082	1,661	79.8	
ミュージカル「あらしのよるに」 (フジテレビ)	8.27～9.2	6	S = 7,000 / A = 5,500	6,978	5,419	77.7	
ミュージカル劇「RATS」～今村さんの早期退職～ (博報堂DYメディアパートナーズ)	9.3～17	12	S = 9,500 / A = 6,500 / 立見 = 5,000	14,490	13,253	91.5	
韓・動の韓流ミュージカル Vol.2「ラ・マンチャの男」 (ODミュージカル・カンパニー)	9.19～29	11	S = 12,600 / A = 8,400	12,474	7,851	62.9	
PARCO produce ミュージカル「キャバレー」 (パルコ劇場)	10.1～21	22	S = 12,000 / A = 10,000 / B = 7,500 / 立見 = 5,000	26,322	25,376	96.4	
Super Lady Live 2007 ペギー葉山コンサート～賛歌～ (ザ・カンパニー)	10.26	1	S = 10,000 / A = 8,000 / ベア = 16,000	1,130	1,010	89.4	
あさみちゆきコンサートⅢ(ザ・カンパニー)	10.27	1	S = 5,500 / A = 4,500	1,156	933	80.7	
千の風になって秋川雅史リサイタル'07 東京 (東京労音)	10.31	1	6,000	1,123	1,118	99.6	
石川さゆり 35周年記念リサイタル「石川さゆり音楽会」 (さゆり音楽舎)	11.3～11	7	SS = 10,500 / S = 8,400	7,966	6,945	87.2	
ミュージカル「ウーマン・イン・ホワイト」 (ホリプロ)	11.13～12.2	21	S = 12,000 / A = 8,400 / B = 3,150	24,282	17,934	73.9	
ALL SHOOK UP (オール・シュック・アップ) (フジテレビ)	12.4～21	19	SS = 12,000 / S = 11,000 / A = 9,500	22,762	18,949	83.2	

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
丸美屋食品ミュージカル「アニークリスマスコンサート」 (キョードー東京)	12.22・23	4	S = 5,800 / A = 4,800	4,840	4,484	92.6	
新感線プロデュース いのうえ歌舞伎☆號 「IZO」 (ヴィレッヂ)	12.28 ~ H20.2.3	33	S = 11,000 / A = 9,500	38,907	35,237	90.6	
ミュージカル「ファントム」(梅田芸術劇場)	2.4 ~ 22	18	S = 12,500 / A = 9,000 /立見 = 7,000	21,564	20,863	96.8	
大野智プーシリーズ Episode I「アマツカゼ」 (フジテレビ)	3.17 ~ 31	14	S = 9,500 / A = 8,500	16,632	16,517	99.3	
(貸し館 小計)	21 件	304	296				
(青山劇場 合計)		315	303				

2. 青山円形劇場

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
<自主・提携公演>							
SOMA「キャバレーデカダンス」 (SOMA)	4.2・3	2	4,500 (前売 4,000)	468	332	70.9	
ダウンタウン・フォーリーズ番外編 ミステリーミュージカル「そっと おやすみ」Killing you Softly (K-Links)	4.4 ~ 17	13	8,500 (前売 8,000)	4,162	3,845	92.4	
Versus(ヴァーサス) ~霧のなかにキミがいた~ (ケイダッシュステージ)	4.18 ~ 27	11	5,500 / リピーターチケット 3,000	2,818	2,156	76.5	
NYLON 100°C 30th SESSION「犬は鎖につなぐべからず~岸田國士一幕劇コレクション~」 (シリーウォーク)	5.7 ~ 6.3	30	6,500 (前売 6,000)	8,417	7,653	90.9	
玉川大学芸術学部 & 青山円形劇場提携公演「Performing Arts Fair 2007」 (玉川大学)	4.18 ~ 27	7	一般2,500(前売 2,000) /学生2,000(前売 1,800)	1,647	1,418	86.1	
青山円形劇場提携公演「櫻の園」 (ネルケプランニング)	6.22 ~ 7.1	10	4,000	2,780	2,534	91.2	
タラ・レバ スタイル deluxe (ネルケプランニング)	7.12 ~ 18	9	5,500 (前売 5,000)	2,136	2,038	95.4	
即興演劇集団 フリークルーズ第 34 回公演 ○【maru】 (フリークルーズ)	7.19 ~ 22	5	4,000 (前売 3,800)	1,039	786	75.7	
月猫えほん音楽会 2007 (財団法人子ども未来財団)	7.26 ~ 29	5	入場無料 (応募制招待)	1,650	1,526	92.5	
青山円形劇場「満天の星空朗読会 メガスター + 宮沢賢治の童話の世界」	8.13 ~ 19	12	入館券対応 (要整理券)	3,936	1,032	33.1	
太鼓見聞録「太鼓に生きる、小口大八のすべて」	8.24・25	1	3,000	269	226	84.0	
和太鼓カレッジ (東京新聞)	8.26	1	-	-	-	-	
Aoyama First Act #8 イキウメ「散歩する侵略者」 (イキウメ)	9.10 ~ 16	7	3,500 (前売 3,200)	2,031	1,913	94.2	
KOREA + JAPAN Dance Contact Vol.9「日韓ダンスコンタクト」	9.19 ~ 24	3	3,500 (前売 3,300)	614	457	74.4	
青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト」 ~役者と音楽家のいるレストラン~	11.27 ~ 12.26	28	6,800	10,019	9,622	96.0	
第 20 回 こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ タントさんのふしぎなレストラン 2 ~野菜の国でゆびきりげんまん~	12.27 ~ 29、 H20.1.2 ~ 7	11	2,800	3,791	3,026	79.8	
中西俊博コンサート Leapingbow 2008 「Cool Groovin」	1.18 ~ 20	2	6,000	590	482	81.7	
デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration と煩惱のゴブレット	1.28 ~ 2.3	5	5,500	1,678	1,470	87.6	

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
青山円劇カウンシル #1 ～RISE!～「ウラノス」 (ネルケプランニング)	2.4～17	15	5,000 (前売 4,500)	4,121	3,281	79.6	
TOKYO DANCE TODAY#1「UFO」 TOKYO DANCE TODAY#2「Flowers」	2.18～23 2.24～27	5 2	5,000 4,000	1,710 510	1,645 345	96.2 67.7	
オブジェクトシアター Vol.11「KOUSKY V」	2.28～3.3	4	4,500 (前売 4,000)	948	821	86.6	
Aoyama First Act #9 黒色綺譚カナリア派 第八回公演「葦ノ籠～アキノカゴ～」 (黒色綺譚カナリア派)	3.17～23	8	3,800	1,892	1,590	84.0	
ROLLY Glory Rolly 2008 Final	3.27～30	4	7,000	1,411	1,281	90.8	
(自主・提携公演 小計) 23件		196					
〈内部利用〉							
おはなし工作ものがたり みんなであそぼ!! 「アートピアの森」	5.3～5	6	1,500	1,476	770	52.2	企画研修
こどもフェスティバル「おんがくがスキ!フ ァイナルコンサート」	5.6	2	無料 (入館券対応)	664	430	64.8	〃
第22回こどもの城マタニティ・コンサート～ 母なるものへの贈物 音の花束コンサート～	7.7・8	1	無料 (応募制招待)	290	208	71.7	小児保健
第15回キンダー・フィルム・フェスティバル	8.6～12	19	子ども 500 / おとな 700	5,662	3,598	63.5	企画研修
ずっと友だち	3.14～16	5	1,500	1,310	1,107	84.5	音楽
(自主・提携公演 小計) 4件		16					
〈貸し館〉							
大浦みずきダンスシアター～GIGEI TEN 伎藝天～「コインランドリー」 (大浦みずき事務所)	4.1	1	6,800	318	293	92.1	
鶴瓶 2007 The Last Aoyama (アタリ・パフォーマンス)	4.28～5.2	5	5,500	1,810	1,719	95.0	
JUNE precious acoustic night "YOU and me" (フリップ サイド)	6.5	1	完全招待制	280	183	65.4	
劇団ステージドア第16回公演「帰郷 ミモザ の樹の涙」 (劇団ステージドア)	6.9・10	3	2,500	938	815	86.9	
ウェイウェイ・ウー アルバム発売記念コン サート「CHINA BLUE」 (ミュージックハウスモズ)	6.21	1	6,500	316	259	82.0	
シアタートライアングル「Four Seasons」 (シアタートライアングル)	7.25	2	2,500	484	444	91.7	
劇団シアター・ジャック「Japan Hand 改訂 版」 (劇団シアタージャック)	7.30～8.5	5	4,500 (前売 4,000)	675	527	78.1	
シラノ・ド・ベルジュラック (メジャーリーグ)	8.27～9.9	17	6,500 (プレビュー 5,000)	5,576	4,552	81.6	
アンラッキー・デイズ (ネルケプランニング)	9.17～27	12	4,500	3,862	3,391	87.8	
アキコ・カンダ モダンダンス公演「アキコ・ カンダ作品選～夢、紡いで～」 (アキコ・カンダ事務所)	9.28～30	4	5,250	872	777	89.1	
経済とH 第3回公演「FLOWERS」 (演劇ユニット 経済とH)	10.3～8	7	4,800 (初日 4,300)	1,987	1,495	75.2	
Doris & Orega Collection Vol.3「COASTER (コースター)」 (ドリス&オレガ)	10.9～21	13	6,800	4,078	3,480	85.3	
すぎもとまさと LIVE (ザ・カンパニー)	10.26	1	6,000	376	362	96.3	
子どもと大人のためのロバの音楽座 25周年 記念スペシャルコンサート「ロバ祭」 (ロバの音楽座)	10.27・28	4	4,500 (マチネー 3,000)	1,048	769	73.4	

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
加藤みや子ダンススペース 2007「蓮の花／笑う土」 (加藤みや子ダンススペース)	11.1	2	4,500 (前売 4,000) / 学生 3,500	421	386	91.7	
カウントアップ『源氏物語』九九九年紀祭「ひかる君」 (ネルケプランニング)	11.2 ~ 4	3	4,000 (前売 3,800)	578	526	91.0	
YASUNORI SUGAHARA Concert 2007 (すがはらやすのり音楽事務所)	11.5・6	3	6,500	582	510	87.6	
BONANZAGRAM2007「ハーメルンの笛吹き男 マサカサカサマ」 (BONANZAGRAM)	11.7	2	5,000	464	194	41.8	
上田遙ダンスリサイタル XI「青春の時／ダンスポエム翼の見る夢 II」 (上田遙)	11.8 ~ 11	5	6,000	1,299	1,178	90.7	
abbey (アビィ) (ケイダッシュステージ)	11.14 ~ 18	9	5,500	2,309	1,947	84.3	
劇団とつても便利ミュージカル「complex [コンプレックス]」 (劇団とつても便利)	H20.1.9 ~ 15	8	5,800 (前売 5,500) / 学生 3,800 (前売 3,500)	1,976	1,529	77.4	
藤井昭子「地歌 Jiuta」 (藤井昭子)	1.21	1	5,000	332	168	50.6	
矢野沙織 Concert Tour 2008 - Little Tiny - (キョードー東京)	1.23	1	5,250	344	302	87.8	
心霊探偵 八雲 いつわりの樹 (オズ・エンタテイメント)	3.4 ~ 13	11	4,800	3,242	2,689	82.9	
(貸し館 小計) 24 件		105	121				
(青山円形劇場 合計)		317	354				

3. その他

〈青山パフォーミング・アーツ・セミナー 2007 (APAS) など〉

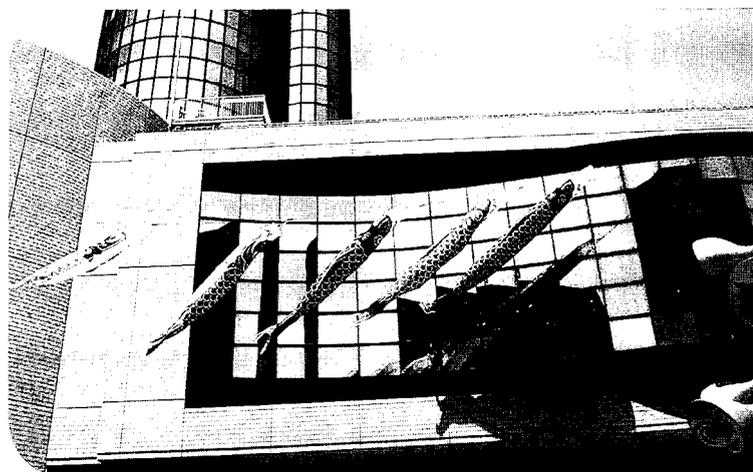
名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
和太鼓カレッジ 桶太鼓事始め	(人) 一般 (40)	(人) 27	8.24 10:00 ~ 15:00	ワークショップ。講師=加藤拓哉、横山亮介(東京打撃団)。受講料=4,000円。(体育室)
太鼓指導者向けの講演	“(60)	24	8.25 10:30 ~ 12:30	講演。小林春彦(鬼島太鼓代表)。無料。(研修室)
ミニ太鼓づくり	“(各30)	12	8.25・26 13:30 ~ 15:00	工作教室。指導=浅野太鼓。受講料=4,000円(材料費込み)(ピロティ)
スーパー太鼓塾	“(40)	52	8.25 13:30 ~ 17:00	ワークショップ。講師=ヒダノ修一。受講料=4,000円。(体育室)
太鼓事始め	“(40)	30	8.26 10:00 ~ 12:00	ワークショップ。講師=田川智文、露木一博(東京打撃団)。受講料=3,000円。(体育室)
打つ、躍る！エイサー教室	“(40)	50	“ 13:30 ~ 15:30	ワークショップ。講師=新垣千里、史乃姉妹(残波大獅子太鼓)。受講料=4,000円。(体育室)
横笛教室	“(30)	31	“ 13:00 ~ 17:00	ワークショップ。講師=村山二郎(東京打撃団)。受講料=5,000円(笛持ち込みの場合は3,000円)。(研修室)
親子で和太鼓を楽しむ一日	(組) 一般 (15)	(組) 18	“ 10:30 ~ 16:00	ワークショップ。講師=炎太鼓。受講料=6,000円(親子ペア、材料費込み)。(青山円形劇場)

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
和太鼓カレッジ FREE 参加	(人) 一般 (30)	(人) 40	8.26 15:00 ~ 17:00	ワークショップ。講師=関根まこと、露木一博 (東京打撃団)。無料。 (ピロティ)
オブジェクトシア ター・ワークショ ップ	// (20)	18	H20.3.8 15:00 ~ 19:00 3.9 11:00 ~ 17:00	ワークショップ。講師=沢則行。受講料= 10,000 円 (2 日間。材料費込み)。 (B リハーサル室)

〈青山劇場プロデュースによるツアー公演〉

名 称	期 間	回 数	内 容
月猫えほん音楽会 2007	5.4・5	1	滋賀県立芸術劇場びわ湖中ホール (滋賀県)
〃	8.1・2	1	北九州芸術劇場中劇場 (福岡県)
〃	8.3・4	2	兵庫県立芸術文化センター (兵庫県)
デーモン小暮の邦楽維新	9.22	1	三芳町文化会館コピスみよしホール (埼玉県)
〃	9.30	1	富士市文化会館ロゼシアター (静岡県)
ア・ラ・カルト	12.27 ~ 31	4	大阪ビジネスパーク円形ホール (大阪府)

広報部



平成19年度の活動

1. はじめに

一般的に“広報”とされている仕事には、PR (public relations) と宣伝 (advertisement) の2つの要素が含まれている。おおざっぱな言い方をすると、企業イメージを高めるための活動がPRで、売り上げをのばす活動が宣伝となる。オーバーラップすることも多く、定義付けすることは難しいが、2つの要素があることを忘れてはならない。「こどもの城ニュース」などの定期刊行物は主にPRに属するものであり、特別期間などのちらしは主に宣伝に属するものになるが、現実的には、かなりの部分でオーバーラップしている。2つの要素があることを念頭に置いておかないと、いずれもが中途半端になりかねない。

〔こどもの城〕では、子どもの〈あそび〉を“楽しみ”としてとらえるだけではなく、子どもがさまざまなことを身につける“生活の一場面”をとらえている。他者とのかわりを自然に身につけたり、身体の使い方を遊びのなかから身につけたりというように、改まった形で“学ぶ”のではなく、知らず知らずのうちにたくさんのことを体得していくからである。このように考えると、〔こどもの城〕に来館して遊んでもらうこと自体が、健全育成の啓発になっているといえる。

多く子どもたちに遊びにきてほしい(宣伝)、遊びをおして健やかに育てほしい(健全育成の啓発)が、〔こどもの城〕の遊びのプログラムのなかでオーバーラップしているように、PRと宣伝も異なった要素をもちながらも、重なり合っていることが多い。それぞれの側面を意識しながら、効果的な働きかけをしていかな

ければならない。

2. ホームページについて

前年度末にホームページ検討委員会を立ち上げ、どのような内容のものを期待されているのか、限られた機材・マンパワーで運用していくためにはどのような形すればよいのか、などの検討を重ねてきた。その結果、「今日はどのようなプログラムがあるのか?」「今日の日曜日は、何をやっているのか?」など、“催し物情報”を知りたいという要望が高いのではないかと、当たり前と言えば当たりの結論を確認することとなった。いろいろな活用方法が考えられるが、まず〔こどもの城〕利用者に向けたホームページをしっかりとしたものにしていくこととなった。

〔こどもの城〕は、体育、プレイ、造形、音楽、AVの各部門のほかに、保育、小児保健さらに企画研修部門があり、それぞれが管理するスペースで連日たくさんのプログラムを展開している。そのプログラムを列記するだけで膨大な情報量になる。そこで、利用する側にたって、どのような形が使いやすいかを考えた。

日時とプログラムの連動を考えた場合、カレンダーのなかから、利用する日を選んでクリックすると当日のプログラムが現れるのがいいのではないかと、その形を採用することにした。一方、「今度、こんなプログラムを行います」「参加者を募集しています」などの情報を発信したいという要望も多い。事業部門単位で提供する形も考えられたが、情報に到達するまでの手順は少ない方がよいという意見が多く、“新着情報(What's new)”で取り上げ、その後に個別ページに移るシンプ

ルな構造にすることにした。

最新の情報は“新着情報(What's new)”, 当該日の催し物については“カレンダー(月間)”という整理でホームページ作りをし、11月からシミュレーション的に公開している。

ホームページに“カレンダー(月間)”をアップするにあたり、情報整理の仕方などをシミュレーション。印刷物(ちらし)の形でカレンダーを作成してみた。アップ後も、ホームページとちらしの2つの媒体で同じ情報を利用するなど、多角的な活用に心がけている。

今後の課題として、情報収集のシステム、アップするまでのスケジュール作りなど、〔こどもの城〕内部の体制作りがある。ホームページ作成に慣れるという技術的な問題だけでなく、“情報収集・処理”など、多くの人の

理解・協力が必要になってくる。

3. まとめ

“ネット社会”といわれ、情報の伝達経路(メディア)が飛躍的に拡大・多様になった。新しいメディアが現れると、ついそれに目を奪われて、何をしたいかをはっきりさせないまま、動きだそうとする。考えなければならぬことは、何のために、何をしたいのか、誰に何を伝えたいのかなどの基本的な事項。価値観が多様化し、共通するものが見つけにくくなった社会では、改めて“基本”が大切になってくるように思う。

〔こどもの城〕は何をすべきか、何をしなければならないのか——原点を振り返りながら、広報のあり方を再度考えていきたい。



児童福祉週間「ゴールデンウィーク」特別期間ちらし
(デザイン:クワデザイン)



夏休み特別期間ちらし(デザイン:クワデザイン)



冬休み特別期間ちらし(デザイン:クワデザイン)

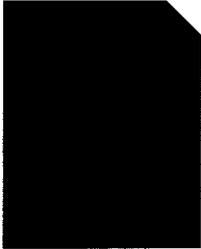


春休み特別期間ちらし(デザイン:クワデザイン)

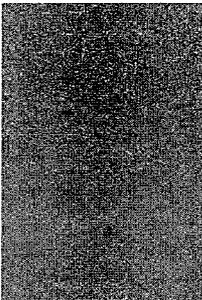
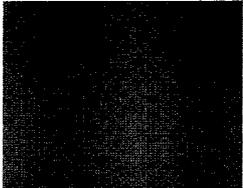
平成 19 年度活動一覽表

名 称	日 時	内 容
「こどもの城ニュース」の編集・発行	毎月 15 日発行 (1 月をのぞく)	〔こどもの城〕の活動を紹介する新聞形式の機関紙。B3 判、表面 4 色、裏面 1 色印刷。各号 25,000 部発行。主な配布先は下記のとおり。 都道府県児童館連絡協議会など (3,750 部) / 都道府県児童福祉主管課 (3,500 部) / こどもの城友の会 (約 3,500 部) / 渋谷・港区内の保育所、幼稚園、小・中学校 (350 部) / 渋谷区町会ほか (200 部) / その他・一般来館児・者など (約 13,700 部) ◇主な内容◇ 第 181 号 (4 月 15 日号) = モンスタージャラジャラ～ボランティア企画 第 182 号 (5 月 15 日号) = 折り方は口で説明 おりがみあそび広場 第 183 号 (6 月 15 日号) = こどもの城の夏休みの楽しみ方 第 184 号 (7 月 15 日号) = 遊びに行くたびに新しい発見と出会いがある こどもの城夏休み特別期間 第 185 号 (8 月 15 日号) = おしゃべり楽しむ「赤ちゃんサロン」 こどもの城で“いどばた会議” 第 186 号 (9 月 15 日号) = 写真でふりかえる夏休み特別期間 楽しかったね!! こどもの城の夏休み 第 187 号 (10 月 15 日号) = つながる 全国児童館おりがみ作品展 第 188 号 (11 月 15 日号) = 爽りの秋を楽しむ ビルの谷間の小さな農園「キャッスルガーデン」 第 189 号 (12 月 15 日号) = 遊びをアレンジ オリジナルの遊び方を考えてみんなで楽しむ 第 190 号 (平成 20 年 2 月 15 日号) = 活発な児童館活動をめざして 「動くこどもの城」遊びのプログラム紹介 第 191 号 (3 月 15 日号) = 子育てを楽しむ“つどいの広場” 赤ちゃんサロン
「こどもの城写真ニュース」の制作・掲示	毎月 20 日	館内に掲示している A3 判サイズ・カラーの写真ニュース。毎月 20 日に更新。 4 月 20 日 = 第 15 回ニッサンゆかいな絵本と童話展 / お筆体験ワークショップ ほか 5 月 20 日 = こども歳時記「端午の節句」 / 親子遠足 (保育) ほか 6 月 20 日 = わいわいスタジオ「草笛コンサート / 児童厚生員等実技指導講習会 ほか 7 月 20 日 = マタニティコンサート / 天までとどけ ねがいごと (七夕) ほか 8 月 20 日 = 月猫えほん音楽会 / ペーパープレーンファクトリー (パソコンルーム) ほか 9 月 20 日 = あそび Day キャンプ 2007 / キャッスルアドベンチャー (LIT) ほか 10 月 20 日 = 秋まつり～みんなで縁日を楽しもう! / サッカーフェスティバル ほか 11 月 20 日 = ファミリードルッチャワークス / 全国児童館おりがみ作品展 ほか 12 月 20 日 = 小児保健セミナー / 盲導犬と交流・体験 (じょいんクラブ) ほか 平成 20 年 1 月 20 日 = 新春! もちつき大会 / パソコン紙相撲 ほか 2 月 20 日 = 節分会 大まめまき大会 / 集まれ小学生! ○を発見 ほか 3 月 20 日 = 幼児グループ修了式 / アートスケープ 2008 / 新体操発表会 ほか
特別期間のちらしの作成	特別期間開始日の 1 か月前	以下の催し案内ちらし・ポスターなどを作成。あわせて英語のちらしも作成した。 ○児童福祉週間 (ゴールデンウィーク) 特別期間ちらし (A4 判 / 4 色 × 1 色 / 24,500 部) ○夏休み特別期間ちらし (B4 判 2 つ折り / 4 色 × 1 色 / 126,500 部) ○冬休み特別期間ちらし (A4 判 / 1 色 × 1 色 / 19,200 部) ○春休み特別期間ちらし (A4 判 / 4 色 × 1 色 / 31,500 部) ※英語版 (1 色 / 簡易印刷) もあわせて作成した。
その他のちらしの作成		講座・クラブの募集ちらし (2 期、3 期、夏休み短期講座 / B4 判・A4 判 / 1 色 × 1 色) や土曜日プログラムのちらし、月間スケジュール (5 月から) などを作成した。
平成 20 年度講座・クラブ一覽	H20.1 月	新年度の講座・クラブ受講生の募集にあわせて、例年同様に一覽を作成した。B4 判 2 ページ (2 色)。290,000 部印刷。一部を新聞折り込み・ポストインちらしとして使用。
こどもの城の案内	H20.3 月	〔こどもの城〕の案内を増刷。和文 200,000 部。

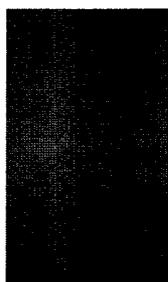
名 称	日 時	内 容
〔こどもの城〕のホームページの運用	通年	11月1日から運用を開始。一般の人が利用できるように、リニューアル公開した。継続して運用していくためのシステム作りを続けている。
新聞広告		朝日小学生新聞、毎日小学生新聞への定期的な記事広告掲載のほか、特別期間や講座・クラブ受講生募集などの時期に、新聞広告をとおしてPRした。
催し物案内ほか	通年	朝日小学生新聞と毎日小学生新聞に定期的に記事広告を特約掲載。
夏休み特別期間のお知らせ	7.5～8.31	朝日新聞都内各版（全5段ほか）／埼玉少年少女スポーツ新聞（タブロイド半2段）／朝日小学生新聞（全5段）／毎日小学生・中学生新聞（タブロイド3段）／東京新聞・東京中日スポーツ新聞（半5段・全5段）
冬休み特別期間のお知らせ	12.1～H20.1.1	朝日小学生新聞（全5段）／毎日小学生新聞（タブロイド3段）／東京新聞・東京中日スポーツ新聞（全5段）
平成20年度講座・クラブ受講生募集	H20.1.24～3.30	朝日新聞都内各版（全5段ほか）／朝日小学生新聞（全5段）
その他の広告		新聞以外の広告媒体を使った〔こどもの城〕の催し物の案内を行った。
夏休み特別期間のお知らせ（都営交通とのタイアップ広告）	7.9～15、8.6～12	都営交通とのタイアップ広告。車内つりの記事下スペース（80mm×515mm）で夏休み特別期間をPR。都営交通（都営地下鉄・都バス・都電）の全線・全車両内に延べ14日間にわたって掲出した（約3,800枚×2回）。
〃 （バスもいいかも）	7.14	関東地方の私鉄共通のICカード“PASMO”とJR東日本の“Suica”の相互利用が可能になったことにもない、PASMO普及のために私鉄各駅に置かれているフリーペーパー「バスもいいかも」8月号（30万部発行）に夏休み特別期間の案内を掲載。
〃 （ポストイン）	7.14	夏休み特別期間の案内を〔こどもの城〕周辺地域にポストイン（63,400部）。
平成20年度講座・クラブ受講生募集（新聞折り込みほか）	H20.2.13・16	平成20年度開講の全講座・クラブの案内と受講生募集のちらしを〔こどもの城〕周辺地域の朝日新聞、読売新聞・毎日新聞の朝刊（計62,850部）に折り込み広告を実施（13日）。サンケイリビングのポストイン（179,000部）も行った（16日）。
ウェブ	通年	ウェブサイト「エリア毎日」で〔こどもの城〕の案内およびPRを行う。
取材関係		取材の申し込みがあり、その後記事として掲載されたり放送されたものは以下のとおり（カッコ内は前年度の数）。新聞29（26）、テレビ・ラジオ31（16）、雑誌56（53）、その他71（94）で、全体では187（189）となっている。取材を受けたところには、その後、毎月定期的にプレスリリースを送っている。
第24回 渋谷スタンプラリー		恒例となった「渋谷スタンプラリー」に本年度も参加した。UNギャラリーが参加を取り止め、NHKスタジオパーク、こどもの城、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館の5館で共催した。参加者は約1万人。
あ・ら・かるチャー 渋谷・恵比寿・原宿		渋谷・恵比寿・原宿周辺の文化施設が集まり、交流・情報交換を行うと同時に、協力してPR活動などを行う。NHKスタジオパーク、CCレモンホール、たばこと塩の博物館、トーキョーワンダーサイト渋谷、電力館、Bunkamura、観世能楽堂、戸栗美術館、ギャラリーTOM、渋谷区立松濤美術館、太田記念美術館、こどもの城、UNギャラリー、セルリアンタワー能楽堂、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、渋谷区ふれあい植物センター、恵比寿麦酒記念館、恵比寿ガーデンプレイス、東京都写真美術館の19施設が参加している。11月3・4日には「ふるさと渋谷フェスティバル」に参加して「あ・ら・かるチャー」をPRした。



3



こどもの城から
全国へ



こどもの城 から全国へ



平成19年度の活動

1. はじめに

大型の児童館としての機能以外にも、全国に約4,800館ある地域児童館の活動状況を把握し、必要な情報を提供するナショナルセンターとしての機能の充実は、「こどもの城」の重要な事業目的の一つである。「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」の開催、「動くこどもの城」事業、講師派遣や実習生・研修生の受け入れなどが具体的にこうした事業で、いずれも児童館活動の活性化や、今後の児童館活動を担う人材の育成をめざしたものであり、「こどもの城」のなかに一旦蓄積された情報の発信である。

また、現在、児童館の課題とされている「市民との協働」「中高生事業の活性化」などについては、本年度も独立行政法人福祉医療機構・子育て支援基金からの助成を受け、その解決策を探るべく事業に取り組んだ。本年度は、前年度からの継続事業として「児童館を拠点とした子育てネットワークづくり事業」、新たな取り組みとして、「児童館における中高生のボランティア活動活性化事業」を実施した。同様の目的で、厚生労働省と財団法人こども未来財団が主催した、「子育てサークル活動者研修事業」にも取り組んだ。

2. 事業の概要

(ア) 児童厚生員等の指導者対象の講習会

本年度も2日間の通い型1回、2泊3日の宿泊型2回、計3回の実技指導講習会を実施した。「こどもの城」で行う児童厚生員等実技指導講習会の開催目的は、児童館活動で必要な技術の習得であるため、本年度は特に遊び

のプログラムについての基礎的な講習と応用編、そして子どもたちを受け入れるために必要な“子ども理解”について、コミュニケーションのあり方を中心に学習する講習会を実施した。

近年、社会情勢の変化が大きく、施設の統廃合や、指定管理者制度の導入など児童館を取り巻く環境が急速に変化している。職員研修として参加することの多い本講習会についても、従来の形式を踏襲するだけでなく、実施形式などについて、参加者の声を反映した見直しが必要と考えている。来年度は参加しやすさを考慮し、2泊3日の宿泊型の講習については、従来の宿泊をとおした交流を含む形式から、講義以外は自由選択とするスタイルへの変更を予定している。

指導者および一般向け講習会「つくって演じる人形劇」「おりがみにつよくなる講習会」は、人形劇、折り紙といった、特に児童館で関心の高い遊びの実際を取り上



こどもの城児童厚生員等実技指導講習会

げた講習会である。いずれも日帰りで実施し、気軽に参加できると好評であった。

「つくって演じる人形劇」は「つくる」と「演じる」の2日間の構成で、前年度はお盆の期間に2日連続で行い、参加者が減少した。本年度は例年のパターンに戻し、夏休み期間中と9月の2回に分割実施したところ、参加者数も回復した。

(イ) 研修生・実習生の受け入れ

大型児童館の初任者研修などで、研修生4人を受け入れた。実習生は大学・短期大学、専門学校から依頼のあった保育、博物館学などの科目履修を目的とした実習の場として、学生を受け入れたもので、本年度は22人を受け入れた。

これとは別に、中高生の職場体験としての依頼がここ数年増加している。これは文部科学省が推進するキャリア教育（職業体験）を中学校や高校で実施し、若者の定職率の向上に寄与することを目的とした活動であり、地元の東京都や渋谷区でも積極的に取り組みを進めている。本年度は中学生9件25人、高校生4件59人の受け入れを行った。

前年度に続き、中学生の受け入れの要望が多く、職場体験が定着してきた。これは都内の公立中学校で在学中に長期の職場体験（1週間程度）を行うことが制度化され、渋谷区、港区など近隣の中学校からの要望に応えたものである。子どもたちを地域社会全体で育て、社会に送り出していこうというシステムには積極的にかかわりつつ、〔こどもの城〕としての独自性のある受け入れのシステムを確立していきたい。

(ウ) 講師派遣

地域で開催される、児童健全育成のための研修会や催しのために、〔こどもの城〕のスタッフが講師として招かれた件数は、168件であった。こうした講師派遣は、〈動くこどもの城〉や「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」とは異なった方法で〔こどもの城〕に蓄積された情報の発信に寄与している。

また講師派遣が、各地域の期待に応えつつも、そこでの経験が職員の技能向上につながり、さらに〔こどもの城〕の新しい事業展開の契機となる場合もある。こうした点を考慮しつつ、他の派遣事業とバランスのよい役割分担を心がけていきたい。

(エ) 動くこどもの城

平成6年度から開始、国庫補助金を受けて、全国に約4,800館ある児童館に〔こどもの城〕で実践してきた遊

びのプログラムを紹介する事業。児童館が地域社会から求められる、多様なニーズに対応するために活用されている。特に近年、乳幼児をもつ親に対する子育て支援プログラムの需要が高い。こうした需要の増大に対処するため、本年度は「ぽかぽか広場」と称する0歳から3歳までの乳幼児と親のための“ふれあい広場”プログラムを3種類作り実施。さらに年間の派遣か所を増やした。

この事業が、〔こどもの城〕から地域児童館への情報の一方通行に終わらず、地域児童館からの情報の収集や交流の場としても意味を持つように心がけていきたい。

(オ) 助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金の助成を受け、「児童館を拠点とした子育てネットワークづくり事業」と「児童館における中高生のボランティア活動活性化事業」の2事業に取り組んだ。

継続事業だった「児童館を拠点とした子育てネットワークづくり事業」では、全国6か所でモデル事業を実施したが、「菜園づくり」「大型遊具づくり」「ITの活用」と幅広い手法で、ネットワーク作りに取り組むことができ、多様なプロセスを提示することができた。また、これらの成果を広く周知するために、神戸・東京・仙台と3地域で全国フォーラムを実施した。準備や運営は大変であったが、広範囲からの参加者があり、大きな成果をあげることができた。

一方、本年度から2年計画で実施した「児童館における中高生のボランティア活動活性化事業」では、初年度は現状を把握することを第一の目的として、事業を実施した。児童館・自治体の児童福祉主管課、教育委員会社会教育担当課を対象としたアンケート調査を実施。同時に、先駆的に中高生の活動に取り組んでいる地域や施設を見学するとともに、スタッフと中高生、それぞれにインタビューも行った。

これらの成果は「地域に発進!! ボランティア1・2・3」にまとめ、全国に配布した。中高生の活動状況として、「教育」「福祉」の行政へのアンケートからは、“ジュニアリーダー”“ボランティア”などをキーワードに、社会的活動としての中高生の参加事業を実施する事例が多くみられた。しかし実施件数の割合は絶対的に少数であり、まだまだ中高生の地域活動への参加のチャンスは限られている様子がうかがわれた。

児童館へのアンケートから、中高生活動の取り組みの多くは、居場所作りである。しかし、児童館が対象としているのは学童期の子どもたちが中心で、中高生にとっては参加する機会が少ないという現状が調査を通じて分かった。

このアンケートや聞き取りでの現状把握を生かし、また全国で調査した先駆的事業の展開例を参考にして、本事業の2年次には、児童館を核として中高生の社会参加を促進する事業展開ができるモデルプランを実践するとともに、全国数か所で中高生のためのファシリテーター養成講習会などをおして実践を重ねることにより、具体的な活性化をはかりたいと考えている。さらに、これらの活動を報告書にまとめることにより、全国に中高生活動への取り組みの大切さをアピールし、広げていくことを計画している。

今後もこうした事業で得られた情報、ノウハウ、ネットワークが〔こどもの城〕としての本来的な事業の中でも生かせるようにしていきたい。

(カ) その他の共催事業

平成14年度から厚生労働省・財団法人こども未来財団主催の「子育てサークル活動者研修事業」を委託されている。本年度は郡山市、宇都宮市、福井市、長崎市の4か所で事業を実施した。

研修会は、参加者が主体的に学べるようにワークショップ形式とした。4回連続の講座だったため、回を重ね

るごとに徐々に参加者同士の距離が縮み、最終回に設けた交流会では打ち解けた様子だった。モデル事業には研修会の参加者も参画し、協力団体を中心とした草の根レベルでのネットワークが築かれたようだ。

今後は、この事業で得られた手法やネットワークを〔こどもの城〕の事業にも生かしていきたい。

3. まとめ

地域の児童館からの問い合わせや情報提供の要請を聞いていると、児童館を取り巻く環境が様でなく、多様な状況のなかで、それぞれの児童館が努力していることが理解できる。同時に〔こどもの城〕のセンター機能の重要性を改めて認識する。

センター機能は単に外部への発信だけでは成立せず、施設としての事業の充実、外部への発信、働きかけをおして得られた情報の本来事業への還元といった循環構造の上に成り立っている。こうした事実を認識した上で、関連する事業全体の向上に努めたい。また、センター機能が、担当する一部の部署だけのものに終わらないように、情報の共有化と事業の〔こどもの城〕全体でのコンセンサス作りに努力していきたい。

平成19年度活動一覧表

1. 講座・クラブなど

〈平常期間〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成19年度こどもの城児童厚生員等実技指導講習会				
第1回 遊びの専門技術 「手遊び・パネルシアター・紙芝居～心にとどけ お話 たまたま箱～」	(人) 児童館職員 ほか (50)	(人) 51	6.7・8	前年度に引き続き「遊びの専門技術」を共通のタイトルで開催。第1回は、身近な“おはなし”活動として「手遊び」「パネルシアター」「紙芝居」を取り上げた。1日目は、〔こどもの城〕音楽事業部・プレイ事業部の活動プログラムを実践例をとして紹介し、その技術を伝達した。実技という新しい種目の紹介が中心になりがちであるが、簡単にできる伴奏のつけ方や一つの手遊びをどのように展開するかなど、いかに遊びとして継続するかを伝える場となった。2日目は右手和子さんを講師に迎え、卓越した紙芝居の語りにもふれるとともに、紙芝居の表現力についての技術を伝達してもらった講義や、実際に演じてみる活動を指導者側の視点に立って、ワークショップ形式で学習した。(研修室)
第2回 遊びの専門技術 「児童館から発信！外あそびの魅力」	“(50)	19	10.17～19	外遊びの魅力について、さまざまな角度から学習した。児童館は屋内施設のために外遊びという観点は薄いのが、自然観察などを含め施設から飛び出して、活動を広げていくことをねらいにした。1日目は、ヨーロッパでのプレイパークの現状などについて、川崎市夢パークの嶋村仁志さんに対談形式で話を聞いた。2日目の午前中は、静かな外遊びとして草木を使った遊びを国立自然教育園研修主幹の矢野亮さんがワークショップ形式で紹介。午後は会場を代々木公園と小学校の体育館へ移し、思いきり動いて遊ぶ活動を体験した。講師は日本児童遊技研究所の有木昭久さん。夜は、参加者同士の外遊び紹介による情報交換会を行い、最終日にはまとめで「外あそびへの今後の取り組み」を各自発表。2泊3日の研修で刺激を受けたことを現場に生かす意気込みが感じられ、よいまとめの機会となった。(研修室ほか)
第3回 遊びの専門技術 「あそびを広げるコミュニケーション～子どもの主体性を育む遊びの援助法～」	“(50)	47	H20.1.23～25	直接遊びを取上げるのではなく「コミュニケーション」を考える研修を行った。①子ども同士のコミュニケーションを促進すること ②指導者として子どもや他の人々に伝える技術を考えること——2つの側面を想定して研修した。初日の夜は、〔こどもの城〕小児保健部での実践をふまえてカウンセリングの手法をとおした遊びの活動の紹介。2日目の午前中は、大正大学名誉教授の吉澤英子さんが、コミュニケーションの大切さについて講義。午後はスタッフが、レクリエーション活動をとおしてコミュニケーションを深める実際について、いくつかの展開例を紹介した。最終日は、とも子塾主宰の今井登茂子さんが、まとめにかえて指導者の心構えとして、人の心をとらえる指導者のあり方についてワークショップ形式で講義を行った。ふだん、なにげないかわりのなかで子どもたちと接しているが、参加者にとっては指導者としての接し方を考えるよい機会となったようだ。(研修室)
つくって演じる人形劇	“(各日30)	31 17	8.19 9.9	「人形劇・木ぐつのも」の鹿島佳子さんを講師に迎え、プロの指導によるウレタンを素材とした人形作りと、その人形を使った操演の講習会。扱いやすいウレタンで本格的な表情人形を作り、保育などの現場で生かせるよう、小さなストーリーやスキットを考え、実際に動かし、講師とともにフィードバックして、より効果的な動かし方・演じ方ができるように、体験をとおして学べる構成とした。(研修室)
おりがみにつよくなる講習会	“(各日50)	39 49	10.28 11.11	ギャラリーで実施している「おりがみカーニバル」にあわせて、児童館職員などを対象に開催している講習会。折り図の見方から、児童館などですぐに生かせる、装飾や子どもと一緒に折って遊べる折り紙の折り方と活用法を学んだ。(研修室)

2. 〈動くこどもの城〉

〈地域の児童館などで子どもや家族を対象に行うプログラム〉

名 称	内 容
「おにごっこ」で楽しく体づくり	かつて、子どもたちは元気に軽快に遊ぶなかで、基本的な体力を自然に伸ばしていった。しかし、現代ではその基本的な体力の低下が危ぶまれている。簡単に転んだり、上手によけることができずぶつかってしまったり。体力のなかでも「敏捷性」「バランス」を養うための陣取りゲームなどのスポーツ遊びを多彩に展開。
身近な道具でスポーツあそび	身の回りにある道具を使って体を動かしてみる。新聞紙・棒・ひも・そして特定のスポーツの道具として使うことが多いボールなどの使い方を、人数や場所の広さによって変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまな運動遊び、スポーツへと展開していく。
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	赤ちゃんが自然に健康に成長していることは、母親でも意外と意識しないもの。音楽や楽しい遊具を使いながら、赤ちゃんのできる簡単な体操をとおして、表情や動きの新しい発見をしてみよう。
親子ふれあい体操 1・2・3	1・2歳または、2・3歳の幼児と親を対象とした運動プログラム。親子で楽しく体を動かしながら、子どもの成長やコミュニケーションを楽しむ。
やってみよう！ パソコン遊びのプログラム	パソコンで楽しく遊ぶコーナーを一定期間設置。実施するプログラムは、「きれいなグラフィック遊び」やさまざまなペーパークラフトをパソコンでデザインし、実際に作って遊ぶ「パソコンクラフト」など、今まで【こどもの城】のパソコンルームで実施したプログラムのなかから、いくつかを選択して実施。
みんなで遊ぼう パペット・ランド	人形作りと人形遊びの2つの活動で構成されたプログラム。人形は、紙コップや封筒など身近な素材で作成。そして、作った人形でお話をしたり、仲間とコーラスを楽しんだり、ごっこ遊びを繰り広げたりと、イメージの世界をみんなで楽しむ、人形遊びのプログラム。
レクリエーションゲーム 大会の演出プラン	ごっこ遊びの要素を取り入れて、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出しようというプログラム。忍者の世界をテーマにファンタジーの世界を仲間と共有しながら、協力、相談、競争をキーワードに、さまざまなゲームをとおして交流をはぐくむことねらいとしている。
ガドガドコンサート 「おんがくがスキ！」	従来のように参加者に聞かせるだけのコンサートではなく、歌遊びや手遊びの要素が盛り込まれているコンサート。演じる・見る・聞く・楽しむ行為が一体となり音楽の楽しさをより一層体験できる参加型のプログラム。
竹の響き 「アンクルンコンサート」	アンクルンはすべてが竹で作られたインドネシアの民族楽器で、一つの楽器から一つの音しかでないため、「竹のハンドベル」とも呼ばれている。竹が奏でる優しく素朴な音のハーモニーを楽しむ。また、子どもたちがアンクルンを体験するコーナーもある。
音楽ゲームセンターで遊ぼう 「スーパースターゲッター」	日常の子どもたちとの遊びの活動のなかから作り上げた、オリジナルの音楽遊びプログラム。「踊る」「歌う」「聞く」「リズムをたたく」「楽器を体験する」などさまざまな音楽的要素を含んだゲームが屋台のように並ぶ。
アニメ・ワークショップ	遊びをとおして、映像の仕組みを考えることができるプログラム。2枚の簡単な絵を描いて作る「ばたばたアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむがん具、「視覚がん具」の制作などをとおして映画、映像の仕組みを体験。また、ワークショップでは制作の難しい複雑な「視がん玩具」などの展示も行う。
こどもの城映画劇場	子ども向けに作られた国内外の芸術的なアニメーションの短編作品を上映する。基本的に、こどもの城フィルムライブラリー「武藤行雄記念文庫」に収蔵されたアニメーション作品から数本を選んで上映。「武藤行雄記念文庫」にはカナダ国立映画制作庁 NFBC のアニメーションをはじめ、世界中の優れた作品約 110 本が収蔵されている。
映像探検 写真ワークショップ	私たちが日常なにげなく撮っている写真も、いろいろな「仕組み」の上に成り立っている。そんな、写真の“写る仕組み”を体験してみるプログラム。写真の発明以前に、画家たちがデッサンの補助的器具として用いていた“カメラオブスクラ”や、レンズを使わないカメラ“ピンホールカメラ”を使ったワークショップを行う。また、写真の仕組みや歴史を探る展示も併設。
おはなしコンサート	スライドで写し出した大きなイラストと、ピアノとパーカッションの生演奏をバックに、絵本の読み語りを行うプログラム。絵本の楽しさを家族一緒に体験してもらうことができるプログラム。
ボランティアコーディネート	児童館が地域と密着して幅広い活動をしていくためには、ボランティア活動をコーディネートしていくことが必要不可欠。児童厚生員を対象とするものと、ボランティアを対象とするものを選択して実施。

〈児童厚生員などを対象とした実技研修会〉

名 称	内 容
手作り楽器のワークショップ	ふだんは、がらくたとして捨ててしまうようなものを生き返らせて、音が出るようにする。金属の缶やフィルムのケースなどが、音の道具に早変わり。そして制作終了後には、全員で作った楽器で音をだして遊ぶ。
打楽器で遊ぶワークショップ	ブラジルのサンバを中心に、アフリカの太鼓・タムタム、和太鼓、スプーンなど、身の回りにあるものや手作り楽器なども活用して、リズム遊び。元気よく打楽器をたたき、アンサンブルを楽しむ。
想像遊びのワークショップ	さまざまな絵本をモチーフにして、想像遊び、見立て遊び、言葉遊びを楽しむワークショップ。簡単なカードの制作をとおして協同制作者とのコミュニケーションをはかる。
人形遊びのワークショップ	紙コップ・タオル・靴下など身近な素材を使って人形を制作し、遊びにつなげていくための講習会。人形を使った表現遊びをするためのノウハウを学ぶ。
造形ワークショップ	素材・発想・技法などで、さまざまなプログラムが生まれる。どこにでもある素材を用いて、ほんの少しだけ発想を変えると、ふだんは見えないものが見えてくる。そうしたプログラムを何種類か参加者と体験制作し、それが生まれる考え方や、発想法についても考える。
不思議な映像実験室	《映像の時代》ともいえる現代に生きる子どもたちにとって豊かな映像にふれることは欠かせない。映像の基本的な原理について、遊びを通じて理解できるプログラムを体験するワークショップ。

〈地域の児童館などでの巡回展示とワークショップを併せて行う事業〉

名 称	内 容
造形ワークショップ展	〔こどもの城〕造形スタジオの、今までの実践活動のプログラムを、視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。そのなかからいくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。パネル展示が中心となるプログラム。
お父さんの少年時代	児童館などを訪れる子どもたちのお父さん、お母さんが子どもだったころ、昭和30～40年代の「遊び」の展示。めんこ、ベーゴマ、凧、日光写真などの遊び道具の展示をきっかけにして、親子のコミュニケーションをはかり、子どもたちに昔遊びのエッセンスを体験してもらうことができる。
全国児童館おりがみ作品展	「つながる」をテーマに、各地の児童館活動の中で制作したおりがみ作品の展示。北は北海道から、南は鹿児島までの全国25の児童館から作品が寄せられ、〔こどもの城〕での展示のあと、全国で巡回展を実施。

〈乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラム＝新規〉

名 称	内 容
ほかほか広場 乳幼児と親のための交流広場	乳幼児とその親が気軽に集まり、親同士で話をするなかで子育ての悩みを解消し、仲間作りができる場所が求められている。〔こどもの城〕の「赤ちゃんサロン」のノウハウを生かし、「ノンプログラム型」の広場を行う。
〃 音楽で遊ぼう	音楽遊びをとおして、親子でふれあって遊ぶ楽しさや、親同士の仲間作りと、子どもが集団遊びを豊かに体験することを目的としたプログラム。
〃 身近なもので遊ぼう	タオルや新聞紙など身近なものを使って、運動遊びやスキンシップ遊びをとおして、親同士の仲間作りと、子どもが集団遊びを豊かに体験することを目的としたプログラム。

〈子育て支援のための研修＝新規〉

名 称	内 容
ぽかぽか広場 つくって遊ぼう	乳幼児とにとって身近な素材——「紙・布点木などを使った、子育て広場や子育てサークルで活用できる造形プログラムの研修。子どもと一緒に造形活動を行うときの素地・道具の使い方や、環境設定について学ぶ。
乳幼児の食生活	乳幼児の食生活（授乳・離乳食など）について、親の悩みはつきない。そこで、食生活の基本的な考え方などを、子育ての実情をふまえて学ぶ。
乳幼児の健康管理と応急処置	乳幼児の成長をふまえて、けがの応急処置をはじめ、事故の予防など日常生活の健康管理を学ぶ。
乳幼児の発達と大人のかかわり	0～2歳の子どもは、遊び、言葉、自己主張など、目覚ましい発達をとげるが、親が接し方に悩む時期でもある。この時期の発達の特徴や大人のかかわり方などについて学ぶ。
児童館と拠点としたネットワークづくり	児童館が地域の子育て支援拠点として機能するためには、地域の社会資源を結びつけるコーディネート機能が大切。さまざまな地域の事項に基づき、ネットワーク作りについて学ぶ。

〈実績一覧〉

都道府県	開 催 団 体	実 施 日 時	プ ロ グ ラ ム 名	催し	研修	展示
熊本県	合志市西児童館	4.3～12	児童館おりがみ作品展巡回展			○
香川県	さぬきこどもの国	4.7・8	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
愛媛県	伯方児童館	4.8～15	児童館おりがみ作品展巡回展			○
兵庫県	姫路北児童館	4.25～5.7	児童館おりがみ作品展巡回展			○
鹿児島県	キッズランド児童館	4.30～5.6	児童館おりがみ作品展巡回展			○
石川県	石川県立小松児童会館	5.17～31	児童館おりがみ作品展巡回展			○
宮崎県	延岡市保育士会	5.25～27	竹の響き「アंकクルンコンサート」	○	○	
福島県	東浜児童センター	6.8～14	児童館おりがみ作品展巡回展			○
千葉県	白井駅前センター児童館	6.14	すくすくスキンシップ	○	○	
奈良県	奈良県児童館連合会	6.18・19	不思議な映像実験室		○	
東京都	国分寺市 2回（にしまち、もとまち）	6.21・9.28	ぽかぽか広場&ぽかぽか広場（音楽）	○	○	
富山県	こどもみらい館	6.23～7.29	造形ワークショップ展「光と音」		○	○
神奈川県	川崎市宮内こども文化センター	6.26・30	人形遊びのワークショップ	○	○	
岐阜県	岐阜市 2回（本郷、日光）	9.4・5・H20.2.19・20	ぽかぽか広場&ぽかぽか広場（音楽）	○	○	
埼玉県	北本市保健福祉部	9.5	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
東京都	墨田区フレンドリープラザ中川児童館	9.13・10.10	ぽかぽか音楽と研修	○	○	
宮城県	仙台ひと・まち交流財団	9.19・20	児童館を拠点としたネットワークづくり		○	
茨城県	牛久市社会福祉協議会	10.1・2	ぽかぽか広場	○	○	
埼玉県	春日部市児童センターエンゼルドーム	10.17	すくすくスキンシップ	○	○	
愛知県	名古屋市とだがわこどもランド	10.17・18	造形ワークショップ展10/24～11/8		○	○
福島県	郡山市総合教育支援センター	10.17・18	想像遊びのワークショップ		○	
栃木県	栃木県子ども総合科学館	10.19～21	がらくた楽器で遊ぼう	○	○	
愛知県	一宮市起児童館	10.24・25	ぽかぽか広場（身近なもの）	○	○	
北海道	石狩市保健福祉部こども室	10.26・27	アニメ・ワークショップ	○	○	
兵庫県	フレミラ宝塚	10.28・29	すくすくスキンシップ	○	○	
山形県	鶴岡子育て支援センター	11.5・6	ぽかぽか広場	○	○	
山口県	山口県児童センター	11.8・9	身近な道具でスポーツ遊び指導者研修		○	
東京都	大島町子ども家庭支援センターわーわくらぶ	11.15・16	ぽかぽか広場	○	○	
新潟県	NPO ヒューマンエイド・新津健康センター	11.16・17	すくすくスキンシップ	○	○	
山形県	酒田市交流ひろば・親子ふれあいサロン	11.21・22	ぽかぽか広場（音楽）	○	○	
岩手県	矢巾町立不動児童館	11.27～12.4	児童館おりがみ作品展巡回展			○
栃木県	栃木県子ども総合科学館	12.5	おりがみ講習会		○	
北海道	札幌市青少年女性活動協会	12.8	おりがみ講習会		○	

都道府県	開催団体	実施日時	プログラム名	催し	研修	展示
北海道	札幌市中の島児童会館	12.8～16	児童館おりがみ作品展巡回展			○
大阪府	門真市健康福祉部	12.10・11	ぼかぼか広場（身近なもの）	○	○	
埼玉県	戸田市立児童センタープリムローズ	12.13	すくすくスキンシップ	○	○	
栃木県	栃木県子ども総合科学館	12.22～H20.1.6	児童館おりがみ作品展巡回展			○
大分県	佐伯市佐伯児童館	H20.1.9・10	手作り楽器のワークショップ		○	
静岡県	島田市立初倉児童センター	1.23・24	ぼかぼか広場（音楽）	○	○	
千葉県	船橋市薬円台児童ホーム	1.31	ぼかぼか広場（音楽）	○	○	
石川県	石川県立小松児童会館	2.1～15	児童館おりがみ作品展巡回展			○
千葉県	NPO 野田文化研究会	2.3	おはなしコンサート	○	○	
岐阜県	川辺町教育委員会	2.14・15	すくすくスキンシップ	○	○	
山口県	山口県児童センター	2.21～3.6	児童館おりがみ作品展巡回展			○
福島県	南会津保健センター	2.29～3.1	ガドガドコンサート	○	○	
千葉県	NPO 松戸子育てさぽーとハーモニー	3.5	ぼかぼか広場（身近なもの）	○	○	
秋田県	もとだて児童館	3.15～4.7	児童館おりがみ作品展巡回展			○

3. 助成金による事業

〈独立行政法人福祉医療機構 子育て支援基金助成事業「児童館を拠点とした子育てネットワークづくり事業」〉

名称	日時	内容
児童館を拠点とした子育てネットワークづくりのためのモデル事業	6月～H20.2月	前年度に引き続き、児童館を拠点とした地域の子育てネットワーク作りに取り組んだ。ネットワークには、①児童館の担当地域レベルのものと、②市町村レベルのものが必要と考え、①は全国4地域、②は2地域で実施した。 ①児童館の担当地域レベルのネットワークづくり＝中標津町（北海道）、神戸市六甲道児童館（兵庫県）、江東区平野児童館（東京都）、岡山つどいのひろばネットワーク（岡山県） ②市町村レベルのネットワークづくり＝佐賀市川副児童館（佐賀県）、燕市児童研修館こども森（新潟県）
子育てネットワーク全国フォーラム IN 神戸	H20.1.13	「児童館を拠点としたネットワークづくりのさまざまなプロセス」について、6地域のモデル事業の成果を発表するとともに、児童館と地域の連携や親子の居場所作りなどをテーマとした分科会とワークショップを実施した。 後援：厚生労働省、財団法人児童健全育成推進財団、こども環境学会、神戸市、神戸市社会福祉協議会／会場：神戸市総合児童センターこべっこランド
子育てネットワーク全国フォーラム IN こどもの城	1.25	「児童館を拠点としたネットワークづくりのさまざまなプロセス」について、6地域のモデル事業の成果を発表するとともに、児童館と地域の連携や親子の居場所作りなどをテーマとしたワークショップを実施した。 後援：厚生労働省、財団法人児童健全育成推進財団、こども環境学会／会場：こどもの城
子育てネットワーク全国フォーラム IN 仙台	1.27	「児童館を拠点としたネットワークづくりのさまざまなプロセス」について、6地域のモデル事業の成果を発表するとともに、児童館と地域の連携や親子の居場所作りなどをテーマとした分科会とワークショップを実施した。 後援：厚生労働省、財団法人児童健全育成推進財団、こども環境学会、仙台市、仙台市ひと・まち交流財団／会場：仙台市戦災復興記念館
「みんなで子育て」の発行	3月	モデル事業や子育てネットワークの先進事例などの情報をまとめ、今後の子育てネットワーク活動の普及・推進のために報告書「みんなで子育て」を発行し、全国の自治体・児童館などに配布した。

〈独立行政法人福祉医療機構 子育て支援基金助成事業「児童館における中高生のボランティア活動活性化事業」〉

名 称	日 時	内 容
中高生の社会参加活動の全国調査	6～12月	児童館での中高生ボランティア活動を活性化するために、アンケートをとおした全国の実態調査や先駆的事業の聞き取り調査、事業へ参加している中高生との対談などを実施した。 ①行政（児童福祉主管課、教育委員会社会教育主管課＝都道府県・区市町村を網羅）と児童館（全国）への実施調査アンケートの実施。②児童館やその他の地域施設、地域団体などで活動に参加している中高生に対してのアンケート調査の実施。③先駆的事業の実施団体への聞き取り調査（児童館に限らず地域団体などについても取材した）の実施。あわせて、その事業に参加している中高生へも聞き取り調査や対談形式の座談会などを実施し参加の魅力や活動への課題を探った。
「地域に発進!! ボランティア1・2・3」の発行	H20.3月	上記の調査事業の報告、本事業の外部援助者としてかかわった運営委員の提言などをまとめた報告書「地域に発進!! ボランティア1・2・3」を発行し、全国の自治体・児童館などに配布した。

〈財団法人子ども未来財団委託事業「子育てサークル活動者研修事業」〉

名 称	日 時	内 容
<p>子育てサークル活動者研修事業 厚生労働省・財団法人子ども未来財団が主催する「子育てサークル活動者研修事業」について、財団法人子ども未来財団から委託されて4地域で実施した。事業は、4日間の研修会と協力団体が企画するモデル事業で構成されている。</p>		
とびっきり天然なる（あなた流）子育てのススメ （福井県福井市）	9.20、10.5、17、29	<input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> ①コミュニケーショントレーニング「よりよい関係をつくるためのコミュニケーショントレーニング」 ②ワークショップ「サークルで生かせるグループコミュニケーション」 ③パネルディスカッション「子育てサークルの魅力と広がる子育ての輪」 ④グループワーク「サークル活動に役立つ親子の楽しいあそび」／交流会 <input type="checkbox"/> モデル事業 <input type="checkbox"/> 一緒にあそぼうよ 風と樹と音の足羽山／協力：NPO 法人福井県子ども NPO センター
み～んなで笑顔！～ママも元気になるサークルづくり～ （福島県郡山市）	10.2、4、9、18	<input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> ①コミュニケーショントレーニング「よりよい関係のためのグッドコミュニケーション」 ②ワークショップ「サークルで生かせるグループコミュニケーション」 ③パネルディスカッション「子育てサークルから広がる子育ての輪」 ④グループワーク「あなたにもできるサークル活動」／交流会 <input type="checkbox"/> モデル事業 <input type="checkbox"/> 子育てフェスティバル／協力：NPO 法人育児サポートココネット・ママ
ママと子のわくわくサークル応援講座～子どもも私も輝く場所に～ （栃木県宇都宮市）	10.6、11、13、21、12.4	<input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> ①コミュニケーショントレーニング「Good! コミュニケーション子どもとどう向き合うか」 ②ワークショップ「サークルで生かせるグループコミュニケーション」 ③サークル活動のお悩み解決！パネルディスカッション「人気子育てサークルのパネルディスカッション」 ④脱マンネリ！サークル活動に役立つグループワーク／交流会 第1分科会「仲間が増える！お誘いチラシと活動紹介パネルの作り方」 第2分科会「歌いたい！伝えたい！“わらべうた”」 第3分科会「とっておきのワザ教えます“身近なものを使って、表現あそび”」 <input type="checkbox"/> モデル事業 <input type="checkbox"/> ママとキッズのわくわく縁日／協力：NPO 法人宇都宮子ども劇場
み～んなでパワーアップ！～元気な子育てサークルのタネさがし～ （長崎県長崎市）	11.6、9、20、22	<input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> ①コミュニケーショントレーニング「よりよい関係のためのグッドコミュニケーション」 ②ワークショップ「サークルで生かせるグループコミュニケーション」 ③パネルディスカッション「子育てサークルから広がる子育ての輪」 ④グループワーク「サークル運営のコツ」／交流会 <input type="checkbox"/> モデル事業 <input type="checkbox"/> 小冊子の作成／協力：NPO 法人子育てネットながさき

こどもの城 事業年報

平成**19**年度

平成20年11月1日発行

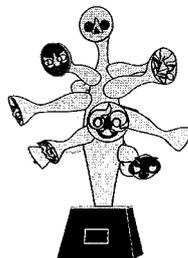
[編集・発行]

財団法人 児童育成協会

理事長 吉武 民樹

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
電話 03-3797-5666

表紙イラスト/KOHYA
デザイン/COIL
印刷所/日本印刷株式会社



財団法人 児童育成協会

 **こどもの城**

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676

<http://www.kodomo-no-shiro.jp>